茨城県教育財団文化財調査報告第218集

戸崎中山遺跡

霞ヶ浦環境センター（仮称）整備事業に
伴う埋蔵文化財調査報告書

平成16年3月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第218集

戸崎中山遺跡

霞ヶ浦環境センター（仮称）整備事業に
伴う埋蔵文化財調査報告書

平成16年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

序

「人と湖の調和」をテーマに，平成７年に霞ヶ浦で開催された「第６回世界湖沼会議」において，「霞ヶ浦宣言」が発せられました。茨城県は，この「霞ヶ浦宣言」を受け，「人と自然の共生する環境の保全・創造」という基本理念実現のため，霞ヶ浦環境センター（仮称）の設立を計画しました。これは，市民，研究者，企業及び行政の四者のパートナーシップのもとに，調査研究，環境学習，市民団体との連携，支援，交流及び情報の収集・発信の総合的拠点として整備するものであり，この霞ヶ浦環境センター（仮称）予定地内には埋蔵文化財包蔵地である戸崎中山遺跡が確認されました。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年７月から平成15年３月まで発掘調査を実施しました。

本書は，戸崎中山遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育・文化の向上の一助として，御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県より多大なる御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，土浦市教育委員会，霞ヶ浦町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝の意を表します。

平成16年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋　藤　佳　郎

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成14年度に発掘調査を実施した，新治郡霞ヶ浦町大字戸崎字中山，及び茨城県土浦市沖宿町字原山西に所在する戸崎中山遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は下記のとおりである。

調　査　平成14年7月1日～平成15年3月31日

整　理　平成15年5月1日～平成16年3月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第一課長阿久津久のもとに行われ，担当は以下のとおりである。

調査第一課第1班長	鯵澤和彦	平成14年7月1日～平成15年3月31日
主任調査員	吹野富美夫	平成14年7月1日～平成15年3月31日
主任調査員	鹿志田祐一	平成14年10月1日～平成15年1月31日
副主任調査員	浦和敏郎	平成14年7月1日～平成15年3月31日

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第一課長瓦吹堅のもとに行われ，担当は以下のとおりである。

首席調査員	小竹茂美	平成15年5月1日～平成15年6月30日
		第1章第1節　第2節，第2章第1節　第2節
		第3章第1節　第2節
主任調査員	浦和敏郎	平成15年5月1日～平成16年3月31日
		第3章第3節　第4章

5　本書の作成にあたり，第2号墳主体部石棺内から出土した人骨の同定分析及び土壌分析については，パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X＝＋8,240m，Y＝＋39,200mの交点を基準点（A１a1）とした。なお，この原点は，日本測地系に基づくものである。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C‥‥，西から東へ１，２，３‥‥とし，「A１区」，「B２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c‥‥j，西から東へ1，2，3‥‥0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A１a1区」，「B２b2区」のように呼称した。

2　抄録の北緯及び東経の覧には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付して併記した。

3　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　住居跡－SI　掘立柱建物跡－SB　土坑－SK　溝－SD　古墳－TM　塚－SX
　　ピット群－PG　ピット－P　井戸跡－SE

遺物　土器－P　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品－M　拓本土器－TP

土層　撹乱－K

4　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・施釉・赤彩　炉・繊維土器断面　粘土・炭化材　茅（炭化材）

● 土器　○ 土製品　□ 石器・石製品　▲ 金属器・金属製品

■ 骨片　硬化面

5　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

6　遺構・遺物実測図及び遺物観察表等の作成方法と掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は400分の１，遺構は原則的に60分の１に縮尺して掲載した。種類や大きさにより異なる場合もある。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もある。

(3)　「主軸」は，炉を通る軸線あるいは長軸（径）を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　N－10°－E）

(4)　遺物観察表における計測値の単位はcm・gで示した。現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。備考の欄は，残存率，実測番号等，その他必要と思われる事項を記した。

抄　　録

ふりがな	とさきなかやまいせき
書名	戸崎中山遺跡
副書名	霞ヶ浦環境センター（仮称）整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告
巻次	
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第２１８集
著者名	小竹　茂美　　浦和　敏郎
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　ＴＥＬ　029-225-6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　ＴＥＬ　029-225-6587
発行日	2004（平成16）年３月26日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
戸崎中山遺跡	いばらきけんかすみがうらし 茨城県霞ヶ浦市 とさきなかやまいせきぐんとさきまち 戸崎中山遺跡群 とさきまちとさき 戸崎町字中山840番地ほか	08461 － 464	36度 4分 26秒 （36度 4分 37秒）	140度 16分 13秒 （140度 16分 01秒）	27.0 ～ 28.8m	20020701 ～ 20030331	18,000㎡	霞ヶ浦環境センター（仮称）整備事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
戸崎中山遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡	18軒	縄文土器（深鉢） 石器（石皿，敲石，石斧，砥石） 土師器（壺，甕，台付甕，椀，高坏，器台，坩，甑） 鉄製品（刀子，鏃） 土製品（土玉，管状土錘） 須恵器（蓋，瓦） 陶磁器（常滑甕，青磁，擂鉢） 土師質土器（小皿，内耳鍋，焙烙鍋，火舎） 古銭（永楽通宝ほか） 人骨，馬骨	縄文時代・古墳時代・中世の集落跡である。中心は古墳時代前期で方形周溝墓を中心に集落が形成され，その後古墳群が形成されている。
		古墳	竪穴住居跡	85軒		
			土坑	2基		
		中・近世	掘立柱建物跡	3棟		
			ピット群	1か所		
			溝跡	3条		
	墓域	古墳	古墳	2基	土師器（壺，甕，高坏，器台，坩） 埴輪（円筒埴輪，人物埴輪） 陶磁器（常滑甕） 金属製品（耳環） 石塔（五輪塔，宝篋印塔）	
			方形周溝墓	1基		
		中・近世	塚	1基		
			墓壙	36基		
			井戸跡	1基		
	その他	時期不明	土坑	67基		
			溝跡	6条		
			ピット群	1か所		

目　次

序

例言

凡例

抄録

目次

第1章　調査経緯 …………………………… 1

　第1節　調査に至る経緯 …………………… 1

　第2節　調査経過 …………………………… 1

第2章　位置と環境 …………………………… 3

　第1節　地理的環境 ………………………… 3

　第2節　歴史的環境 ………………………… 3

第3章　調査の成果 …………………………… 7

　第1節　遺跡の概要 ………………………… 7

　第2節　基本層序 …………………………… 7

　第3節　遺構と遺物 ………………………… 8

　　1　縄文時代の遺構と遺物 ………………… 8

　　（1）竪穴住居跡 ………………………… 8

　　2　古墳時代の遺構と遺物 ………………… 36

　　（1）竪穴住居跡 ………………………… 36

　　（2）方形周溝墓 ………………………… 212

　　（3）古墳 ………………………………… 215

　　（4）土坑 ………………………………… 227

　　3　中・近世の遺構と遺物 ………………… 229

　　（1）掘立柱建物跡 ……………………… 229

　　（2）塚 …………………………………… 232

　　（3）井戸跡 ……………………………… 246

　　（4）溝 …………………………………… 247

　　（5）土壙 ………………………………… 256

　　4　その他の遺構と遺物 …………………… 265

　　（1）溝 …………………………………… 265

　　（2）土坑 ………………………………… 266

　　（3）ピット群 …………………………… 271

　　（4）遺構外出土遺物 …………………… 272

　第4節　まとめ ……………………………… 275

付章　『戸崎中山遺跡の人骨同定および土壌分析報告』 …… 280

写真図版

付図

第１章　調査経緯

第１節　調査に至る経緯

茨城県は，「第６回世界湖沼会議」で提唱された「霞ヶ浦宣言」を受け，その目的達成の手だてのひとつとして，「霞ヶ浦環境センター」の設立を計画した。

工事に先立ち，平成11年６月２日，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課長は，茨城県教育委員会教育長に対して霞ヶ浦環境センター（仮称）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成12年11月７日に現地踏査を，同年12月７・８・11・12日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成13年１月17日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課長あてに，事業地内に戸崎中山遺跡が所在する旨回答した。

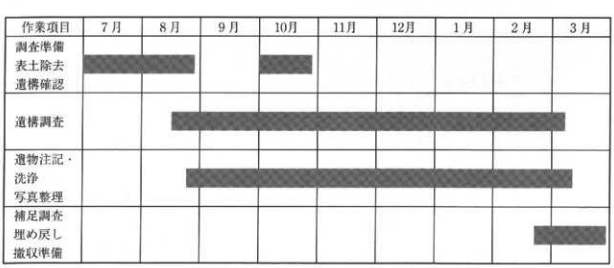
平成14年２月20日，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課長は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第57条の３第１項の規定に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，計画変更が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成14年２月27日，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

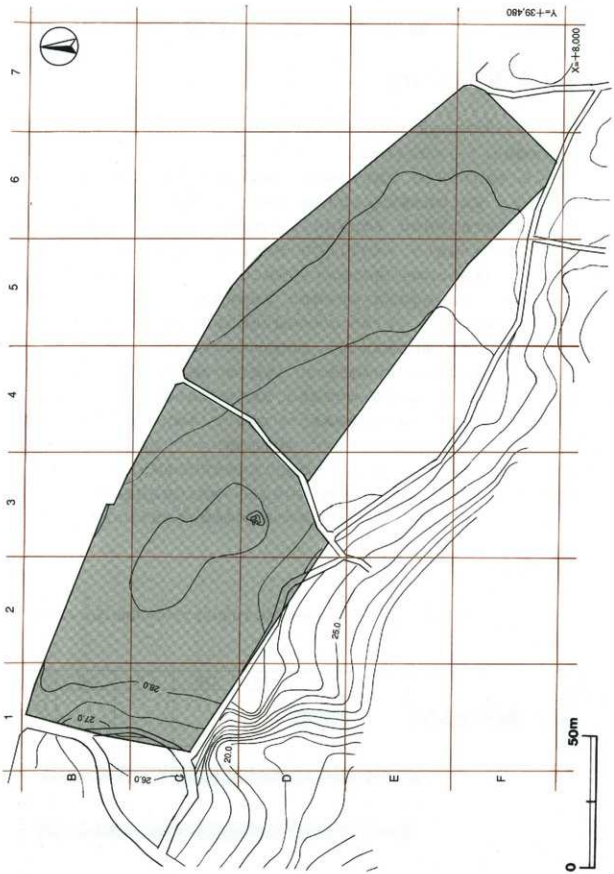
平成14年２月28日，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課長は，茨城県教育委員会教育長に対して，霞ヶ浦環境センター（仮称）建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査について協議した。平成14年３月11日，茨城県教育委員会教育長は，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課長あてに，戸崎中山遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年７月１日から平成15年３月31日まで戸崎中山遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第２節　調　査　経　過

戸崎中山遺跡の発掘調査は，平成14年７月１日から平成15年３月31日までの９か月間にわたって実施した。以下，調査経過について，表に示す。





第１図　調査区設定図

第２章　位置と環境

第1節　地理的環境

戸崎中山遺跡は，茨城県新治郡霞ヶ浦町大字戸崎字中山840番地ほかに所在しており，新治郡霞ヶ浦町と土浦市にまたがっている。霞ヶ浦町と土浦市は東西に延びる形で隣接しており，ともに霞ヶ浦と面している。この霞ヶ浦は大部分が最大水深約７m，平均水深４m前後の窪栄養湖である。古代の霞ヶ浦は，海水が停滞することなく流動する「流海」といわれる大きな入り江の一部であったが，17世紀に行われた利根川の付け替えによって霞ヶ浦の出口付近の土砂の堆積が進み，海水の流入が減少して湖水化が進み，淡水の湖となった。周辺地形は，西茨城郡岩瀬町から流れる桜川によって形成された桜川低地と，その北・南岸の台地とに分かれている。北岸台地は新治台地，南岸台地は常総台地の一部である筑波・稲敷台地と呼ばれ，いずれも標高25～30mである。

新治台地は筑波山塊の南東部に広がり，筑波川塊や桜川，恋瀬川，霞ヶ浦に囲まれて半島状に突き出ており，小河川の浸食作用によって複雑に入り組んだ台地縁辺部が形成されている。

地質は成田層と呼ばれる海成砂層及び礫層が主体をなし，その上に常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層，さらに関東ローム層が堆積し，最上部は腐食土層となっている。

筑波・稲敷台地は，茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部であり，地質は新生代第四紀更新世に形成された層が基盤となっている。これらの地層は下層から龍ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層が順次堆積している。

当遺跡は霞ヶ浦の北側，土浦入り北岸の新治台地の一角に位置しており，霞ヶ浦に流れ込む川尻川によって開析された標高約28mの台地上に立地している。調査前の遺跡は畑地として利用され，霞ヶ浦に面する低地は蓮田に利用されている。

第2節　歴史的環境

茨城県南部，とくに霞ヶ浦沿岸を中心とした利根川下流域は，古くから人々の絶好の居住地域であり，数多くの遺跡が所在している。その一部である土浦市，霞ヶ浦町では，茨城大学，筑波大学による綿密な分布調査がそれぞれ行われている（土浦市教育委員会　1984，霞ヶ浦町教育委員会・筑波大学考古学研究室　2001）。また，戸崎中山遺跡の近辺では，田村・沖宿地区の土地区画整理に伴う発掘調査や霞友ゴルフ倶楽部建設に伴う発掘調査が行われている（土浦市遺跡調査会　1992，土浦出島合同遺跡調査会　1990，土浦出島合同遺跡調査会　1991）。

これまでの調査の成果によると，本跡の立地する土浦市東側及び霞ヶ浦町西側の川尻川上流に位置する樹枝状に入り組んだ谷津に面した台地上には，例外なく遺跡が位置しており，遺跡の密集地域である。遺跡も弥生時代前・中期を除く各時代にわたり，特に縄文時代早・前期と平安時代の遺跡が多いことが特徴である。

ここでは，当遺跡と関連する縄文時代，古墳時代，中世の主な周辺遺跡について述べる。

縄文時代には，早期末から海進が進んで，前期中頃にピークに達し，上昇した海面は現在より約３～４m高かったとされている。一方，海退現象は中期初めに開始され，数度の進退を繰り返して，後・晩期にはほぼ現

在の地形に近くなるが，霞ヶ浦の海退の進行は遅く，海水の漂う状態が長く続いたとされている。

当地域の縄文時代の遺跡は，台地上や台地縁辺部，台地を刻む谷の谷津頭部などに多く分布している[1]。当遺跡から北西約2kmに位置する芝杯清水西遺跡[2]〈25〉は，平坦な台地上に立地しているが，旧石器時代から近現代にかけての遺構，遺物が検出されている。当遺跡は，縄文時代が中心となる遺跡で，前期の竪穴住居跡12軒と土坑40基が検出されている。遺物は早期から中期初頭にかけての土器片や石器が多量に出土し，中でも前期が多い。また，弥生時代では，竪穴住居跡1軒，古墳時代は方形周溝墓1基が検出され，平安時代では，竪穴住居跡3軒が検出されている。

古墳及び古墳群の占地は，時期によって変化があるが，当地域の多くの古墳が肥沃な水田を望む台地や沖積低地内の自然堤防上に構築されている。また，古墳時代の遺跡は，特に川尻川右岸から貴重な資料が発見されている。当遺跡から北西に約3kmに小古墳から構成される群集墳の下郷古墳群[3]〈23〉が位置している。1997年から1998年にかけて調査され，古墳時代の竪穴住居跡，掘立柱建物跡などのほか，前方後円墳1基，方墳1基，円墳3基が検出された。第1号墳からは，雲母片岩の板石を組んだ箱式石棺が確認されている。また，北西約4.5kmには前方後円墳である土塚古墳[4]〈21〉，片塚古墳[5]〈22〉や，北西約2kmには小規模の前方後円墳の田村船塚2号墳〈31〉が位置しているが，墳形や遺物などから前期古墳と考えられている。集落跡としては，田村・沖宿土地区圃整理事業地内の石橋南遺跡[6]〈33〉で18軒，六十塚遺跡[7]〈38〉で竪穴住居跡1軒が調査されている。

中世になると，戸崎城[8]〈9〉を中心とした景観が形成されるようになる。城の起源については明らかではないが，応仁の乱(1467～1477)の頃，小田氏の家臣，戸崎大膳亮が築城したといわれている。城の周辺には数か所の城郭関連施設と推測される遺構があり，最も大規模なものは松学寺[9]〈8〉境内で，寺の周囲に大規模な空堀や土塁を巡らし，周囲からの防御を意識した構造となっている。また，墓地等に五輪塔や宝篋印塔などが見られる。戸崎中山遺跡からも墓壙35基のほか五輪塔が多数確認されている。

※　文中の〈　〉内の番号は，表1，第1図の該当遺跡番号と同じである。

註

（1）　茨城県立歴史館　『霞ヶ浦の月塚文化』　1988年10月

（2）　黒沢泰彦　「三夜原東遺跡　新堀東遺跡　芝杯清水西遺跡」『田村・沖宿土地区圃整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　第1集　上浦市教育委員会ほか　1997年3月

（3）　平石尚和　「一般国道354号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書　下郷古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第167集　2000年3月

（4）　茂木雅博　『上浦の遺跡　埋蔵文化財包蔵地』土浦市教育委員会　1984年3月

（5）　小松崎彦ほか　「石橋南遺跡」『田村・沖宿土地区圃整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第7集　上浦市教育委員会ほか1997年3月

（6）　小川和博　「六十塚遺跡」「田村・沖宿土地区圃整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」　第9集　上浦市教育委員会ほか　1998年3月

（7）　『霞ヶ浦町遺跡分布調査報告書　－遺跡地図編－』霞ヶ浦町教育委員会　筑波大学考古学研究室　2001年3月

参考文献

・　茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001年3月

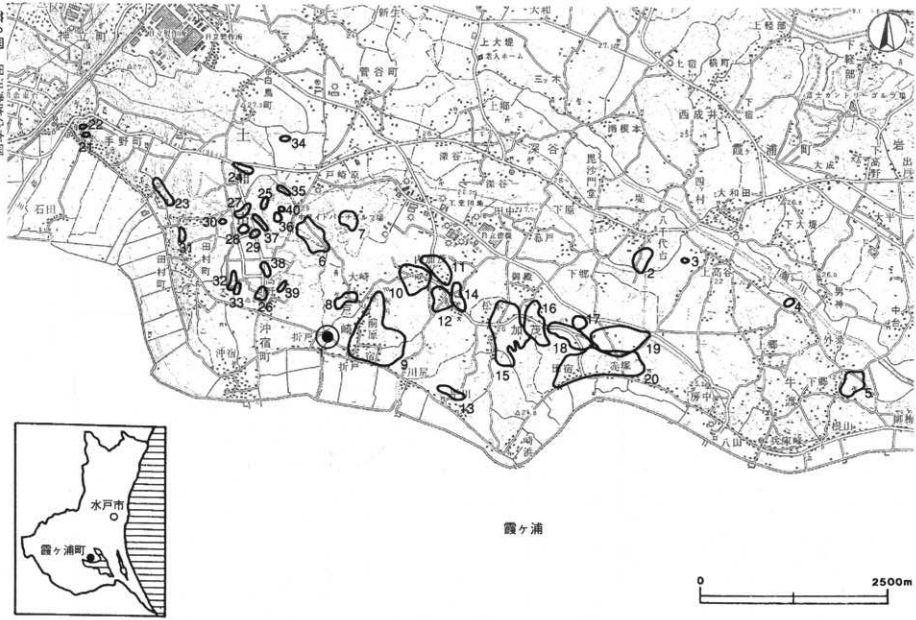
・　土地分類基本調査　「土浦　5万分の1国土調査」　茨城県1982年12月

・ 茨城県史編集委員会『茨城県史　原始古代編』茨城県　1985年３月
・ 茨城県史編さん原始古代史部会『茨城県史料　古代編』茨城県　1968年11月
・ 『通説　土浦の歴史』　土浦市教育委員会　1991年３月
・ 『出島史』　出島村教育委員会　1988年８月
・ 『土浦市史』土浦市教育委員会　1975年11月
・ 柴正博ほか　『霞ヶ浦用水建設事業地内埋蔵文化財調査報告書　五斗落遺跡　大徳遺跡　弁ノ内遺跡原ノ内遺跡　ゴリン山遺跡　真本ノ内遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告第43集』　1986年３月
・ 茂木悦男　『一般国道石岡田伏土浦線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　坂遺跡　船戸内遺跡　小原遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告第148集』　1999年３月

表１　戸崎中山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	番号	遺跡名	時代 旧石	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	戸崎中山遺跡	○	○	○	○	○	○	○	21	王塚古墳				○			
2	八千代台１遺跡	○	○			○	○	○	22	后塚古墳				○			
3	南遺跡		○						23	下郷古墳群				○			
4	中島遺跡		○			○		○	24	新堀東遺跡		○					
5	平三坊貝塚跡		○	○			○	○	25	壱杯清水西遺跡	○	○	○	○	○		
6	養老田遺跡		○		○	○	○	○	26	八幡脇遺跡		○		○	○		
7	柳沢１遺跡	○	○				○	○	27	寺畑遺跡	○	○		○	○		
8	松学寺遺跡				○		○	○	28	前谷西遺跡	○	○			○		
9	戸崎城跡		○		○	○	○	○	29	前谷東遺跡	○	○			○		
10	加茂平貝塚		○	○		○	○	○	30	田村上郷古墳				○			
11	榎後遺跡		○	○	○	○	○	○	31	田村舟塚古墳群				○			
12	榎前遺跡	○		○		○	○	○	32	金澤遺跡	○	○	○	○	○		
13	加茂山ノ神遺跡		○	○		○			33	石橋南遺跡		○		○	○		
14	榎遺跡		○	○		○	○	○	34	新堀遺跡		○					
15	松本遺跡	○	○		○	○	○	○	35	寿行地北遺跡	○	○		○		○	○
16	加茂八幡貝塚		○	○		○	○	○	36	寿行地南遺跡		○					
17	加茂八幡原遺跡		○		○	○		○	37	長峯遺跡		○			○		
18	加茂平遺跡		○	○	○	○	○	○	38	六十塚遺跡	○	○	○	○	○	○	○
19	七曲り遺跡	○	○		○	○	○	○	39	尻替遺跡		○		○	○	○	○
20	田宿・赤塚古墳群				○			○	40	寿行地古墳				○			

第2図　周辺遺跡分布図



第３章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

戸崎中山遺跡は，霞ヶ浦町と土浦市に接した霞ヶ浦北岸，標高約28mの台地上に位置している。当遺跡は縄文時代前期，古墳時代前・後期，中世の複合遺跡で，縄文時代前期と古墳時代前期の集落跡，古墳時代後期の古墳群，さらに中世の塚や墓壙等が確認された。調査区域は面積18,000㎡で，現況は畑である。

今回の調査によって，縄文時代前期の住居跡18軒，古墳時代前期の住居跡85軒，土坑２基，方形周溝墓１基，後期の古墳２基，中世では塚１基，掘立柱建物跡３棟，井戸跡１基，墓壙35基，溝３条，時期不明の土坑69基，ピット群１か所などが検出された。

遺物は，収納コンテナ（60×40×20cm）247箱に収納された。主な遺物は縄文土器（深鉢），土師器（壺，甕，台付甕，椀，高坏，器台，坩，瓶），須恵器（甕，瓶），土師質土器（小皿，内耳鍋，焙烙鍋，擂鉢，火舎），陶磁器（常滑甕，青磁碗），土製品（土玉，紡錘状土錘），石器・石製品（石皿，敲石，石斧，砥石），古銭（永楽通宝），人骨等が出土している。

第2節　基本層序

調査区内にテストピットを設定し，基本土層の観察を行った（第３図）。

第１層は，黒褐色の耕作土で，厚さは約52cmである。

第２層は，暗褐色のソフトローム層で，厚さは16～28cmである。

第３層は，褐色のハードローム層で，火山ガラス粒子が微量認められ，姶良Ｔｎ火山灰を含む層と考えられる。厚さは12～32cmである。

第４層は，にぶい黄褐色のローム層で，第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられ，厚さは20～36cmである。

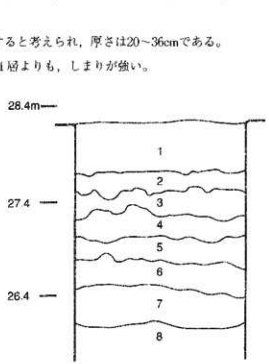
第５層は，褐色のローム層で，厚さは10～36cmである。第４層よりも，しまりが強い。

第６層は，褐色のローム層で，微細な赤色・白色スコリアを含んでいる。

第７層は，黄橙色のローム層で，厚さは28～44cmである。

第８層は，にぶい褐色のローム層で，オレンジ色・白色粒子を含み，厚さは30cm以上である。

住居跡などの遺構は，第２層上面で確認できた。



第３図　基本土層図

第3節　遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

今回の調査では，縄文時代の竪穴住居跡18軒を検出した。以下，検出した遺構と遺物について記載する。

第3号住居跡（第4・5図）

位置　調査区東部のＦ６h9区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

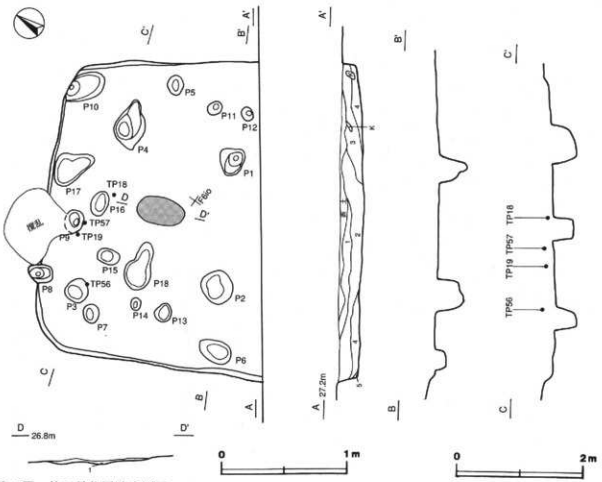
規模と形状　南東部が調査区域外にあり，本来の形状を明確にすることはできないが，長軸4.6m，短軸は3.6mほどが確認された。形状は方形または長方形と考えられ，主軸方向はＮ－28°－Ｗである。確認された壁高は８～30cmで，確認された壁はなだらかに外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分はほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　確認した範囲の中央部に位置し，長径80cm，短径40cmほどの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため，赤変硬化している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　　焼土ブロック中量

ピット　18か所が検出された。不規則に位置してるが，主柱穴は規模及び配列から，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ15が考えられ，深さは30～48cmである。Ｐ４・Ｐ17・Ｐ18は及円状，そのほかは，円形及び楕円形の平面を呈し，深さ16～42cmであるが，性格は明確でない。



第4図　第3号住居跡実測図

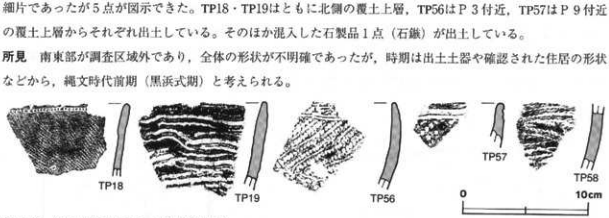
覆土　5層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片49点（深鉢類），礫3点が北側の覆土上層から中層を中心に出土している。すべて細片であったが5点が図示できた。TP18・TP19はともに北側の覆土上層，TP56はＰ３付近，TP57はＰ９付近の覆土上層からそれぞれ出土している。そのほか混入した石製品１点（石鏃）が出土している。

所見　南東部が調査区域外であり，全体の形状が不明確であったが，時期は出土土器や確認された住居の形状などから，縄文時代前期（黒浜式期）と考えられる。



第５図　第３号住居跡出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表（第５図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP18	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	繊維・石英・雲母	暗褐	良	Ｌ反の単節縄文施文後，口縁部に半截竹管による有節沈線文	上層	PL34
TP19	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	繊維・長石・砂粒	赤褐	普通	半截竹管による波状文	上層	PL34
TP56	縄文土器	深鉢	－	(7.1)	－	繊維・石英	暗赤褐	普通	Ｌ反の附加条１種縄文施文後，口辺部に半截竹管による平行沈線	P3付近上層	PL34
TP57	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	繊維・砂粒	にぶい黄橙	普通	Ｌ反の単節縄文施文後，口辺部に半截竹管による平行沈線	P9付近上層	PL34
TP58	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	繊維・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ＲＬの単軸絡条体	覆土	

第７号住居跡（第６・７図）

位置　調査区東部のＦ６b8区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　東側を第６号住居に掘り込まれている。

規模と形状　東壁を第６号住居に掘り込まれているため，本来の形状を明確にすることはできないが，長軸3.8m，短軸3.5mほどが確認された。形状は長方形と考えられ，主軸方向はＮ－23°－Ｗである。壁高は３～８cmで，確認された壁はなだらかに外傾して立ち上がっている。

床　確認できた床面はほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は見られない。

炉　２か所が検出された。中央部よりやや南側に炉１が位置している。第６号住居に掘り込まれているため，西側半分しか残存していないが，長径60cm，短径50cmほどの楕円形と推測される。床面を７cmほど掘りくぼめており，炉床面は被熱のため赤変硬化している。炉２は，中央部よりやや西側に位置しており，径40cmほどの不整円形であるが，掘り込みは確認できず，焼土が薄く堆積した状態で検出された。

炉１土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　６か所が検出され，いずれも平面形は楕円を呈している。主柱穴は，規模及び配列からＰ１・Ｐ２と

考えられ，深さはそれぞれ17cm，21cmである。そのほかは深さ15～105cmであるが，性格は明確でない。

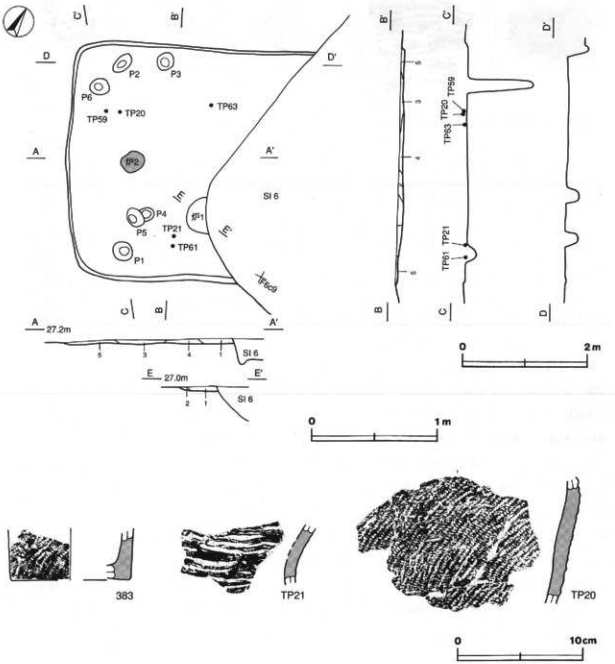
覆土　5層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量	4	褐	色	ロームブロック少量
2	暗	褐	色	ロームブロック微量	5	褐	色	ローム粒子中量
3	灰	褐	色	ロームブロック微量				

遺物出土状況　縄文土器片75点（深鉢類）が散在して出土している。細片が多かったが6点が図示でき，TP20・TP21・TP59は土圧でつぶれたような状態で出土し，TP61～TP63は床面からそれぞれ出土している。

所見　東側を第6号住居に掘り込まれているため，全体の形状は不明確であるが，時期は，出土土器や確認された住居の形状などから，縄文時代前期（黒浜式期）と考えられる。



第6図　第7号住居跡実測図・出土遺物実測図（1）

第７図　第７号住居跡出土遺物実測図（２）

第７号住居跡出土遺物観察表（第６・７図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
383	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	[9.6]	繊維・石英	暗赤褐	普通	Ｌ Ｒの単節縄文	覆土	
TP20	縄文土器	深鉢	－	(10.1)	－	繊維・長石・石英・雲母・砂粒	暗赤褐	普通	Ｌ Ｒの単節縄文	床面	PL34
TP21	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	繊維・石英・砂粒	にぶい黄褐	普通	半截竹管による横位の沈線文	床面	PL34
TP59	縄文土器	深鉢	[36.9]	(17.9)	－	繊維・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	Ｌ Ｒの半截縄文	床面	20% PL34
TP61	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	繊維・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	Ｒの無節縄文	床面	
TP62	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	繊維・石英・赤色粒子	明褐	普通	羽状縄文	床面	PL34
TP63	縄文土器	深鉢	－	(1.6)	7.2	繊維・赤色粒子	赤褐	堅	底部ヘラ削り	床面	

第９号住居跡（第８・９図）

位置　調査区中央部のＦ６区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　東部を第８号住居に掘り込まれている。

規模と形状　第８号住居に掘り込まれ，また耕作による削平のために，北壁と南壁の一部しか確認できなかったが，床面の広がりから長径4.3m，短径3.4mほどの楕円形と推測され，主軸方向はＮ－53°－Ｗである。確認できた壁高は10～16cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分は，ほぼ平坦であり踏み固められた部分は見られない。

炉　１か所。中央部より東側に位置し，長径70cm，短径35cmほどの不整楕円形である。床面を10cmほど掘りくぼめており，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　　焼土ブロック中量

ピット　２か所が検出され，平面形は楕円を呈している。深さはＰ１が54cm，Ｐ２が65cmであるが，主柱穴とは考えられず，性格は明確でない。

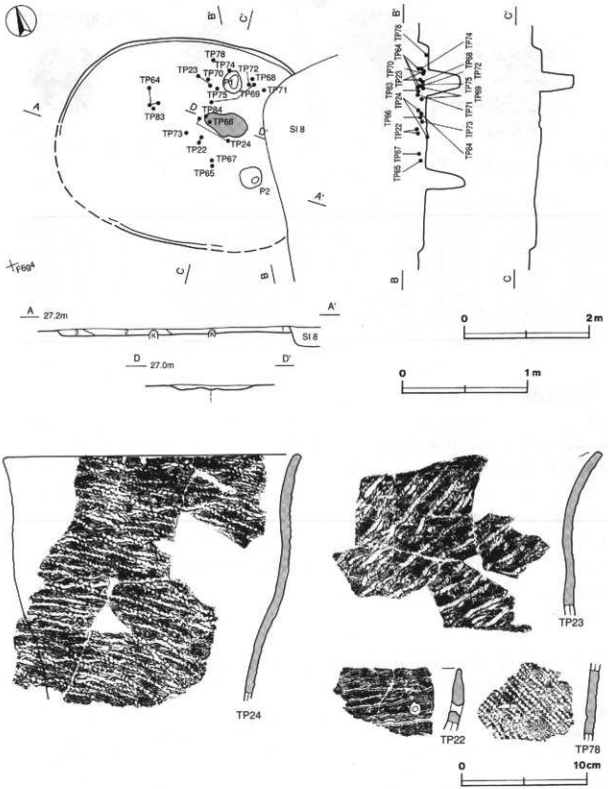
覆土　３層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　　ローム粒子微量
2　極暗褐色　　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　　ロームブロック・炭化粒子微量

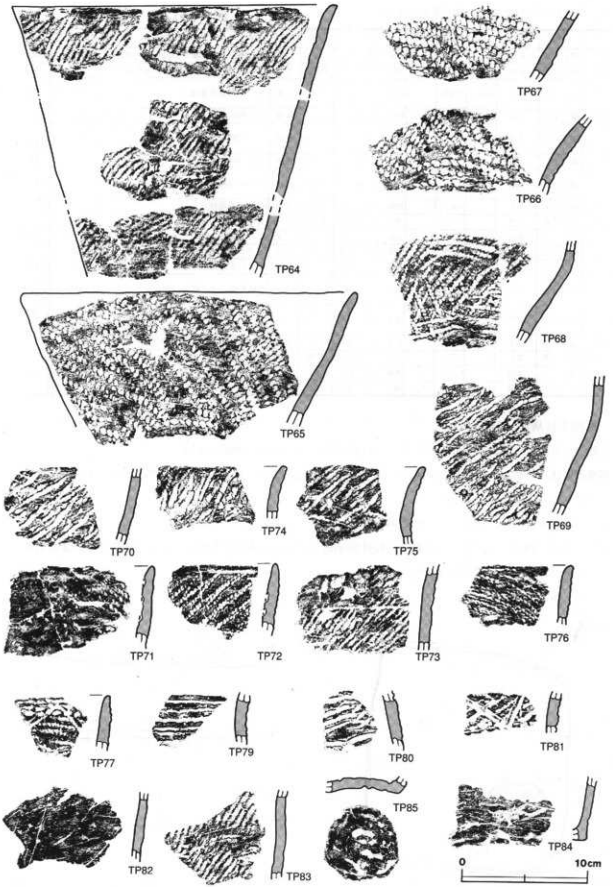
遺物出土状況　縄文土器片417点（深鉢類），礫５点が中央部付近の覆土中層から床面にかけて多く出土しており，24点が図示できた。TP22・TP66・TP68・TP84は炉付近の覆土下層から中層，TP24は炉付近の下層から床

面にかけて出土している。また，TP71～TP73・TP83は覆土中層からそれぞれ出土している。そのほか混入した土師器片５点が出土している。

所見　東側を第８号住居に掘り込まれているため，全体の形状が不明確であったが，時期は確認された住居の形状などから，縄文時代前期（黒浜式期）と考えられる。



第８図　第９号住居跡実測図・出土遺物実測図（１）



第９図　第９号住居跡・出土遺物実測図（２）

第９号住居跡出土遺物観察表（第８・９図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	繊維・石英	にぶい橙	普通	平載竹管による横位の波状文，補修孔	炉付近中層	PL34
TP23	縄文土器	深鉢	－	(12.8)	－	繊維・長石・石英	明褐	普通	波状口縁，無節Ｌの単軸絡条体縄文	下層	PL34
TP24	縄文土器	深鉢	[23.2]	(19.7)	－	繊維・長石・石英	赤褐	普通	Ｒの単軸絡条体縄文	炉付近下層～底面	PL34
TP64	縄文土器	深鉢	[25.9]	(22.0)	－	繊維・赤色粒子	にぶい橙	普通	Ｌの無節縄文	上層～中層	20% PL35
TP65～67・78	縄文土器	深鉢	[27.2]	(5.7)～(11.0)	－	繊維・赤色粒子	にぶい褐	普通	Ｌの単軸絡条体縄文	中層，炉付近下層(TP66)	10%(TP66) PL35
TP68	縄文土器	深鉢	－	(8.5)	－	繊維・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	ＬＲの縄文	下層	PL35
TP69・70・74・75	縄文土器	深鉢	－	(4.3)～(11.5)	－	繊維・石英・赤色粒子	明褐	良	Ｌの無節縄文	中層～下層	PL35
TP71	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	繊維・石英・砂粒	にぶい赤褐	普通	ＲＬの単節縄文	中層	内面剥離
TP72	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	繊維・赤色粒子	明褐	普通	Ｌの単軸絡条体縄文	中層	内面剥離 PL35
TP73	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	繊維・長石・石英	暗赤褐	普通	Ｌの無節縄文	中層	PL35
TP76	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	繊維・長石・石英	暗黄褐	普通	Ｌの単軸絡条体縄文	覆土	
TP77	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	繊維・長石・石英	にぶい橙	良	ＲＬの単節縄文施文後，口唇部に刺突文	覆土	PL35
TP79・80	縄文土器	深鉢	－	(4.4, 4.8)	－	繊維・長石・石英	にぶい橙	良	平載竹管による横位の波状文	覆土	PL35
TP81	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	繊維・長石・石英	にぶい黄褐	良	ＲＬの単節縄文施文後，平載竹管による格子状の沈線	覆土	PL35
TP82	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	繊維・石英・赤色粒子	橙	普通	ヘラ状工具による斜位の沈線	覆土	PL35
TP83	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	繊維・長石・赤色粒子	黒褐	粗	Ｌの無節縄文	中層	
TP84	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	繊維・長石・石英	橙	普通	擦痕文	炉付近中層	PL35
TP85	縄文土器	深鉢	－	(1.4)	(6.0)	繊維・石英・砂粒	橙	普通	底部やや上げ底	覆土	

第20号住居跡（第10・11図）

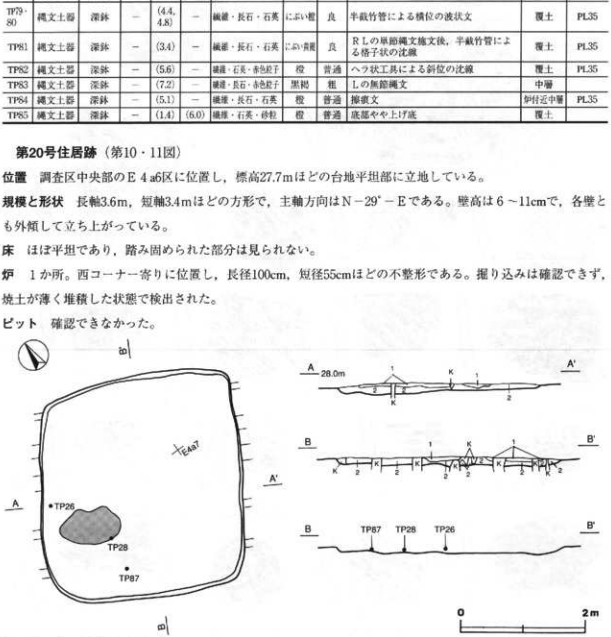
位置　調査区中央部のＥ４a6区に位置し，標高27.7mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸3.6m，短軸3.4mほどの方形で，主軸方向はＮ－29°－Ｅである。壁高は６～11cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　１か所。西コーナー寄りに位置し，長径100cm，短径55cmほどの不整形である。掘り込みは確認できず，焼土が薄く堆積した状態で検出された。

ピット　確認できなかった。



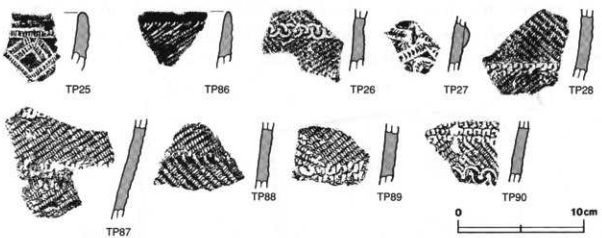
第10図　第20号住居跡実測図

覆土　2層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量　　2　暗　褐　色　　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片79点（深鉢類），礫3点が西側を中心に出土しており，9点が図示できた。TP26は北西壁付近の床面から，TP28は炉床面，TP87は南側部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代前半（関山式期）と考えられる。



第11図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP25・27	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	繊維・石英	橙	良	半截竹管による平行沈線で構成される菱形文，沈線間に刺突文充填，口辺部に扁状貼付文	覆土	PL36
TP26・90	縄文土器	深鉢	－	(4.4, 4.9)	－	繊維・石英・雲母	明赤褐	良	0段多条による羽状縄文地に，半截竹管によるコンパス文施文	北西壁付近床面(TP26)	PL36
TP28	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	繊維・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	良	0段多条による羽状縄文地に，ループ文施文	炉床面	PL36
TP86	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	繊維・石英	橙	普通	口辺部ナデ，LRの単軸絡条体縄文	覆土	PL36
TP87～89	縄文土器	深鉢		(5.1)～(8.1)	－	繊維・長石・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	0段多条縄文が羽状に構成され，ループ文施文	床面(TP87)	PL36

第25号住居跡（第12・13図）

位置　調査区東部のＥ６e4区に位置し，標高27.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸6.4m，短軸4.0mほどの長方形で，主軸方向はＮ－７°－Ｗである。壁高は７～11cmで緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　２か所。炉１は中央部より南側に位置し，長径100cm，短径55cmほどの楕円形である。炉２は中央部よりやや南側に位置し，長径45cm，短径36cmほどの楕円形である。ともに掘り込みは浅いが，炉床面は凹凸があり，被熱のため赤変硬化していた。

炉１土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量　　3　にぶい赤褐色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　極暗赤褐色　　焼土ブロック中量，ロームブロック少量　　4　暗 赤 褐 色　　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

ピット　14か所が検出された。Ｐ６・Ｐ７・Ｐ８は深さ13～46cmで，南壁と平行に等間隔で並ぶ。その他は不

規則に並び，深さは18～77cmである。主柱穴は規模及び配列からＰ３・Ｐ４・Ｐ６・Ｐ８・Ｐ９・Ｐ11などが考えられ，深さは42～80cmである。そのほかのピットについての性格は明確でない。

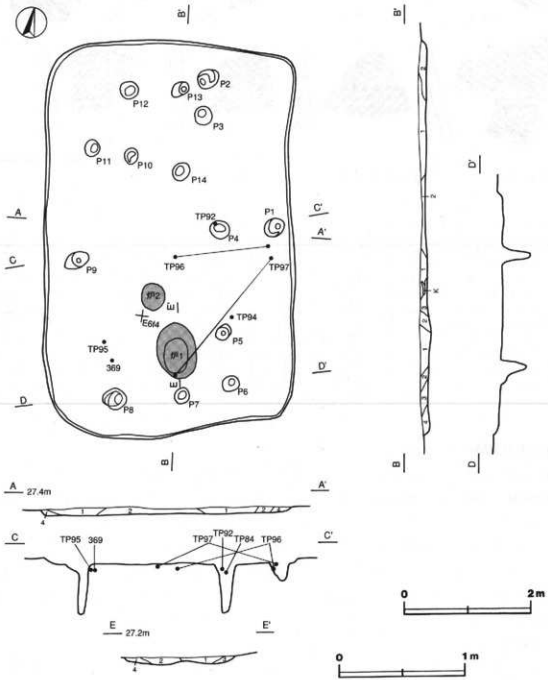
覆土　４層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

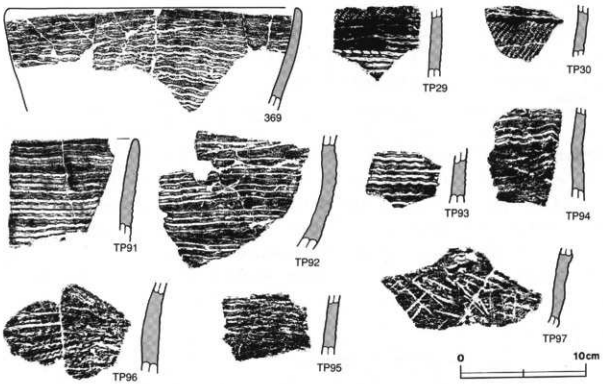
1	暗　褐	色	ローム粒子微量	3	褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片135点（深鉢類）が中央部から南側にかけて散在して出土しており，11点が図示できた。369・TP91・TP93・TP95は土圧でつぶれたような状態で床面から出土している。TP92はＰ４の覆土中，TP94はＰ５付近の床面，TP96はＰ１付近の床面，TP97は炉床とＰ１付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は出土土器や住居形態から縄文時代前半（黒浜式期）と考えられる。



第12図　第25号住居跡実測図



第13図　第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
369・TP91・93	縄文土器	深鉢	[23.1]	(4.5)～(8.2)	—	繊維・長石・石英・雲母	にぶい褐	良	半裁竹管による横位の沈線文	床面	PL36
TP29	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	繊維・長石・雲母	明褐	普通	0段多条の縄文施文後，半裁竹管による横位の沈線文	覆土	内面炭化物 PL36
TP30	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	繊維・雲母	褐	普通	0段多条の縄文施文後，上部をヘラ削りし，半裁竹管による横位の沈線文	覆土	PL36
TP92	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	繊維・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	半裁竹管による沈線	P 4内	
TP94	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	繊維・長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	貝殻腹縁文施文後，半裁竹管による横位の沈線文	P 5付近床面	PL36
TP95	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	繊維・長石・雲母	明赤褐	普通	貝殻腹縁文	床面	
TP96	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	繊維・長石・石英・雲母	明赤褐	普通	L（2本）の単軸絡条体	P 1付近床面	PL36
TP97	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	繊維・長石・雲母・砂粒	赤褐	普通	斜位の短い沈線による雑な格子文	炉床，P 1付近床面	PL36

第28号住居跡（第14～16図）

位置　調査区東部のＥ６h1区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.6m，短軸4.7mほどの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は15～25cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　３か所。中央部より南側に３か所確認された。炉１は長径76cm，短径56cmほどの楕円形で，床を７cm掘り込み，炉床面は被熱により赤変硬化している。炉２と炉３は重複しており，炉２が炉３の北部を掘り込んで

いる。炉２は長径65cm，短径50cmほどの楕円形で，炉３は径40cmほどの楕円形と推測される。炉２，３ともに掘り込みは見られないが，火床面は被熱のため赤変硬化し，凹凸が見られる。

ピット　14か所。不規則に並び，深さ11～60cmで平面形はほとんどが円形状を呈している。主柱穴は明確でない。

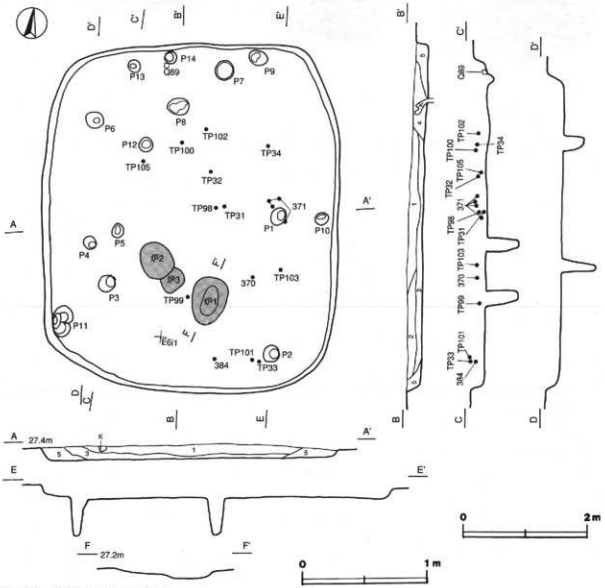
覆土　５層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

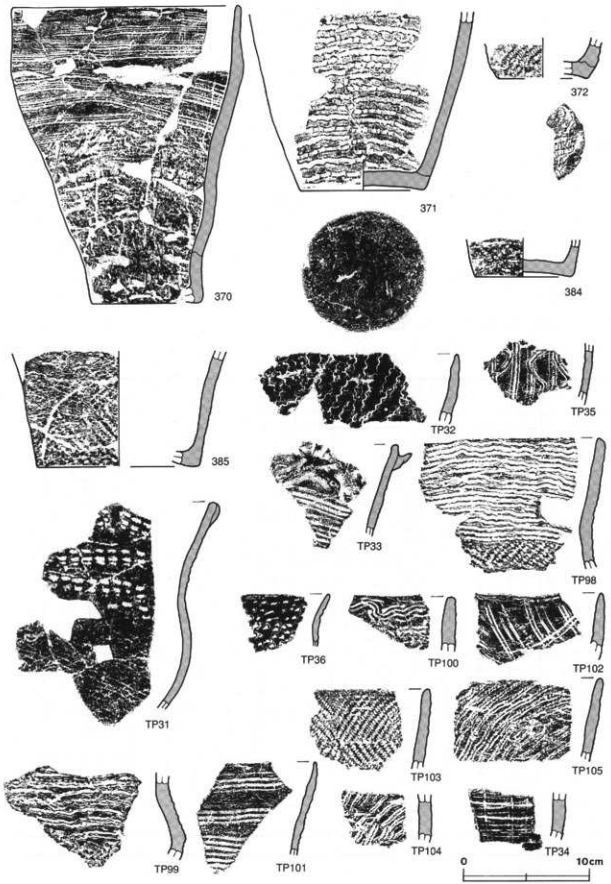
1	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		4	褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量		5	褐　色	ローム粒子微量
3	褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量				

遺物出土状況　縄文土器片1465点（深鉢類），石製品１点（石皿），礫18点が北側を除くほぼ全面から出土しており，18点が図示できた。TP105はＰ12付近の床面，370は土圧でつぶれたように横位で覆土中層，371はＰ１付近の覆土中・下層から出土している。TP31は覆土下層，TP99は炉１付近の覆土下層，TP32・TP98・TP102・TP103は覆土中層，TP33はＰ２付近の覆土上層からそれぞれ出土ている。また，Q89は北壁に接するＰ14付近の床面から出土している。そのほか，混入した土師器21点が出土している。

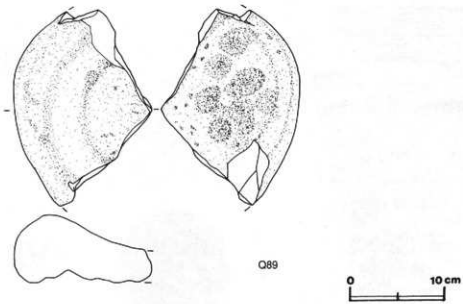
所見　長軸5.6m，短軸4.7mほどの長方形を呈し，当遺跡の縄文時代の住居跡の中では大形のものである。時期は，出土土器や住居の形態から縄文時代前半（黒浜式期）と考えられる。



第14図　第28号住居跡実測図



第15図　第28号住居跡出土遺物実測図（1）



第16図　第28号住居跡出土遺物実測図（２）

第28号住居跡出土遺物観察表（第15・16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
370	縄文土器	深鉢	[18.1]	23.9	[8.9]	繊維・長石・雲母	橙	普通	胴部上段～中段掲状工具による横位の櫛歯状文	中層	70% PL27
371	縄文土器	深鉢	－	(14.2)	9.8	繊維・長石	橙	普通	半截竹管による崩れたコンパス文を施文，底部やや上げ底	P１付近中層～下層	40% PL27
372	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	[7.1]	繊維・長石・赤色粒子	橙	普通	胴部，底部に０段多条ＬＲの縄文，底部やや上げ底	覆土	
384	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	7.7	繊維・長石・雲母	明赤褐	普通	ＲＬの単節縄文，底部上げ底	中層	
385	縄文土器	深鉢	－	(9.1)	[9.8]	繊維・長石	橙	普通	ＲＬの単節縄文，底部上げ底	覆土	10%
TP31	縄文土器	深鉢	－	(16.4)	－	繊維・長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	波状口縁，口辺部から胴部中段に爪状工具による刺突文，下部は網目状縄文	下層	PL36
TP32	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	繊維・石英・雲母	明赤褐	普通	貝殻腹縁文	中層	PL36
TP33	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	繊維・長石・石英・雲母・砂粒	赤褐	普通	横位の平行沈線を施し，Ｘ字状の隆帯貼付	Ｐ２付近上層	PL36
TP34	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	繊維・石英・雲母・砂粒	にぶい黄橙	普通	格子状沈線文	覆土	PL36
TP35	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	繊維・石英・雲母	明赤褐	普通	半截竹管による縦位の平行沈線施文後，波状沈線	覆土	PL36
TP36	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	繊維・石英・雲母・赤色粒子・砂粒	にぶい赤褐	良	口辺部から胴部にかけてに刺突文	覆土	PL36
TP98	縄文土器	深鉢	－	(10.3)	－	繊維・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	ＬＲの単軸絡条体の縄文，口辺部から上段半截竹管による横位の波状文	中層	PL37
TP99	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	繊維・長石・雲母	赤褐	普通	半截竹管による横位の波状文	Ｐ１付近下層	PL37
TP100	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	繊維・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部に崩れたコンパス文	上層	PL36
TP101	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	繊維・長石・雲母・赤色粒子	明褐	良	横位の平行沈線	Ｐ２付近上層	PL37
TP102	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	繊維・長石・雲母・砂粒	にぶい褐	普通	半截竹管による斜位の沈線が交差して施される	中層	PL37
TP103	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	繊維・長石・雲母	にぶい橙	普通	羽状縄文	中層	PL37
TP104・105	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	繊維・石英・雲母	明赤褐	普通	Ｌ（２本）の単軸絡条体の縄文	Ｐ12付近床面（105）	PL37

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q89	石匙	(21.1)	(14.7)	7.3	(1560)	安山岩	裏面は縁の黒状	Ｐ14付近床面	35% PL5

第45号住居跡（第17図）

位置　調査区中央部のＣ５j3区に位置し，標高約27.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸2.6m，短軸2.3mほどの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－65°－Ｗである。壁高は11～19cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　中央部のやや東側に位置し，長径40cm，短径28cmほどの楕円形である。掘り込みはほとんどなく，焼土の薄い堆積が確認されたが，それほど焼けた部分はない。

ピット　確認できなかった。

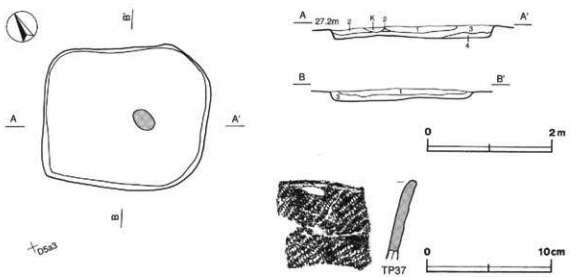
覆土　４層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	3　暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色	ロームブロック少量	4　褐　　色	ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片41点（深鉢類），礫１点が覆土中から散在して出土している。すべて細片であるが，１点が図示できた。

所見　当遺跡の縄文時代の住居跡では小形のものであり，時期は出土土器や住居の形態から縄文時代前半（黒浜式期）と考えられる。



第17図　第45号住居跡・出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	繊維・長石・石英	明赤褐	普通	ＬＲの単節縄文	覆土	PL37

第59号住居跡（第18・19図）

位置　調査区中央部のＤ４h9区に位置し，標高27.7mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.1m，短軸3.0mほどの南壁が短い長方形で，主軸方向はＮ－71°－Ｅである。壁高は２～９cmほどであり，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　中央部より西側に位置しており，径40cmほどの円形で，掘り込みは確認できなかったが，炉床面は被熱に

より赤変硬化している。

ピット　2か所が検出された。深さはそれぞれ25cm，14cmであるが，性格は明確でない。

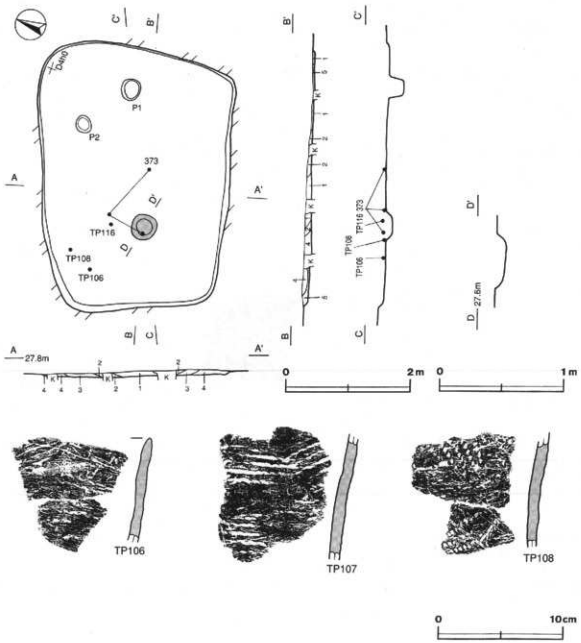
覆土　5層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

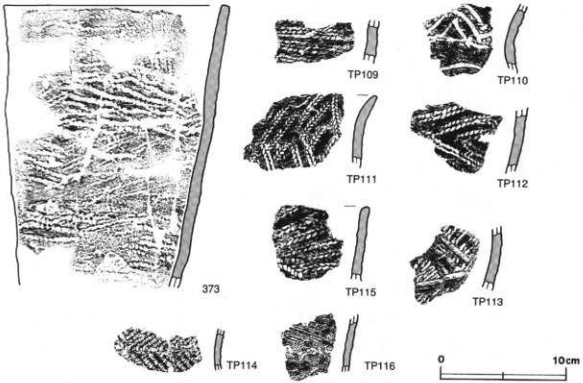
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片259点（深鉢類），礫3点が中央部から北西コーナー部にかけて出土しており，12点が図示できた。373・TP116は中央部，TP108は北壁付近の床面から，TP106は覆土下層からそれぞれで出土している。そのほか，混入した土製品（管状土錘），陶器1点，磁器2点が出土している。

所見　住居の平面形は台形状を呈しているが，時期は出土土器から縄文時代前半（黒浜式期）と考えられる。



第18図　第59号住居跡実測図・出土遺物実測図（1）



第19図　第59号住居跡出土遺物実測図（２）

第59号住居跡出土遺物観察表（第18・19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
373	縄文土器	深鉢	18.1	(22.8)	－	繊維・長石	明赤褐	普通	Ｌの単軸絡条体縄文	床面	図版PL27
TP106	縄文土器	深鉢	－	(8.4)	－	繊維・長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	波状口縁，擦痕文	下層	
TP107	縄文土器	深鉢	－	(9.8)	－	繊維・石英・雲母	橙	普通	Ｒの単軸絡条体縄文	覆土	PL37
TP108	縄文土器	深鉢	－	(9.3)	－	繊維・長石	明黄褐	普通	Ｒの単軸絡条体縄文施文後，部分的にへら状工具により沈線を斜位に施こす	北壁付近床面	PL37
TP109	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	繊維・石英・雲母	にぶい橙	普通	ＬＲの単節縄文施文	覆土	
TP110	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	繊維・石英・雲母	赤褐	普通	手載竹管による大ぶりの波状文	覆土	
TP111	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	繊維・長石・石英・雲母	褐	普通	ＲとＬの単軸絡条体縄文	覆土	PL37
TP112・115	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	繊維・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	Ｌ（２本）の単軸絡条体縄文	覆土	PL37
TP113	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	繊維・長石	赤褐	普通	Ｒの無節縄文，擦痕文	覆土	PL37
TP114	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	繊維・長石	にぶい赤褐	普通	羽状の０段多条縄文	覆土	PL37
TP116	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	繊維・長石	にぶい黄褐	普通	羽状構成の撚糸文	床面	PL37

第60号住居跡（第20図）

位置　調査区中央部のＤ４d4区に位置し，標高27.7mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　中央部の南側を第49号土坑に掘り込まれ，さらに南壁西部に撹乱を受けている。

規模と形状　長軸3.9m，短軸3.0mほどの長方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁高は７～10cmで，各壁とも緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　東側がやや落ち込んでいるが，ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

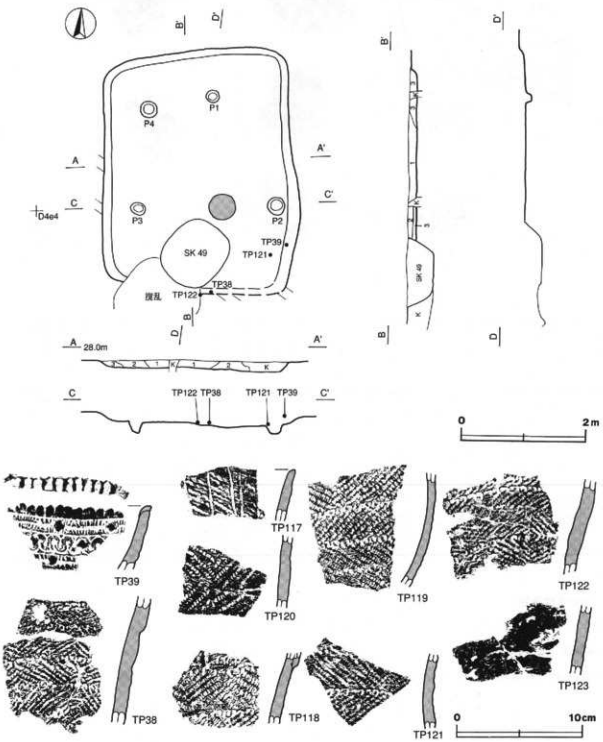
炉　中央部より南側に位置する径40cmほどの円形で，掘り込みはほとんどなく，炉床面もほとんど焼けずに焼土が薄く堆積している状態である。

ピット　4か所が検出され，P 1はややコーナー部より内側に位置する。これらはすべて主柱穴と考えられるが，上屋構造については不明であり，深さは12～18cmである。

覆土　3層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量



第20図　第60号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片122点（深鉢類），礫９点が南東コーナー部を中心に出土しており，９点が図示できた。TP121は東壁付近，TP38は南壁際の床面，TP39は東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は出土土器や住居跡の形態から縄文時代前半（関山式期）と考えられる。

第60号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	－	(9.9)	－	繊維・石英	明褐	普通	羽状縄文，ループ文	南壁際床面	PL37
TP39	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	繊維・長石・石英・雲母	橙	普通	半截竹管による平行沈線施文内に刺突文を充填し，コンパス文を配している。環状貼付文	東壁際上層	70% PL37
TP117	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	繊維・石英	明褐	普通	Ｌの無節縄文施文後，ヘラ状工具により複沉の波線	－	PL37
TP118	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	繊維・長石・石英	橙	普通	上段半截竹管による連続的な刺突文施文後瘤状貼付文，下段羽状の０段多条縄文	－	PL37
TP119	縄文土器	深鉢	－	(9.1)	－	繊維・長石	明赤褐	普通	ＬＲの単節縄文と羽状の０段多条縄文	－	PL37
TP120	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	繊維・長石・石英	にぶい黄橙	普通	羽状縄文	－	
TP121・122	縄文土器	深鉢	－	(7.6)	－	繊維・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	羽状縄文，ループ文	東壁付近床面（121）	PL37
TP123	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	繊維・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	無文，ナデ	－	

第61号住居跡（第21図）

位置　調査区中央部のＤ４e8区に位置し，標高約27.4mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　東コーナー部を第51号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.4m，短軸1.9mほどの不整長方形で，西コーナー付近の南壁が膨らんでいる。主軸方向はＮ－62°－Ｗで，壁高は４～６cmほどで，なだらかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は見られない。

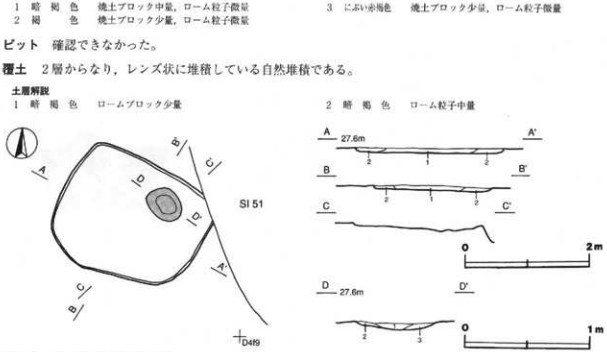
炉　中央部よりやや北東側に位置しており，長径62cm，短径45cmほどの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため，赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗　褐　色　　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
2　褐　　色　　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　　焼土ブロック少量，ローム粒子微量

ピット　確認できなかった。

覆土　２層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　　ローム粒子中量



第21図　第61号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片15点（深鉢類），礫１点が中央部から散在して出土しているが，すべて細片であり，図示できなかった。

所見　本跡においては小形の住居である。出土遺物が少なく，時期を決定することは困難であるが，出土土器や住居の形状などから縄文時代前期と考えられる。

第65号住居跡（第22図）

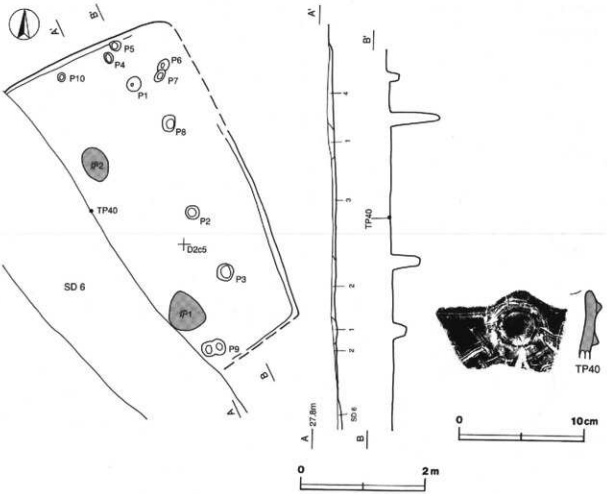
位置　調査区西部のＤ２b4区に位置し，標高27.6mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西側半分ほどを第６号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西壁を第６号溝に掘り込まれているため，本来の形状を明確にすることはできないが，長軸5.7m，短軸2.5mほどが確認された。形状は方形または長方形と考えられ，主軸方向はＮ－30°－Ｗである。壁高は６cmほどで，確認された壁はなだらかに外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分は南側にやや傾斜していおり，踏み固められた部分は見られない。

炉　２か所が検出された。炉１は南壁寄りに位置しており，長径65cm，短径55cmほどの不整円形で掘り込みは確認できなかった。炉２は中央部の北側に位置し，長径60cm，短径50cmほどの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめている。ともに炉床面は，被熱のため赤変硬化している。



第22図　第65号住居跡・出土遺物実測図

ピット　10か所が検出された。平面形はＰ９が双円状を呈しており，そのほかは円形あるいは楕円形である。主柱穴は規模及び配列からＰ１・Ｐ２と考えられ，深さは80cm，45cmである。ほかは深さ10～26cmとそれほど深くなく，性格は明確でない。

覆土　４層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1 黒　褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子微量	3 黒　褐　色	ローム粒子少量
2 黒　褐　色	ロームブロック微量	4 極暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片30点（深鉢類），礫１点が北側を中心に出土しており，１点が図示できた。TP40は中央部付近の床面から破片で出土している。そのほか，混入した土師器６点が出土している。

所見　削平のため本来の形状を明確にすることができず，また，出土遺物が少ないため，時期を明確にすることは困難であるが，推測される住居の形状や周辺部の住居跡などから，縄文時代前期と考えられる。

第65号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP40	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	繊維・長石・雲母・赤色粒子	赤褐	良	波状口縁，円形の隆帯貼り付け，櫛目状工具による沈線	床面	PL37

第84号住居跡（第23図）

位置　調査区中央部のＤ５e3区に位置し，標高27.6mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸2.6m，短軸2.1mほどの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－52°－Ｗである。壁高は７～11cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は見られない。

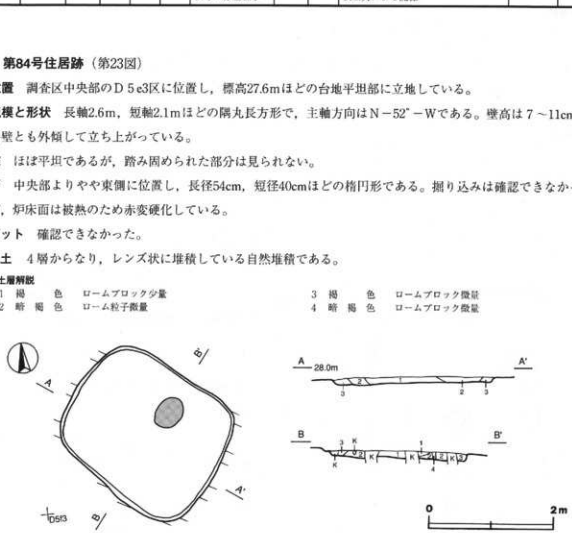
炉　中央部よりやや東側に位置し，長径54cm，短径40cmほどの楕円形である。掘り込みは確認できなかったが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

ピット　確認できなかった。

覆土　４層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1 褐　色	ロームブロック少量	3 褐　色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック微量



第23図　第84号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片22点（深鉢類），礫10点が中央部から西コーナー部付近にかけて出土しているが，すべて細片であり，図示できなかった。

所見　出土遺物が少なく，時期を明確にすることは困難であるが，出土土器や住居の形状などから，縄文時代前期（黒浜式期）と考えられる。

第88号住居跡（第24・25図）

位置　調査区西部のＣ２a7区に位置し，標高28.2mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北東部で第89号住居の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状　耕作による削平のため，南西コーナー部は失われており，本来の形状を明確にすることはできないが，長軸3.0m，短軸2.9mほどの方形と考えられ，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は５～８cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は見られない。

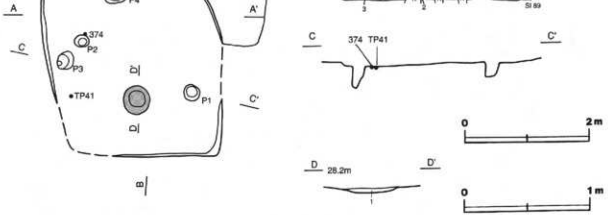
炉　中央部よりやや南側に位置した径42cmほどの円形で，床を４cmほど掘りくぼめている。炉床面はそれほど赤変硬化しておらず，焼土が薄く堆積している状態である。

炉土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　４か所が検出された。平面形は円形あるいは楕円形で，主柱穴は規模及び配列からＰ１，Ｐ２と考えられ，深さは24cm，31cmである。Ｐ３は深さ36cm，Ｐ４は深さ10cmであるが，性格は明確でない。

覆土　３層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

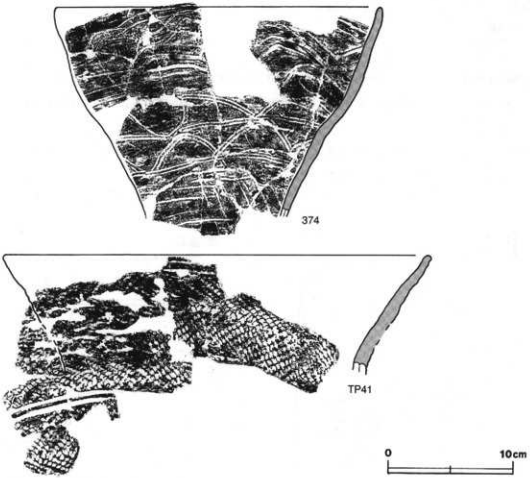
土層解説
1　極暗褐色　　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　　ローム粒子微量



第24図　第88号住居跡実測図

遺物出土状況　縄文土器片241点（深鉢類），礫11点が北西側を中心に出土しており，２点が図示できた。374はＰ２の北側の床面，TP41は西壁付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代前期（黒浜式期）と考えられる。



第25図　第88号住居跡出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	縄文土器	深鉢	[26.6]	(16.9)	－	繊維・石英	にぶい褐	普通	平截竹管による波状文	Ｐ２付近床面	30% PL27
TP41	縄文土器	深鉢	[33.8]	(9.5)	－	繊維・長石	明褐	普通	節の大きい羽状の単節縄文が施文，くびれ部横位の平行沈線	西壁付近床面	10% PL38

第89号住居跡（第26図）

位置　調査区西部のＣ２a8区に位置し，標高28.2ｍほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北部中央を第61号土坑，南西部を第88号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.5ｍ，短軸3.1ｍほどの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁高は５cmで緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　中央部より南側に位置している。長径60cm，短径40cmほどの楕円形で，床を３cmほど掘りくぼめている。炉床面はそれほど赤変硬化しておらず，焼土が薄く堆積している状態である。

炉土層解説
1　暗赤褐色　　焼土粒子微量

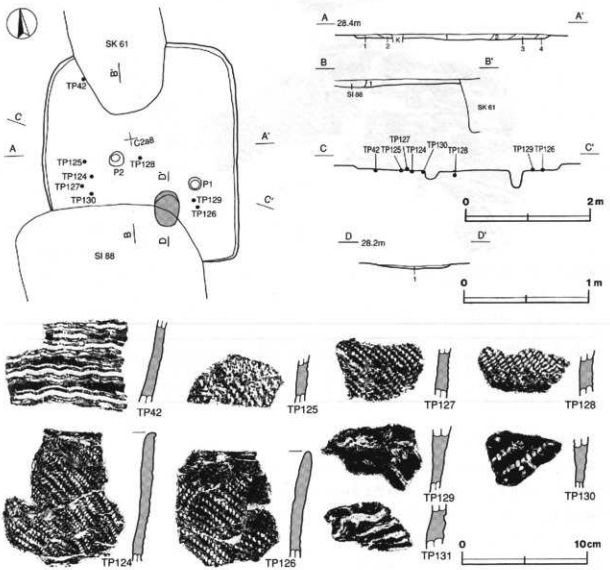
ピット　2か所が検出された。いずれも平面形は円形で，深さは29cm，14cmであるが，性格は明確でない。

覆土　4層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　　ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片198点（深鉢類），礫6点が中央部付近から出土しており，9点が図示できた。TP42は北西コーナー付近，TP129はＰ１付近の床面からそれぞれ出土している。また，TP124～TP128も床面から出土している。

所見　南西部を第88号住居に掘り込まれているため，全体の形状が不明確であったが，時期は出土土器から縄文時代前期（黒浜式期）と考えられる。



第26図　第89号住居跡・出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	繊維・長石・石英・赤色粒子	褐	普通	半截竹管による波状文	北西コーナー付近床面	PL38
TP124	縄文土器	深鉢	－	(10.3)	－	繊維・長石・石英	にぶい赤褐	普通	ＲＬの単節縄文	床面	
TP125	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	繊維・長石・石英	にぶい赤褐	普通	ＲＬの単節縄文	床面	PL38
TP126	縄文土器	深鉢	－	(8.6)	－	繊維・長石・石英	褐	普通	羽状縄文	床面	PL38
TP127	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	繊維・石英・砂粒	褐	普通	ＲＬの単節縄文	床面	
TP128	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	繊維・長石	褐	普通	ＲＬの単節縄文	床面	
TP129	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	繊維・長石・石英	橙	普通	半截竹管文	Ｐ１付近床面	
TP130	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	繊維・長石・石英	にぶい褐	普通	Ｌの単軸絡条体	床面	
TP131	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	繊維・長石・石英	にぶい褐	普通	半截竹管による波状文	－	

第90号住居跡（第27図）

位置　調査区西部のＢ２j7区に位置し，標高28.2mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸1.9m，短軸1.8mほどの方形で，主軸方向はＮ－62°－Ｅである。壁高は３～８cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

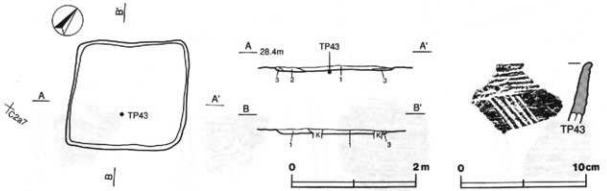
覆土　３層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片13点（深鉢類）が出土しており，１点が図示できた。TP43は中央部付近の床面から破片で出土している。

所見　本跡においては小形の住居である。出土遺物が少なく，時期を明確にすることは困難であるが，出土土器から縄文時代前期と考えられる。



第27図　第90号住居跡・出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP43	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	繊維	褐	普通	擬縄状工具により，横位・斜位の擬縄状文	床面	PL38

第98号住居跡（第28図）

位置　調査区西部のＣ２a6区に位置し，標高約28.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　北西コーナー部から中央部にかけて撹乱を受け，また，耕作による削平のため北・西壁は存在していないが，床面の広がりから長軸3.7m，短軸2.8mほどの長方形と推定され，主軸方向はＮ－０°である。壁高はもっとも残りのよい南壁で６cmを測り，確認された壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は見られない。

炉　中央部より南東側に位置している。長径62cm，短径45cmほどの楕円形で，床を４cmほど掘りくぼめており，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説

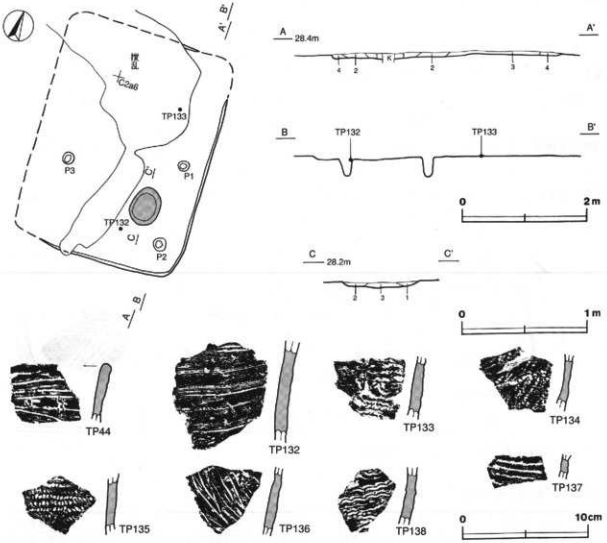
1　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　　焼土粒子少量，ローム粒子微量

ピット　３か所が検出された。規模や配列から主柱穴とは考えられないが，深さは29～34cmである。

覆土　４層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　極 暗 褐 色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　　ローム粒子中量



第28図　第98号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片120点（深鉢類），礫５点が中央部から北西コーナー部にかけて出土しており，８点が図示できた。TP132・TP133は床面から破片で出土している。

所見　撹乱と削平のため，全体の形状が不明確であったが，時期は，出土土器などから縄文時代前期と考えられる。

第98号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	－	(8.1)	－	繊維・長石	橙	普通	横位の沈線文	覆土	PL38
TP132	縄文土器	深鉢	－	(8.1)	－	繊維・長石・石英	橙	普通	半截竹管による横位の平行沈線文	床面	
TP133・137	縄文土器	深鉢	－	(4.3,2.0)	－	繊維・石英	にぶい褐	普通	半截竹管による波状文	床面（133）	PL38
TP134	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	繊維・長石・石英	にぶい黄褐	普通	RLの単節縄文	覆土	
TP135	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	繊維・石英	にぶい黄褐	普通	LRの単軸絡条体	覆土	
TP136	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	繊維・長石・石英	明赤褐	普通	斜位の条線文	覆土	PL38
TP138	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	繊維・石英	灰褐	普通	半截竹管による沈線文	覆土	PL38

第102号住居跡（第29図）

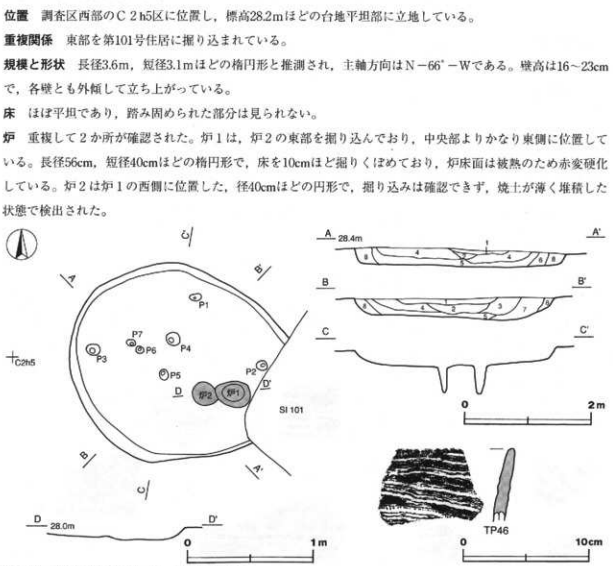
位置　調査区西部のＣ２h5区に位置し，標高28.2ｍほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　東部を第101号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長径3.6ｍ，短径3.1ｍほどの楕円形と推測され，主軸方向はＮ－66°－Ｗである。壁高は16～23cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，踏み固められた部分は見られない。

炉　重複して２か所が確認された。炉１は，炉２の東部を掘り込んでおり，中央部よりかなり東側に位置している。長径56cm，短径40cmほどの楕円形で，床を10cmほど掘りくぼめており，炉床面は被熱のため赤変硬化している。炉２は炉１の西側に位置した，径40cmほどの円形で，掘り込みは確認できず，焼土が薄く堆積した状態で検出された。



第29図　第102号住居跡・出土遺物実測図

ピット　7か所が検出された。深さ19～36cmであるが，性格は明確でない。

覆土　8層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　極暗褐色　ロームブロック中量
8　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片26点（深鉢類），礫1点が中央部から北西コーナー部にかけて出土しており，1点が図示できた。TP46は中央部付近の床面から破片で出土している。そのほか，混入した土師器7点が出土している。

所見　出土遺物が少なく時期を明確にすることは困難であるが，住居の形状から時期は，縄文時代前期後葉（浮島Ⅱ式期）と考えられる。

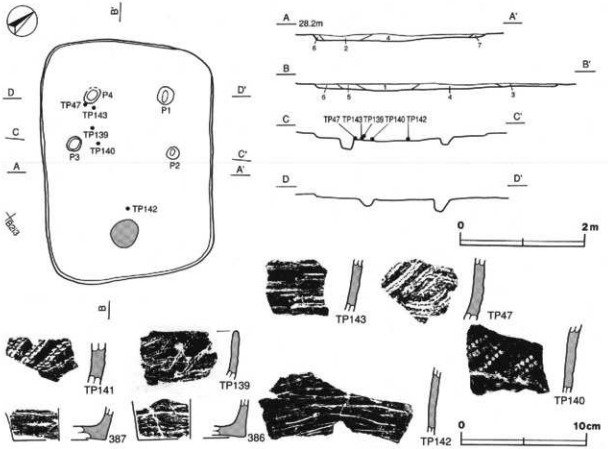
第102号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP46	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	繊維・雲母	にぶい褐	良	半竹管による横位の沈線施文	覆土	PL38

第103号住居跡（第30図）

位置　調査区西部のB2h3区に位置し，標高28.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸3.9m，短軸2.7mほどの長方形で，主軸方向はN－56°－Wである。壁高は4～8cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。



第30図　第103号住居跡・出土遺物実測図

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は見られない。

炉　中央部よりかなり東側に位置する径45cmほどの円形で，掘り込みは確認できない。炉床面もほとんど赤変硬化しておらず，焼土が薄く堆積している状態である。

ピット　4か所が検出された。深さは12～22cmで，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　7層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 黒 色　　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　　ロー ムブロック微量
5　黒　褐　色　　ロームブロック多量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　　ロ・・ムブロック少量
7　暗　褐　色　　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片113点（深鉢類），礫9点が中央部から北西コーナー部にかけて出土しており，8点が図示できた。TP140はP3北側の床面，TP47・TP143はP4付近の床面，TP142は炉付近の床面からそれぞれ出土している。また，TP139は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から縄文時代前期（黒浜式期）と考えられる。

第103号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
386	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	[8.6]	繊維・石英	明赤褐	普通	横位の沈線文	…	
387	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	[7.6]	繊維・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	横位の沈線文	－	
TP47	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	繊維・石英・雲母・砂粒	褐	普通	L（2本）の単軸絡条体	P 4付近床面	PL38
TP139	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	繊維・長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	L（2本）の単軸絡条体	中層	PL38
TP140	縄文土器	深鉢	－	(5.5)		繊維・長石・石英・砂粒	褐	普通	LRの羽節縄文	床部	
TP141	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	繊維・長石・石英	橙	良	R（2本）の単軸絡条体		PL38
TP142	縄文土器	深鉢	－	(4.8)		繊維・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	擬宝珠状工具による横位の条線文	炉付近床面	
TP143	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	繊維・長石	橙	普通	平截竹管による沈線文	P 4付近床面	PL38

表2　縄文時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向（長軸方向）	平面形	規模（m）長軸×短軸	壁高（cm）	床面	内部施設					覆土	主な出土遺物	備考（時期・HI・新）
							埋甕	土坑	凹凸	ピット	貯蔵穴	炉		
3	F 6 h9	N-28°-W	[方形・長方形]	(3.64)×4.65	8～30	平坦	－	4	不明	14		1	自然	縄文土器，石製品	前期
7	F 6 b6	N-23°-W	[方形・長方形]	3.82×(3.30)	3～8	平坦	－	2	不明	4		2	自然	縄文土器	本跡→SI 6 前期
9	F 6 f4	N-53°-W	[楕円形]	(4.3)×3.35	10～16	平坦	－			2	－	1	自然	縄文土器，礫	本跡→SI 8 前期
20	E 4 a6	N-29°-E	方　形	3.38×3.36	6～11	平坦		－	－	－	－	1	自然	縄文土器，礫	前期
25	E 6 e4	N-7°-W	長方形	6.37×4.0	7～11	平坦	－	6	不明	8		2	自然	縄文土器	前期
28	E 6 h1	N-3°-W	隅丸長方形	5.63×4.72	15～25	平坦	－	本明	不明	14	－	3	自然	縄文土器，石製品，礫	前期
45	C 5 j3	N-65°-W	隅丸長方形	2.63×2.26	11～19	平坦		－	－	－	－	1	自然	縄文土器，礫	前期
59	D 4 h9	N-71°-E	不整長方形	4.15×3.02	2～9	平坦	－	不明	不明	2	－	1	自然	縄文土器，礫	前期
60	D 4 d4	N-1°-W	長方形	[3.89]×3.05	7～10	平坦	－	4	－	－		1	自然	縄文土器，礫	本跡→SK 29 前期
61	D 4 e8	N-62°-W	不整長方形	2.38×1.87	4～6	平坦		－	－	－	－	1	自然	縄文土器，礫	本跡→SI 51 前期
65	D 2 b4	N-30°-W	[方形・長方形]	5.68×(2.49)	6	傾斜		2	不明	8	－	2	自然	縄文土器，礫	本跡→SD 6 前期
84	D 3 e3	N-52°-W	隅丸長方形	2.62×2.14	7～11	平坦	－	－	－	－		1	自然	縄文土器，礫	前期
88	C 2 a7	N-3°-W	[方　形]	3.04×[2.85]	5～8	平坦	－	2	不明	2	－	1	自然	縄文土器，礫	SI 89→本跡→前期
89	C 2 a8	N-8°-E	隅丸長方形	(3.50)×3.12	5	平坦		不明	不明	2	－	1	自然	縄文土器，礫	本跡→SI 88，SK 5 前期
90	B 2 j7	N-62°-E	長方形	1.86×1.75	3～8	平坦	－	－	－	－			自然	縄文土器	前期
98	C 2 a6	N-6°	[長方形]	(3.72)×[2.81]	6	平坦	－	－	不明	3		1	自然	縄文土器，礫	前期
102	C 2 h3	N-66°-W	[楕円形]	(3.61)×3.14	16～23	平坦	－	不明	不明	7		2	自然	縄文土器，礫	本跡→SI 101 前期
103	B 2 h3	N-56°-W	長方形	3.91×2.68	4～8	平坦	－	4		－	－	1	自然	縄文土器，礫	前期

2　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で，古墳時代の竪穴住居跡85軒と方形周溝墓１基，古墳２基，土坑２基を確認した。以下，検出した遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第１号住居跡（第31・32図）

位置　調査区東部のＦ７b3区に位置し，標高26.9mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北西壁中央部を第40号土坑，北西壁北部を第43号土坑にそれぞれ掘り込まれている。また，第１号ピット群のＰ４・Ｐ５・Ｐ８・Ｐ12に中央部分及び北西壁付近を掘り込まれている。

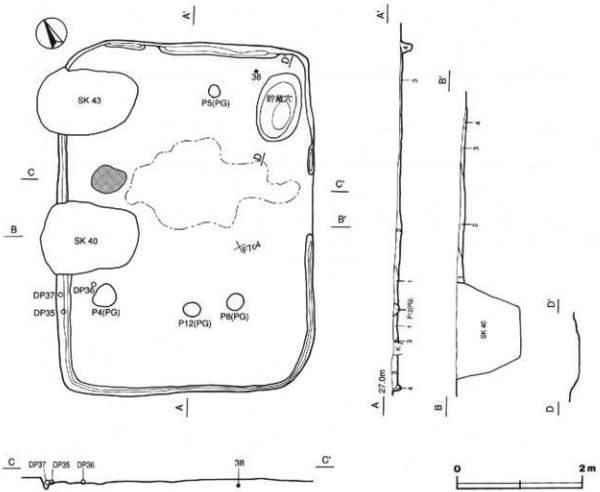
規模と形状　長軸5.6m，短軸4.1mほどの長方形で，主軸方向はＮ－28°－Ｅである。壁高は最も残りのよい北西壁が12cmで，外傾して立ち上がっている。ほかの壁については，立ち上がりは判然としない。

床　ほぼ平坦で中央部がよく踏み固められており，壁溝は北東コーナー部と北東壁の中央部を除いて壁際を巡っている。

炉　長径約40cm，短径約30cmの地床炉で，中央部の北西寄りに位置し，かなり壁際に偏っている。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　平面形は径1.14mほどの不整円形を呈し，北東コーナー部に付設されている。深さは18cmほどで，底面は皿状を呈し，壁は緩やかに外傾して立ち上がる。



第31図　第１号住居跡実測図

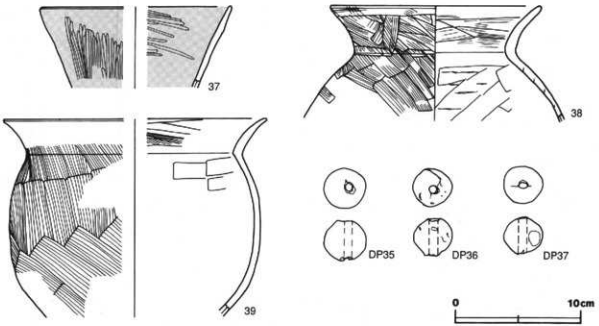
覆土　層厚は12cmほどと薄く，4層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック中量・炭化粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片126点（坏類1，甕類122，高坏3），土製品3点（土玉）が出土している。図示できたものは6点である。38は北東コーナー付近の床面から出土している。また，北西の壁際床面からは，DP35～DP37の3点がまとまって出土しているが，そのほかの遺物は大半が細片であった。

所見　時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第32図　第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
37	土師器	坏	[15.2]	(6.5)	－	長石・石英	赤褐	普通	口縁部内外面ヘラ磨き，内・外面赤彩	覆土	10%
38	土師器	甕	17.0	(8.2)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部から体部上段外面横ナデ，体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ	床面	20%
39	土師器	甕	[21.0]	(15.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ，体部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ	覆土	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP35	土玉	3.3	3.4	0.6	32.7	土	球体，外面ナデ	北西壁際床面	
DP36	土玉	3.1	3.2	0.7	23.3	土	球体，外面ナデ	床面	
DP37	土玉	3.0	3.2	0.7	22.9	土	球体，外面ナデ，指頭痕	北西壁際床面	

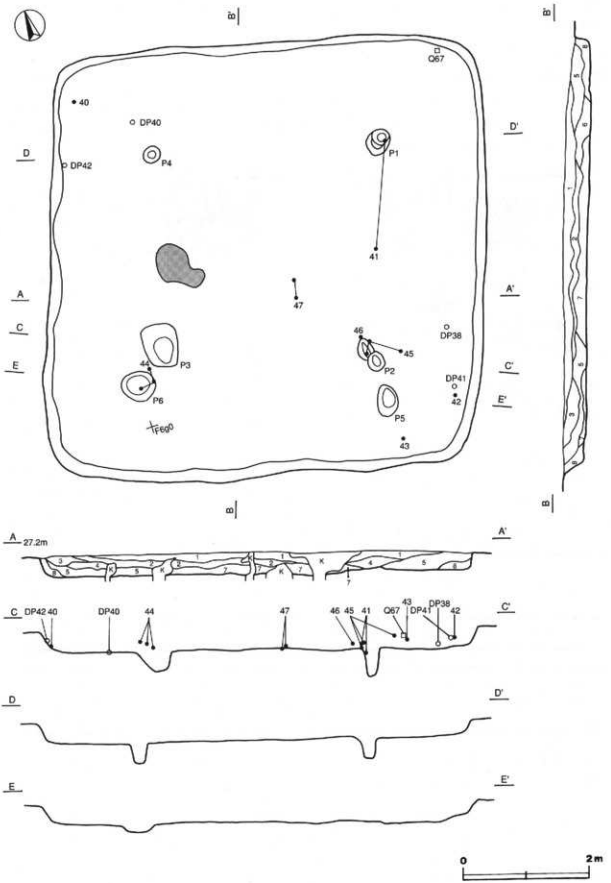
第2号住居跡（第33～35図）

位置　調査区東部のＦ６f0区に位置し，標高27.1mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　一辺7.0mほどの隅丸方形で，主軸方向はＮ－73°－Ｗである。壁高は29～32cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，それほど踏み固められた様子は見られず，壁溝は認められない。

炉　中央部のやや西側に位置している。掘り込みや火床面は確認できず，床面上に焼土が堆積している状態であり，ほとんど掘り込みを持たない地床炉である。



第33図　第２号住居跡実測図

ピット　6か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは33～48cmである。Ｐ５・Ｐ６の深さは24cm，45cmであるが，性格は不明である。

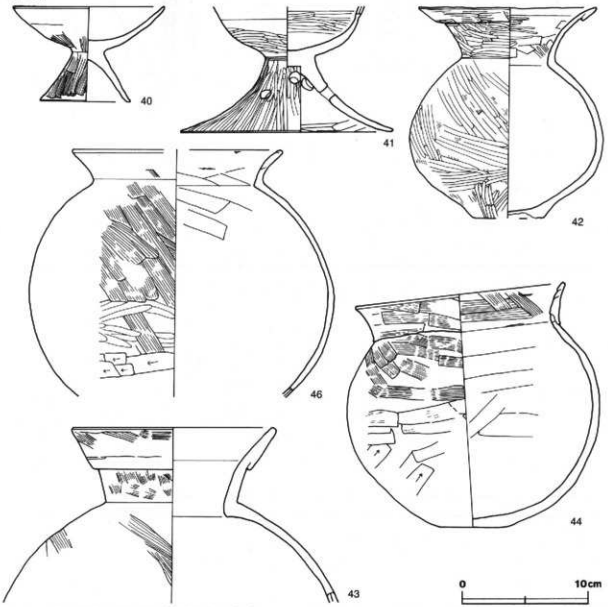
覆土　8層からなり，ブロック状に堆積している人為堆積である。

土層解説

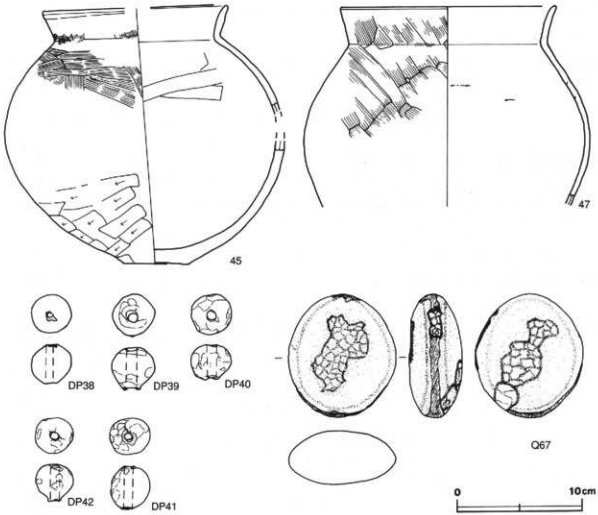
1	黒　　色	焼土ブロック微量	5	黒　褐　色	ローム粒子少量
2	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	6	暗　褐　色	ロームブロック微量
3	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量	7	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
4	黒 暗 褐 色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	8	暗　褐　色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片443点（坏類１，甕類441，高坏１），土製品５点（土玉），磨石１点が，主に覆土中層から下層にかけて出土している。特に南東コーナー付近からの出土が多く，図示できたものは６点である。40は北西コーナー付近の床面から逆位の状態で出土している。また，41はP1覆土中，床面，44は覆土下層から出土しており，本跡に伴うものと考えられ，42はほぼ完形で，南東コーナー壁際から出土している。そのほか，混入した縄文土器片７点が出土している。

所見　本跡は一辺約7.0mで，当遺跡においては大形の住居跡である。時期は，出土土器から４世紀代と考えられる。



第34図　第２号住居跡出土遺物実測図（１）



第35図　第２号住居跡出土遺物実測図（２）

第２号住居跡出土遺物観察表（第34・35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
40	土師器	高坏	12.2	7.8	7.4	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	坏部下段から脚部外面ハケ目整形	北西コーナー床面	80% PL17
41	土師器	高坏	—	(10.1)	17.1	長石・石英	橙	普通	坏部下段から脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ磨き，脚部内面ヘラナデ，窓６か所	P1覆土中，床面	70% PL15
42	土師器	壺	13.4	16.9	[5.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁部内・外面ハケ目整形後ヘラ磨き，頸部・体部ヘラ磨き	南東コーナー中層	90% PL21
43	土師器	壺	16.0	(14.0)	—	長石・雲母	橙	普通	複合口縁部から頸部外面ハケ目整形後横ナデ，体部外面荒いハケ目整形	南東コーナー中層	10%
44	土師器	甕	16.6	19.7	6.3	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面・体部上段外面ハケ目整形，下段外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	下層	90% PL28
45	土師器	甕	[14.7]	20.8	5.3	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ハケ目整形後横ナデ，体部外面上段ハケ目整形，外面下段ヘラ削り，内面ヘラナデ	中層から下層	60% PL26
46	土師器	甕	[15.2]	(19.8)	—	長石・石英	橙	普通	体部外面上段ハケ目整形，外面中段ハケ目整形後ヘラ磨き，外面下段ヘラ削り	下層	70%
47	土師器	甕	17.3	(16.0)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面上段ハケ目整形	床面	40%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP38	土玉	3.1	3.2	0.6	30.9	土	球体，外面ナデ	下層	
DP39	土玉	3.4	3.5	1.0	35.0	土	球体，外面ナデ	覆土	
DP40	土玉	2.8	3.3	0.8	25.5	土	球体，外面ナデ	北西コーナー床面	
DP41	土玉	3.4	3.2	0.7	29.6	土	球体，外面ナデ	中層	
DP42	土玉	3.0	3.0	0.7	21.5	土	球体，外面ナデ	中層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q67	磨石	10.5	8.5	4.2	503.3	安山岩	両面中央部付近敲打痕，縁端部全周に研磨痕	中層	PL45

第４号住居跡（第36図）

位置　調査区東部のＥ７j2区に位置し，標高26.8mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　耕作による削平のため壁の立ち上がりは残存していないが，床面の広がりからＮ－59°－Ｗを主軸とした一辺4.1mほどの方形と推定される。

床　中央部付近と北東コーナー及び南東壁中央付近の広い範囲が攪乱を受けているが，残存部からほぼ平坦であったと考えられる。壁溝は確認された床面の一部を除いて巡っている。

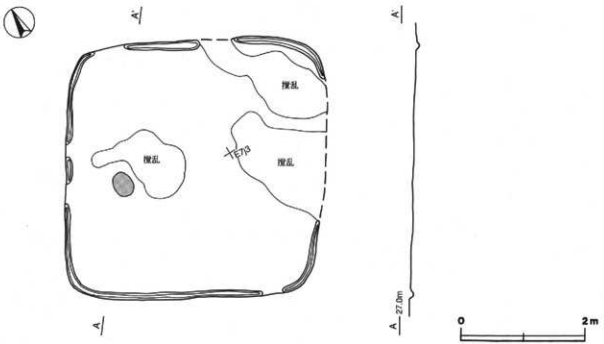
炉　中央部の北西壁寄りに位置している。掘り込みや火床面は確認できず，床面上に焼土が堆積している状況であり，ほとんど掘り込みをもたない地床炉である。

ピット　確認できなかった。

覆土　床面が露出した状態で検出されたため，不明である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　出土遺物がないため時期は明確でないが，住居跡の形状や周辺部に同様の住居跡が確認されていることなどから，時期は４世紀代と考えられる。



第36図　第４号住居跡実測図

第５号住居跡（第37図）

位置　調査区東部のＥ６i0区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　第38号土坑に，中央部よりやや北西側を掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.50m，短軸3.30mほどの長方形で，主軸方向はＮ－29°－Ｅである。壁高は最も残りのよい北西壁が12cmで，いずれの壁も外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められており，壁溝は全周している。

炉　中央部の西コーナー寄りに焼土の範囲がみられたが，掘り込みや火床面は確認できず，床面上を炉床としたものであるが，小規模のものである。

ピット　確認できなかった。

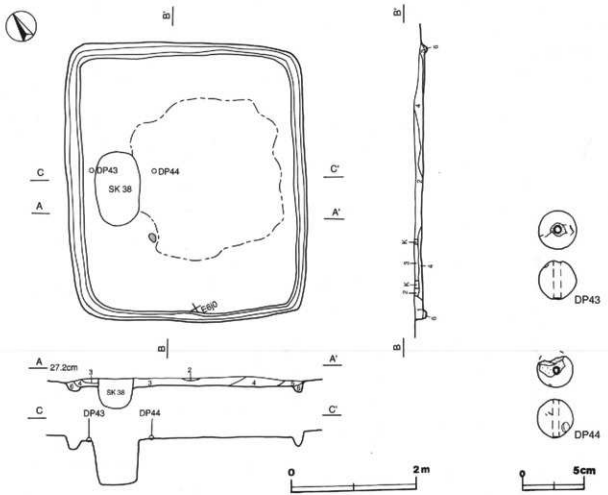
覆土　6層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　　ローム粒子微量
6　暗　褐　色　　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片25点（甕類24，器台1），土製品2点（土玉）が主に覆土上層から下層にかけて出土している。土器片は細片のため図示できなかいが土製品2点が図示できた。DP43は北西壁際床面，DP44は中央部のやや西側の床面からそれぞれ出土している。

所見　出土遺物が少なく時期を決定することは困難であるが，形状から4世紀代と考えられる。



第37図　第5号住居跡・出土遺物実測図

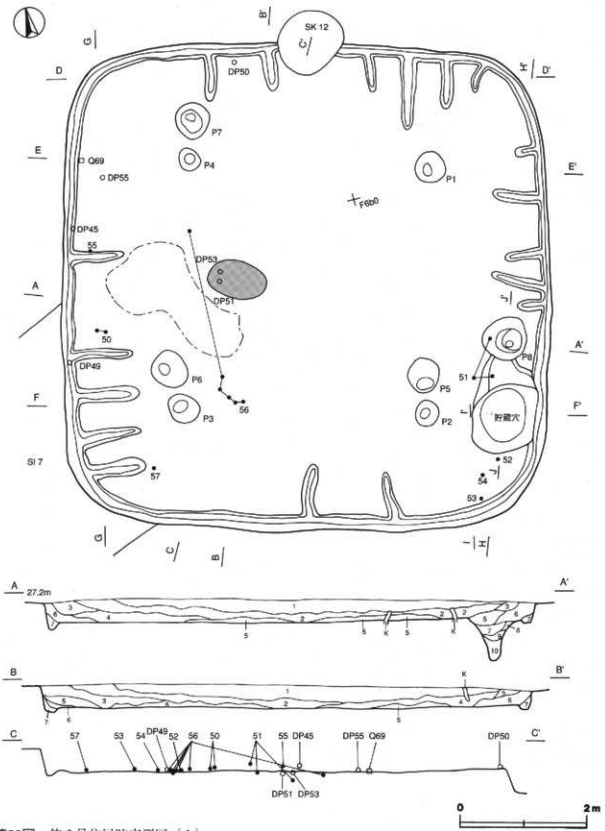
第5号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP43	土玉	3.0	3.0	0.6	37.2	土	球体，外面ナデ	床面	
DP44	土玉	3.1	2.9	0.5	18.6	土	球体，外面ナデ	床面	

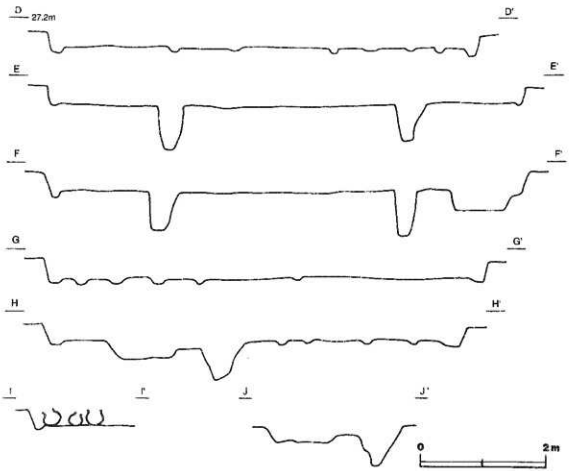
第６号住居跡（第38～41図）

位置　調査区東部のＦ６h9区に位置し，標高27.1ｍほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西コーナー部で第７号住居を掘り込み，北壁中央部を第12号土坑に掘り込まれている。



第38図　第６号住居跡実測図（１）



第39図　第６号住居跡実測図（２）

規模と形状　一辺が7.8mほどの方形で，主軸方向はＮ－74°－Ｗである。壁高は24～38cmで，各壁ともやや外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，炉の西側に硬化面が確認され，踏溝が全周している。また，各壁から対面する壁に向かって，それぞれ２～５条の短い溝状の掘り込みが並んでいた。丸太などの木材を置き，その上に板材を渡した模太の痕跡と考えられる。

炉　中央部よりやや西側に確認された。長径95cm，短径60cmほどの楕円形で，炉床面にやや凹凸がみられたが，ほとんど掘り込みは確認できず，床面を炉床としたものである。

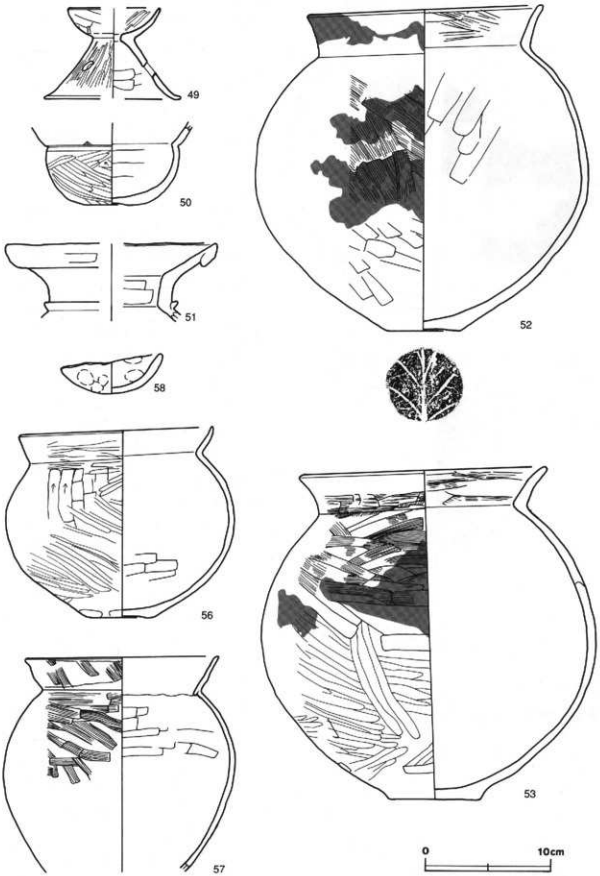
ピット　８か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さ77～83cmである。Ｐ８は深さ65cmで，東壁際中央部の炉と向かい合う位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５～Ｐ７の深さはそれぞれ26～30cmであり，各主柱穴の北側に隣接し，規模や深さが一定のため，柱穴と何らかの関連があるものと思われる。

貯蔵穴　南東コーナー寄りに付設され，長径1.2m，短径1.0mほどの楕円形で，深さは30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

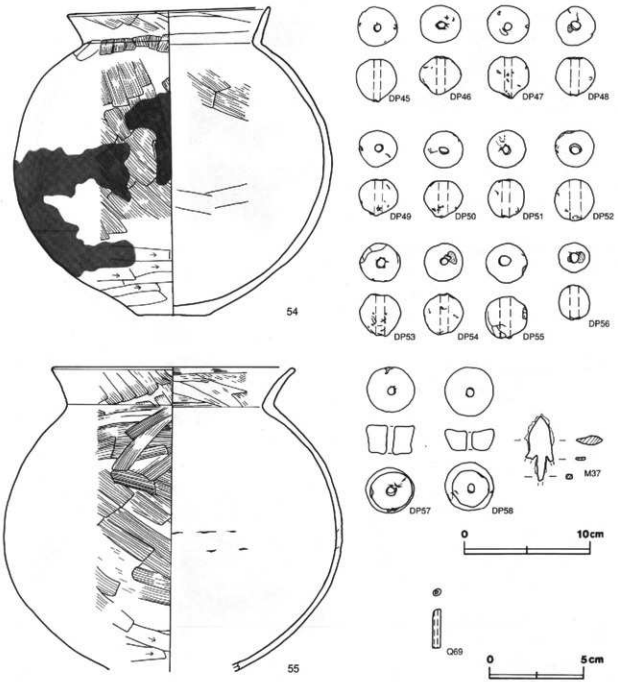
覆土　10層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。なお，第７～10層はＰ８の覆土である。

土層解説

1	黒	色	焼土粒子微量	6	暗	褐	色	ローム粒子微量
2	黒	褐	色	焼土粒子微量	7	灰	褐	色	ローム粒子少量
3	黒	褐	色	ロームブロック少量	8	暗	褐	色	ロームブロック中量
4	黒	褐	色	ローム粒子微量	9	黒	褐	色	ローム粒子微量
5	暗	褐	色	ローム粒子少量	10	暗	褐	色	ローム粒子少量



第40図　第６号住居跡出土遺物実測図（１）



第41図　第６号住居跡出土遺物実測図（2）

遺物出土状況　土師器片603点（坏類４，甕類581，器台１，椀類３，坩類７，高坏６），土製品２点（土玉），磨石１点が，主に覆土中層から下層にかけて出土している。中央部よりも，壁際からの出土が多く，大形の破片は北西コーナー部と南東コーナー付近に集中している。特に南東コーナーの貯蔵穴付近からは，甕が３点並んで出土している。それらを含めて，図示できたものは26点である。50は西側の壁付近，55も西側壁付近の床面から出土しており，いずれも本跡に伴うものと考えられる。また，壁際の床からは，DP45・DP49とQ69が出土している。52・53・54は，南コーナー付近の床面から正位の状態で出土し，57は西コーナー付近の床面から逆位の状態で出土している。また，DP51・DP53は，炉床面から出土している。そのほか混入した縄文土器片７点が出土している。

所見　本跡は，当遺跡において最大の規模をもつ住居跡である。床面から管玉や手捏土器が出土し，住居廃棄

時に祭祀行為が行われた可能性が考えられる。多量の遺物が出土しており，時期は4世紀前～中頃と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表（第40・41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
49	土師器	器台	(7.4)	7.3	(10.9)	長石・石英	橙	普通	脚受部外面ヘラ磨き，内面ヘラ磨き，脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，裾ヨコナデ	覆土	80% PL15
50	土師器	鉢	－	(6.6)	4.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	床面	60%
51	土師器	甕	(16.8)	(6.2)		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	粗合口縁部から頸部外面横ナデ，頸部内面ヘラナデ	床面	20% PL20
52	土師器	甕	18.8	26.2	5.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面上段ハケ目整形，下段ヘラ削り，口縁部内面ハケ目整形後横ナデ，底部木葉痕	南コーナー床面	95% 黒斑 PL28
53	土師器	甕	19.4	26.9	7.2	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部から体部外面上段ハケ目整形，下段ヘラ磨き	南コーナー床面	95% 煤付着 PL28
54	土師器	甕	16.3	21.7	5.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部から体部外面上段・中段ハケ目整形，下段ヘラ削り，内面ハケ目整形後横ナデ	東コーナー床面	100% 黒斑 PL28
55	土師器	甕	19.4	(24.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部から体部上段・下段ハケ目整形，下段ヘラ削り，口縁部内面ハケ目整形後ナデ	床面	80% PL28
56	土師器	甕	15.4	15.3	5.3	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口縁部外面ヘラ磨き，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ	床面	80% PL22
57	土師器	甕	15.1	(17.2)	－	長石・雲母	橙	普通	口縁部から体部外面斜ハケ目整形	北コーナー覆土	70%
58	土師器	手捏土器	8.2	3.2	－	長石・石英	赤褐	普通	内外面指頭痕	覆土	95% PL33

番号	種別	長さ	幅(厚さ)	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP45	土玉	3.2	3.2	0.6	31.5	土	球体，外面ナデ	床面	PL41
DP46	土玉	3.1	3.3	0.7	28.8	土	球体，外面ナデ	覆土	
DP47	土玉	3.5	3.3	0.6	31.7	土	球体，外面ナデ	覆土	
DP48	土玉	3.0	3.2	0.7	29.7	土	球体，外面ナデ	覆土	
DP49	土玉	3.0	3.1	0.6	25.4	土	球体，外面ナデ	北西壁際覆土	
DP50	土玉	3.0	3.2	0.8	25.3	土	球体，外面ナデ	北東壁際覆土	
DP51	土玉	3.1	3.0	0.6	28.5	土	球体，外面ナデ	床面	
DP52	土玉	3.4	3.2	0.9	31.1	土	球体，外面ナデ	床面	
DP53	土玉	3.4	3.4	0.7	33.4	土	球体，外面ナデ	床面	
DP54	土玉	3.3	3.1	0.6	28.0	土	球体，外面ナデ	床面	
DP55	土玉	3.5	3.4	0.8	29.0	土	球体，外面ナデ	床面	
DP56	土玉	2.8	2.5	0.7	15.0	土	球体，外面ナデ	床面	PL41
DP57	紡錘車	3.6	2.4	0.7	40.6	土	無文，断面形は逆台形状，外面ナデ	覆土	PL40
DP58	紡錘車	3.9	1.7	0.7	33.3	土	無文，断面形は逆台形状，上面中央盛あり，外面ナデ	覆土	PL40

番号	種別	長さ	幅(厚さ)	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q69	管玉	2.1	0.4	0.2	0.8	緑色凝灰石	外面は丁寧な磨き，完形	西壁際床面	PL45

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M37	鉄鏃	(5.4)	(2.4)	0.8	6.1	鉄	三角形鏃身，鏃身部三角形	覆土	PL46

第8号住居跡（第42・43図）

位置　調査区東部のＦ６g5区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北西コーナー部が，第９号住居を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺が5.1mほどの隅丸方形で，主軸方向はＮ－82°－Ｗである。壁高は18～26cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，それほど踏み固められた様子はみられず，壁溝は確認されていない。

炉　中央部西寄りに焼土の範囲を確認したが，明確な掘り込みや炉床面は確認できず，床面を炉床としている。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　北東コーナー寄りに位置し，長径64cm，短径52cmほどの楕円形で，深さは16cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム・ブロック微量
3　極暗褐色　　ローム・ブロック微量

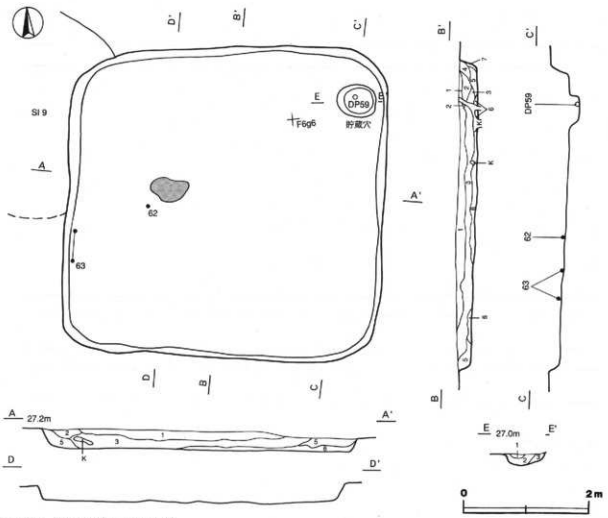
覆土　7層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

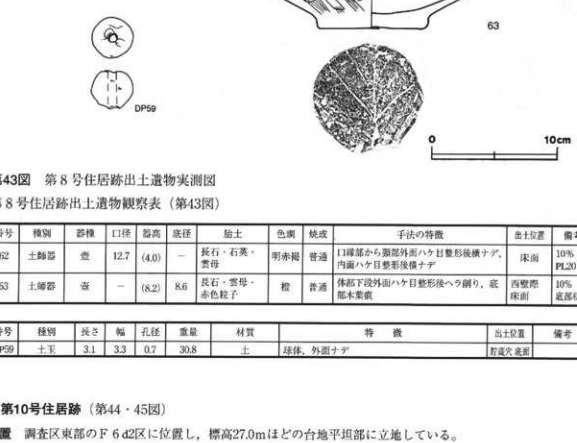
1　黒　　色　　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　　ローム粒子中量
7　暗　褐　色　　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片95点（甕類92，坩類3），土製品1点（土玉）が出土している。大半が細片であり，図示できたものは3点だけである。62は炉の南西の床面から出土し，63は西壁際床面出土の2点が接合したものである。DP59は，貯蔵穴底面から出土している。

所見　時期は出土土器から，4世紀代と考えられる。



第42図　第8号住居跡実測図



第43図　第８号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
62	土師器	壺	12.7	(4.0)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部から頸部外面ハケ目整形後横ナデ，内面ハケ目整形後横ナデ	床面	10% PL20
63	土師器	壺	—	(8.2)	8.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下段外面ハケ目整形後ヘラ削り，底部木葉痕	西壁際床面	10% 底部切痕

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP59	土玉	3.1	3.3	0.7	30.8	土	球体，外面ナデ	貯蔵穴 底面	

第10号住居跡（第44・45図）

位置　調査区東部のＦ６d2区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸6.40m，短軸5.40mほどの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は10～18cmで，北西壁と南東壁はほぼ直立して立ち上がっているが，北東壁と南西壁は床面の高まりに沿ってなだらかに立ち上がっている。

床　北東壁と南西壁際の床面は，ほかの床面より一段高くなっており，その隆起帯は30～40cmほどの幅を有している。壁溝は，この高まりも含めて南東壁際と南東コーナーを除いて確認された。

炉　中央部の北西寄りに位置している。それほど掘り込みや火床面は確認できず，床面上を炉床としている。

ピット　確認できなかった。

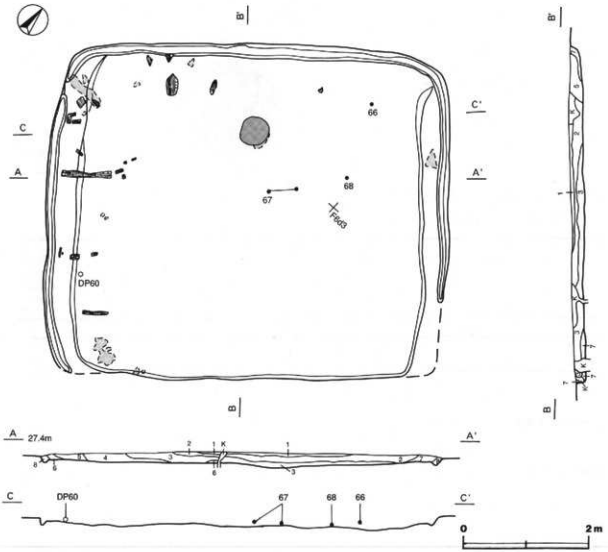
覆土　８層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

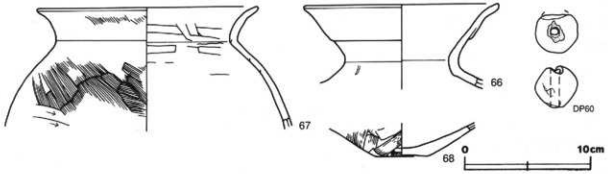
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
5　黒　　色　炭化物中量
6　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子中量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片118点（甕類），土製品１点（土玉）のほか，炭化材と焼土塊が出土しており，図示できた遺物は，４点である。66は北部コーナー付近の上層，67は中央部付近の下層，68は中央部よりやや北東壁寄りの床面から正位の状態でそれぞれ出土している。また，DP60は南西側の床面から出土している。炭化材と焼土塊は，主に南西部の床の高まり部分からの出土が目立ち，垂木と見られる炭化材は，炭化材同士が平行に並ぶような形で出土している。

所見　北東壁・南西壁際が住居跡中央部の床面より一段高くなっていることから，ベッド状の施設を有する住居跡と思われる。また，覆土下層から床面にかけて多量の焼土・炭化材が出土していることから焼失家屋であり，時期は4世紀代と考えられる。



第44図　第10号住居跡実測図



第45図　第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
66	土師器	壺	15.6	(6.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	口縁部から頸部外面，内面横ナデ	上層	35% PL20
67	土師器	甕	17.7	(9.9)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から体部外面上段ハケ目整形後横ナデ，内面ヘラナデ	下層	15%
68	土師器	甕	—	(2.7)	4.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下段，ハケ目調整	床面	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP60	土玉	3.4	3.4	0.8	23.7	土	球体，外面ナデ，一部欠損	床面	

第11号住居跡（第46図）

位置　調査区東部のＦ５b0区に位置し，標高27.5mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　耕作により，壁・床面は削平されている。掘り方部分から判断し，一辺3.7mほどの方形と推定され，主軸方向はＮ－54°－Ｗである。

床　完全に削平されている。掘り方は，一部高まり部分が見られるが全体的には平坦であり，床部はローム土と黒色土を用いて４～14cmの厚さに貼られている。

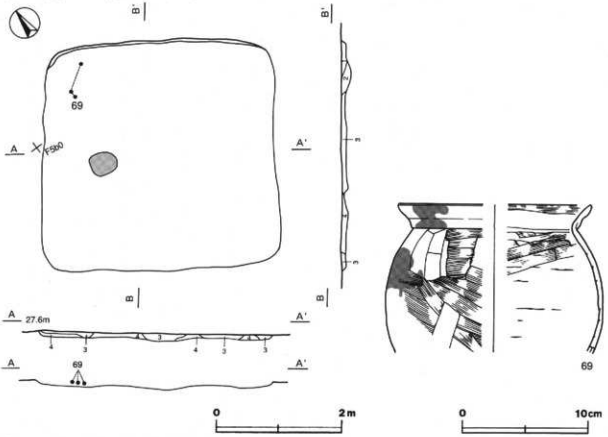
貼床土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　　ローム粒子中量
3　極暗褐色　　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　　ローム粒子多量

炉　中央部の北西寄りに，焼土が薄く堆積しているのが確認された。位置や規模から炉と考えられるが，上部は削平されている。

ピット　掘り方調査においても，確認できなかった。

覆土　削平のため存在していない。



第46図　第11号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片14点（甕類）が出土している。遺物の出土点数は少なく，図示できたものは69の１点のみであり，貼床部から逆位の状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器１点が出土している。

所見　床面も削平されて，覆土の堆積状況は不明であったため，掘り方調査を実施した。時期は，出土遺物から４世紀代と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	土師器	甕	[15.4]	(12.0)	－	長石・石英	褐	普通	体部外面上段ハケ目整形後ヘラナデ，内面ハケ目整形	上層	20% 煤付着

第12号住居跡（第47～49図）

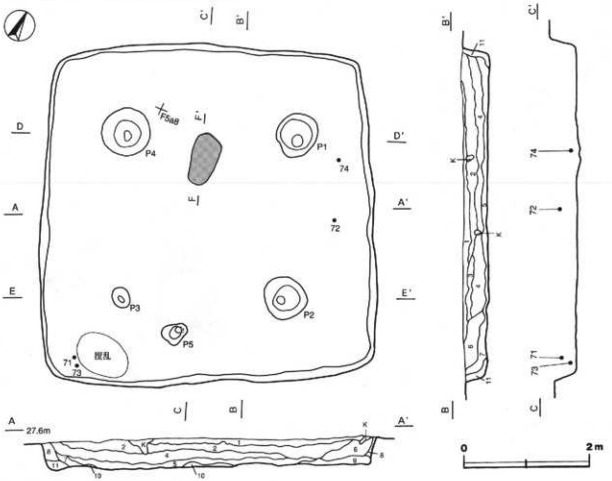
位置　調査区東部のＦ５a8区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。南東部は調査区域外に位置していたため，可能な限り調査区を拡張して規模と形状の確認に努めた。

規模と形状　一辺5.4mほどの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は40～44cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

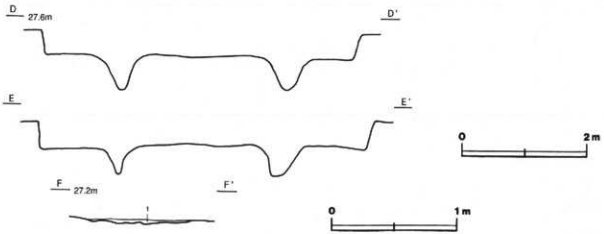
床　ほぼ平坦で，踏み固められた様子は見られず，壁溝は認められない。

炉　中央部やや北側に位置しており，床を６cmほど掘り込んだ浅い地床炉である。炉床面は赤変硬化して，覆土は単一層である。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　　焼土ブロック少量，炭化粒子微量



第47図　第12号住居跡実測図（1）



第48図　第12号住居跡実測図（2）

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは45～56cmである。Ｐ５は深さ56cmで，南東壁寄りの中央部に位置し，炉に対峙しているため，出入り口施設に関係するものと考えられる。

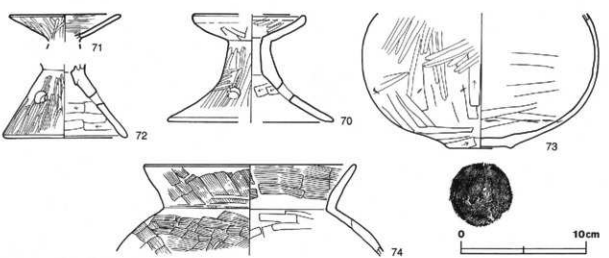
覆土　11層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	黒　　色	ローム粒子微量	
2	黒　褐　色	ローム粒子微量	
3	黒　　色	ローム粒子少量	
4	黒　褐　色	ロームブロック微量	
5	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
6	黒　褐　色	ローム粒子少量	
7	極暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量	
8	極暗褐色	ローム粒子中量	
9	黒　　色	ロームブロック微量	
10	暗　褐　色	ロームブロック少量	
11	褐　　色	ローム粒子少量	

遺物出土状況　土師器片352点（坏類10，甕類342）が北東側を中心に出土している。図示できたものは５点であり，72は覆土中層から出土している。71，73は南コーナー付近のそれぞれ覆土中層，下層から逆位の状態で出土しており，本跡に伴うものと考えられる。そのほか，混入した縄文土器51点が出土している。

所見　時期は，出土土器から４世紀中頃と考えられる。



第49図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
70	土師器	炉器台	[8.8]	8.5	[13.2]	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	器受部内面・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラ削り，窓２か所確認	覆土	20% PL15
71	土師器	器台	8.8	(2.1)	－	粒・砂粒・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	器受部内，外面ヘラ磨き	南コーナー中層	15%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
72	土師器	器台	—	(5.9)	9.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り，悪3か所	中層	50% PL15
73	土師器	壺	—	(10.7)	5.0	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面中段ヘラ磨き，下段ヘラ削り，内面ヘラナデ	南コーナー下層	95%
74	土師器	甕	17.0	(7.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部から体部外面上段ハケ目整形，内面ヘラナデ	床面	15%

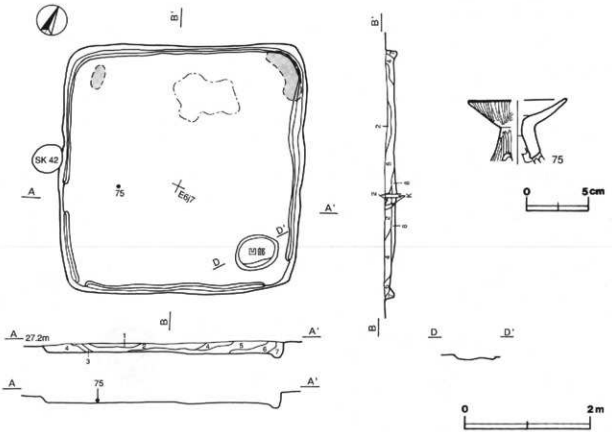
第13号住居跡（第50図）

位置　調査区東部のＥ６j7区に位置し，標高27.1mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西壁のほぼ中央部を，第42号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.0mほどの方形で，主軸方向はＮ－24°－Ｗである。壁高は８～17cmと低く，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，中央部から東壁寄りにやや低くなる。中央部付近よりやや北壁寄りの狭い範囲で硬化面が確認され，壁溝は南東コーナー，南西コーナーと西壁の一部を除いて認められた。また，東コーナー部に長径70cm，短径58cm，深さ８cmほどの楕円形の凹が確認された。北東コーナー部と北西コーナー部に焼土塊が検出されている。



第50図　第13号住居跡・出土遺物実測図

炉　確認できなかった。

ピット　柱穴は，確認した範囲には認められなかった。

覆土　８層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1 黒　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒 褐 色　ロームブロック微量
3 黒 褐 色　ローム粒子中量
4 黒 褐 色　ロームブロック少量
5 黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色　ロームブロック中量
7 暗 褐 色　ローム粒子微量
8 暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片41点（椀類1，甕類40）が出土しているが，ほとんど細片で図示できたのは1点である。そのほか混入した縄文土器28点，石製品1点が出土している。

所見　覆土に，それほど焼土などが含まれていないことから，検出された焼土塊は本跡の焼失を示すものでないと判断した。時期は出土土器から4世紀代と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	器別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
75	土師器	器台	17.81	(5.2)	－	長石・石英	明赤褐	普通	器受部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラナデ，窓3か所確認	床面	30%

第14号住居跡（第51～53図）

位置　調査区東部のＦ６a4区に位置し，標高27.3mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北コーナー部を第19号住居，西コーナーを第18号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.9m，短軸6.3mほどの長方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｅである。壁高は38～48cmで，各壁ともほぼ直立して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，北東壁付近に多少凹凸が見られ，主柱穴と考えられるＰ１～Ｐ４，南東壁中央部から延びる間仕切溝と考えられる溝状の掘り込みの両側から中央部にかけてよく踏み固められている。壁溝は東部コーナー部を除いて巡っている。北東壁ぎわから両コーナー部には焼土塊が検出され，火災に遭遇したものと考えられる。

炉　中央部よりやや北西寄りに２か所重複して確認された。炉１は，長径108cm，短径64cmの楕円形で12cmほど掘りくぼめ，炉２を掘り込んでいる。また，炉床面中心部付近には，幾体部を埋設している。炉２は長径80cm，短径40cmほどの楕円形と推測され，床面を炉１と同じ深さに掘りくぼめている。これらの状況から，炉２の後に炉１を作り替えて使用したものと考えられる。なお，土層解説の第３・４層は掘り方を示す。

炉土層解説
1 暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
2 暗赤褐色　焼土ブロック多量
3 暗赤褐色　焼土ブロック多量（炉・掘り方）
4 赤 褐 色　焼土ブロック中量（炉・掘り方）

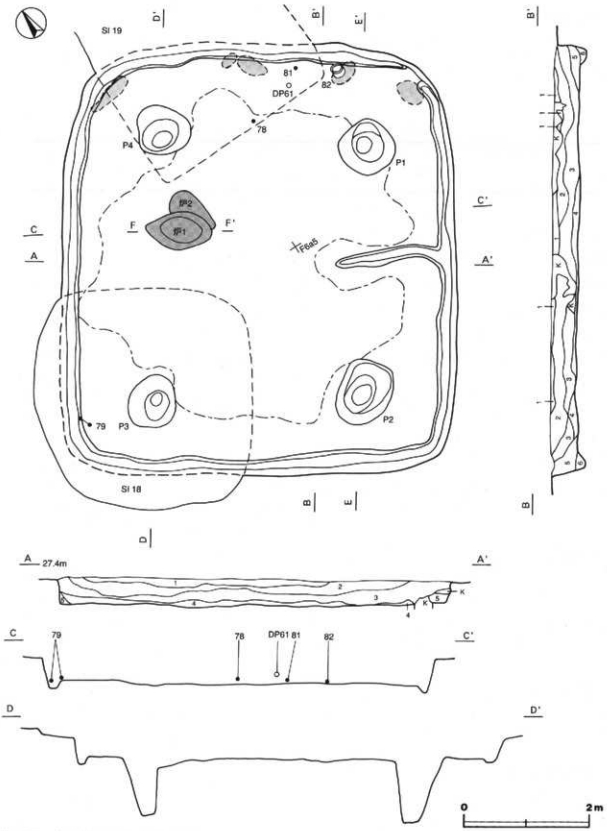
ピット　４か所。深さは84～104cmで，位置から主柱穴に相当する。Ｐ１・Ｐ２の断面形は２段掘り込み状であり，規模から推測すると柱の径は20cm以上と推定される。

覆土　６層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

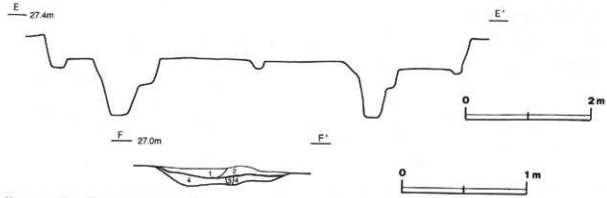
土層解説
1 黒　色　ローム粒子微量
2 黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3 黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4 暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物微量
5 暗 褐 色　ローム粒子少量
6 暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片295点（坏類６，甕類281，椀類１，器台３，高坏４），土製品４点（土玉）が中央部から北東側を中心に出土しており，８点が図示できた。79は西コーナー付近床面から正位の状態で出土し，81・82は，ともに北東壁際の床面から出土している。そのほか混入した縄文土器76点が出土している。

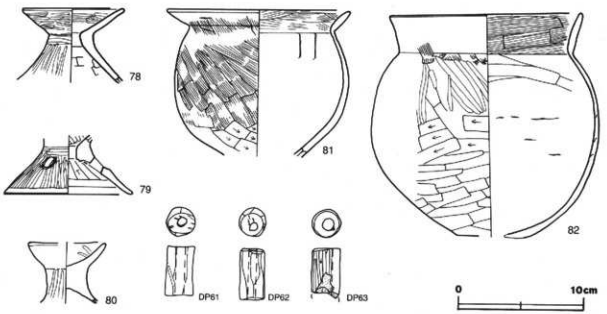
所見　本跡は一辺が6ｍ以上と，当遺跡では大形の住居である。北東壁下の焼土塊から，住居廃絶後に焼失したものと考えられ，時期は出土土器から4世紀代と考えられる。



第51図　第14号住居跡実測図（1）



第52図　第14号住居跡実測図（2）



第53図　第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
78	土師器	器台	8.1	(5.9)	—	長石・雲母・黒色粒子	橙	普通	器受部・脚部外面ヘラ磨き，器受部内面ヘラ磨き，脚部内面ヘラナデ	床面	50%
79	土師器	器台	—	(4.7)	10.4	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラ削り，意3か所	自コーナー床面	50%
80	土師器	高坏	[6.1]	(4.8)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，器受部内面ヘラ磨き	覆土	50%
81	土師器	小形甕	14.7	(11.7)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面上段ハケ目整形，下段ヘラ削り，口縁部内面ハケ目整形後横ナデ，体部内面ヘラナデ	北東壁際床面	70%
82	土師器	甕	15.4	18.1	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面上段ヘラ磨き，中段から下段ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部に孔有り	北東壁際床面	100% PL31 転用

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP61	管状土錘	3.9	2.3	0.8	23.2	土	外面ナデ	下層	
DP62	管状土錘	4.1	2.3	0.6	22.9	土	外面ナデ	覆土	
DP63	管状土錘	(3.9)	2.3	0.9	(21.1)	土	外面ナデ	覆土	

第15号住居跡（第54・55図）

位置　調査区東部のＥ６g2区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　一辺3.9mほどの方形で，主軸方向はＮ－36°－Ｗである。壁高は４～６cmと低く，北西壁以外は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，中央部から北西，南東にかけて踏み固められており，西コーナーと南コーナー以外に壁溝が確認された。また，南コーナー部を中心に，焼土塊が広い範囲で確認され，焼失住居と考えられる。

炉　確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

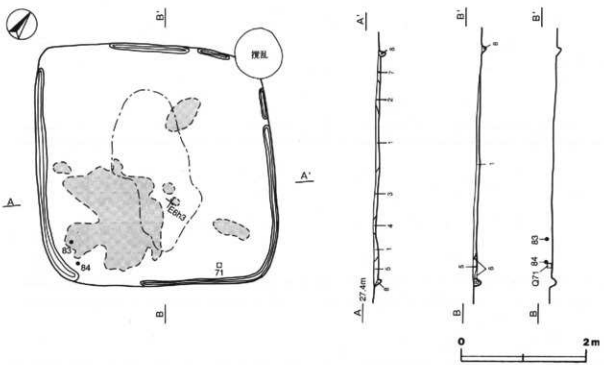
覆土　８層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

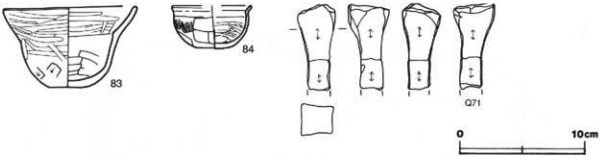
1	黒　色	焼土粒子中量	5	黒　色	炭化物少量，ローム粒子微量
2	黒　色	ローム粒子・焼土粒子，炭化粒子微量	6	暗 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子少量
3	暗 褐 色	炭化粒子少量・焼土ブロック微量	7	にぶい赤褐色	ローム粒子多量
4	暗 褐 色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量	8	褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片34点（甕類），石製品１点（砥石）が出土しており，図示できたのは３点であった。83・84は覆土中層から出土している。また，Q71は床面から出土している。そのほか，混入した縄文土器４点が出土している。

所見　焼土塊の広がりなどから，焼失家屋と考えられ，廃絶後まもなく焼失したと考えられる。一辺約７mと，当遺跡においては大形の住居である。遺物の出土が少ないため時期の判断は困難であるが，４世紀代と考えられる。



第54図　第15号住居跡実測図



第55図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
83	土師器	坩	10.7	6.6	2.8	長石・石英	褐	普通	口辺部から体部外面上段ヘラ磨き，外面下段ヘラ削り，体部内面下段ヘラナデ	中層	80% PL33
84	土師器	ミニチュア土器	[6.2]	3.4	2.2	長石・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	体部外面ハケ目整形後ヘラナデ，底部内面指頭痕	南コーナー中層	70% PL33

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q71	砥石	(6.9)	3.1	3.4	59.3	凝灰岩	砥面4面	床面	PL45

第16号住居跡（第56～58図）

位置　調査区の東部のＥ６d8区に位置し，標高27.1ｍほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　一辺6.9ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－49°－Ｗである。壁高は43～49cmで，各壁とも直立している。

床　ほぼ平坦であり，主柱穴と思われるピットの内側が踏み固められているが，Ｐ３付近には硬化面は認められなかった。壁溝は南東壁中央部を除き確認された。また，北・南コーナー部付近には焼土塊が見られた。

炉　中央部からやや北西壁際に位置し，長径1.0ｍ，短径45cmほどの楕円形で，床面を14cm掘りくぼめている地床炉である。炉床は被熱により赤変硬化している。

ピット　６か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは84～90cmである。Ｐ５・Ｐ６は深さ20cmほどで南東壁寄りの中央部に位置しているおり，出入り口施設に関連すると考えられる。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長径1.0ｍ，短径70cmほどの楕円形で，深さは53cmであり，断面形はＵ字状を呈している。最下層の第６層は粘土質であり，かなりの粘性がある。

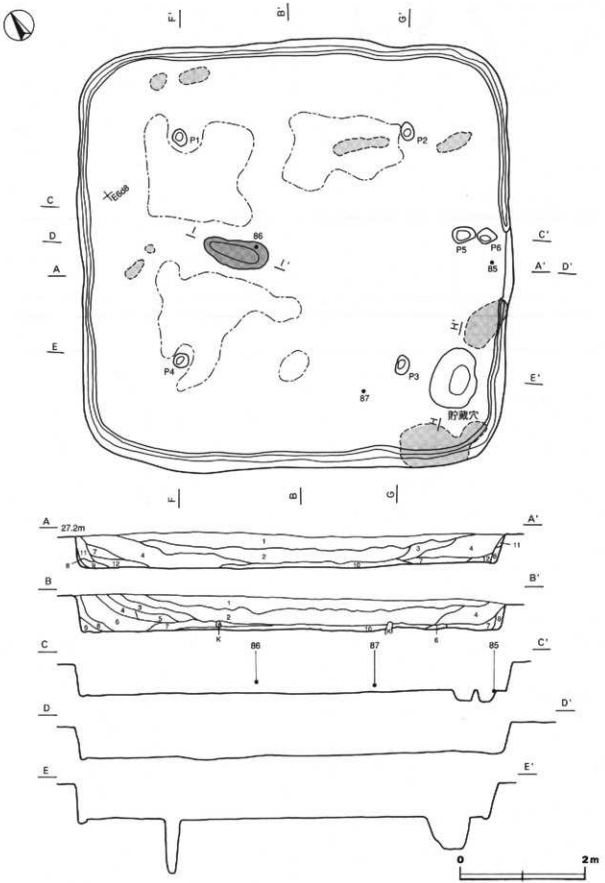
貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック微量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　灰　褐　色　ローム粒子・粘土中量

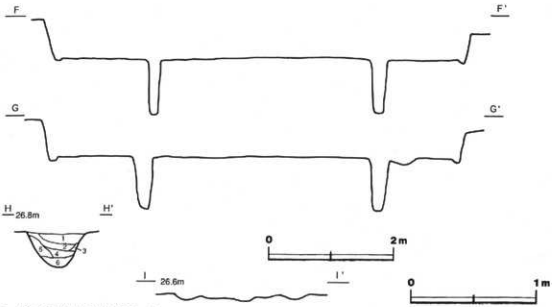
覆土　12層からなり，第１～６層はレンズ状に堆積している自然堆積であるが，壁際と下層に堆積している第７～12層には，焼土ブロックや炭化物が比較的多く含まれていることから，本跡の廃絶後の焼失に伴って堆積した土層と考えられる。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量　しまり強い
2　黒　　色　ローム粒子微量
3　黒　　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
9　黒　褐　色　ローム粒子少量
10　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
11　暗　褐　色　ローム粒子微量，炭化物微量
12　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量



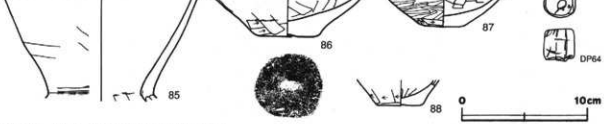
第56図　第16号住居跡実測図（1）



第57図　第16号住居跡実測図（2）

遺物出土状況　土師器片448点（坏類5，甕類436，器台2，高坏5），ミニチュア土器1点，土製品1点（管状土錘）が出土しており，図示できたものは5点であった。85は南東壁際床面，86・87は覆土中層からそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器27点が出土している。

所見　本跡は，焼土塊の広がりなどから，焼失家屋で住居廃絶後に焼失したと考えられる。時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第58図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
85	土師器	壺	[15.6]	(8.9)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部外面ヘラナデ	南東壁際床面	10%
86	土師器	甕	—	(3.8)	4.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面ヘラ当痕	中層	10%
87	土師器	小形甕	—	(2.9)	3.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下段ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中層	10%
88	土師器	小形甕	—	(2.0)	3.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面ヘラ当痕	覆土	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP64	管状土錘	2.6	2.5	0.7	15.8	土	外面ナデ	覆土	

第17号住居跡（第59・60図）

位置　調査区東部のＥ６g7区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西コーナー部に攪乱を受けている。

規模と形状　長軸5.1m，短軸4.6mほどの長方形で，主軸方向はN－29°－Eである。壁高は8～15cmで，壁はほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部の広い範囲がよく踏み固められている。壁溝は東コーナー部を除き巡っている。

炉　中央部より北西壁寄りに2か所確認された。炉1は長径40cm，短径30cmの楕円形を呈し，炉床面は赤変硬化して凹凸が認められる。炉2は長径60cm，短径30cmの不定形で，炉1と同じように，炉床面は赤変硬化して凹凸が認められる。これらは，炉床面の赤変硬化の状態から，炉1が主として使用されていたと考えられる。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー部のやや北側に位置し，長径90cm，短径56cmほどの楕円形で，深さは14cmである。底面は北東に向かって傾斜し，凹凸が見られる。壁は外傾して立ち上がっている。

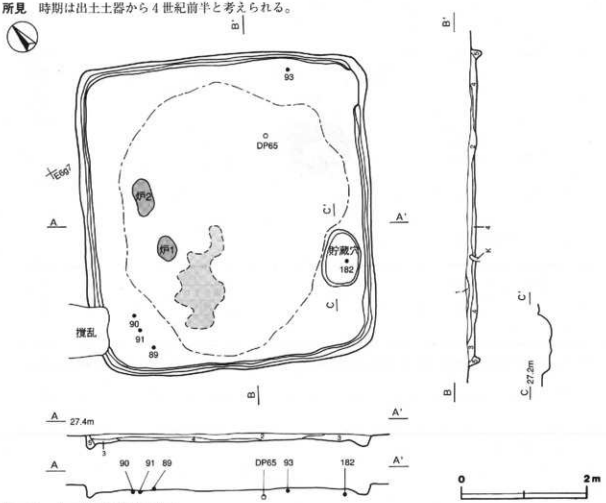
覆土　5層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

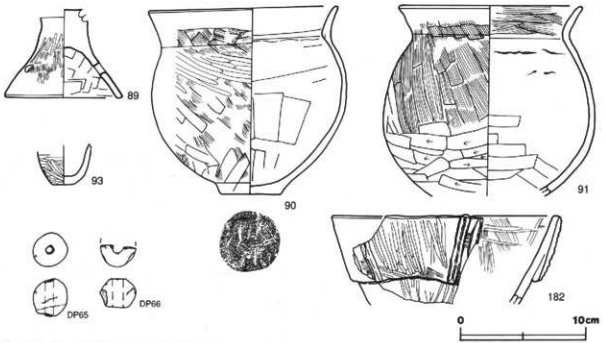
1	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	極暗褐色	炭化物中量
2	極暗褐色	ローム粒子少量	5	黒　褐　色	ローム粒子中量
3	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒少微量			

遺物出土状況　土師器片218点（甕類213，器台2，高坏3），ミニチュア土器1点，土製品2点（土玉）が出土し，東コーナー部の覆土下層付近からの出土が目立つ。図示できたものは7点であり，90・91は，正位で西コーナー部付近の床面から出土している。93は北東壁付近の床面，182は貯蔵穴覆土中からそれぞれ出土している。また，土玉も床面から出土している。

所見　時期は出土土器から4世紀前半と考えられる。



第59図　第17号住居跡実測図



第60図　第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
89	土師器	高坏	－	(7.1)	9.4	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラナデ，窓4か所	床面	50%
90	土師器	小形甕	15.0	15.1	4.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口頸部外面ハケ目整形，体部上段からド段ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラナデ	床面	70% PL22
91	土師器	小形甕	14.6	(15.3)	－	石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口頸部外面ハケ目整形後横ナデ，体部上段ハケ目調整，下段ヘラ削り，内面ヘラナデ	床面	50%
93	土師器	ミニチュア土器	－	(3.2)	1.6	長石・長石	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き	床面	30%
182	土師器	壺	[18.2]	(7.2)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	複合口縁部外面ヘラ磨き，2本以上の棒状浮文，内面ヘラ磨き	貯蔵穴覆土中	

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP65	土玉	3.0	2.8	0.7	21.1	土	外面ナデ	床面	
DP66	土玉	2.3	(2.8)	(0.8)	(10.1)	土	外面ナデ，一面が平らに整形，半分ほど欠損	覆土	

第18号住居跡（第61図）

位置　調査区東部のＦ６a4に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　大部分が第14号住居の東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺3.5mほどの方形で，主軸方向はＮ－34°－Ｅである。壁高は最も残りのよいところで10cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた様子は見られず，壁溝も認められない。

炉　中央部よりやや北コーナー部寄りに確認され，長径70cm，短径50cmほどの楕円形を呈し，掘り込みや炉床面は明確でなく，床面上に焼土が検出された状態であった。

ピット　確認できなかった。

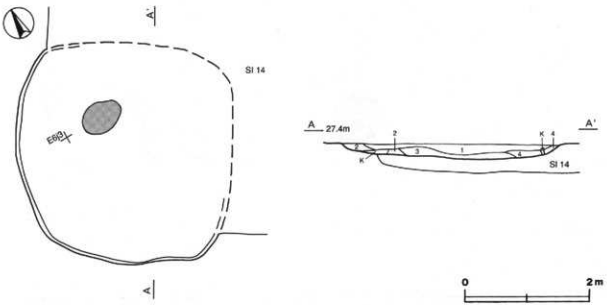
覆土　４層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1 黒　　色　ローム粒子少量
2 黒 褐 色　ローム粒子少量
3 黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4 黒 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片16点（甕類14，高坏２）のほか，混入した縄文土器８点が出土しているが，細片のため図示できる遺物はない。

所見　時期は，第14号住居との重複関係から，４世紀中頃と考えられる。



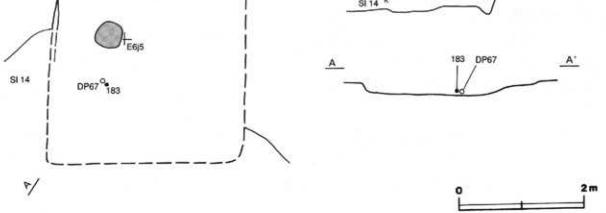
第61図　第18号住居跡実測図

第19号住居跡（第62・63図）

位置　調査区東部のＥ６j5区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　南半分のほとんどが，第14号住居の北部コーナーから北東壁を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.6m，短軸3.1mほどの長方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｅである。壁高は14cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。



第62図　第19号住居跡実測図

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた様子は見られず，壁溝も認められない。

炉　中央部のやや西寄りに位置している。径20cmほどの円形で，床面上に焼土が薄く堆積した状態である。

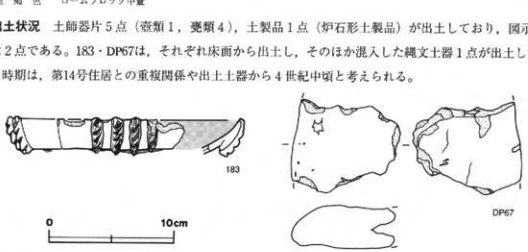
ピット　確認できなかった。

覆土　3層からなり，ロームブロックなどを含むことから人為堆積であると考えられる。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　3　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片5点（壺類1，甕類4），土製品1点（炉石形土製品）が出土しており，図示できたものは2点である。183・DP67は，それぞれ床面から出土し，そのほか混入した縄文土器1点が出土している。

所見　時期は，第14号住居との重複関係や出土土器から4世紀中頃と考えられる。



第63図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
183	土師器	壺	[18.6]	(3.1)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	複合口縁部外面4本以上の棒状浮文，内面ヘラ磨き，赤彩	床面	PL48

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP67	炉石形土製品	(7.5)	(8.7)	3.4	201.3	土	外面ナデ	床面	

第21号住居跡（第64・65図）

位置　調査区東部のＥ６h5区に位置し，標高27.3mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西壁部が，第22号住居を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺が5.5mほどの方形で，主軸方向はＮ－64°－Ｅである。壁高は26～38cmで，外傾して立ち上がっているが，西壁の一部は，削平のため立ち上がりは確認できなかった。

床　ほぼ平坦であり，東，西，北コーナー部付近を除き，壁溝が巡っている。また，北壁際には，焼土塊が少量検出された。

炉　重複して4か所検出された。炉4が住居跡のほぼ中央部に位置し，南西壁に直線的に延びるような形で4か所確認された。重複関係から炉1・3が炉2・4よりも新しい。炉1は長軸70cmほど，短軸60cmほどで床を4cmほど掘り込んでいる。炉2の長軸は炉1と炉3に掘り込まれていて不明だが，短軸は70cmほどであり，床を6cmほど掘り込んでいる。炉3は直径70cmほどの円形で，5cmほどの掘り込みがあり，炉4も，直径70cmほどの円形と推測され，掘り込みは10cmほどであった。各炉とも，被熱のため赤変硬化している。なお，炉土層解説は第1層が炉1を，第2・3・4層が炉3を，第5・6層が炉4を，第7層が炉2を示している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量（炉1）
2　極暗赤褐色　焼土ブロック中量（炉3）
3　暗赤灰色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量（炉3）
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量（炉3）
5　赤黒色　焼土ブロック少量（炉4）
6　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量（炉4）
7　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量（炉2）

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置し，長径1.1m，短径90cmほどの楕円形で，深さは26cmである。底面は擂鉢状で壁は外傾して立ち上がっている。

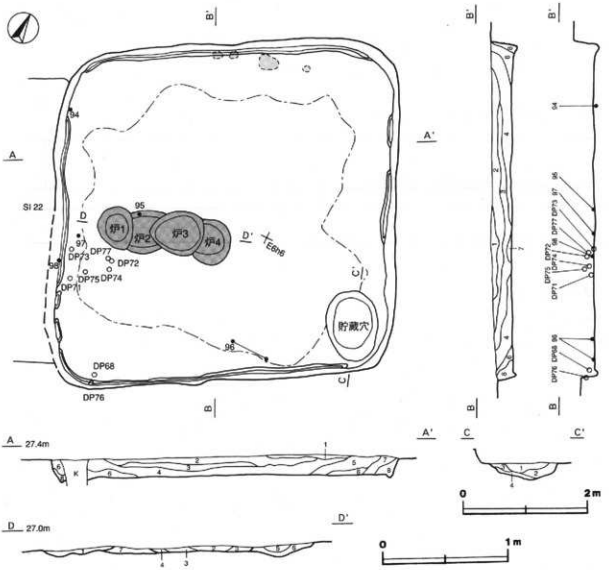
貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　黒暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子多量

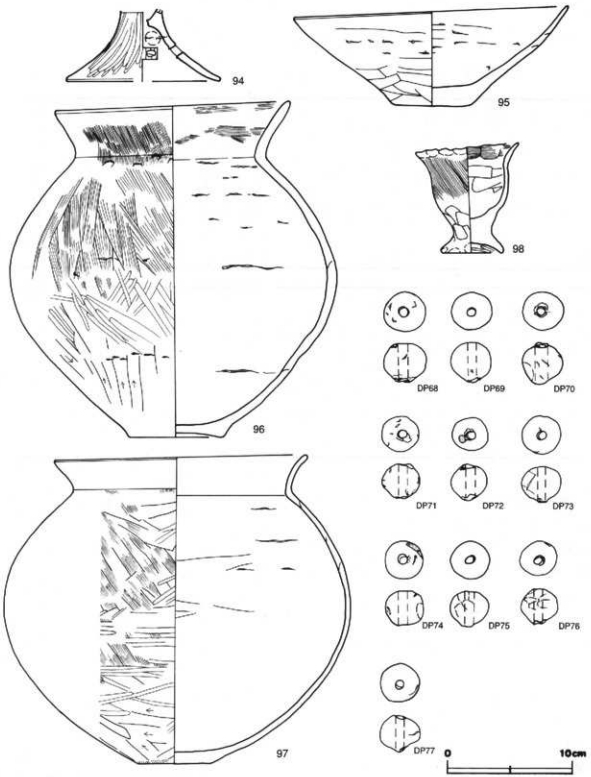
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒　色　ロームブロック少量
3　黒　色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック中量
5　黒褐色　ロームブロック少量
6　極暗褐色　ロームブロック微量
7　極暗褐色　ロームブロック少量
8　黒褐色　ロームブロック中量



第64図　第21号住居跡実測図



第65図　第21号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片112点（器台１，鉢１，甕類110），ミニュチュア土器１点，土製品10点（土玉）が西壁中央付近の床面を中心に出土しており，図示できたものは15点である。94は北西部コーナー付近の床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられ，95は炉２の炉床面から出土している。96は南壁中央付近の床面から正位の状態で出土し，97・98は土玉とともに西壁中央付近の床面から出土している。そのほか混入した縄文土器23点が出土している。

所見　本跡からは，炉が4か所重複して検出し，炉の移設や作り替えが見てとれる。時期は，出土土器から4世紀中頃と考えられ，北壁部から検出された焼土塊から，火災の可能性も想定される。

第21号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
94	土師器	器台		(5.8)	[12.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面丁寧なヘラ磨き，内面ナデ，指頭痕，裾3か所穿孔	北西壁付近床面	30%
95	土師器	鉢	21.9	8.0	6.4	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部から体部外面上段ナデ，下段ヘラナデ，内面ヘラナデ	床面	80% PL20
96	土師器	甕	18.8	27.2	7.9	長石・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	口縁部から体部外面上段ハケ目整形，中段ヘラ磨き，下段ヘラ削り，内面ナデ	床面	70% PL28
97	土師器	甕	20.0	24.9	5.8	長石・石英・少量	にぶい赤褐	普通	体部外面上段ハケ目整形後ナデ，中段ハケ目整形後ヘラ磨き，下段ヘラ削り	南西壁付近床面	80% PL29
98	土師器	ミニチュア土器	8.2	8.9	4.9	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・胴部外面指頭痕，体部外面上段ハケ目整形，下段ヘラナデ	南西壁際床面	100% PL33

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP68	土玉	3.1	3.3	0.7	31.8	土	外面ナデ	北西壁付近覆土	
DP69	土玉	3.2	3.2	0.7	30.2	土	外面ナデ	覆土	
DP70	土玉	3.3	3.3	0.6	30.6	土	外面ナデ，指頭痕	覆土	
DP71	土玉	2.8	2.9	0.7	21.8	土	外面ナデ	南西壁付近床面	
DP72	土玉	3.0	2.9	0.7	20.7	土	外面ナデ	下層	
DP73	土玉	2.8	3.2	0.8	25.8	土	外面ナデ	北西壁付近床面	
DP74	土玉	2.8	3.0	0.7	25.3	土	外面ナデ，指頭痕	下層	
DP75	土玉	2.8	3.1	0.7	23.8	土	外面ナデ，指頭痕	中層	
DP76	土玉	2.9	3.0	0.7	20.6	土	外面ナデ，指頭痕	北西壁付近覆土	
DP77	土玉	3.0	3.1	0.7	25.4	土	外面ナデ	下層	

第22号住居跡（第66図）

位置　調査区東部のE 6 h4区に位置し，標高27.1 mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北東壁を，第21号住居に掘り込まれている。

規模と形状　北東壁を第21号住居に掘り込まれているが，一部残存している北コーナー部から推測すると，長軸4.9m，短軸4.6mほどの方形と考えられ，主軸方向はN－63°－Eである。壁高は16cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部の広い範囲で硬化面が認められた。壁溝は，北西壁の北コーナー付近と南東壁の東側以外で確認されている。

炉　中央部の南コーナー寄りに位置している。径40cmほどの円形で，焼土が薄く検出された状態で，掘り込みや炉床面は確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　西コーナー部に位置し，長径1.0m，短径90cmほどの楕円形で，深さは38cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子多量
4　灰褐色　ロームブロック少量
5　褐色　ローム粒子多量

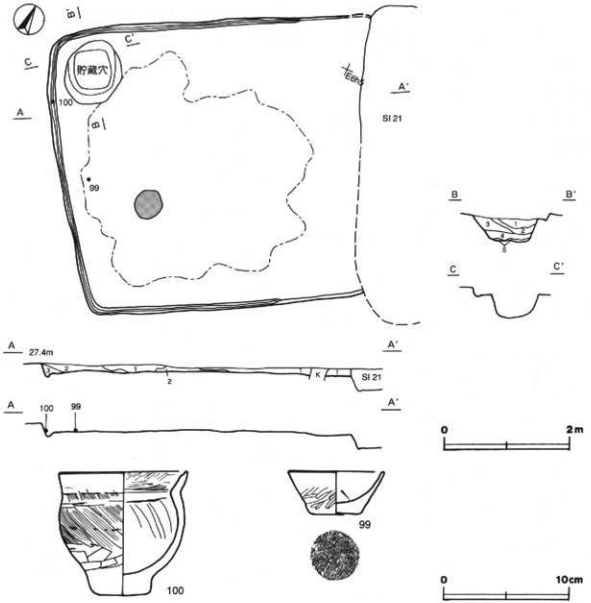
覆土　3層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　褐色　ロームブロック多量
2　灰褐色　ローム粒子中量
3　橙褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片20点（甕類）が，主に南西側を中心に出土しているが，点数が少なく図示できたものは２点である。99は逆位の状態で床面から出土し，100は南西壁に張り付くように正位で床面から出土している。そのほか混入した縄文土器10点が出土している。

所見　床面からミニュチュア土器が出土し，住居廃絶時に遺棄されたものと想定され，時期は出土土器から４世紀代と考えられる。



第66図　第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
99	土師器	ミニチュア土器	7.7	3.6	3.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部中段から下段ヘラ磨き，内面ヘラ当痕	床面	100% PL33
100	土師器	小型甕	10.2	10.0	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	頸部外面ハケ目調整後ナデ，体部外面上段弱いハケ目整形，下段外面ヘラナデ	南西壁際床面	70% PL22

第23号住居跡（第67・68図）

位置　調査区東部のＥ６c5区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　一辺が4.3mほどの方形で，主軸方向はＮ－65°－Ｗである。壁高は14cm～32cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められており，壁溝は確認されなかった。

炉　２か所。中央部のやや北部寄りに炉２，その南に炉１が確認された。炉１は長径40cm，短径30cmほどの楕円形であり，炉２は長径50cm，短径40cmほどの不整楕円形である。ともに，床面上に焼土が薄く堆積している状態で，掘り込みや炉床面は確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

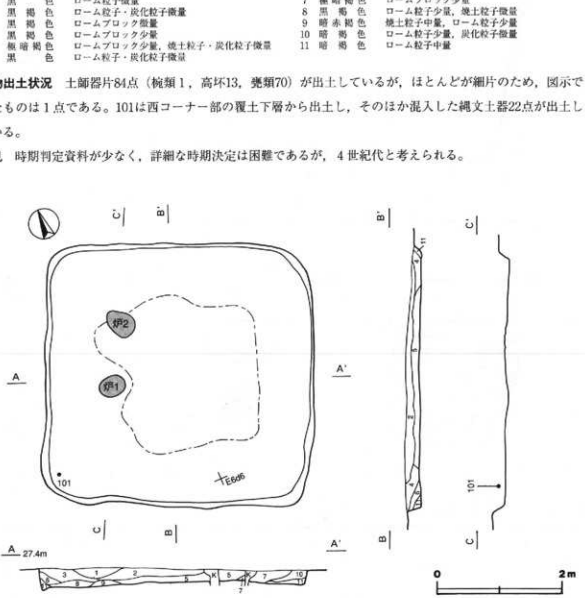
覆土　11層からなり，ロームブロックなどを含む人為堆積である。

土層解説

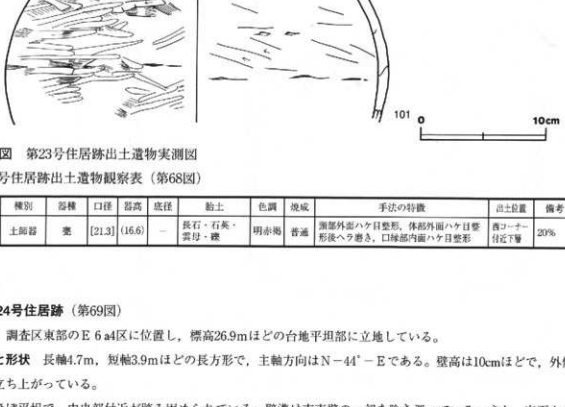
1	黒　色	ローム粒子微量	7	極暗褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック微量	9	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
5	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子中量
6	黒　色	ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片84点（椀類１，高坏13，甕類70）が出土しているが，ほとんどが細片のため，図示できたものは１点である。101は西コーナー部の覆土下層から出土し，そのほか混入した縄文土器22点が出土している。

所見　時期判定資料が少なく，詳細な時期決定は困難であるが，４世紀代と考えられる。



第67図　第23号住居跡実測図



第68図　第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
101	土師器	甕	[21.3]	(16.6)	—	長石・石英・雲母・礫	明赤褐	普通	頸部外面ハケ目整形，体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，口縁部内面ハケ目整形	西コーナー付近下層	20%

第24号住居跡（第69図）

位置　調査区東部のＥ６a4区に位置し，標高26.9mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.7m，短軸3.9mほどの長方形で，主軸方向はＮ－44°－Ｅである。壁高は10cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。壁溝は南東壁の一部を除き巡っている。また，床面からは焼土や炭化材が検出されている。

炉　中央部の西寄りに位置している。径40cmほどの円形で，床面上に焼土が堆積した状態であり，掘り込みは確認できなかったが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー寄りに位置し，長径70cm，短径48cmほどの楕円形で，深さは26cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量
4　極暗褐色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

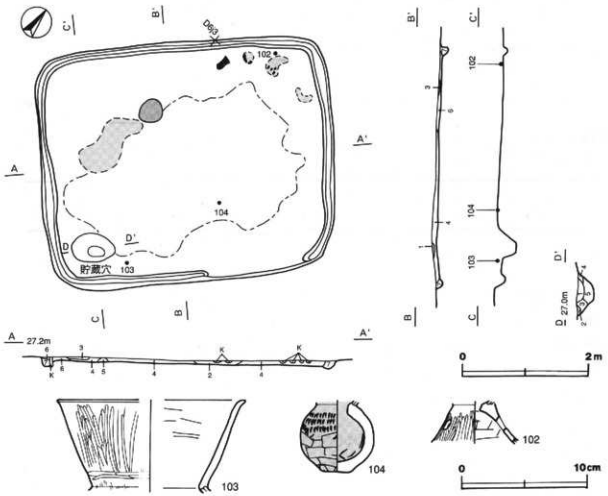
覆土　７層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片138点（器台１，高坏６，甕類131）が出土し，そのほか炭化材，焼土塊が覆土下層から床面にかけて検出されている。甕類はほとんどが小破片で，図示できたもの３点であった。102は北コーナーの焼土塊と壁に挟まれた床面から正位の状態で出土し，104も中央部のやや東の床面から出土している。そのほか混入した縄文土器12点が出土している。

所見　覆土には焼土・炭化物が比較的多く含まれ，炭化材も出土していることから焼失住居であり，床面からの出土遺物が少ないことから，住居廃絶後間もなく焼失したと考えられる。出土土器は，器台・ミニュチュア土器など供献祭祀具であり，住居廃絶に伴う祭祀が行われた可能性があるが明確でない。時期は，出土土器から4世紀前半と考えられる。



第69図　第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
102	土師器	器台	－	(3.5)	－	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，窓3か所	北コーナー付近床面	40%
103	土師器	壺	[15.2]	(7.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中層	10%
104	土師器	ミニチュア土器	－	(5.7)	2.2	石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部外面上段櫛状工具による刺穴痕，外面中段から下段ヘラナデ	床面	20%内外面赤彩 PL33

第26号住居跡（第70・71図）

位置　調査区東部のＥ６b1区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　第27号住居のほぼ全体を掘り込み、第１号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.0m，短軸5.9mほどの方形で，主軸方向はＮ－56°－Ｗである。壁高は最も残りのよい南東壁で24cmを測り，外傾して立ち上がっているが，西・南壁は重複のため立ち上がりは確認できなかった。

床　ほぼ平坦で，中央部の広い範囲が踏み固められており，壁溝が全周している。

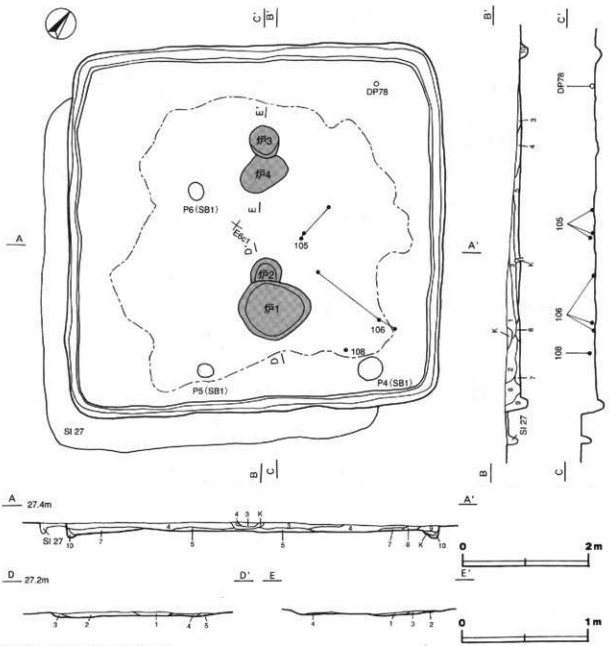
炉　中央部を挟んで，２か所ずつの計４か所が重複して検出された。炉２が中央部のやや南に位置し，さらにその南の炉１が炉２を掘り込んでいる。炉１は長軸1.2m，短軸90cmほどで，床を４cmほど掘り込んでいる。炉２は径50cmほどの円形で，床を８cmほど掘り込んでいる。炉４は，中央部のやや北側に位置し，さらにその西側の炉３が炉４を掘り込んでいる。炉４は長径80cm，短径50cmほどの楕円形で，２cmほど掘り込んでいる。炉３は，長径55cm，短径45cmほどの楕円形で，掘り込みは４cmほどであり，各炉とも炉床面は披熱のため赤変硬化している。なお，炉土層解説１・２は第１層～３層が炉１を，第４・５層を炉２を示し，炉土層解説３・４は第１層～３層が炉３を，第４層が炉４を示す。

炉1・2土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量（炉1）
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量（炉1）
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量（炉1）
4　極暗赤褐色　焼土ブロック少量（炉2）
5　黒　褐　色　焼土ブロック少量（炉2）

炉3・4土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量（炉3）
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量（炉3）
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量（炉3）
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量（炉4）



第70図　第26号住居跡実測図

ピット　確認できなかった。

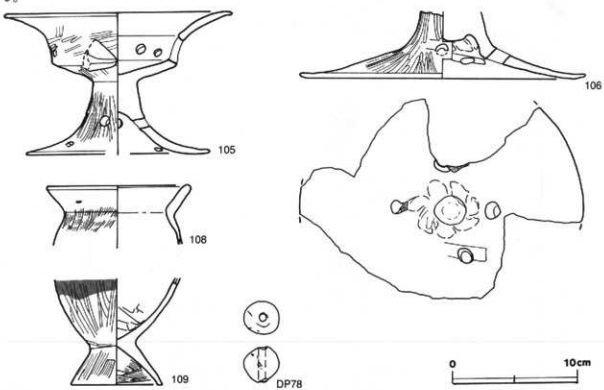
覆土　10層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	
2	暗　褐　色	ロームブロック少量	
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	
4	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	
5	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量	
6	暗　褐　色	ローム粒子多量	
7	極暗褐色	ロームブロック少量	
8	黒　褐　色	焼土粒子少量，炭化粒子微量	
9	黒　褐　色	ロームブロック微量	
10	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片97点（高坏16，甕類81），土製品１点（土玉）が中央部から南東コーナー部にかけて出土し，図示できたものは５点である。細片数点が接合し，ほぼ完形となった105は中央部床面から下層，106は中央部，南東コーナー部の床面から出土している。また，DP78は北コーナー部床面からそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器５点が出土している。

所見　105や106の高坏は南関東系の土器で，当該地方からの搬入品と想定され，時期は４世紀前半と考えられる。



第71図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
105	土師器	高坏	18.4	11.3	[14.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，坏部窓６か所，三角形の透かし窓３か所，脚部窓８か所	床面	70% PL19
106	土師器	高坏	－	(5.4)	22.7	長石・石英	にぶい褐	普通	脚部ヘラ磨き，内面指頭痕，窓４か所	床面	40%
108	土師器	小形甕	11.5	(4.8)	－	石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面ナデ，頸部から体部外面上段ハケ目整形，内面ナデ	下層	20%
109	土師器	台付甕	－	(8.6)	7.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下段ヘラ磨き，台部外面斜いハケ目整形，体部内面ヘラナデ，台部内面ハケ目整形	覆土	20% 煤付着

番号	種類	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP78	土玉	2.9	2.9	0.6	18.9	土	外面ナデ	[illegible]	

第27号住居跡（第72図）

位置　調査区東部のE 6 e1区に位置し，標高27.1mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　ほぼ全面が第26号住居に掘り込まれており，南壁側と，西壁側との壁際の一部の床面が確認されている。

規模と形状　残存しているコーナーから推測すると，長軸5.6m，短軸5.2mほどの方形で，主軸方向はN－56°－Wと想定される。壁高は4～6cmほどが確認され，直立している。

床　残存している床面はほぼ平坦であり，確認された壁際には壁溝が巡っている。

炉　確認した範囲には認められず，第26号住居に掘り込まれた部分に存在した可能性が考えられる。

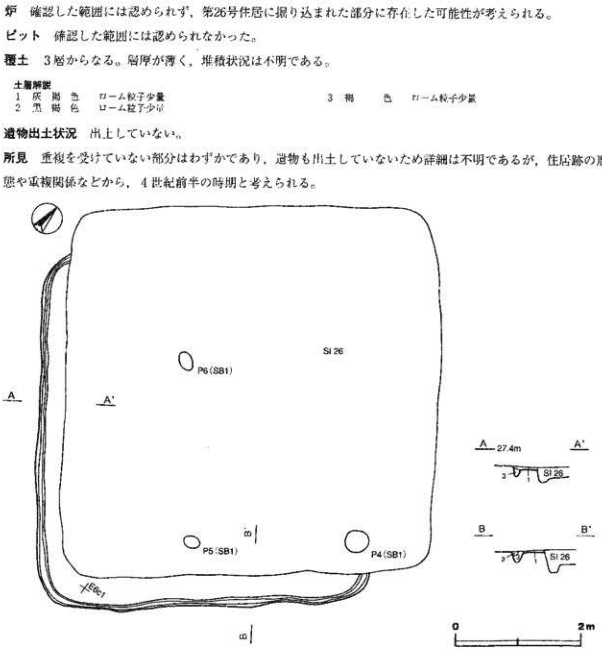
ピット　確認した範囲には認められなかった。

覆土　3層からなる。層厚が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説
1　灰褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　出土していない。

所見　重複を受けていない部分はわずかであり，遺物も出土していないため詳細は不明であるが，住居跡の形態や重複関係などから，4世紀前半の時期と考えられる。



第72図　第27号住居跡実測図

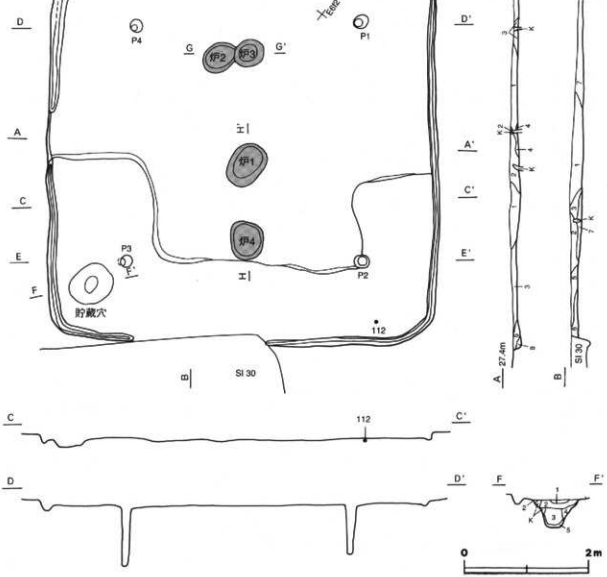
第29号住居跡（第73～75図）

位置　調査区東部のＥ６f区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

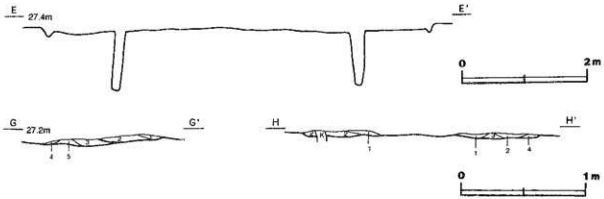
重複関係　南西壁の中央部を第30号住居，北東壁中央部を第45号土坑に掘り込まれているが，遺存状況は良好である。

規模と形状　長軸6.5m，短軸6.3mほどの方形で，主軸方向はＮ－52°－Ｅである。壁高は６～12cmで，外傾して立ち上がっている。

床　住居跡の南側の床面は，「コ」の字状に一段高くなっており，幅は1.2～1.6mほどであり，炉周辺の床面と比べてやや硬く締まっている。壁溝は，一部を除いて巡ってる。



第73図　第29号住居跡実測図（1）



第74図　第29号住居跡実測図（2）

炉　4か所。ほぼ中央部に炉1，北東壁寄りに炉2・3，南西壁寄りに炉4がそれぞれ検出された。炉1は長径70cm，短径50cmほどの楕円形で，床面から4cmほど掘りくぼめられている。炉2は炉3に南東部を掘り込まれており，長径60cm，短径45cmほどの楕円形を呈し，床を4cmほど掘りくぼめられている。また，炉3は径45cmほどの円形で床面を4cmほど掘りくぼめ，炉4は南西床の高まり部分に接して位置し，長径50cm，短径40cmほどの不整楕円形で，床面を4cmほど掘りくぼめられている。なお，4か所とも，炉床面は被熱のため赤変硬化している。位置や炉床面の状況から，炉1が中心に使用されていたものと考えられる。

炉1土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量	3	暗赤褐色	焼土粒子多量
2	暗赤褐色	焼土ブロック少量	4	極暗赤褐色	焼土ブロック少量

炉2・3土層解説

1	極暗赤褐色	焼土ブロック中量（炉3）	4	極暗赤褐色	焼土粒子微量（炉2）
2	暗赤褐色	焼土粒子多量（炉3）	5	暗赤褐色	焼土ブロック中量（炉2）
3	極暗赤褐色	焼土ブロック中量（炉2）			

炉4土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック中量	2	暗赤褐色	焼土粒子多量

ピット　4か所。主柱穴はP1～P4が相当し，深さは80～97cmである。

貯蔵穴　西コーナー部の高い床部分に位置し，長径72cm，短径60cmほどの楕円形で，深さは52cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	4	褐暗褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量			

覆土　8層からなり，ほとんどの層に焼土や炭化材を多く含んだ人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量	5	暗褐色	焼土ブロック多量
2	黒褐色	炭化物中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック中量
3	褐暗褐色	ロームブロック少量，炭化材微量	7	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	極暗赤褐色	炭化物中量	8	褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片159点（椀1，高坏1，甕類157）が各壁際から散在した状態で出土しており，図示できたものは2点である。112は，南コーナー部の高い床部分から出土し，そのほか混入した縄文土器27点が出土している。

所見　南側は床面より一段高いベッド状遺構で，第10・52号住居跡などとともに，当遺跡でも特異なものである。また，焼土および炭化材が多く検出された焼失住居であり，出土遺物の状況などから住居廃絶後まもなく焼失したと想定され，時期は4世紀前半と考えられる。

第75図　第29号住居出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
111	土師器	甕	－	(6.5)	6.8	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部下段ヘラ磨き，内面ヘラナデ，底面ヘラ削り	覆土	10%
112	土師器	小形甕	－	(3.3)	4.2	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面下段ハケ目整形，内面ヘラ当て，底面中央部凹有り	南コーナー付近床面	10%

第30号住居跡（第76・77図）

位置　調査区東部のＥ５f9区に位置し，標高27.4mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　東コーナー部で第29号住居を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸6.3m，短軸5.4mほどの長方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｅである。壁高は24～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，北東側半分が踏み固められている。壁溝は全周しており，北西壁のほぼ中央から南東壁中央部分へ断続的に溝状の掘り込みが見られる。貯蔵穴付近には，北西壁と平行して幅30cm，長さ1.6mほどの土手状の高まりがあり，この部分は硬く締まっている。また，西コーナー部付近を除く全面で角材，丸材，茅と判断のつく炭化材・炭化物が多量に検出された。

炉　２か所隣接して確認された。炉１は，中央部よりかなり北東壁寄りに位置しており，長径80cm，短径70cmほどの楕円形で，床を８cmほど掘りくぼめている。炉２は炉１の南東側に位置し，長径80cm，短径60cmほどの楕円形で，床を５cmほど掘りくぼめている。ともに，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉１土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物少量
2　黒　褐　色　焼土粒子中量，炭化物微量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

炉２土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　焼土ブロック中量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
4　暗 赤 褐 色　炭化粒子多量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　北コーナー部に位置し，長径80cm，短径54cmほどの不整楕円形で，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　黒　　色　炭化材少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化材少量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量

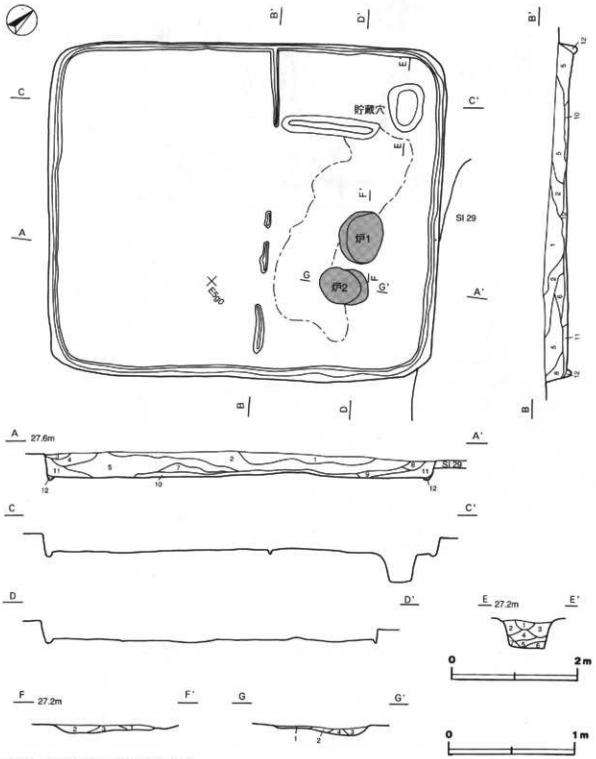
覆土　12層からなる。第１～５層は不自然な堆積状態を示す人為堆積であり，下層の第６～12層は焼土および炭化材の含有状況から，火災に伴って形成された土層と考えられる。

土層解説

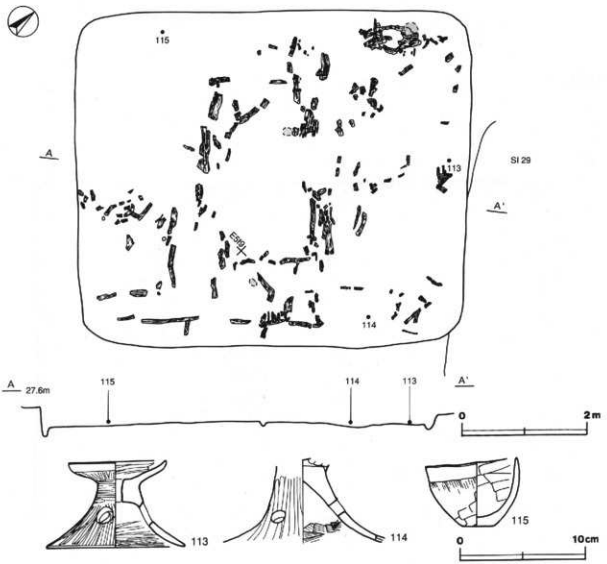
1　極暗褐色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化物中量
9　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
10　黒　　色　炭化材多量，焼土粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化材中量
12　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片78点（器台２，高坏３，甕類72），ミニュチュア土器１点が，多量の炭化材とともに出土しており，３点が図示できた。113は北東壁付近の床面から，115は西コーナー部付近の床面から出土している。そのほか混入した縄文土器74点が出土している。



第76図　第30号住居跡実測図（1）



第77図　第30号住居跡実測図（2）・出土遺物実測図

所見　炭化材や焼土塊が床面に多量に広がっている焼失住居である。大型の炭化材は壁と平行して分布しているものもあり，その出土位置から，桁と梁に相当するものと考えられる。材の形状は，丸材・角材の判断ができるものも検出された。住居廃絶後に焼失し，その後人為的に埋められたと考えられる。また，中央部付近に北西から南東に走る間仕切溝が確認されており，住居の使い分けがされていたものと想定され，炉や貯蔵穴，硬化面は溝より壁際に位置している。出土土器や第29号住居との重複関係から，時期は4世紀前半～中頃と考えられる。

第30号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
113	土師器	器台	7.8	6.9	11.1	長石・石英	橙	普通	器受部・脚部内・外面ヘラ磨き，窓3か所	北東壁付近床面	95% PL15
114	土師器	高坏	－	(6.7)	－	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面弱いハケ目整形，窓3か所	床面	40%
115	土師器	ミニチュア土器	7.3	5.5	2.7	長石・石英	浅黄	普通	体部外面ハケ目整形後，下段ヘラナデ，内面ヘラナデ	北西壁付近床面	100% PL33

第31号住居跡（第78・79図）

位置　調査区東部のＥ５h9区に位置し，標高約27.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.9m，短軸4.5mほどの方形で，主軸方向はＮ－51°－Ｅである。壁高は16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められており，壁溝が全周している。また，炉と北東壁の間に炉と接するように焼土塊が検出されている。

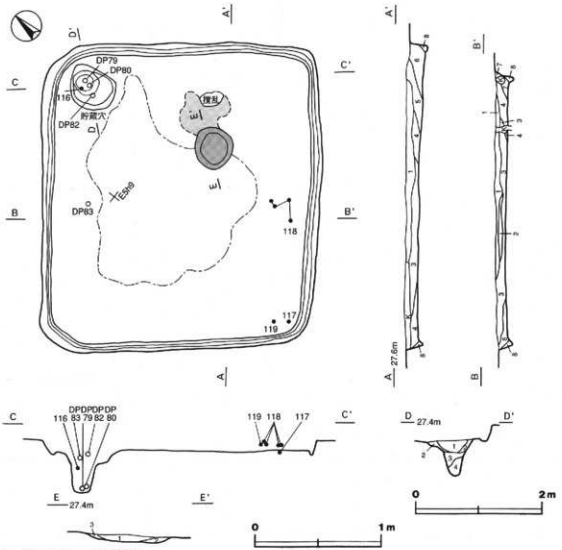
炉　中央部から，やや東コーナー寄りに位置している。長径70cm，短径60cmほどの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめており，炉床面は披熱のため赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　北コーナー部に位置し，長径80cm，短径60cmほどの不整楕円形で，深さは65cmである。底面はU字状を呈しており，中央部側が２段の掘り込みとなっている。

貯蔵穴土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量



第78図　第31号住居跡実測図

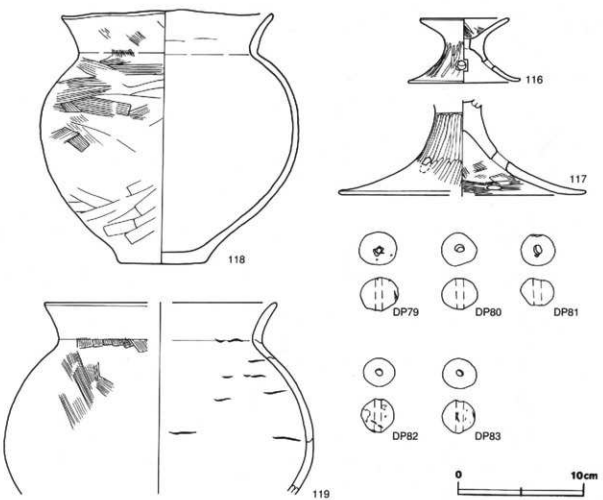
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	黒　　色	ローム粒子中量		5	黒　褐　色	ローム粒子中量	
2	極暗褐色	ローム粒子多量		6	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量	
3	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量		7	暗　褐　色	ロームブロック少量	
4	黒　　色	ローム粒子・炭化粒子微量		8	暗　褐　色	ロームブロック中量	

遺物出土状況　土師器片110点（器台３，高坏８，鉢１，甕類98），土製品５点（土玉）が散在して出土しており，図示できたものは９点である。117は南コーナー付近の床面，118は覆土下層から床面にかけてそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器22点と瓦質土器１点が出土している。

所見　出土した土玉５点のうち，２点が貯蔵穴の覆土中から出土している。床面から検出された焼土塊は，土層観察から住居の焼失に関連するものではなく，炉に関係するものと考えられる。時期は，出土土器から４世紀前半と考えられる。



第79図　第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
116	土師器	器台	7.1	5.2	9.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	器受部外面ナデ，脚部外面ヘラ磨き，器受部内面ヘラ磨き，窓４か所	貯蔵穴中層	80% PL15
117	土師器	高坏	—	(7.6)	[19.8]	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面弱いハケ目整形，窓３か所確認	南部コーナー付近床面	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
118	土師器	甕	16.9	20.1	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面上から中段ハラ目整形，外面下段ヘラナデ，内面ナデ	下層	70% PL23
119	土師器	壺	(18.5)	(15.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口頸部外面ナデ，頸部外面・体部上段横ハラ目整形，体部内面ナデ，輪積み痕	北コーナー部下層	20%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP79	土玉	2.7	2.9	0.5	21.3	土	外面ナデ	貯蔵穴下層	
DP80	土玉	2.5	2.9	0.6	17.3	土	外面ナデ	貯蔵穴下層	
DP81	土玉	2.2	2.7	0.6	14.3	土	外面ナデ	覆土	一部欠損
DP82	土玉	2.7	2.5	0.5	14.0	土	外面ナデ	貯蔵穴下層	
DP83	土玉	2.6	2.7	0.6	14.6	土	外面ナデ	貯蔵穴上層	

第32号住居跡（第80・81図）

位置　調査区東部のＤ６e1区に位置し，標高26.8mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　北東部が調査区域外であり，本来の形状を明確にすることはできないが，長軸5.3m，短軸5.0mの方形である。主軸方向はＮ－31°－Ｅで，壁高は24～36cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められてる。壁溝は確認された床面においては全周している。また，北東，北西の壁付近に焼土塊が見られた。

炉　中央部より，やや西コーナー寄りに位置しており，長径60cm，短径44cmほどの楕円形で，床を７cmほど掘りくぼめている。炉床面は若干赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは45～52cmである。Ｐ５は深さ43cmで，炉と向かい合う位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長径75cm，短径60cmほどの楕円形で，深さは62cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

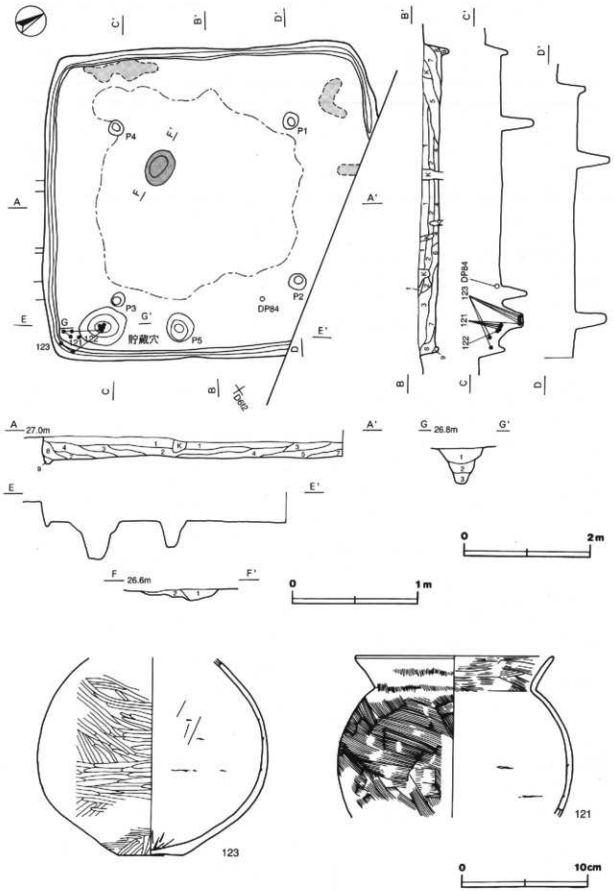
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子中量

覆土　９層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

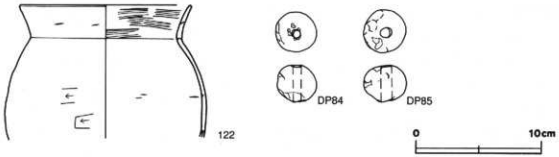
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック中量
6　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
8　黒褐色　ローム粒子多量
9　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化物少量

遺物出土状況　土師器片148点（甕類）と土製品２点（土玉）が出土しており，図示できたものは５点である。121・123は貯蔵穴周辺，及び貯蔵穴覆土上層から下層にかけて，122は貯蔵穴付近床面からそれぞれ出土している。これらは遺棄されたものだが，貯蔵穴中に落下したものと想定される。そのほか混入した縄文土器３点が出土している。

所見　東コーナー付近が調査区域外であったが，壁溝，炉，主柱穴，貯蔵穴が確認された。また，焼土塊の広がりから焼失住居であり，住居廃絶時に焼失したと考えられる。時期は，出土土器から４世紀代と考えられる。



第80図　第32号住居跡実測図・出土遺物実測図（1）



第81図　第32号住居跡出土遺物実測図（2）

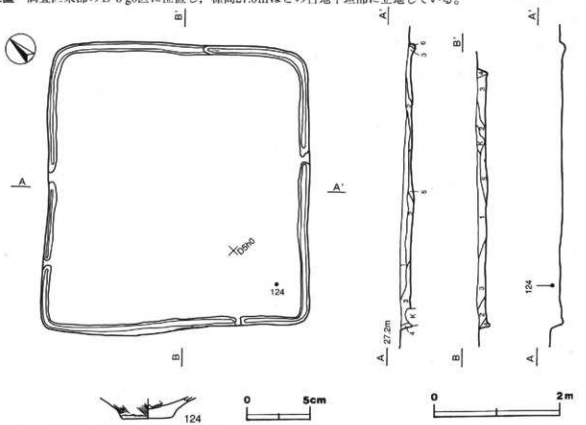
第32号住居跡出土遺物観察表（第80・81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
121	土師器	甕	15.7	(12.8)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目整形，口辺部内面ハケ目整形，体部内面ナデ，輪積み痕	貯蔵穴覆土中	30%
122	土師器	甕	13.6	(10.8)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ，口辺部内面ハケ目整形，体部内面ナデ，内面輪積み痕	貯蔵穴付近床面	40%
123	土師器	小型甕	－	(15.8)	5.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，下段ヘラ当痕，内面輪積み痕	貯蔵穴覆土中	70%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP84	土玉	2.9	3.2	0.6	27.9	土	外面ナデ	床面	
DP85	土玉	2.9	3.2	0.9	32.0	土	外面ナデ，指頭痕	覆土	

第33号住居跡（第82図）

位置　調査区東部のＤ５g0区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。



第82図　第33号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　長軸4.6m，短軸4.2mほどの長方形で，主軸方向はN－47°－Eである。壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は見られなかった。壁溝は，各壁際に一部途切れる部分があるが，ほぼ全周している。

炉　確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

覆土　6層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1　黒　色　ローム粒子中量，炭化物微量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　暗赤褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　黒褐褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片233点（高坏3，甕類230）が出土しているが，大半が細片で復元図示できたものは覆土中層から出土した124だけである。そのほか，混入した縄文土器11点が出土している。

所見　時期判定の資料となる遺物が少ないが，時期は4世紀代と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
124	土師器	小形甕	－	(1.7)	4.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削ケ段ハケ目整形，内面ヘラナデ	中層	10%

第34号住居跡（第83図）

位置　調査区西部のD5f9区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.4m，短軸3.8mほどの長方形で，主軸方向はN－34°－Eである。壁高は12～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床　北東側に緩やかに傾斜しており，硬化面は住居跡中央部に見られる。壁溝は確認されなかった。

炉　2か所重複して確認された。中央部からやや北東壁寄りに位置しており，炉1が炉2の西部を掘り込んでいる。炉1は長径40cm，短径30cmほどの楕円形で，床を5cmほど掘りくぼめている。炉2は西側を炉1に掘り込まれているが，長径60cm，短径50cmほどの楕円形と考えられ，床を8cmほど掘りくぼめている。また，炉1の炉床面のほうが激しく赤変硬化しており，使用頻度の高さがうかがえ，炉2は硬化の度合いが鍋者でないことから使用期間は短かったと考えられる。なお，土層解説は第1層が炉1を，第2・3層が炉2を示している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量（炉1）
2　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量（炉2）
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量（炉2）

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径56cm，短径40cmほどの楕円形で，深さは30cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量			

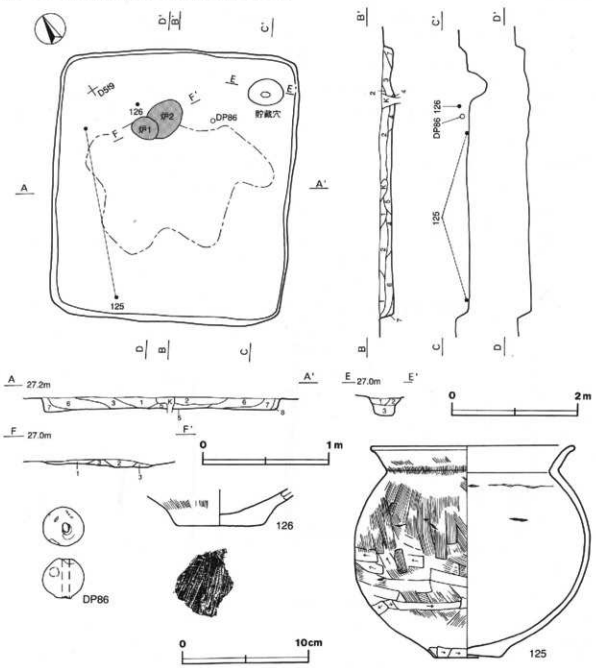
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量	6	黒色	ロームブロック微量，炭化粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	7	黒褐色	ローム粒子中量
4	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片251点（器台10，高坏8，甕類233），土製品5点（土玉）が出土しており，3点が図示できた。125は床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。そのほか混入した縄文土器5点が出土している。

所見　時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第83図　第34号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
125	土師器	甕	16.0	17.0	5.3	長石・雲母	橙	普通	体部外面上段ハケ目整形，中段ヘラ削り後ハケ目整形，内面ナデ，輪積み痕	床面	60% PL23
126	土師器	甕	—	(3.0)	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下段ハケ目整形，底部ヘラ磨き	上層	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP96	土玉	3.2	3.1	0.7	30.0	土	外面ナデ，指頭痕	上層	

第35号住居跡（第84・85図）

位置　調査区東部のＤ５i8区に位置し，標高27.1ｍほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　耕作による削平のため，北コーナー付近の壁は存在していないが，床面の広がりから長軸4.0ｍ，短軸3.8ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－49°－Ｗである。壁高は最も残りのよい南東壁でも２cmほどしか確認できず，立ち上がりは判然としない。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。壁溝は南東壁と南西壁の一部を巡っている。

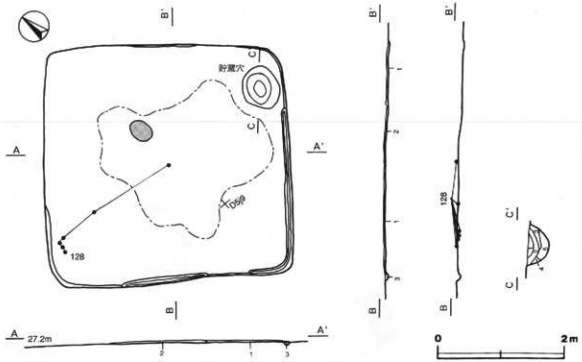
炉　中央部のやや北側に位置しており，長径40cm，短径30cmほどの楕円形である。明確な掘り込みや炉床面は確認できず，床面上に焼土が検出された状態であった。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径70cm，短径56cmほどの楕円形で，深さは34cmである。断面形はＵ字状を呈している。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物微量
2　板暗褐色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量



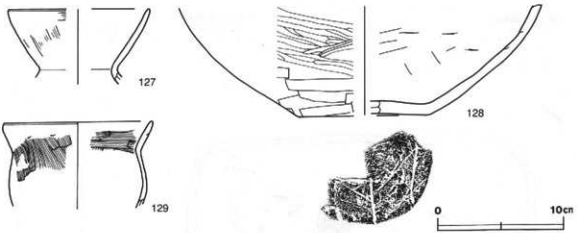
第84図　第35号住居跡実測図

覆土　3層からなるが，覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化物微量
2　明　褐　色　　ローム粒子・炭化物微量
3　暗　褐　色　　炭化物少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片130点（椀2，坩1，器台4，甕類123）が散在して出土しており，図示できたものは3点である。128は床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。そのほか混入した縄文土器5点が出土している。

所見　時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第85図　第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
127	土師器	坩	[11.2]	(5.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部外面ハケ目整形後ナデ，内面ナデ	覆土	10%
128	土師器	甕	－	(8.7)	[10.2]	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部外面下段ヘラ磨き，内面ヘラナデ，輪積み痕，底部木葉痕	床面	10%
129	土師器	小形壺	11.8	(7.0)	－	長石・石英・雲母・礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部外面・口辺部内面ハケ目整形	覆土	15%

第36号住居跡（第86・87図）

位置　調査区東部のD5i7区に位置し，標高27.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.6m，短軸5.1mほどの方形で，主軸方向はN－47°－Eである。壁高は8～16cmで，直立している。

床　ほぼ平坦であるが，貯蔵穴2付近に南コーナーと向かい合うように，幅20cm，高さ10cmほどのL字状の高まりが確認された。また，この土手状の高まりから中央部に広がるように硬化面が見られた。壁溝は，南東壁中央部の一部を除いて巡っている。

炉　4か所。中央部より北側に炉1・2，中央部より北東側に炉3・4が確認された。炉1は東部を炉2と重複し，長径70cm，短径50cmほどの楕円形で，床から6cmほど掘りくぼめられていた。炉2は径52cmほどの円形で，床を4cmほど掘りくぼめられていた。炉3は長径73cm，短径52cmほどの楕円形で，床を8cmほど掘りくぼめていた。炉4は西部を炉3と重複し，径62cmほどの円形と考えられ，床を4cmほど掘りくぼめていた。なお，土層解説は第1層が炉1を，第2・3層が炉2を，第4・5層が炉3を，第6層が炉4を示している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　　焼土ブロック中量（炉1）
2　暗赤褐色　　焼土ブロック多量（炉2）
3　暗赤褐色　　焼土粒子多量（炉2）
4　暗赤褐色　　焼土ブロック少量（炉3）
5　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量（炉3）
6　暗赤褐色　　焼土粒子中量（炉4）

ピット　確認できなかった。

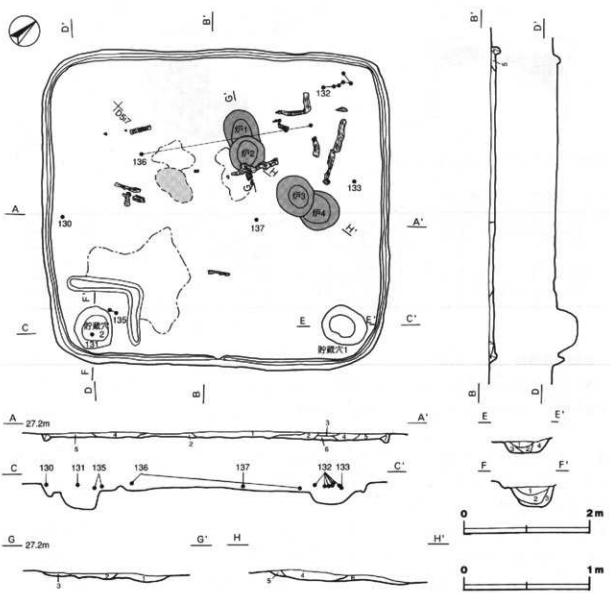
貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は東コーナー部に位置し，長径70cm，短径60cmほどの楕円形で，深さは24cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南コーナー部に位置し，長径70cm，短径60cmほどの隅丸長方形で，深さは31cmである。断面形はU字状を呈している。

貯蔵穴1土層解説

1　暗　褐　色　　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　　ローム粒子多量

貯蔵穴2土層解説

1　極暗褐色　　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　　ロームブロック少量



第86図　第36号住居跡実測図

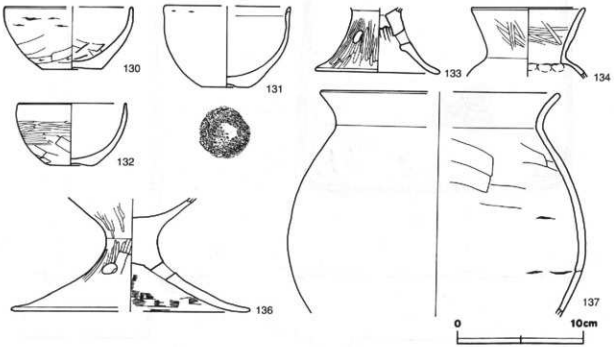
覆土　7層からなる。多くの層に焼土，炭化物，ローム粒子を含み，また，第3・4・6層のように不自然な堆積状況も見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量	6	暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	7	褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況　土師器片405点（椀類4，器台3，高坏7，壺3，甕類388）が出土しており，図示できたものは7点である。131は貯蔵穴の覆土上層から正位で出土し，132は北部コーナー部付近土層，136は覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土している。また，北コーナー付近からは住居の構築材と考えられる炭化材などが多量に出土し，住居廃絶後に焼失したと考えられる。そのほか混入した縄文土器4点が出土している。

所見　覆土上層から中層にかけての土器出土量が多く，その反面床面からの出土量が極めて少なく，住居廃絶後焼失し，さらに土器が廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第87図　第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表（第87図）

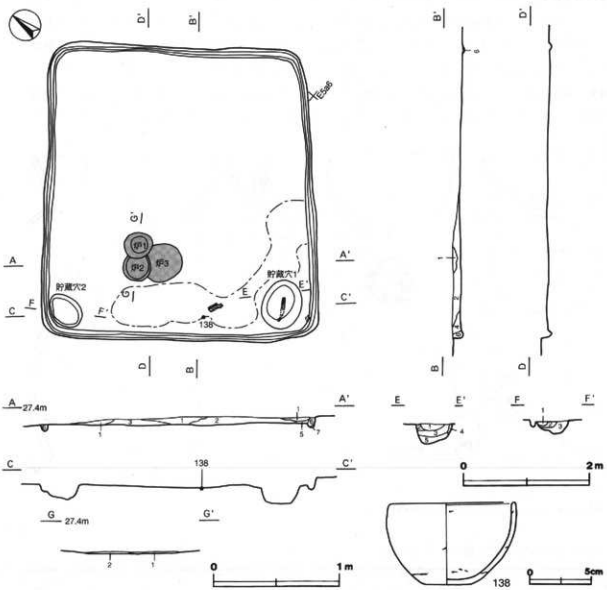
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
130	土師器	椀	[10.2]	5.0	4.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面下段ヘラナデ	上層	80%
131	土師器	椀	[10.0]	6.5	3.7	長石・石英・雲母	橙	普通	内外面ナデ，輪積み痕	貯蔵穴2 上層	60%
132	土師器	椀	8.5	5.0	3.1	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面中段ヘラ磨き，下段ヘラナデ，内面ナデ	北部コーナー付近土層	70%
133	土師器	器台	—	(5.3)	9.7	長石・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，窓3か所	中層	40%
134	土師器	壺	9.0	(5.6)	—	長石・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ヘラ磨き，頸部内面指頭痕	覆土	50%
136	土師器	高坏	—	(9.1)	[19.0]	長石・石英	明褐	普通	坏部下段，脚部外面ヘラ磨き，脚部外面斜いハケ目整形，窓3か所	中層～下層	30%
137	土師器	甕	[18.9]	(17.9)	—	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面ナデ，内面ヘラナデ，輪積み痕	下層	30%

第37号住居跡（第88図）

位置　調査区東部のＤ５j5区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　削平のため東側の覆土はほとんど存在していないが，壁溝や床面の広がりから長軸4.7m，短軸4.3mほどの方形で，主軸方向はＮ－51°－Ｅと考えられる。壁高は最も残りのよい南東壁で13cmを測り，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南コーナー付近で硬化面が確認できる。また壁溝は全周している。



第88図　第37号住居跡・出土遺物実測図

炉　３か所。中央部よりやや西寄りに３か所重複して確認された。炉１が炉２を，炉２が炉３をそれぞれ掘り込んでいる。炉１は長径45cm，短径40cmほどの楕円形で，床を５cmほど掘りくぼめられている。炉２は径42cmほどの円形で，床を４cmほど掘りくぼめ，炉１，２とも炉床面は赤変硬化している。また，炉３は径60cmほどの円形で，掘り込みや火床面は確認できず，床面上に焼土が検出された状態であった。これらの状況から，炉３，２，１の順に作り替えがされたと考えられる。なお，土層解説は第１層が炉１を，第２層が炉２を示している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量（炉1）　　2　極暗赤褐色　焼土ブロック多量（炉2）

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は南コーナーに位置し，長径80cm，短径60cmほどの楕円形で，深さは31cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は西コーナーに接しており，長径60cm，短径48cmほどの楕円形で，深さは21cmである。底面は北西壁に向かって傾斜し，凹凸が見られる。壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量

貯蔵穴2土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　7層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　極暗褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片59点（甕類）が南コーナーを中心に出土している。図示できたものは1点であり，138は床面から正位の状態で出土している。また，南コーナー付近には炭化材が少量出土している。そのほか混入した縄文土器5点が出土している。

所見　貯蔵穴が2基検出されているが，貯蔵穴1を取り囲むように硬化面が南コーナーに沿って確認され，貯蔵穴1が日常的に使用されていたと考えられる。また，住居廃絶後焼失したと考えられる。時期判定資料は少ないが，住居の形状などから時期は4世紀代と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
138	土師器	椀	10.0	6.6	3.8	長石・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	内・外面ナデ，輪積み痕	第37号住居跡南東部	95% PL15

第38号住居跡（第89・90図）

位置　調査区東部のE5b3区に位置し，標高27.3mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　第39号住居の大部分を掘り込んでいる。また，第44号土坑に北コーナー部を掘り込まれている。

規模と形状　一辺8.0mほどの方形で，主軸方向はN－35°－Eである。壁高は52cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南コーナー部付近を除いて壁溝が巡っている。また，各壁際付近を中心に焼土塊が散在している。

炉　2か所。中心部よりやや北側に確認されている。炉1は長径80cm，短径50cmほどの不整形で，床を3cmほど掘りくぼめている。炉2は長径1.0m，短径80cmほどの楕円形で，床を9cmほど掘りくぼめており，中央部には炉石形土製品が付設されている。炉1，2とも炉床面は赤変硬化している。炉石の付設状況などから，炉1を廃棄後に炉2を使用したものと考えられる。

炉1土層解説

1	黒 褐 色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
2	暗 褐 色	焼土ブロック少量，炭化物微量
3	極暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4	灰 褐 色	焼土ブロック微量
5	灰 褐 色	ロームブロック中量

炉2土層解説

1	黒 褐 色	焼土ブロック少量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量
3	黒 褐 色	焼土ブロック少量，焼土粒子微量

ピット　6か所。主柱穴はP1～P4が相当し，深さは96～108cmである。P5は深さ46cmで，炉と向かい合う位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2と隣接して検出されたP6は深さ106cmであるが，用途については不明である。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径90cm，短径58cmほどの楕円形で，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒 褐 色	ロームブロック少量
3	暗 褐 色	ロームブロック少量
4	暗赤褐色	ローム粒子微量

覆土　15層からなる。第1～5層はレンズ状の自然堆積であるが，下層の第6～12層は焼土および炭化材の含有状況から，廃絶後の火災に伴って形成された上層と考えられる。

土層解説

1	黒 色	黒色ブロック多量
2	黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐黒色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	黒 褐 色	ローム粒子少量
6	暗褐褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
7	黒暗褐色	ロームブロック少量
8	暗 褐 色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
9	黒 褐 色	ローム粒子中量
10	暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
11	暗 褐 色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12	褐 色	ロームブロック多量
13	黒暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14	暗 褐 色	ローム粒子中量
15	黒暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片721点（椀類3，器台3，坩4，高坏7，壺4，甕類700）と土製品5点（土玉4，炉石形土製品1），石製品1点（敲石），鉄製品1（不明）が出土しており，図示できたものは13点である。144は南東壁際の床面から出土し，本跡に伴うものと考えられ，145は覆土下層から正位で出土している。また，DP91は炉2の中央部に長軸方向と直交する状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器194点が出土している。

所見　一辺が約8.0mで，当遺跡において最大規模の住居跡である。また，焼失住居であり，床面に焼土塊が広範囲に広がっている。床面付近からの遺物出土はそれほど多くはなく，住居廃絶後に焼失したと考えられる。時期は，出土土器や重複関係から4世紀前半～中頃と考えられる。

第39号住居跡（第89図）

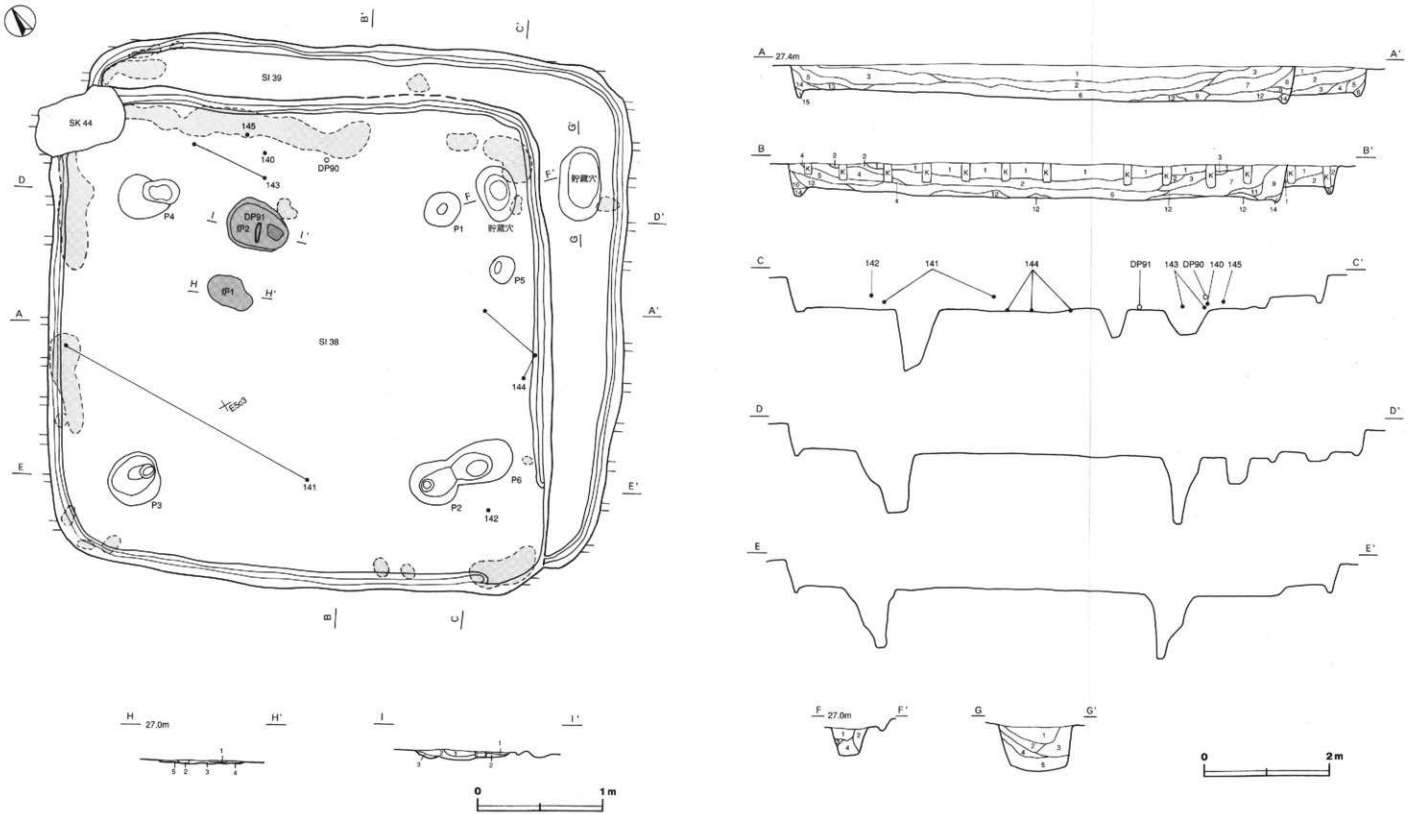
位置　調査区東部のE5b4区に位置し，標高約27.3mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　ほぼ全面が第38号住居に掘り込まれており，北壁側と，東壁側との壁際の一部の床面が確認されている。

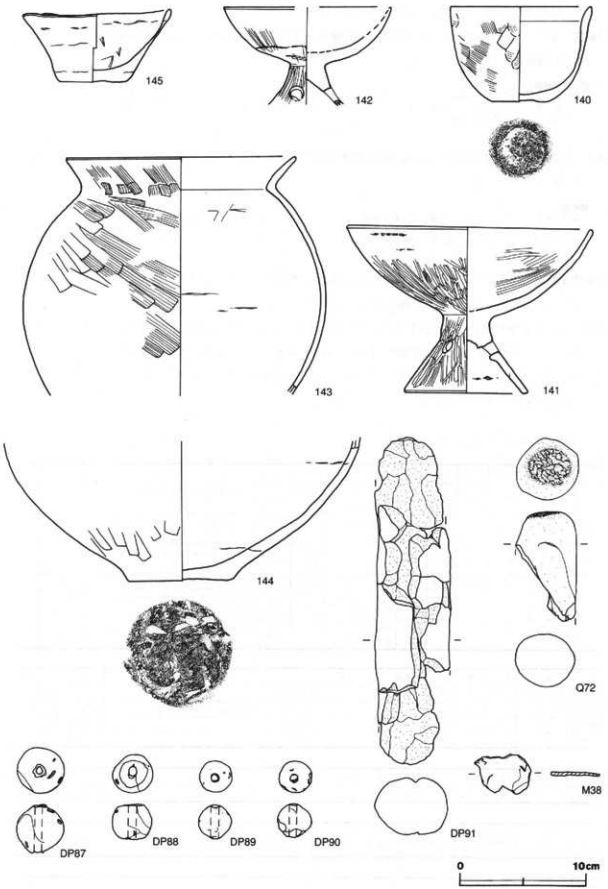
規模と形状　長軸8.7m，短軸8.3mほどの方形で，主軸方向はN－34°－Eである。壁高は36～40cmで，壁外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，確認された壁際には壁溝が全周している。また，焼土塊が散在している。

炉　残存している床面には確認できず，掘り込んでいる第38号住居によって削平されたと考えられる。



第89図　第38・39号住居跡実測図



第90図　第38号住居跡出土遺物実測図

ピット　柱穴は，確認した範囲には認められなかった。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長軸1.2m，短軸68cmほどの隅丸長方形で，深さは76cmである。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム粒子多量	4	暗褐色	ロームブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック中量	5	黒褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子多量			

覆土　第38号住居に掘り込まれているため，壁際のみに6層が確認された。レンズ状に堆積している自然堆積と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	4	暗褐色	焼土ブロック・ロームブロック多量
2	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片38点（椀1，高坏4，甕33）が出土している。いずれも細片のため，図示することはできなかった。そのほか，混入した縄文土器3点が出土している。

所見　大半を第38号住居に掘り込まれているため，残存している部分はわずかであるが，確認された北東壁，南東壁はそれぞれ8.7m，8.3mと当遺跡で最大の規模である。また，床面から焼土塊が検出され，覆土に焼土や炭化粒子などが含まれており，焼失したと考えられる。遺物は細片しか出土していないが，重複関係などから時期は4世紀前半と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
140	土師器	椀	11.2	7.6	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位ヘラ削り，ハケ目痕形成ナデ，内面ナデ	下層	70% PL15
141	土師器	高坏	19.5	13.4	9.7	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，坏部内面ヘラ磨き，脚部内面ナデ，窓3か所	中層	70%
142	土師器	高坏	13.4	(7.8)	—	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ナデ，窓3か所	中層	70% 内面剥離
143	土師器	甕	18.4	(19.0)	—	長石・赤色粒子	暗褐	普通	口縁部から体部外面ハケ目整形，内面ナデ	底面	50%
144	土師器	甕か		(11.2)	8.5	長石・石英・雲母・礫	明黒	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面ナデ，輪積み痕	南東壁付近床面	20%
145	土師器	坏	11.8	5.9	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	楕形整形，体部内・外面ナデ，内面ヘラ調整，輪積み痕	下層	90%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP87	土玉	3.8	3.8	0.7	46.7	土	外面ナデ	覆土	柱跡
DP88	土玉	2.7	3.2	0.8	27.8	土	外面ナデ，孔両端部を周縁ヘラ切り	覆土	
DP89	土玉	2.7	2.7	0.5	15.8	土	外面ナデ	覆土	
DP90	土玉	2.7	2.7	0.5	15.6	土	外面ナデ	中層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP91	砥石形土製品	(26.2)	6.1	4.6	(516.7)	土	外面ナデ，磨耗	第2床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q72	敲石	(8.7)	5.0	4.3	(272.1)	ホルンフェルス	端面に擦痕	覆土	PL45

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M98	不明鉄製品	(3.2)	(4.5)	0.3	(13.7)	鉄	鍛造鉄片	覆土	

第40号住居跡（第91・92図）

位置　調査区東部のD５b8区に位置し，標高26.9mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　北東部が調査区域外であり，本来の形状を明確にすることはできないが，長軸4.9m，短軸2.8mほどが確認された。形状は，方形または長方形と考えられ，主軸方向はN－34°－Eである。壁高は46～52cmで，直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。また，確認された壁際には壁溝が全周している。

炉　調査した範囲には認められず，調査区域外に存在した可能性が考えられる。

ピット　確認できなかった。

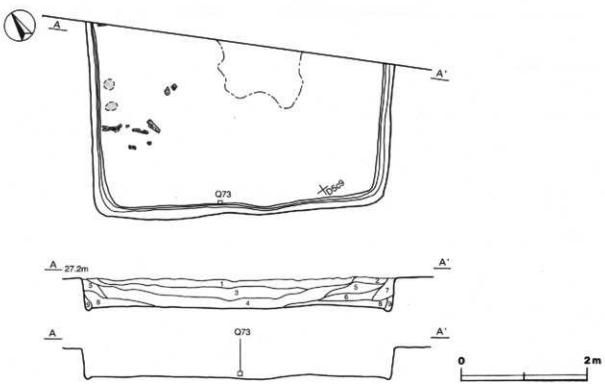
覆土　９層からなる。壁付近の第２・５層は住居の火災に伴って形成された層で，ほかは，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

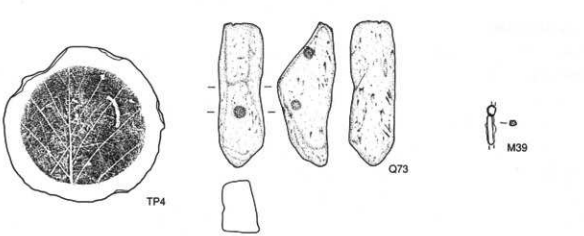
1	黒　色	黒色ブロック多量，ローム粒子微量	6	黒 褐 色	ローム粒子中量
2	極暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量	7	暗 褐 色	ローム粒子中量
3	黒 褐 色	ローム粒子微量	8	黒 褐 色	ロームブロック中量
4	極暗褐色	ロームブロック少量	9	褐　色	ロームブロック少量
5	極暗褐色	炭化材少量，ローム粒子微量			

遺物出土状況　土師器片123点（壺３，甕類120），石製品１点（砥石），鉄製品１点（釘）が東側を中心に炭化材とともに出土している。細片が多く，図示できたものは３点である。Q73は南西壁に張り付くように出土している。

所見　南西側半分が調査区域外であり，全体の形状が不明確で時期判定資料の出土も少ないが，炭化材や焼土が確認されていることから，焼失住居である。炭化材は覆土上層から中層で検出しており住居廃絶後，時間が経過してからの焼失と考えられる。住居の形状や主軸方向などから，時期は４世紀代と考えられる。



第91図　第40号住居跡実測図



第92図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP4	土師器	甕	—	—	[12.7]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部木葉痕	覆土	PL38

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q73	砥石	11.6	4.7	3.7	33.6	軽石	砥面1面，穴状の砥面3か所	南西壁際下層	PL44

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M39	釘	(3.2)	0.9	0.4	(1.6)	鉄	断面方形	覆土	

第41号住居跡（第93図）

位置　調査区東部のＤ５c8区に位置し，標高約26.9mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　一辺4.1mほどの方形で，主軸方向はＮ－21°－Ｅである。壁高は４～８cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から北西側が踏み固められており，壁溝が全周している。

炉　中央部より北側に位置しており，長径70cm，短径50cmほどの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化物微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置し，長径78cm，短径50cmほどの楕円形で，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は底面から中段まで直立し，上部は外傾して立ち上がっている。

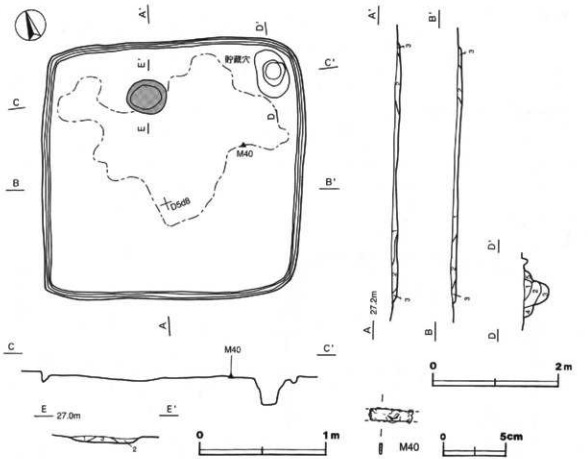
貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子中量
4　黒褐色　ロームブロック微量
5　黒褐色　ローム粒子多量

覆土　3層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片10点（高坏1，壺1，甕類8），鉄製品1点（刀子）と出土点数が少なく，図示できたのはM40だけであり，床面から出土している。

所見　出土遺物が少なく，時期を決定することは困難であるが，住居の形状や周辺部に同様の住居跡が確認されていることなどから，4世紀代と考えられる。



第93図　第41号住居跡・出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M40	刀子	(3.5)	1.1	0.2	(2.9)	鉄	茎部，切先部欠損	床面	

第42号住居跡（第94図）

位置　調査区東部のD5d5区に位置し，標高27.0mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.6m，短軸4.0mほどの長方形で，主軸方向はN－21°－Eである。壁高は16～20cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，P1周辺の北東側部が踏み固められており，壁溝が全周している。

炉　ほぼ中央部に位置している。径40cmの円形に焼けており，床面をそのまま炉床としている。

ピット　1か所。炉と向かい合ってＰ１が確認された。深さは42cmで，位置的に出入り口施設に関係するものと考えられる。なお，主柱穴と考えられるピットは確認されなかった。

貯蔵穴　西壁の中央部よりやや南に位置している。長径80cm，短径48cmほどの楕円形で，深さは42cmである。底面は平坦であり，二段に掘り込まれている。

貯蔵穴土層解説

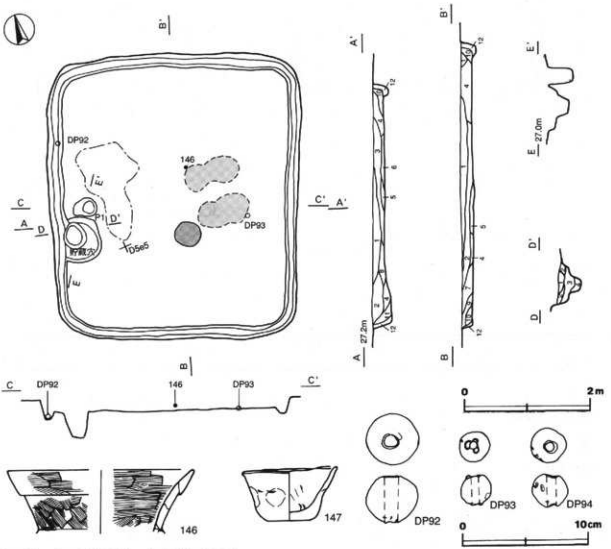
1	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子微量	3	暗　褐　色	ロームブロック微量
2	黒　褐　色	ローム粒子微量	4	褐　　色	ローム粒子微量

覆土　12層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック，焼土粒子微量	7	黒　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック微量
2	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	8	極暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
3	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	9	黒　褐　色	ロームブロック微量
4	極暗褐色	ロームブロック微量	10	暗　褐　色	ロームブロック中量
5	黒　褐　色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量	11	暗　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
6	灰　褐　色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化材少量	12	褐　　色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片78点（高坏４，甕類74），土製品３点（土玉），炭化材が出土している。ほとんどが細片であり，図示できたものは５点である。146は床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。また，DP92は西壁の壁溝，DP93は東寄りの床面から出土している。炭化材は北部コーナー付近を中心に散在して出土し，そのほか，混入した縄文土器15点が出土している。



第94図　第42号住居跡・出土遺物実測図

所見　出土遺物はそれほど多くなく，床面に焼土が広がっていることから，住居廃絶直後に焼失したと考えられる。また，覆土上層にも焼土が含まれており，埋没過程において焼土の廃棄があったものと推定される。時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
146	土師器	壺	[14.8]	(5.1)	―	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面ハケ目整形	下層	10%
147	土師器	ミニチュア土器	7.5	4.3	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面ナデ，指頭痕，内面ヘラナデ	覆土	95% PL32

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP92	土玉	3.7	4.1	1.1	56.8	土	外面ナデ	北西壁際床面	
DP93	土玉	2.4	2.4	0.6	12.9	土	外面ナデ	床面	
DP94	土玉	2.7	2.8	0.8	16.0	土	外面ナデ，切断	覆土	

第43号住居跡（第95図）

位置　調査区中央部のC5j5区に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　耕作により，壁・床面は削平されており，住居跡の掘り方部分から判断して，長軸3.5m，短軸3.1mほどの方形で，主軸方向はN－87°－Wと推測される。

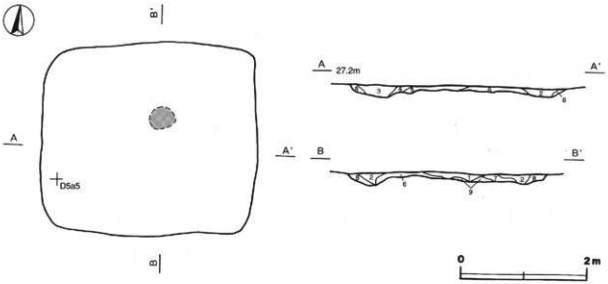
床　貼床であるが，完全に削平されている。掘り方は，壁際が中央部よりも若干深く掘られており，全体に凹凸を呈している。床部は，ローム土が6～18cmの厚さに貼られている。

貼床土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

炉　確認した範囲には認められなかったが，中央部付近に少量の焼土が検出でき，炉床部と考えられる。

ピット　掘り方調査においても，確認できなかった。



第95図　第43号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片が8点（甕類7，不明1）が出土しているが，すべてが細片のため図示できなかった。

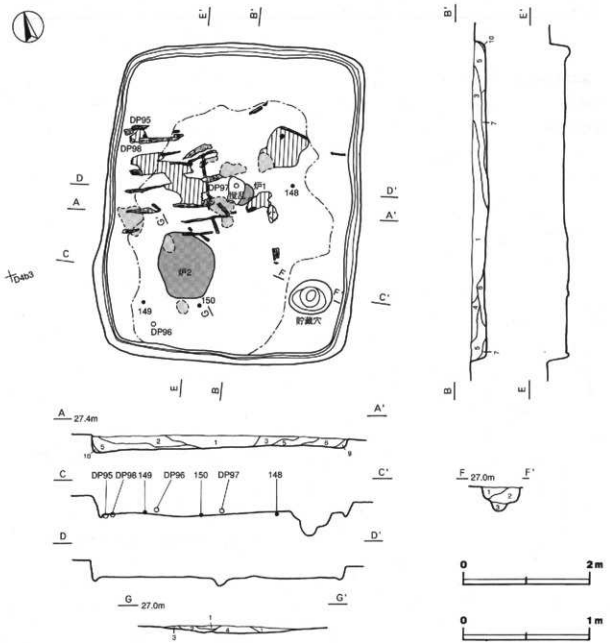
所見　削平のため，本来の形状を明確にできず，また出土遺物がないため時期を判定することは困難であるが，住居の形状や，同様の住居跡が周辺部に確認されていることなどから，4世紀代と考えられる。

第44号住居跡（第96・97図）

位置　調査区中央部のD4b3区に位置し，標高27.1mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.2m，短軸4.1mほどの長方形で，主軸方向はN－25°－Eである。壁高は16～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から広範囲が踏み固められており，壁溝は全周している。また，中央部を中心に，焼土塊が見られた。



第96図　第44号住居跡実測図

炉　中央部と南西部に２か所確認された。炉１は西半分ほどが撹乱を受けているが，径40cmほどの円形と考えられる。炉２は長径120cm，短径90cmほどの楕円形で，床を10cmほど掘りくぼめている。炉床は炉１の方が赤変硬化が強く，長期間使用されていたものと考えられる。

炉２土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量
3　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置し，長径70cm，短径55cmほどの楕円形で，深さは34cmである。底面は，皿状を呈しており，南壁には段を有している。

貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子中量

覆土　10層からなる。第９・10層は自然堆積であるが，第１～８層は，焼土及び炭化材の含有状況などから，本跡の焼失や廃絶に伴って形成された層と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子多量，焼土ブロック中量，炭化材少量
4　褐　　色　ロームブロック多量
5　極暗褐色　ローム粒子中量
6　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ローム粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片258点（器台４，高坏７，壺５，甕類242），土製品４点（土玉）が多量の炭化材とともに出土しており，図示できたものは７点である。148は床面から斜位で出土し，149・150も床面から正位の状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器８点が出土している。

所見　多量に出土した炭化材は，中央部から西側に多く，断面が四角形のものや，円形のものがあり，柱材や上屋の構築材と考えられ，上屋は西方向に倒れたものと想定される。土器類は炭化材と同じ層もしくは上面で確認されており，住居廃絶後に焼失し，土器類を投棄したものと考えられる。時期は出土土器から４世紀代と考えられる。

第97図　第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第97図）

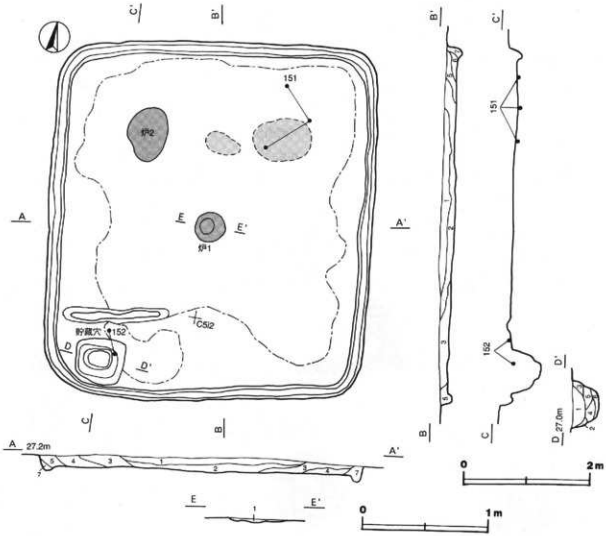
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
148	土師器	器台	6.0	5.3	8.7	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	器受部外面ヘラ磨き，脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ハケ目整形，窓3か所	床面	90% PL15
149	土師器	壺	－	(16.6)	6.0	長石・雲母	赤褐	普通	外面，口縁部内面丁寧なヘラ磨き，内面輪積み痕	床面	鼎 相模国口
150	土師器	小形壺	12.1	11.3	4.4	雲母・赤色粒子	橙	普通	外面，口縁部内面ヘラ磨き	床面	鼎 相模国口

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP95	土玉	3.2	3.4	0.7	33.7	土	外面ナデ	北西壁際床面	
DP96	土玉	3.0	3.5	0.8	28.1	土	外面ナデ	床面	
DP97	土玉	3.0	3.3	0.6	26.5	土	外面ナデ，指頭痕	床面	
DP98	土玉	3.0	3.2	0.6	26.7	土	外面ナデ	北西壁際床面	

第46号住居跡（第98・99図）

位置　調査区の中央部のＣ５h1区に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.8m，短軸5.2mほどの長方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｗである。壁高は12～17cmで外傾して立ち上がっている。



第98図　第46号住居跡実測図

床　ほぼ平坦であり，ほぼ全面に硬化面が見られ，壁溝は全周している。また，貯蔵穴の北側に東西に延びるように長さ1.7m，幅20cm，高さ８cmほどの土手状の高まりが見られる。中央部よりやや北東コーナー寄りに焼土が検出されている。

炉　中央部と，北西コーナー寄りに２か所確認された。炉１は径50cmほどの円形で，床を３cmほど掘りくぼめているが，炉床面はそれほど赤変硬化していない。炉２は長径90cm，短径60cmほどの不整楕円形でほとんど掘り込みをもたないが，炉床面は赤変硬化している。

炉１土層解説

1	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南西コーナーに位置し，長軸80cm，短軸70cmほどの方形で，深さは53cmである。底面は，平坦であり，壁は二段に掘り込まれている。

貯蔵穴土層解説

1	黒　褐　色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物微量	4	暗　褐　色	ローム粒子中量
2	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	5	黒　褐　色	ロームブロック少量
3	暗　褐　色	ロームブロック少量	6	褐　　色	ローム粒子微量

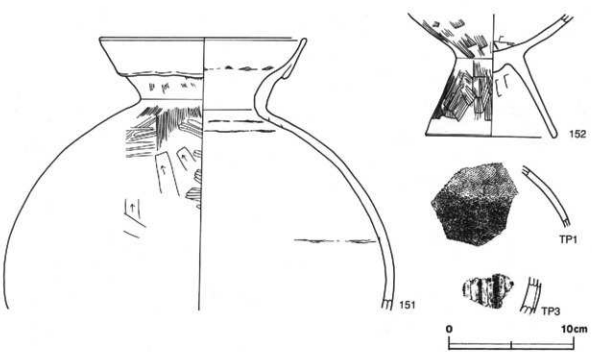
覆土　７層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子微量	5	黒 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	6	黒　褐　色	ローム粒子多量
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗　褐　色	ローム粒子多量
4	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片231点（高坏８，壺５，甕類218）が散在して出土し，図示できたのは４点である。152は貯蔵穴付近の床面から出土している。また，細片であるがTP1・TP3など東海系と思われる土器片も出土している。そのほか混入した縄文土器２点が出土している。

所見　覆土にそれほど焼土，炭化物などが含まれていないことから，床面に確認された焼土は住居の焼失などに伴うものではなく，住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。時期は出土遺物から，４世紀代と考えられる。



第99図　第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
151	土師器	壺	16.6	(21.9)	－	長石・雲母・黒色粒子	浅黄橙	普通	頸部弱いハケ目整形，体部上段ハケ目整形後ヘラ磨き，体部中段ヘラ削り	床面	20% PL21
152	土師器	台付甕	－	(9.8)	10.4	長石・石英	橙	普通	脚部外面ハケ目整形，内面ヘラナデ	床面	10%
TP 1	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	L R の単節縄文を施文後，結節回転文で無紋帯と区画	覆土	無紋帯 赤彩 PL38
TP 3	土師器	壺	－	(3.0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部に３本以上の櫛状浮文	覆土	PL38

第47号住居跡（第100・101図）

位置　調査区中央部のＣ５j1区に位置し，標高27.1mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸3.7m，短軸3.5mほどの方形で，主軸方向はＮ－82°－Ｗである。壁高は12～17cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，北東側の床面が若干低くなっている。貯蔵穴の北西側と中央部のやや西寄りの小さな範囲に硬化面が見られ，壁溝は全周している。

炉　中央部からやや西コーナー寄りに位置し，長径68cm，短径40cmほどの楕円形に焼けている。掘り込みは確認できず，床面上に焼土が検出された状態であった。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南東コーナーに位置し，長径64cm，短径48cmほどの楕円形で，深さは37cmである。底面はほぼ平坦で，壁は中央部方向がなだらかに外傾して立ち上がり，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

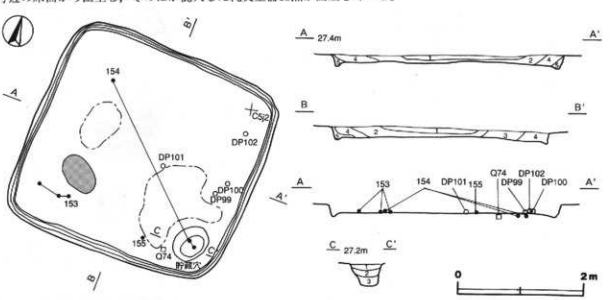
1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	3	灰　褐　色	ロームブロック中量
2	暗　褐　色	ローム粒子少量			

覆土　５層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

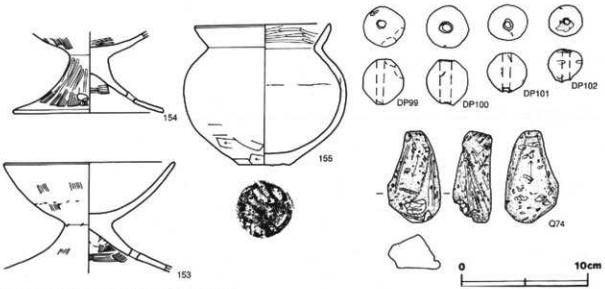
1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化物微量	4	黒　褐　色	ローム粒子少量
2	極暗褐色	ロームブロック微量	5	黒　褐　色	ローム粒子多量
3	黒　褐　色	ロームブロック微量			

遺物出土状況　土師器片22点（高坏12，壺４，甕類６），土製品４点（土玉），石製品１（砥石）が散在して出土し，図示できたのは８点である。155は南壁寄りの床面から斜位の状態で出土している。また，Q74は貯蔵穴付近の床面から出土し，そのほか混入した縄文土器15点が出土している。



第100図　第47号住居跡実測図

所見　床面から出土したQ74には刃物を立てて研いだような溝状の痕跡が見られた。時期は出土遺物から４世紀代と考えられる。



第101図　第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
153	土師器	高坏	13.6	(8.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，中央部指頭痕，窓１か所	床面	70%
154	土師器	高坏	—	(6.6)	12.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面ハケ目整形，脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，窓３か所	床面	50%
155	土師器	小形甕	10.9	11.3	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下段外面ヘラ削り，口縁部内面ヘラ磨き	床面	100% PL22

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP99	土玉	3.6	3.3	0.7	35.0	土	外面ナデ，指頭痕	床面	
DP100	土玉	3.7	3.3	0.9	36.7	土	外面ナデ	床面	
DP101	土玉	3.2	3.1	0.8	27.5	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	床面	
DP102	土玉	2.7	2.7	0.5	16.5	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q74	砥石	7.4	4.2	3.1	11.6	軽石	砥面３面	床面	PL44

第48号住居跡（第102・103図）

位置　調査区中央部のＤ５b1区に位置し，標高27.2mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.2m，短軸3.6mほどの長方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁高は32～40cmで，壁は直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，北側を除いて踏み固められている。壁溝は北西・南西コーナー部と，西壁中央部を除いて検出されている。

炉　南西コーナー寄りに重複して２か所確認された。炉１は炉２の南部を若干掘り込んでおり，径70cmほどの円形で，床面から10cmほど掘りくぼめている。炉２は南部を炉１に掘り込まれているが，径45cmほどの円形と推測され，炉１と同様に床面から10cmほど掘りくぼめられている。ともに炉床面は被熱し，赤変硬化してい

る。なお，炉の土層解説は，第1・2層が炉1を，第3層が炉2を示す。

炉土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック中量（炉1）	3	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量（炉2）
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量（炉1）			

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南東コーナーに位置し，径50cmほどの円形で，深さは27cmである。底面はほぼ平坦であり，北西側が二段に掘り込まれており，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム ブロック・炭化物少量	3	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム ブロック少量	4	暗褐色	ローム ブロック微量

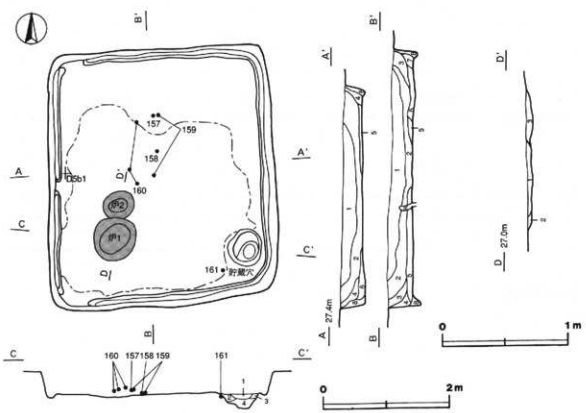
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

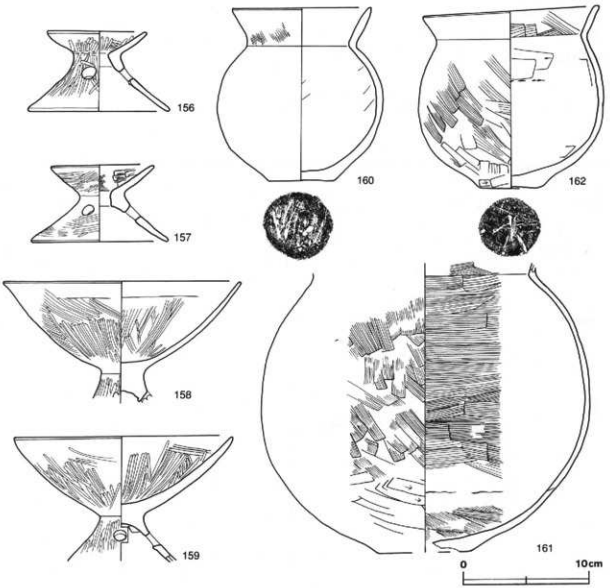
1	極暗褐色	ローム ブロック少量	5	極暗褐色	ローム ブロック中量，炭化物微量
2	黒褐色	ローム ブロック少量，炭化物微量	6	黒褐色	ローム ブロック中量，炭化物微量
3	黒褐色	ローム粒子少量	7	黒褐色	ローム ブロック少量，炭化物微量
4	暗褐色	ローム ブロック少量	8	暗褐色	ローム ブロック中量

遺物出土状況　土師器片211点（器台8，高坏6，甕類197）が中央部付近の覆土中層から床面で出土しており，図示できたものは7点である。158は床面から正位の状態で出土し，161は貯蔵穴近くの床面から土圧でつぶれたような状態で出土しており，ともに本跡に伴うものである。そのほか，混入した縄文土器9点が出土している。

所見　炉が重複して検出され，作り替えが行われたものと考えられる。時期は出土土器から4世紀代と考えられる。



第102図　第48号住居跡実測図



第103図　第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第103図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
156	土師器	器台	7.9	6.4	11.3	長石・雲母・黒色粒子	橙	普通	外面・器受部内面ヘラ磨き，窓3か所	覆土	95% PL15
157	土師器	器台	8.2	6.1	11.0	長石・石英	明褐	普通	外面ヘラ磨き，器受部内面ヘラナデ後ヘラ磨き，窓3か所	下層	95% PL15
158	土師器	高坏	18.9	(9.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部・脚部外面丁寧なヘラ磨き，坏部内面丁寧なヘラ磨き，窓3か所確認	床面	60% PL17
159	土師器	高坏	17.3	(10.0)	—	長石・石英・赤褐黒色粒子・雲	明赤褐	普通	坏部内・外面・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラナデ，窓3か所	下層～床面	60% PL18
160	土師器	壺	11.0	13.9	5.0	長石・石英	にぶい黄	普通	体部内面ヘラナデ	下層	70%残欠
161	土師器	甕	—	(23.2)	[7.6]	長石・石英	暗褐	普通	体部外面中段ハケ目整形，下段ヘラ削り，体部内面ハケ目整形，輪積み痕	床面	85% 底部に孔
162	土師器	小形甕	14.2	14.5	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面中段ハケ目整形，下段ヘラ削り，口縁部内面ハケ目整形，体部内面ヘラナデ	覆土	100%

第49号住居跡（第104・105図）

位置　調査区中央部のＤ５c1に位置し，標高27.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.6m，短軸3.7mほどの長方形で，主軸方向はＮ－17°－Ｅである。壁高は８～16cmで，緩やかに外傾して立ち上がってる。

床　東部にやや凹凸が見られ，中央部から南側にかけて硬化面が見られる。壁溝は全周し，中央部よりやや南東寄りから焼土塊が検出された。

炉　確認できなかった。

ピット　確認できななかった。

貯蔵穴　西コーナー部に位置し，平面形は長径80cm，短径50cmほどの楕円形で，深さは40cmである。断面はＵ字状を呈している。

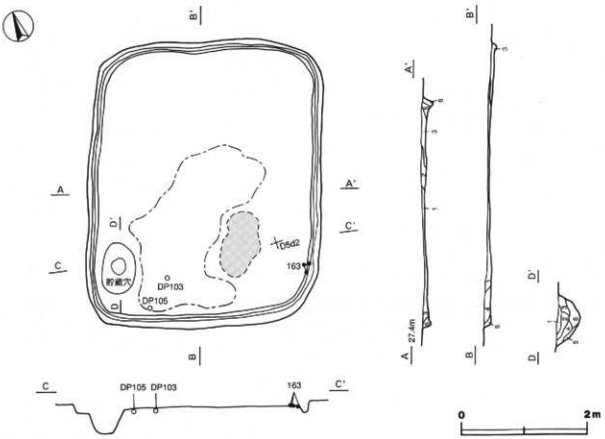
貯蔵穴土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量	4	黒褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ロームブロック少量

覆土　６層からなる。レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

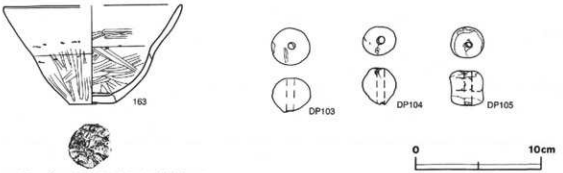
1	黒褐色	ロームブロック少量	4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子多量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子微量



第104図　第49号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片17点（椀４，甕類13），土製品３点（土玉２，管状土錘１）が出土しているが，ほとんどが細片であり，図示できたのは４点である。163は，東壁際の床面から出土したもので，破片３点が接合したものである。そのほか，混入した縄文土器10点が出土している。

所見　時期は，出土土器から４世紀代と考えられる。



第105図　第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師器	椀	[14.2]	7.9	3.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	上段外面ナデ，下段ヘラ磨き，内面ヘラ磨き，輪積み痕	北コーナー付近床面	50%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP103	土玉	2.8	3.1	0.7	24.4	土	外面ナデ，側部に凹み，ヘラ当て痕	床面	
DP104	土玉	2.9	2.7	0.6	16.7	土	外面ナデ	覆土	
DP105	管状土錘	2.8	2.6	0.6	20.6	土	外面ナデ，側面に指頭痕，ヘラ当て痕	床面	PL41

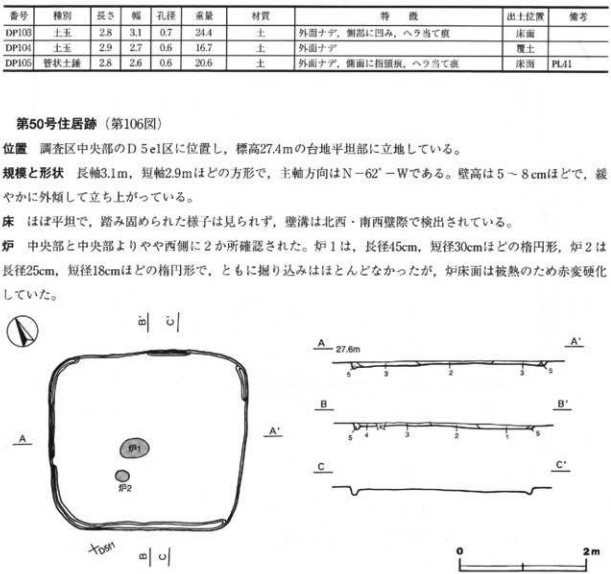
第50号住居跡（第106図）

位置　調査区中央部のＤ５e1区に位置し，標高27.4ｍの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸3.1ｍ，短軸2.9ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－62°－Ｗである。壁高は５～８cmほどで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた様子は見られず，壁溝は北西・南西隅際で検出されている。

炉　中央部と中央部よりやや西側に２か所確認された。炉１は，長径45cm，短径30cmほどの楕円形，炉２は長径25cm，短径18cmほどの楕円形で，ともに掘り込みはほとんどなかったが，炉床面は被熱のため赤変硬化していた。



第106図　第50号住居跡実測図

ピット　確認できなかった。

覆土　5層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1 黒　褐　色	ローム粒子少量	4 黒　　色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒　褐　色	ローム・ブロック・焼土粒子少量	5 黒　褐　色	ローム粒子多量
3 黒暗褐色	ローム・ブロック少量，焼土粒子微量		

遺物出土状況　土師器片14点（甕類）が出土しているが，図示できたものはない。

所見　出土遺物が少なく，時期を決定することは困難であるが，住居の形状や周辺部に同様の住居跡が確認されていることなどから，4世紀代と考えられる。

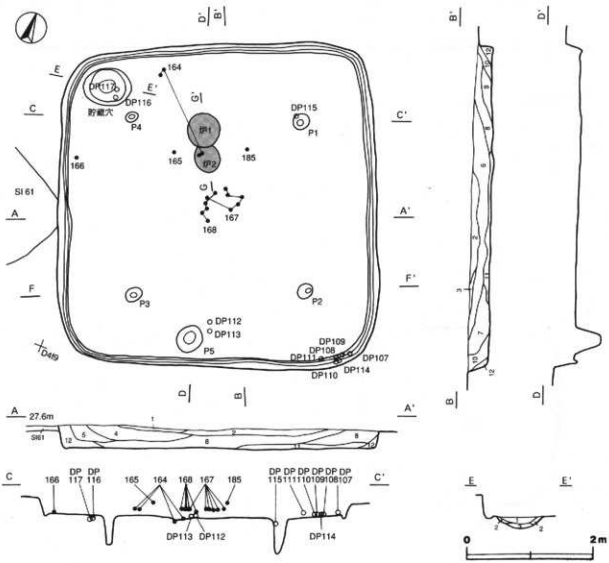
第51号住居跡（第107・108図）

位置　調査区中央部のD4e9区に位置し，標高約27.4mほどの台地平坦部に立地している。

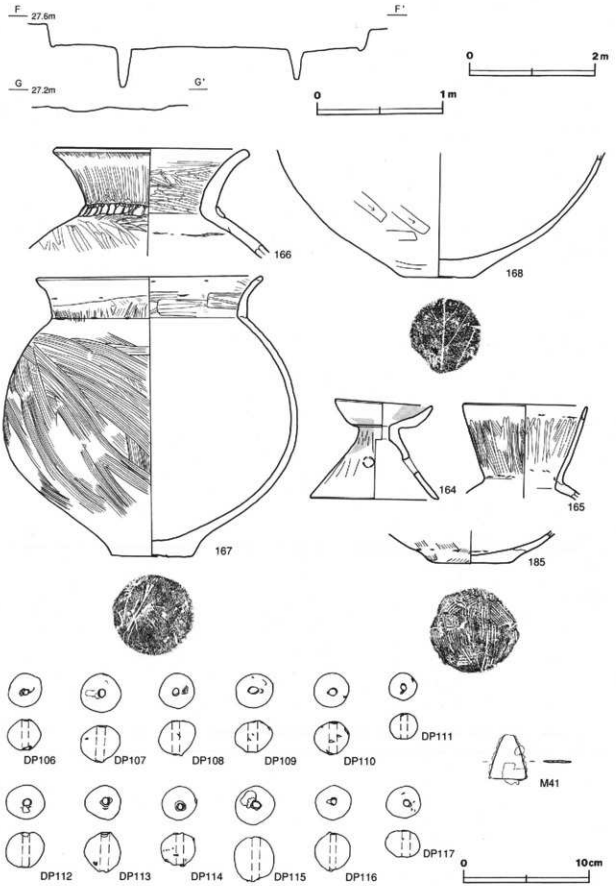
重複関係　西壁のほぼ中央部が第61号住居跡の東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸5.3m，短軸5.1mほどの方形で，主軸方向はN－25°－Wである。壁高は20～33cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認できず，壁溝が全周している。



第107図　第51号住居跡実測図（1）



第108図　第51号住居跡実測図（2）・出土遺物実測図

炉　中央部より北西側に2か所重複して確認された。炉1は炉2の北部を若干掘り込み，50cmほどの円形で，床を12cmほど掘りくぼめている。炉2は北部を炉1に掘り込まれており，床から14cmほど掘りくぼめられていた。ともに炉床面は被熱のため，赤変硬化していた。

ピット　5か所。主柱穴はP1～P4が相当し，深さは50～60cmである。P5は深さ45cmで，南東壁寄りの中央部，炉と向かい合って位置しているため，出入り口施設に関係するものと考えられる。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置し，長径78cm，短径64cmほどの楕円形で，深さは22cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量

覆土　12層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　黒色ブロック少量，ローム粒子微量
2　黒　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
8　黒　色　ロームブロック・炭化粒子微量
9　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片377点（器台7，坩4，高坏2，壺11，甕類353），土製品12点（土玉），鉄製品1点（鉄鏃）が中央部付近から集中して出土しており，図示できたものは19点である。土玉は6点が南東コーナー付近の床面からまとまって出土した。そのほかの土玉もほとんどが床面から出土しているが，土器は床面からの出土は少なく，覆土中層から下層での出土が目立った。そのなかで164・166は覆土下層及び床面から出土しており，本跡に伴うと考えられる。そのほか，混入した縄文土器片77点が出土している。

所見　遺物出土状況から考えると，住居廃絶時に土玉は残されたように思われる。時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。

第51号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
164	土師器	器台	7.8	8.0	10.3	長石・石英	橙	普通	器受部内・外面ナデ，脚部外面ヘラナデ，内面ナデ，裾3か所	下層～床面	70%赤彩 PL15
165	土師器	坩	9.9	(7.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き，輪積み痕	上層	50%
166	土師器	壺	15.2	(8.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面，体部上段ハケ目整形後ヘラ磨き，頸部降帯貼り付け部に圧痕	床面	20% PL20
167	土師器	甕	17.9	22.5	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面・口縁部内面ハケ目整形，内面ナデ	中層	80% PL23
168	土師器	壺	－	(10.1)	5.8	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面ナデ，底部木葉痕	中層	10%
185	土師器	甕	－	(2.6)	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	体部下段外面斜ハケ目整形，底部ハケ目整形	上層	

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	掲載
DP106	土玉	2.5	2.6	0.6	17.3	土	外面ナデ	覆土	PL41
DP107	土玉	3.0	3.2	0.6	27.0	土	外面ナデ	E3ｸﾘｯﾄﾞ6ｸﾞﾘｯﾄﾞ	PL41
DP108	土玉	2.8	3.0	0.6	21.8	土	外面ナデ，ハケ目痕	E2ｸﾘｯﾄﾞ4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	PL41
DP109	土玉	2.6	3.0	0.8	20.2	土	外面ナデ	E3ｸﾘｯﾄﾞ5ｸﾞﾘｯﾄﾞ	PL41
DP110	土玉	2.8	2.8	0.6	21.0	土	外面ナデ	E3ｸﾘｯﾄﾞ5ｸﾞﾘｯﾄﾞ	PL41
DP111	土玉	2.1	2.2	0.5	10.7	土	外面ナデ	E2ｸﾘｯﾄﾞ4ｸﾞﾘｯﾄﾞ	PL41
DP112	土玉	2.9	3.1	0.6	26.0	土	外面ナデ	床面	PL41
DP113	土玉	3.2	2.8	0.7	21.9	土	外面ナデ	床面	PL41

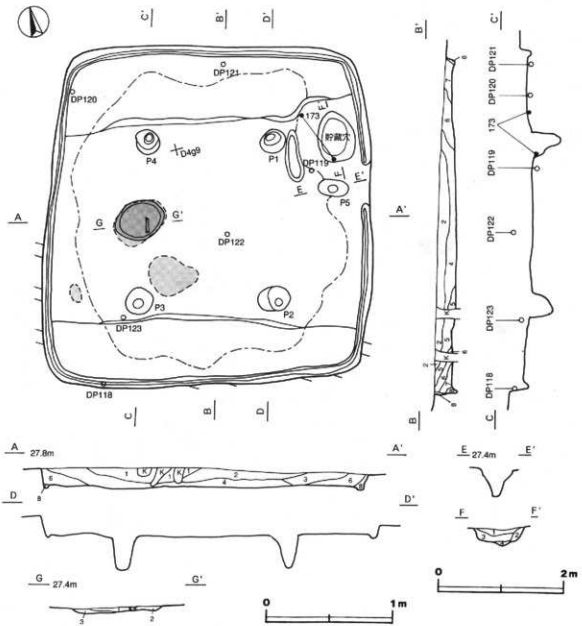
番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP114	土玉	2.7	2.8	0.6	19.5	土	外面ナデ	第2コーナー住居跡	PL41
DP115	土玉	3.6	3.1	0.6	32.4	土	外面ナデ	床面	PL41
DP116	土玉	3.2	2.9	0.4	22.5	土	外面ナデ	床面	PL41
DP117	土玉	2.1	2.8	0.6	16.8	土	外面ナデ	床面	PL41

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M41	鉄鏃	(4.0)	3.1	0.2	(5.9)	鉄	鏃身部，尖頭部欠損	覆土	PL46

第52号住居跡（第109・110図）

位置　調査区中央部のD 4 g8区に位置し，標高27.5mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.5m，短軸5.2mほどの方形で，主軸方向はN－17°－Eである。壁高は12～32cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。



第109図　第52号住居跡実測図

床　北壁際と南壁際の床が一段高くなっており，その範囲は60～120ｃｍほどの幅を有している。壁溝は東壁の一部を除いて，この段の部分も巡っている。また，段部も含めた範囲が踏み固められている。

炉　中央部よりやや西側に位置している。長径90cm，短径70cmほどの楕円形で，床を10cmほど掘りくぼめており，炉床面は赤変硬化している。また，やや東寄りに，南北方向に棒状の炉石形土製品が検出されている。

炉土層解説

1	黒　褐　色	焼土粒子中量	3	黒　褐　色	焼土ブロック・ロームブロック中量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量			

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは44～60cmである。Ｐ５は深さ44cmで，東壁寄りの中央部，ほぼ炉と向かい合って位置しているため，出入り口施設に関係するものと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナー付近に位置し，長径82cm，短径60cmほどの楕円形で，深さは30cmである。掘り込みは，二段でＵ字状を呈している。

貯蔵穴土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量	3	黒　褐　色	ロームブロック少量
2	暗　褐　色	ローム粒子・粘土ブロック微量	4	褐　　色	ロームブロック中量

覆土　８層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	黒　　色	ロームブロック微量	5	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック少量	6	黒　褐　色	ローム粒子多量
3	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化物少量	7	黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	8	暗　褐　色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片354点（器台３，坩１，鉢６，壺７，甕類337），土製品６点（勾玉１，土玉５）が散在して出土しており，図示できたものは９点である。173は貯蔵穴付近の床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。そのほか，混入した縄文土器164点，磁器１点が出土している。

所見　本跡は，床の南側と北側に段を有したベッド状遺構である。時期は出土土器から４世紀代と考えられる。

第110図　第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	土師器	ミニチュア土器	7.5	3.4	2.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ナデ，内側ハケ目整形	覆土	95% PL33
172	土師器	甕	…	(12.9)	—	長石・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	胴部外面弱いハケ目整形，体部外面ヘラ磨き，輪積み痕	覆土	50%
173	土師器	甕	(15.4)	18.4	4.8	長石・赤色粒子	暗赤褐	普通	体部外面ハケ目整形	床面	30%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP118	勾玉	4.7	2.6	0.6	20.4	土	外面ナデ	南壁際上層	PL41
DP119	土玉	3.6	3.8	0.9	43.4	土	外面ナデ，指頭痕	床面	
DP120	土玉	3.2	3.1	0.7	22.3	土	外面ナデ	西壁際床面	
DP121	土玉	3.1	3.4	0.7	24.0	土	外面ナデ	北東隅床面	
DP122	土玉	2.8	3.1	0.8	23.5	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	上層	
DP123	土玉	3.4	2.9	0.7	26.2	土	外面ナデ	下層	

第53号住居跡（第111～114図）

位置　調査区中央部のD 48区に位置し，標高27.6mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.7m，短軸5.2mほどの方形で，主軸方向はN－36°－Eである。壁高は22～42cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できず，南壁の一部を除いて壁溝が巡っている。また，ほぼ全面から多量の焼土塊が検出された。

炉　中央部のやや西寄りと，南寄りに２か所確認された。２つとも同規模で，径70cmほどの円形であり，炉床面は被熱のため，赤変硬化している。また，炉１には火床面に炉石形土製品が置かれていた。

ピット　４か所。すべて主柱穴と考えられ，深さは64～72cmである。

貯蔵穴　東コーナー部よりやや南西寄りに位置し，長径74cm，短径56cmほどの楕円形で，深さは36cmである。掘り込みは，二段でU字状を呈している。

貯蔵穴土層解説

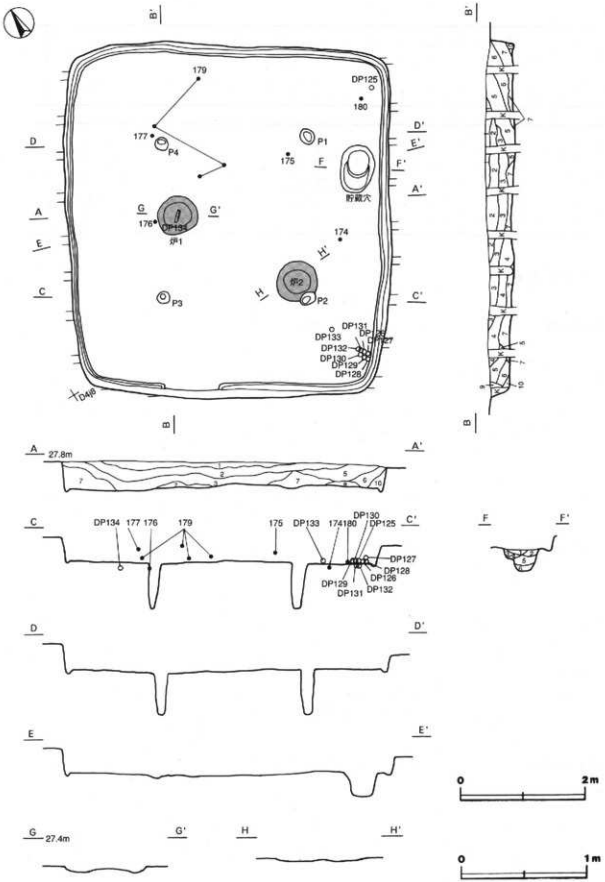
1　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量
5　黒褐色　炭化材・焼土ブロック少量，ロームブロック微量
6　暗黒色　ローム粒子微量

覆土　10層からなる。壁際付近と，覆土下層は焼土や炭化材を多く含み，住居の焼失に伴って形成された層であると考えられる。

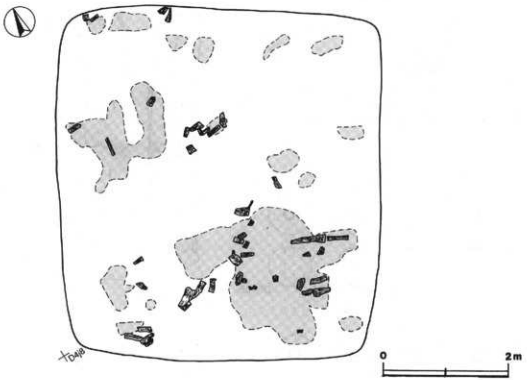
土層解説

1　黒色　黒色ブロック多量
2　黒色　黒色ブロック・コームブロック微量
3　黒褐色　炭化材・ロームブロック中量，焼土粒子少量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒色　炭化材多量，焼土粒子少量
7　極暗赤褐色　炭化物中量，焼土粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子中量

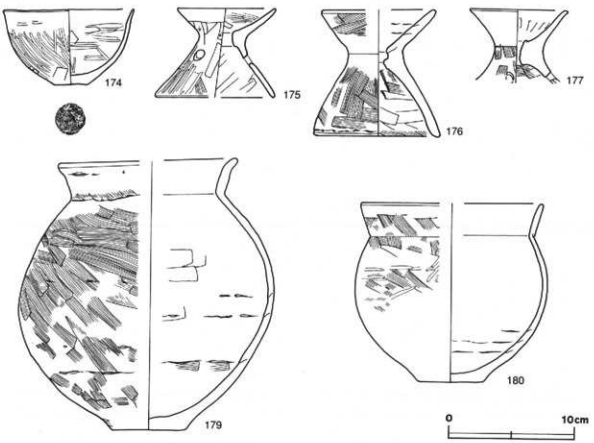
遺物出土状況　土師器片217点（椀５，器台10，坩３，甕類199），土製品11点（土玉10，炉石形土製品１）が出土しており，図示できたものは18点である。174・176は正位，180は土圧でつぶれたように床面からそれぞれ出土しており，本跡に伴うものである。また，南コーナー付近の床面からは土玉７点がまとまって出土している。炭化材と焼土は全面から検出されているが，特に倒壊方向と考えられる南側に多く，主柱と考えられる丸材や板材も確認できた。そのほか混入した縄文土器108点，瓦質土器１点，磁器３点，陶器１点が出土している。



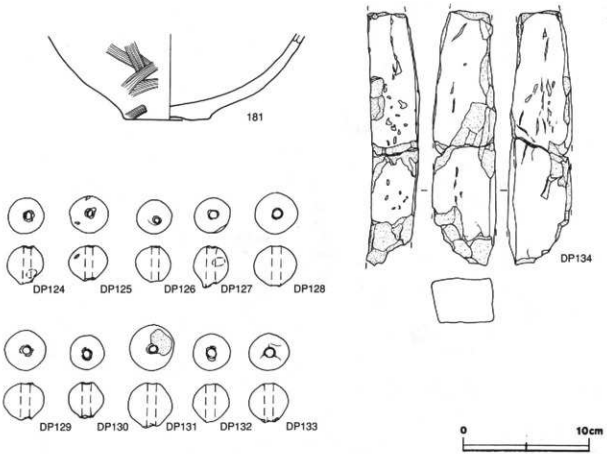
第111図　第53号住居跡実測図（1）



第112図　第53号住居跡実測図（2）



第113図　第53号住居跡出土遺物実測図（1）



第114図　第53号住居跡出土遺物実測図（2）

所見　床面から覆土中層にかけて大量の炭化材や焼土塊が検出されたことから焼失住居であることが確認され，床面から出土した土器類はそれほど多くないことから，住居廃絶後に焼失したと考えられる。さらに焼土層より上面から多くの遺物が出土し，焼失後に土器が投棄されていたようである。また，南部コーナー付近の床面から土玉がまとまって出土した。この出土状況は第51号住居跡と同様である。時期は出土土器から4世紀前半と考えられる。

第53号住居跡出土遺物観察表（第113・114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
174	土師器	椀	10.3	6.1	2.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	床面	80%
175	土師器	器台	7.9	7.1	[9.1]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	器受部内面ヘラ磨き，脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラナデ，窓3か所	中層	70% PL15
176	土師器	炉器台	[9.0]	10.1	10.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	器受部外面・脚部内・外面ハケ目整形	床面	70%
177	土師器	炉器台	7.6	(5.9)	—	長石・石英	橙	普通	脚部内・外面ハケ目整形，窓3か所確認	中層	50%
179	土師器	甕	[14.1]	21.8	6.0	長石・雲母・赤色粒子・礫	赤褐	普通	頸部から外面ハケ目整形，体部内面中段ヘラナデ，輪積み痕	上層～下層	60%
180	土師器	小形甕	[14.4]	14.3	5.2	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部ハケ目整形，体部上段から中段ハケ目整形後ヘラ磨き，輪積み痕	床面	70% 体部内面剥離
181	土師器	甕	—	(6.8)	6.6	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下段ケズリ整形，内面ナデ	覆土	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP124	土玉	3.1	2.9	0.8	22.5	土	外面ナデ，指頭痕	覆土	
DP125	土玉	2.8	3.1	0.6	24.8	土	外面ナデ，ヘラ当て痕，剥離	南コーナー付近	
DP126	土玉	2.9	2.9	0.6	20.6	土	外面ナデ	南コーナー付近	

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP127	土玉	3.3	2.8	0.9	22.1	土	外面ナデ，指頭痕	床面	
DP128	土玉	3.2	3.4	0.7	33.9	土	外面ナデ	床面	
DP129	土玉	3.0	3.3	0.7	27.7	土	外面ナデ	床面	
DP130	土玉	2.8	2.7	0.8	18.0	土	外面ナデ	床面	
DP131	土玉	3.6	3.6	0.8	41.9	土	外面ナデ	床面	一部剥離
DP132	土玉	3.1	2.9	0.8	19.8	土	外面ナデ	床面	
DP133	土玉	3.1	3.1	0.9	26.2	土	外面ナデ工具による刺突痕有り	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP134	炉石形土製品	(20.4)	5.1	4.2	(432.1)	土	外面ナデ，断面長方形，一端欠損	床面	PL41

第54号住居跡（第115～117図）

位置　調査区の中央部のＣ４g9区に位置し，標高27.3mの台地平坦部に立地している。

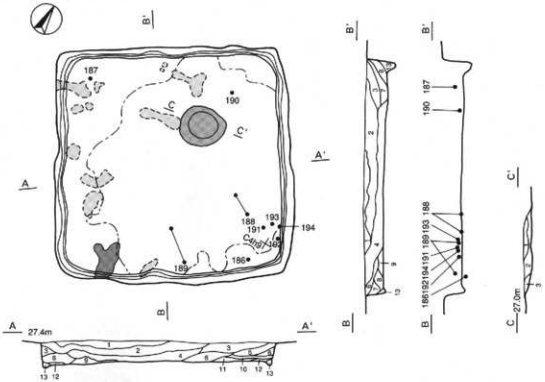
規模と形状　一辺3.8mほどの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は28～35cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，各コーナー部付近を除いて踏み固められており，壁溝が全周している。また，西壁付近には小規模な焼土塊が数か所見られた。

炉　中央部よりやや北部コーナー寄りに位置し，径65cmほどの円形で，床を８cmほど掘りくぼめている。火床面は被熱のため，強く赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック多量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量

ピット　確認できなかった。



第115図　第54号住居跡実測図

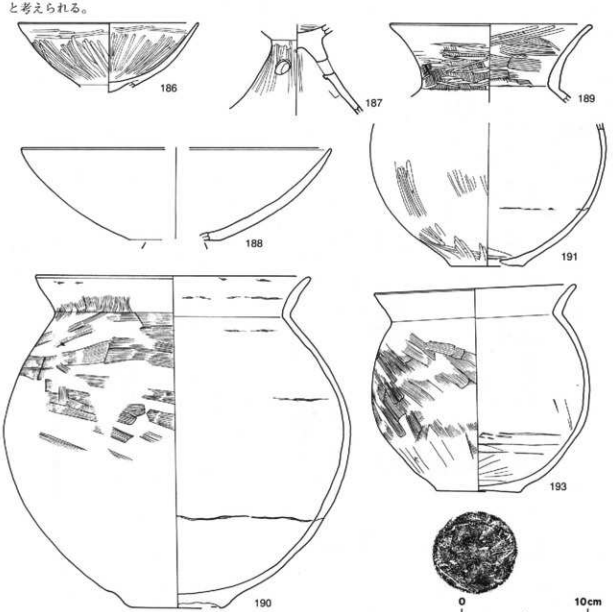
覆土　13層からなる。全体的に焼土，炭化物などが多く含まれていることから人為的に埋め戻されている可能性が高いと思われる。

土層解説

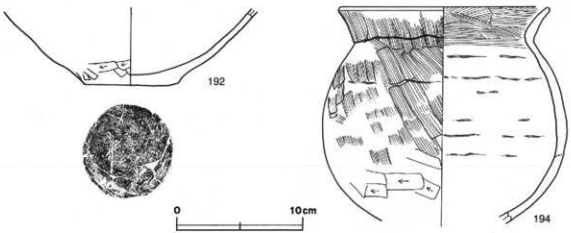
1	黒　褐　色	ロームブロック少量	
2	暗　褐　色	ロームブロック・炭化物少量	
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量	
4	黒　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量	
5	極暗褐色	ローム粒子少量	
6	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化物微量	
7	黒　褐　色	炭化物中量，ロームブロック少量	
8	黒　褐　色	炭化材中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	
9	黒　褐　色	ローム粒子多量，ロームブロック・炭化物微量	
10	黒　褐　色	ローム粒子微量	
11	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	
12	褐　　色	ロームブロック少量	
13	褐　　色	ロームブロック微量	

遺物出土状況　土師器片250点（高坏11，鉢12，壺6，甕類221），礫2点が出土しており，図示できたものは9点である。190は北部コーナー寄りの床面，191は東部コーナー付近の床面からそれぞれ土圧でつぶれたような状態で出土しており，遺棄されたものと考えられる。その他の遺物も，東部コーナー部からの出土が目立った。そのほか混入した縄文土器6点が出土している。

所見　覆土に焼土や炭化物などが含まれ，床面からも焼土塊が検出されている焼失住居である。床面付近に完形に近い甕などが残されており，住居廃絶前に焼失した可能性が考えられ，出土土器から時期は，4世紀前半と考えられる。



第116図　第54号住居跡出土遺物実測図（1）



第117図　第54号住居跡出土遺物実測図（2）

第54号住居跡出土遺物観察表（第116・117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
186	土師器	高坏	14.5	(5.6)	－	長石・赤色粒子	橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	覆土中	50%
187	土師器	高坏	－	(7.0)	－	雲母・石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，窓3か所	覆土中	30%
188	土師器	高坏	[24.6]	(7.4)	－	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	坏部内・外面ナデ	床面	30%遺存
189	土師器	壺	15.9	(6.3)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	頸部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，頸部内面ハケ目整形	下層～床面	15%
190	土師器	甕	21.9	26.7	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面頸部～中段弱いハケ目整形，内面ナデ，輪積み痕	床面	70% PL29
191	土師器	壺	－	(11.4)	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下段ヘラ磨き，内面ヘラナデ，底部有孔（焼成後），輪積み痕	床面	40% 転カ
192	土師器	甕	－	(6.2)	7.5	長石・石英・雲母・赤	にぶい橙	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面ナデ	北東壁付近床面	15%
193	土師器	小形甕	16.1	16.7	6.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面上段～中段ハケ目整形，下段ヘラ削り，内面ヘラナデ	北東壁付近床面	70%
194	土師器	小形甕	16.6	(17.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・赤	橙	普通	体部外面上段～中段ハケ目整形，下段ヘラ削り，内面ナデ，輪積み痕	北東壁際床面	80%

第55号住居跡（第118図）

位置　調査区の中央部のＣ４f8区に位置し，標高27.2mの台地平坦部に立地している。

重複関係　西コーナー付近から北西壁の半分程度を，第29号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺3.9mほどの方形で，主軸方向はＮ－38°－Ｗである。壁高は５～８cmと低いが，北西壁を除き，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められており，壁溝は全周している。

炉　中央部よりやや北側に位置し，長径82cm，短径52cmほどの楕円形で，床を13cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため，赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子中量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量

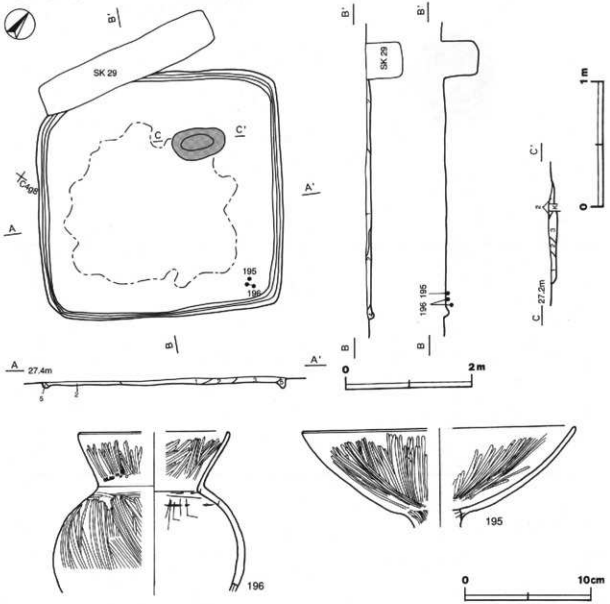
ピット　確認できなかった。

覆土　５層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片34点（高坏5，鉢3，壺3，甕類23）が出土しており，図示できたものは2点である。195・196は東部コーナー付近の床面から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第118図　第55号住居跡・出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表（第118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
195	土師器	高坏	[21.8]	(8.0)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	Ⅲコーナー付近床面	30%
196	土師器	壺	[11.9]	(12.8)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面上段ヘラ磨き，口縁部内面ヘラ磨き，体部内面ヘラナデ	床面	50%

第56号住居跡（第119・120図）

位置　調査区中央部のD4e5区に位置し，標高27.5mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.6m，短軸4.3mほどの方形で，主軸方向はN－51°－Eである。壁高は24～32cmで，各壁と

も直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，部分的に踏み固められている範囲が南西側床面に確認できた。また，壁溝は南西壁の一部に確認されている。

炉　中央部よりやや西コーナー寄りに位置し，長径70cm，短径48cmほどの楕円形で，床面を6cmほど掘りくぼめている。炉床面はあまり赤変硬化していない。

炉土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物中量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，径60cmほどの円形で，深さは32cmである。断面はU字状を呈している。

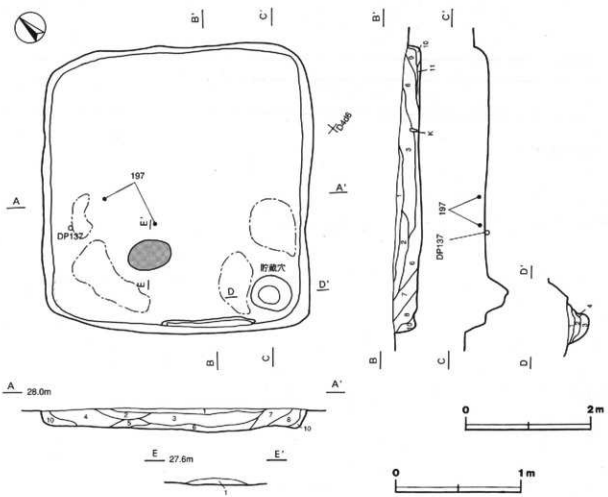
貯蔵穴土層解説

1	暗　褐　色	ローム ブロック中量，炭化物微量	3	黒　褐　色	ローム ブロック多量，炭化物少量
2	褐　　色	ローム ブロック中量	4	褐　　色	ローム ブロック多量

覆土　11層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

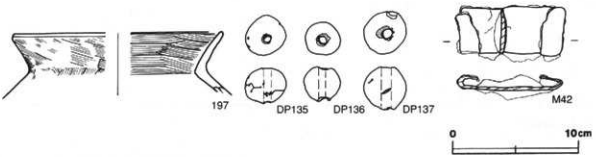
1	黒　　色	黒色ブロック中量	7	黒 暗 褐 色	ローム ブロック少量
2	黒　　色	ローム粒子微量	8	黒　褐　色	ローム ブロック少量
3	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子微量	9	暗　褐　色	ローム ブロック少量
4	黒　褐　色	ローム粒子少量	10	暗　褐　色	ローム粒子中量
5	黒　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子少量	11	黒 暗 褐 色	ローム ブロック中量
6	黒 暗 褐 色	ローム粒子中量，炭化物微量			



第119図　第56号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片212点（坩４，高坏８，甕類200），土製品１点（土玉），鉄製品１点（方形鏃先）が出土しているが，ほとんどが細片であり図示できたものは５点である。197は覆土下層から出土しているが，投棄されたものと考えられる。そのほか混入した縄文土器128点が出土している。

所見　時期を判断する遺物は少ないが，住居の形状や主軸方向などから４世紀代と考えられる。



第120図　第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
197	土師器	甕	[16.8]	(5.2)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部・頸部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形	下層	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP135	土玉	2.8	3.4	0.6	25.1	土	外面ナデ	覆土	
DP136	土玉	2.8	3.0	0.6	18.0	土	外面ナデ	覆土	
DP137	土玉	3.4	3.5	0.8	35.5	土	外面ナデ，ヘラ当痕	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M42	方形鏃先	4.0	8.8	2.1	55.9	鉄	両端部折り曲げ	覆土	PL46

第57号住居跡（第121・122図）

位置　調査区中央部のＤ４f4区に位置し，標高27.8mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北コーナー部に撹乱をうけている。

規模と形状　長軸5.9m，短軸5.0mほどの長方形で，主軸方向はＮ－47°－Ｗである。壁高は35～50cmで，壁はほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部から長軸方向に硬化面が広がっている。また，壁溝が全周しており，東壁部ではＰ２に向かって同規模の溝がまっすぐ伸びている。

炉　中央部のやや北壁寄りに位置し，径1.1mほどの円形で，床を６cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため，赤変硬化している。

ピット　４か所。すべて主柱穴と考えられ，深さは63～89cmである。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長軸100cm，短軸85cmほどの隅丸長方形で，深さは53cmである。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

覆土　13層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

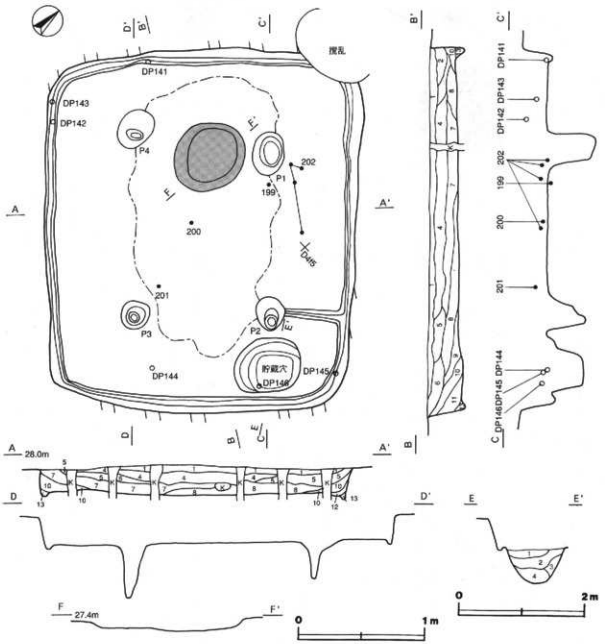
土層解説

1　黒　　色　黒色ブロック多量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　　色　ローム粒子微量

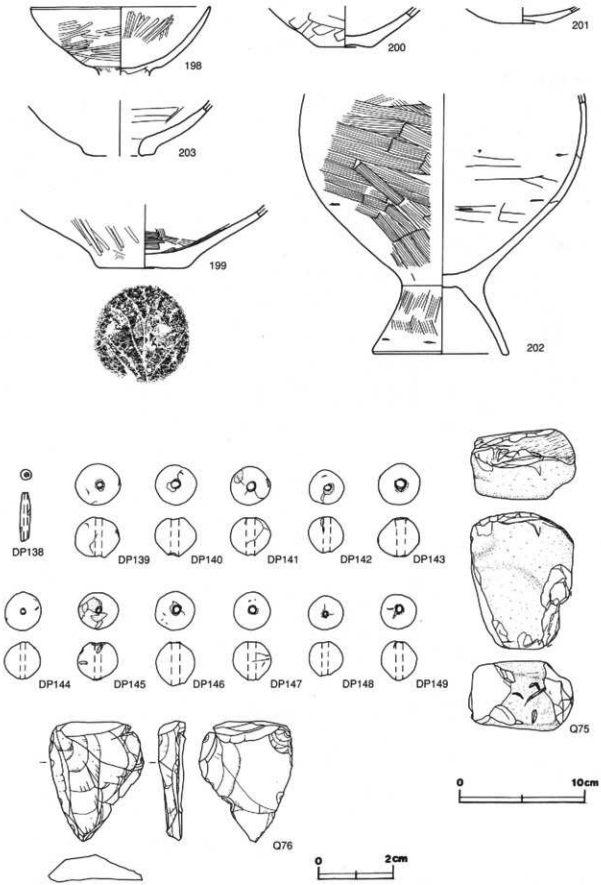
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
9　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック少量
13　暗　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片287点（坩12，高坏11，甑1，甕類263），土製品12点（管状土錘1，土玉11），石製品1点（磨石），剥片1点が散在して出土しており，図示できたものは20点である。土器類は投棄されたように出土しているが，202は床面から土圧でつぶれた状態で出土しており，本跡に伴うものと考えられる。また，DP141は北西壁際の床面，DP142・DP143は南西壁の上層から中層，DP145は北東壁際の床面からそれぞれ出土している。そのほか，混入した縄文土器85点が出土している。

所見　時期は出土土器から4世紀代と考えられる。



第121図　第57号住居跡実測図



第122図　第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
198	土師器	高坏	14.4	(5.5)		長石・石英	明赤褐	普通	脚部内・外面ヘラ磨き	覆土	30%
199	土師器	甕	—	(5.1)	7.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	下段外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形，底部木葉痕	床面	10%
200	土師器	小形甕		(3.3)	4.4	長石・石英	黄橙	普通	下段外面ヘラナデ，内面ナデ	床面	10%
201	土師器	甕	—	(1.3)	3.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	下段内・外面ナデ	下層	10%
202	土師器	台付甕	—	(20.8)	10.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部・脚部外面ハケ目整形，体部内面ヘラナデ，脚部内面ナデ，輪積み痕	下層～床面	60%
203	土師器	甑	—	(4.5)	(5.6)	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ，内面ヘラナデ，穿孔（焼成前）	覆土	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP138	管状土錘	(3.9)	0.9	0.3	(2.9)	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	覆土	PL41
DP139	土玉	3.2	3.5	0.6	34.1	土	外面ナデ	覆土	
DP140	土玉	3.1	3.3	0.6	28.3	土	外面ナデ，指頭痕	覆土	
DP141	土玉	3.1	3.2	0.7	26.8	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	北西壁際床直	
DP142	土玉	2.9	2.8	0.6	19.1	土	外面ナデ	南西壁際上層	
DP143	土玉	3.2	3.3	0.9	29.4	土	外面ナデ	南東壁際床直	
DP144	土玉	2.9	3.0	0.4	23.4	土	外面ナデ	床面	
DP145	土玉	3.0	3.2	0.5	24.5	土	外面ナデ	北東壁際床直	
DP146	土玉	3.4	3.1	0.7	30.5	土	外面ナデ	下層	
DP147	土玉	3.0	3.0	0.7	25.5	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	覆土	
DP148	土玉	2.7	2.8	0.5	18.6	土	外面ナデ	覆土	
DP149	土玉	3.1	2.9	0.6	22.2	土	外面ナデ	覆土	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	砥石	11.0	8.3	5.6	824.7	砂岩	全面研磨痕，一部欠損	覆土	
Q76	剥片	3.2	2.56	0.7	5.5	チャート	板状剥片	覆土	

第58号住居跡（第123図）

位置　調査区中央部D 4 e2に位置し，標高27.9mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　一辺3.8mほどの方形で，主軸方向はN－6°－Wである。壁高は残りのよい部分で6～10cmであり，緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた様子は見られず，壁溝も認められない。

炉　中央部よりやや西寄りに確認され，長径48cm，短径36cmほどの楕円形で掘り込みや火床面はほとんど確認できず，床面上に焼土が検出された状態である。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南西コーナー部のやや東側に位置し，径35cmほどの円形で，深さは21cm，U字状に掘り込まれている。また，貯蔵穴に接して，北部には深さ10cmほどの楕円形状のくぼみが確認された。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ロ・ム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　暗褐褐色　ロ・ムブロック微量

覆土　6層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

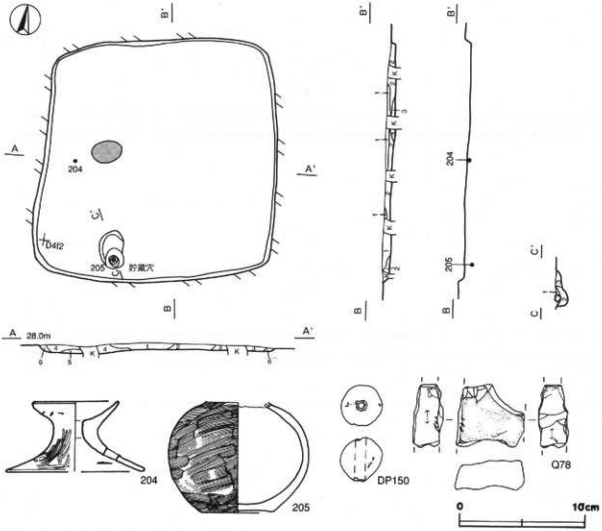
土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐褐色　ローム粒子少量
4　暗褐褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量
6　灰褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片58点（器台1，坩1，鉢2，高坏2，甕類52），土製品1点（土玉），石製品1点（砥

石）が出土しており，図示できた遺物は4点である。204は床面から正位の状態で，205も貯蔵穴の覆土上層から正位の状態で出土している。そのほか混入した縄文土器5点が出土している。

所見　時期は，出土土器から，4世紀代と考えられる。



第123図　第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
204	土師器	甕台	6.8	5.6	[10.9]	長石・石英・雲母・赤焼子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，窓3か所	床面	80%PL15
205	土師器	小形壺	－	(8.9)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目整形，内面ナデ	貯蔵穴覆土	80%PL21

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP150	土玉	3.4	3.4	0.8	32.0	土	外面ナデ	覆土	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q78	砥石	5.0	5.5	2.4	48.5	凝灰岩	砥面2面	覆土	

第62号住居跡（第124～126図）

位置　調査区中央部のＤ２g0区に位置し，標高27.5mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北コーナー部を，第８号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南西部が調査区域外であり，また，北コーナー部を第８号溝に掘り込まれているため，本来の形状を明確にすることはできないが，長軸3.8m，短軸2.4mほどが確認された。方形もしくは長方形と考えられ，主軸方向はＮ－27°－Ｗで，壁高は38～46cmで，直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉，柱穴，貯蔵穴周辺を除いて硬化面が広がっている。また，確認した範囲では，南東コーナー部を除いて壁溝が巡っている。

炉　中央部よりやや北側に確認され，長径77cm，短径42cmほどの不整楕円形である。掘り込みは見られず，床面に薄く焼土が検出された状態であり，炉床面はそれほど赤変硬化していない。

ピット　２か所。ともに主柱穴と考えられ，深さはそれぞれ50cm，56cmであった。調査区域外にも主柱穴が残存しているものと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置し，平面形は径64cmほどの円形で，深さは25cmである。底面は平坦であり，壁は南西側が外傾しているが，ほかは直立ぎみに立ち上がる。

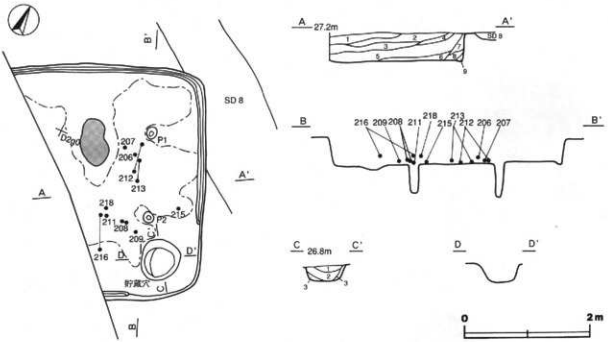
貯蔵穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子微量

覆土　確認された層は９層で，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

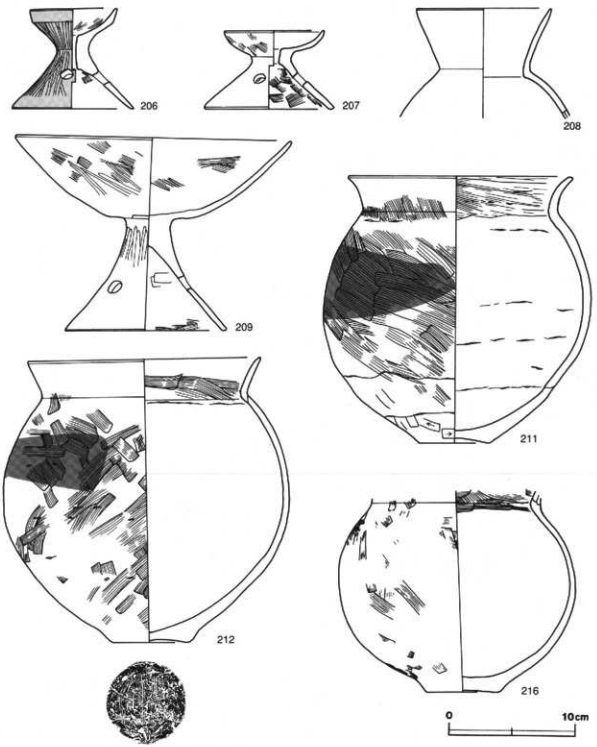
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子微量



第124図　第62号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片188点（器台３，坩５，高坏23，甕類156，甑１）が，中央部付近に集中して出土しており，図示できたものは10点である。206・208は正位で，207は斜位，209は横位，211は土圧でつぶれた状態で床面から出土し，これらは遺棄されたものと考えられる。そのほか混入した鉄製品２点（不明２），剥片１点，縄文土器120点が出土している。

所見　南西部が調査区域外であり，さらに，北コーナー部を第８号溝に掘り込まれているため，全体の形状が不明確であったが，良好な状態で多数の遺物が出土した。時期は，出土土器から４世紀前～中頃と考えられる。



第125図　第62号住居跡出土遺物実測図（1）

第126図　第62号住居跡出土遺物実測図（2）

第62号住居跡出土遺物観察表（第125・126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
206	土師器	器台	7.0	8.0	9.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	器受部外面ハケ目整形後ナデ，脚部内面ハケ目整形，窓3か所	下層	100%外面赤彩 PL15
207	土師器	器台	8.0	6.3	10.3	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	床面	90% PL16
208	土師器	埦	10.8	(8.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内外面ナデ	下層～覆土	50%
209	土師器	高坏	22.0	15.8	12.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	器受部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，脚部外面ヘラ磨き，器受部・脚部内面ハケ目整形	下層	80% PL18
211	土師器	甕	17.8	21.4	5.6	長石・石英・雲母・礫	にぶい橙	普通	頸部～体部外面中段ハケ目整形，下段ヘラ削り，口縁部内面ハケ目整形後ナデ	床面	100%煤付着 PL23
212	土師器	甕	18.4	23.0	6.0	長石・石英・雲母・礫	明赤褐	普通	体部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形後ナデ，底部ハケ目整形	下層～床面	90%煤付着 PL23
213	土師器	甕	－	(19.6)	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面中段ハケ目整形，下段ヘラ削り後ヘラナデ，内面ヘラナデ	床面	40%
215	土師器	甕	－	(4.5)	5.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目整形，内面ナデ	床面	10%
216	土師器	小形甕	－	(16.1)	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面弱いハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形	下層	90%
218	土師器	甑	－	(3.3)	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下段ハケ目整形，内面ヘラナデ，単孔	中層	10%

第63号住居跡（第127・128図）

位置　調査区西部のＤ２c6区に位置し，標高27.7mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北コーナー部で，第64号住居跡の南コーナー部付近を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.9m，短軸4.6mほどの方形で，主軸方向はＮ－27°－Ｅである。壁高は38～44cmで，直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から北側にかけて踏み固められている。また，Ｐ２から北東壁に向かって長さ80cm，幅20cm，高さ８cmほどの土手状の高まりが確認され，壁溝が全周している。また，床面全面に焼土塊が広がっている。

炉　中央部よりやや北寄りに位置しており，径50cmほどの円形で，床を12cmほど掘り込んでいる。また炉床面中央部には，甕の体部破片が立った状態でしっかりと埋め込まれており，炉石の代用品と考えられる。炉床

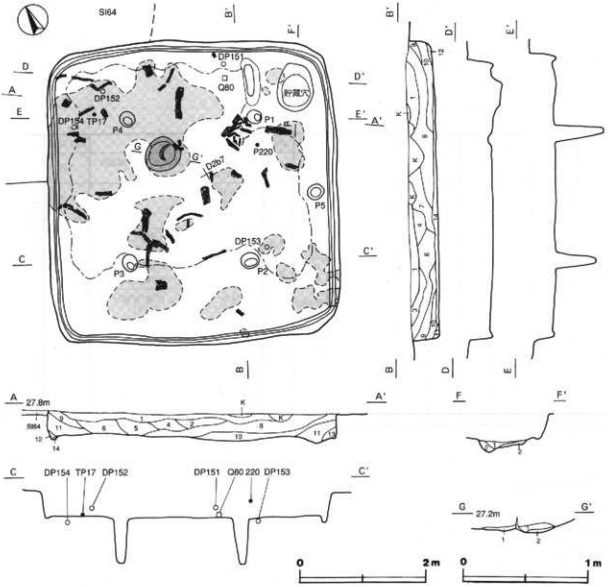
面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説
1 暗 褐 色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量　　2 暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子少量

ピット　5か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは64～80cmである。Ｐ５は，南東壁寄りの中央部，ほぼ炉と向き合う位置にあり，出入り口施設に関係するものと考えられる。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径75cm，短径55cmほどの楕円形で，深さは20cmである。底面は南西壁方向に傾斜しており，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子微量　　2 褐 色　ローム粒子微量



第127図　第63号住居跡実測図

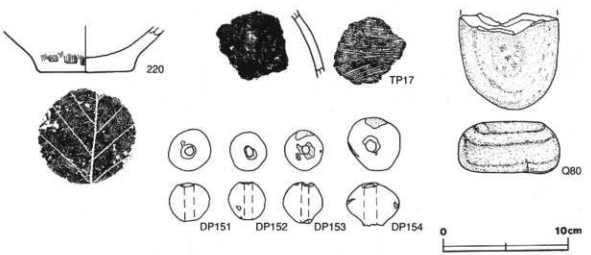
覆土　14層からなり，不自然な堆積状況を示した人為堆積である。なお，床面と壁際に堆積する第6・10・12・13・14層は本跡の焼失に伴って形成された層と考えられる。

土層解説

1	極暗褐色	ローム ブロック中量		8	暗褐色	ローム ブロック多量	
2	暗褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量		9	黒色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	
3	黒褐色	ローム ブロック少量，炭化粒子微量		10	黒褐色	炭化材中量，ローム粒子微量	
4	極暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量		11	暗褐色	ローム粒子少量	
5	極暗褐色	ローム ブロック少量		12	暗褐色	ローム ブロック・焼土ブロック中量，炭化材少量	
6	黒褐色	ローム ブロック多量，炭化物少量		13	極暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量	
7	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量		14	黒色	焼土ブロック多量，ローム粒子少量，炭化材微量	

遺物出土状況　土師器片258点（坪1，高坏8，鉢7，甕類242），土製品4点（土玉），石製品1（磨石）が北コーナー部付近を中心に，焼土・炭化材とともに出土しており，7点が図示できた。炭化材は柱，梁と思われる大型の部材も確認されている。DP153・DP154は床面から出土し，ほかは床からの出土は少なく，覆土中層からの出土が多い。そのほか，混入した縄文土器27点が出土している。

所見　床面から焼土塊が検出され，覆土に焼土，炭化材などが多量に含まれていることから焼失住居である。床面からの出土土器が少なく，焼土や炭化材と同じ高さ，もしくは上面から確認されており，焼失は住居廃絶後と考えられる。時期は第64号住居跡との重複関係などから，4世紀中頃と考えられる。



第128図　第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
220	土師器	甕	－	(3.6)	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子・瑯	橙	普通	体部外面下段弱いハケ目整形，底部木葉痕	中層	
TP17	土師器	甕	－	(5.4)	－	長石・赤色粒子	浅黄	普通	体部内面ハケ目整形	中層	

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP151	土玉	3.0	3.3	0.7	28.3	土	外面ナデ	北東壁付近中層	
DP152	土玉	2.9	2.9	0.7	24.6	土	外面ナデ	中層	
DP153	土玉	3.2	3.1	0.6	28.4	土	外面ナデ	床面	
DP154	土玉	3.4	4.2	1.0	43.5	土	外面ナデ，算盤玉状	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q80	磨石	(7.7)	(8.0)	4.2	(338.2)	流紋岩	全面研磨痕，全面被熱	下層	

第64号住居跡（第129図）

位置　調査区中央部のＤ２b6区に位置し，標高27.7mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　南コーナー部付近を第63号住居に掘り込まれている。

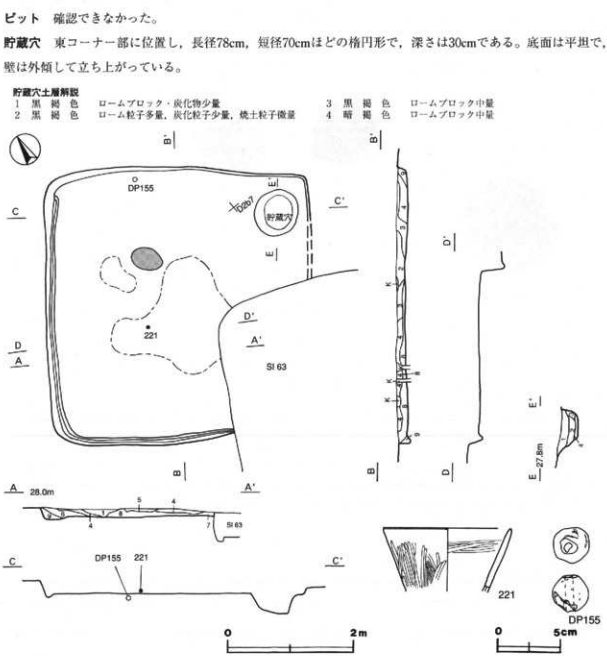
規模と形状　一辺4.0mほどの方形で，主軸方向はＮ－24°－Ｅである。壁高は18～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。壁溝は北西・南西壁際で認められた。

炉　中央部よりやや北側に位置しており，長径50cm，短径32cmほどの楕円形で，掘り込みは確認できず床面に焼土が薄く堆積した状態で検出された。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径78cm，短径70cmほどの楕円形で，深さは30cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。



第129図　第64号住居跡・出土遺物実測図

覆土　9層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子少量
4　極　暗　褐　色　　ロームブロック少量
5　黒　　色　　黒色ブロック多量
6　黒　　色　　ローム粒子微量
7　黒　褐　色　　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片203点（坩2，甕類201），土製品1点（土玉）が出土しているが，ほとんどが細片で，図示できたものは2点である。221は床面，DP155は北東壁の床面からそれぞれ出土しており，本跡に伴う物と考えられる。そのほか混入した縄文土器50点が出土している。

所見　時期を判定する遺物は少なかったが，第63号住居跡との重複関係などから，4世紀前半と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	器別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
221	土師器	坩	10.2	(5.1)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面丁寧なヘラ磨き	床面	30%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP155	土玉	2.9	2.8	0.7	20.5	土	外面ナデ，孔あけ失敗と思われる痕跡	床面	北東壁付近

第66号住居跡（第130～132図）

位置　調査区の西部のD2b3区に位置し，標高27.5mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北壁から東壁が，第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.8m，短軸4.4mほどの方形で，主軸方向はN－18°－Eである。壁高は18～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は見られず，壁溝は西壁・南壁の一部に確認された。

炉　5か所。中央部より北側に重複して2基，中央部よりやや南寄りに3基が確認された。炉1は炉2を掘り込み，長径70cm，短径50cmの楕円形，炉2は長径50cm，短径35cmほどの楕円形と推測され，炉2を使用後に炉1を使用したものと考えられる。炉3～5は径30cmほどの円形であり，いずれも掘り込みは確認できなかったが，炉床面は被熱のため赤変硬化していた。

ピット　1か所。深さは24cmで性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に位置し，長径58cm，短径50cmほどの楕円形で，深さは32cmである。断面はU字状を呈している。

覆土　9層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

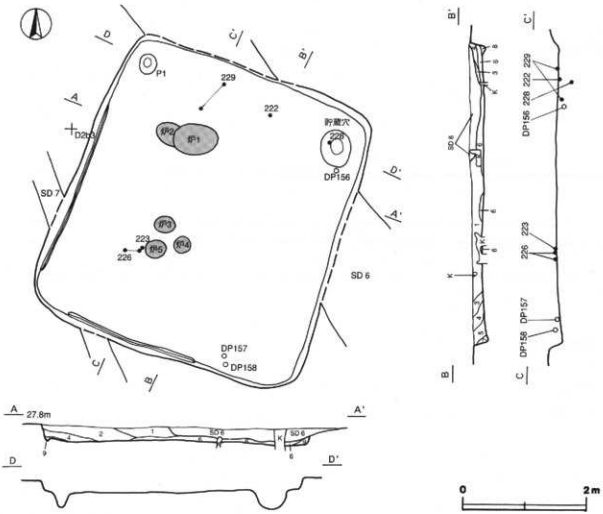
土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極　暗　褐　色　　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗　褐　色　　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　　ロームブロック中量
7　褐　色　　ロームブロック多量
8　明　赤　褐　色　　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
9　極　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

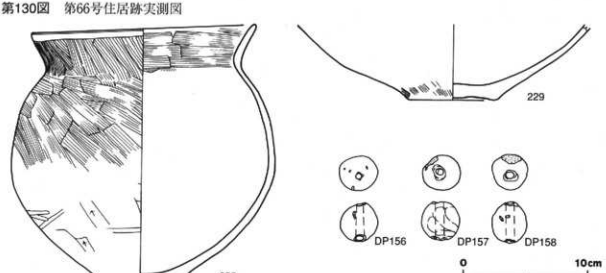
遺物出土状況　土師器片238点（器台6，高坏12，甕8，甕類212），土製品3点（土玉），礫3点が北部，西部を中心に出土しており，図示できたものは8点である。222は正位，223は斜位で床面からそれぞれ出土し，228は横位で貯蔵穴内から出土している。いずれも本跡に伴うものと考えられる。また，DP157は南東壁付近

の床面，DP158も同じく下層から出土している。そのほか混入した縄文土器37点が出土している。

所見　第６号溝に掘り込まれているが，遺物は溝底面より下の層からの出土であり，時期は出土から４世紀代と考えられる。



第130図　第66号住居跡実測図



第131図　第66号住居跡出土遺物実測図（1）

第132図　第66号住居跡出土遺物実測図（2）

第66号住居跡出土遺物観察表（第131・132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
222	土師器	器台	－	(6.3)	11.9	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ハケ目整形，内面ヘラ当て痕，意3か所	床面	50%
223	土師器	壺	10.9	(8.0)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部体部上段外面ヘラナデ，頸部指頭痕，内面ナデ	床面	60%
226	土師器	壺	10.8	(11.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，輪積み痕	床面	30%
228	土師器	甕	17.9	20.8	6.4	長石・石英	橙	普通	口縁部～体部外面上段ハケ目整形，下段ヘラ削り，口縁部内面ハケ目整形	貯蔵穴内	100% PL25
229	土師器	甕	－	(6.0)	7.2	長石・石英	明黄褐	普通	体部外面下段剥いハケ目整形，内面ナデ	床面	10%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP156	土玉	2.9	3.0	0.7	23.9	土	外面ナデ	床面	
DP157	土玉	3.0	3.0	0.7	22.2	土	外面ナデ	南西壁付近下層	
DP158	土玉	3.1	2.8	0.7	21.5	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	下層	

第67号住居跡（第133～135図）

位置　調査区中央部のＣ４e3区に位置し，標高27.5mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.2m，短軸5.0mほどの方形で，主軸方向はＮ－44°－Ｅである。壁高は35～48cmで，直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，中央部から広い範囲にわたって踏み固められており，西コーナー部付近を除いて壁溝が巡っている。また，南西壁付近と東コーナー部付近に焼土塊が見られた。

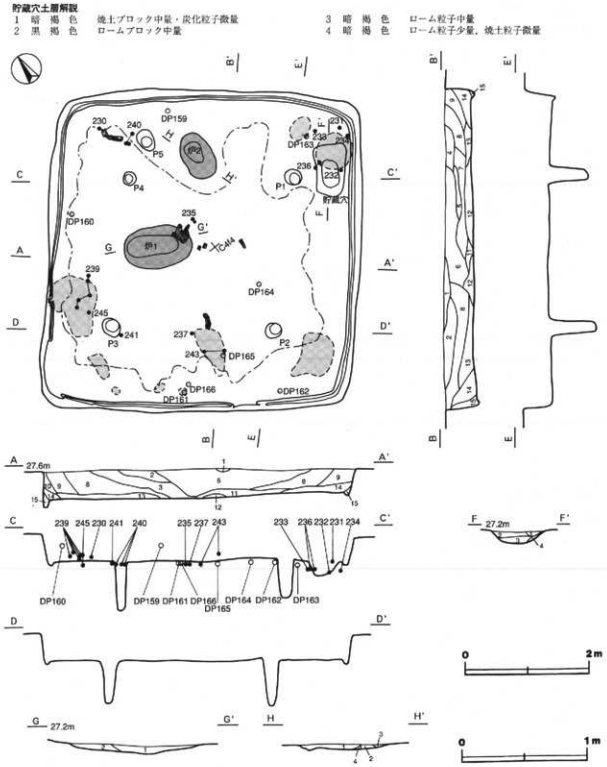
炉　２か所。中央部より北西壁寄りに炉１，北東壁寄りに炉２が位置している。炉１は長径1.1m，短径70cmの楕円形で，床を12cmほど掘りくぼめている。炉２は長径80cm，短径50cmほどの楕円形で床を８cmほど掘りくぼめ，炉床面南側に土器片を埋め込んでいる。いずれも炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗　褐　色　　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量

炉２土層解説
1　暗 赤 褐 色　　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　　焼土ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　　焼土粒子微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは64～80cmである。Ｐ５は深さ12cmで北コーナー付近に位置しているが，性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナー付近に位置し，長軸80cm，短軸26cmほどの隅丸長方形で，深さは24cmである。底面は平坦で，壁はなだらかに外傾して立ち上がっている。



第133図　第67号住居跡実測図

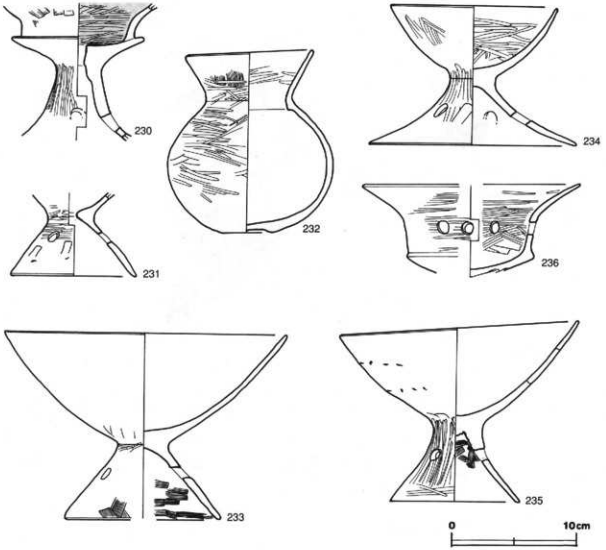
覆土　15層からなる。レンズ状に堆積し，壁際付近と覆土中層から下層の第7～15層は焼土，炭化物などが多く含まれていることから，本跡の焼失に伴って形成された層と考えられる。

土層解説

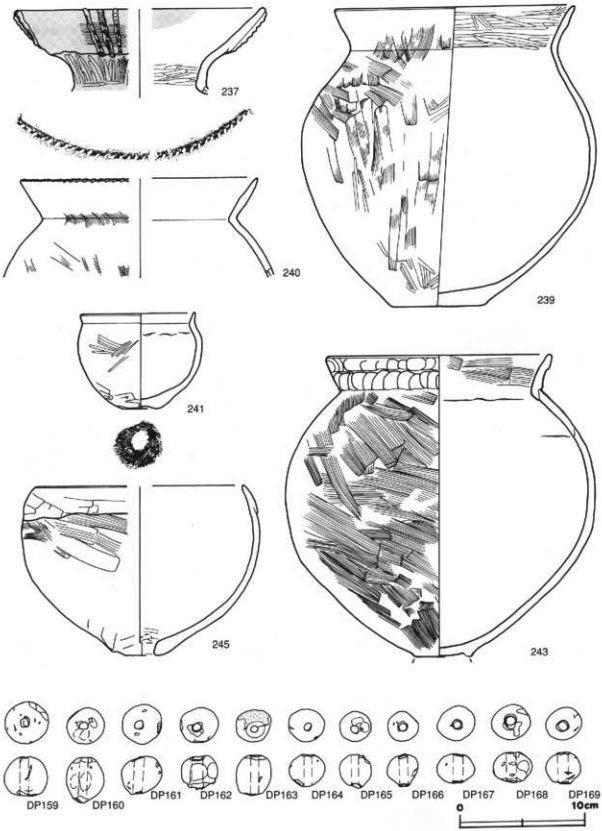
1	黒　　色	ローム粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック・炭化材少量
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
4	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
5	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
6	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化物少量
7	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒　褐　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物微量
9	黒　褐　色	ローム粒子少量
10	極暗褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化物少量
11	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物少量
12	黒　褐　色	ローム粒子・炭化材中量
13	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化物・焼土ブロック少量
14	極暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗　褐　色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片703点（器台7，坩4，高坏17，鉢3，壺9，甕類663），土製品11点（土玉），礫3点，が出土しており，図示できたものは24点である。232・236は貯蔵穴内，230は逆位で北コーナー付近の床面，239・243は土圧でつぶれたように出土し，237は床面から斜位で出土している。また，DP160は北西壁付近の中層，DP161・DP166は南西壁付近の床面からそれぞれ出土している。そのほか，混入した陶器（椀1），縄文土器39点が出土している。

所見　床面から焼土塊が検出され，覆土にも焼土・炭化材などが多量に含まれていることから，焼失住居と考えられる。床面から完形に近い状態の土器が比較的多く出土していることから，住居廃絶前に焼失したと思われる。時期は，出土土器から4世紀前半と考えられる。



第134図　第67号住居跡出土遺物実測図（1）



第135図　第67号住居跡出土遺物実測図（2）

第67号住居跡出土遺物観察表（第134・135図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
230	土師器	器台	－	(11.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	器受部外面弱いハケ目整形，脚部外面・器受部内面ヘラ磨き	北コーナー付近覆土	30%受部破片接合不能
231	土師器	器台	－	(6.7)	10.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，底3か所	東コーナー付近覆土	60% PL16
232	土師器	坩	10.2	4.6	4.0	長石・石英	橙	普通	口縁部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，体部外面ヘラ磨き，口縁部内面ヘラ磨き	貯蔵穴内	95% PL21
233	土師器	高坏	22.7	15.2	(12.5)	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	坏部内外面ハケ目整形後ヘラ磨き，脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，裾2か所穿孔	東コーナー付近覆土	30% PL18
234	土師器	高坏	13.4	11.2	16.7	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，坏部内面ヘラ磨き，裾は封じ3単位	北コーナー付近覆土	90% PL18
235	土師器	高坏	19.3	14.6	10.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部内・外面ナデ，脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，裾3か所穿孔	床面	80% PL17
236	土師器	装飾高坏	(17.4)	(7.5)	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚受部内外面丁寧なヘラ磨き，裾は封じ4単位	貯蔵穴内	30% PL17
237	土師器	壺	(20.0)	(6.9)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口頸部外面横式浮文貼付	床面	20%外面剥落 PL20
239	土師器	甕	19.3	24.3	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部～体部外面中段ハケ目整形，下段ヘラ磨き，口縁部内面ヘラ磨き，底部ハケ目	床面	80% PL29
240	土師器	甕	(19.2)	(8.0)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横内面工具によるキザミを施す	床面	20%
241	土師器	小形甕	9.1	7.7	2.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	淡赤褐	普通	体部外面上段ヘラ磨き，下段ヘラ削り，内面ナデ，輪積み痕	床面	90% PL24
243	土師器	台付甕	17.9	(24.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面沿面底，体部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形，輪積み痕	床面	75% PL29
245	土師器	甕	(16.6)	13.6	－	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	接合口縁部ヘラナデ，体部外面上段ハケ目整形，下段ヘラ削り，単孔	床面	70%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP159	土玉	3.1	3.5	0.7	36.4	土	外面ナデ，ヘラ当痕	中層	
DP160	土玉	3.7	3.0	0.7	31.9	土	外面ナデ，断面楕円形，指頭痕	北西壁溝中層	
DP161	土玉	3.1	3.2	0.8	28.8	土	外面ナデ	南西隅部覆土	
DP162	土玉	2.7	3.0	1.0	20.3	土	外面ナデ，指頭痕	床面	
DP163	土玉	3.1	2.8	0.6	25.3	土	外面ナデ，断面楕円形	床面	
DP164	土玉	2.6	2.8	0.6	17.4	土	外面ナデ	床面	
DP165	土玉	2.7	2.5	0.6	14.3	土	外面ナデ	床面	
DP166	土玉	2.6	2.5	0.7	12.3	土	外面ナデ，ヘラ当痕	東壁溝覆土	
DP167	土玉	2.4	2.9	0.8	17.4	土	外面ナデ	覆土	
DP168	土玉	2.4	3.1	0.9	18.0	土	外面ナデ	覆土	
DP169	土玉	2.5	2.8	1.0	16.4	土	外面ナデ	覆土	

第68号住居跡（第136・137図）

位置　調査区中央部のＣ４f6区に位置し，標高27.3mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　南東部が調査区域外であり，本来の形状を明確にすることはできないが，北西5.7m，南西4.6mほどが確認された。形状は，方形または長方形と考えられ，主軸方向は炉の位置からＮ－28°－Ｗと推定される。壁高は40～44cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，踏み固められており，確認された部分には壁溝が巡っている。また，北部コーナー付近と北西壁付近の一部に小規模の焼土塊が見られた。

炉　中央部よりやや北側に位置し，一部が調査区域外にのびている。長径1.1m，短径45cmほどの楕円形と推測され，床面を7cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説

1	黒　褐　色	ローム ブロック・焼土粒子微量	2	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量

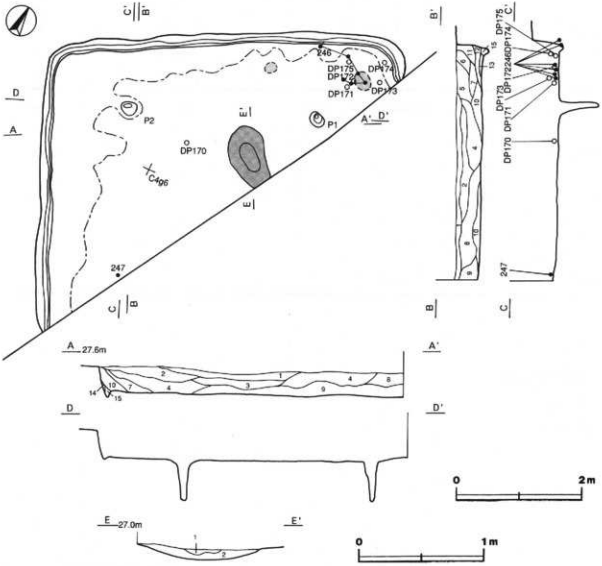
ピット　2か所。ともに主柱穴と考えられ，深さはそれぞれ65cm，71cmである。

覆土　15層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

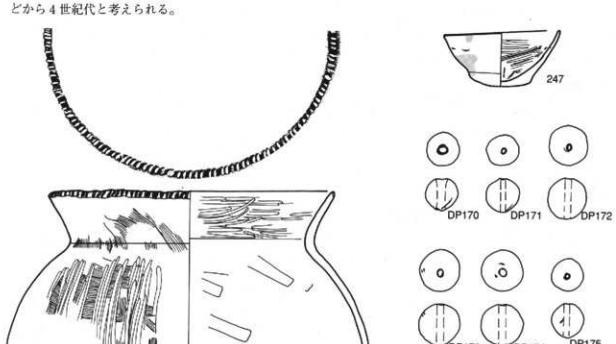
1	黒　褐　色	ローム ブロック微量	9	暗　褐　色	ローム ブロック多量
2	黒　褐　色	ローム粒子少量	10	極 暗 褐 色	ローム ブロック微量
3	極 暗 褐 色	ローム ブロック中量	11	黒　褐　色	ローム ブロック少量
4	黒　褐　色	ローム ブロック中量，炭化粒子微量	12	黒　　色	ローム粒子・焼土粒子少量
5	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	13	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化物微量
6	黒　褐　色	ローム ブロック・炭化粒子微量	14	暗　褐　色	ローム ブロック少量
7	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	15	暗　褐　色	ローム粒子多量
8	黒　褐　色	ローム ブロック多量			

遺物出土状況　土師器片77点（高坏4，甕類72，ミニチュア土器1），土製品6点（土玉）が出土しており，図示できたものは8点である。DP171～DP175は北コーナー付近の床面からまとまって出土している。そのほか混入した縄文土器37点が出土している。



第136図　第68号住居跡実測図

所見　南東側半分が調査区域外であり，全体の形状が不明確で時期判定資料の出土も少ないが，住居の形状などから4世紀代と考えられる。



第137図　第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表（第137図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
246	土師器	甕	22.7	(15.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部擬状工具によるキザミ，体部上段外面ハケ目整形後ヘラ磨き	床面	30% PL23
247	土師器	ミニュチュア土器	9.3	4.7	4.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ナデ，内面ヘラ磨き，一部赤彩	床面	95% PL33

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP170	土玉	2.6	2.7	0.9	17.3	土	外面ナデ，ヘラ当て痕	床面	
DP171	土玉	2.7	2.7	0.4	15.3	土	外面ナデ	床面	
DP172	土玉	3.3	3.2	0.5	34.3	土	外面ナデ	床面	
DP173	土玉	3.3	3.3	0.5	34.7	土	外面ナデ	床面	
DP174	土玉	3.3	3.4	0.6	36.4	土	外面ナデ	床面	
DP175	土玉	2.7	2.6	0.4	15.9	土	外面ナデ	床面	

第69号住居跡（第138・139図）

位置　調査区中央部のＣ４h4区に位置し，標高27.6mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.2m，短軸4.7mほどの長方形で，主軸方向はＮ－55°－Ｗである。壁高は50～56cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　西部分にやや凹凸が見られる。また，貯蔵穴の北西側には，南東壁と平行するように長さ2.2m，幅50cm，高さ６cmほどの土手状の高まりが確認され，南西壁の南コーナー付近から，北東壁に向かって長さ1.2m，幅

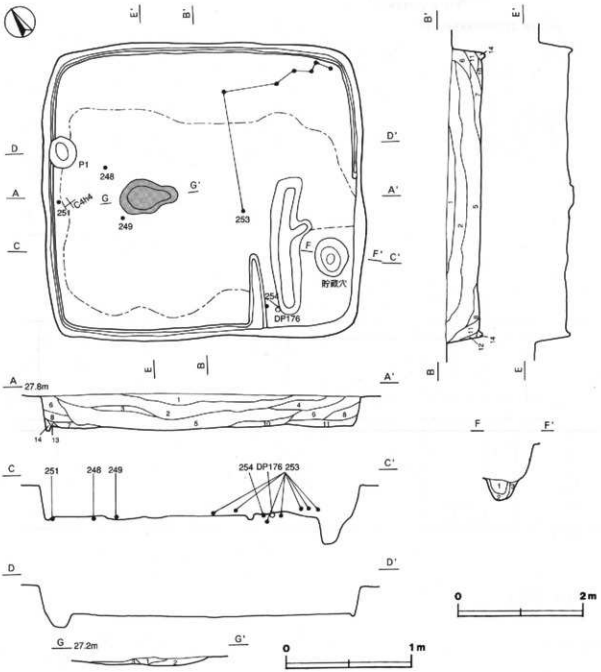
25cmほどの溝状の掘り込みが確認された。床面は北東壁付近，南コーナー付近を除き踏み固められており，南コーナー付近を除いて壁溝が巡っている。

炉　中央部よりやや北西壁寄りに確認された。長径94cm，短径50cmの不整楕円形で，床を13cmほど掘りくぼめている。炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　暗赤褐色　　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

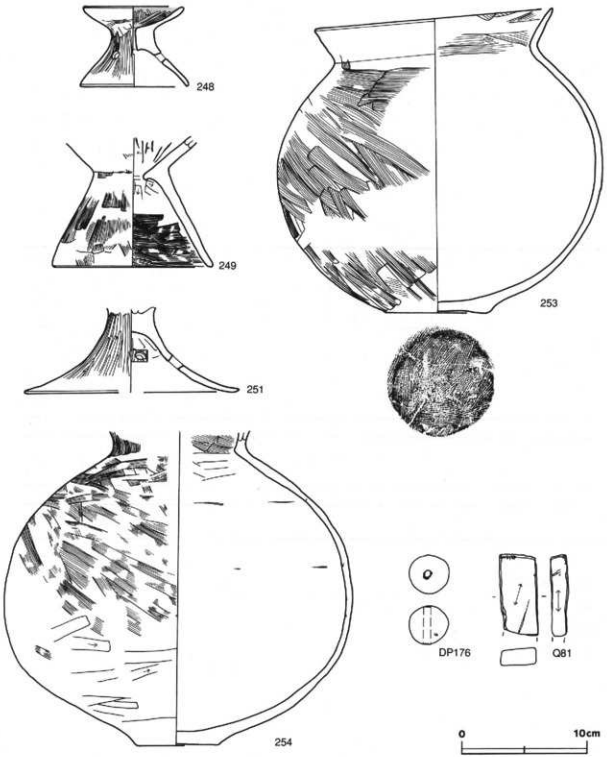
ピット　1か所。北西壁際の中央部に，深さ20cmのピットが確認されたが，性格は不明である。



第138図　第69号住居跡実測図

貯蔵穴　南コーナー寄りに位置し，径55cmほどの円形で，深さ40cmである。断面はU字状を呈している。

貯蔵穴土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量



第139図　第69号住居跡出土遺物実測図

覆土　14層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　極暗褐色　ローム・ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
4　黒　褐　色　ロー．ムブロック中量
5　極暗褐色　ローム粒子多量
6　極暗褐色　ロームブロック中量・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　ローム・ブロック少量
10　黒　褐　色　ロー．ムブロック少量
11　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
12　暗赤褐色　ロー．ム粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
14　暗　褐　色　ロー．ム粒子中量

遺物出土状況　土師器片223点（器台6，坩3，高坏3，壺6，甕類205），土製品1点（土玉），石製品1点（砥石）が中央部付近の覆土中層から下層にかけて出土しており，図示できたものは7点である。248は中央西寄りの床面，251は北西壁際の床面，254は南コーナー付近の床面から出土でつぶれた状況でそれぞれ出土し，本跡に伴うものと考えられる。またDP176は南西壁付近の床面から出土している。そのほか混入した縄文土器67点が出土している。

所見　時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。

第69号住居跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
248	土師器	器台	7.9	6.5	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	器受部・脚部外面ヘラ磨き，器受部内面ヘラ磨き，底3か所，赤彩	床面	100% PL16
249	土師器	坩器台	－	(10.4)	12.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部内・外面ハケ目整形，器受部内面ヘラ当て後	床面	60% PL16
251	土師器	高坏	－	(6.9)	[17.4]	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ当て後，底3か所	北西壁際床面	45%
253	土師器	甕	18.9	24.6	8.4	長石・石英	橙	普通	体部外面・口縁部内面ハケ目整形，底部ハケ目整形	下層～床面	80% PL29
254	土師器	壺	－	(25.3)	6.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部内外面・体部上段～中段外面ハケ目整形，下段ヘラ削り，輪積み痕	南コーナー付近床面	60% 内面剥離

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP176	土玉	3.1	3.2	0.6	29.7	土	外面ナデ	南西壁付近床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q81	砥石	(6.6)	(3.1)	1.5	(3.6)	凝灰石	表裏2面	…	PL45

第70号住居跡（第140・141図）

位置　調査区の中央部のＣ４j2に位置し，標高27.2mほどの台地平坦部に立地している。

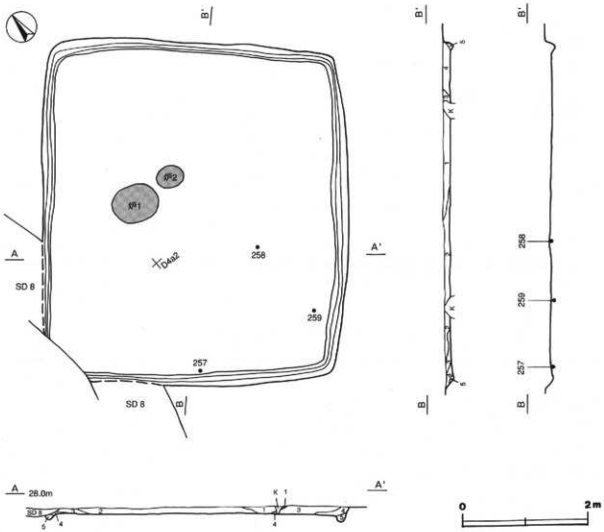
重複関係　西コーナー部を，第８号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.6m，短軸4.9mほどの長方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｅである。壁高は10～15cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

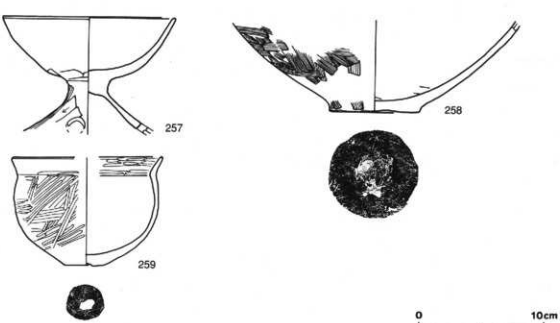
床　ほぼ平坦で，踏み固められた様子はそれほど見られず，確認された床面には壁溝が全周している。

炉　２か所。中央部よりやや北側に炉１，炉２と並んで位置している。炉１は長径75cm，短径60cmほどの楕円形で，炉２は径40cmほどの円形である。いずれも掘り込みは確認できず，床面上に焼土が検出された状態であるが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

ピット　確認できなかった。



第140図　第70号住居跡実測図



第141図　第70号住居跡出土遺物実測図

覆土　5層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム ブロック少量
2　暗 赤 褐 色　　ローム粒子多量，炭化物少量
3　暗　褐　色　　ローム ブロック少量
4　暗　褐　色　　ローム粒子少量
5　褐　　色　　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片123点（器台1，高坏3，甕類119），土製品1点（土玉），礫2点が散在して出土しており，図示できたものは3点である。257は南西壁際の覆土下層，259は南東壁付近の床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。そのほか混入した縄文土器17点が出土している。

所見　新旧関係は不明であるが，炉が隣接して2か所検出された。用途によって使い分けられていた可能性が考えられる。時期は，出土土器から，4世紀中頃と考えられる。

第70号住居跡出土遺物観察表（第141図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
257	土師器	高坏	13.9	(9.4)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	南西壁付近下層	70%
258	土師器	甕	—	(7.3)	7.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下段ハケ目整形，内面ナデ	下層	10%
259	土師器	小形壺	[12.0]	8.7	3.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面下半なヘラ磨き，口縁部内面ヘラ磨き	南東壁付近床面	70% PL24

第71号住居跡（第142・143図）

位置　調査区中央部のC3h0区に位置し，標高27.8mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西部の半分ほどを第8号溝に掘り込まれているが，掘り込みは床面まで達していない。

規模と形状　長軸4.6m，短軸3.9mほどの長方形で，主軸方向はN－51°－Eである。壁高は24～26cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部と南，西コーナー付近を除いて部分的に硬化面が見られた。また，壁溝が全周している。

炉　2か所。ほぼ中央部に炉1が，その北側に炉2が検出された。炉1は径40cmほどの円形で，床面を8cmほど掘りくぼめている。炉2は長径66cm，短径50cmほどの楕円形で，床面を14cm掘りくぼめている。ともに炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗 赤 褐 色　　焼土ブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　　炭化粒子・焼土粒子微量

炉2土層解説
1　黒　褐　色　　焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　　焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　　焼土粒子微量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　　焼土粒子多量

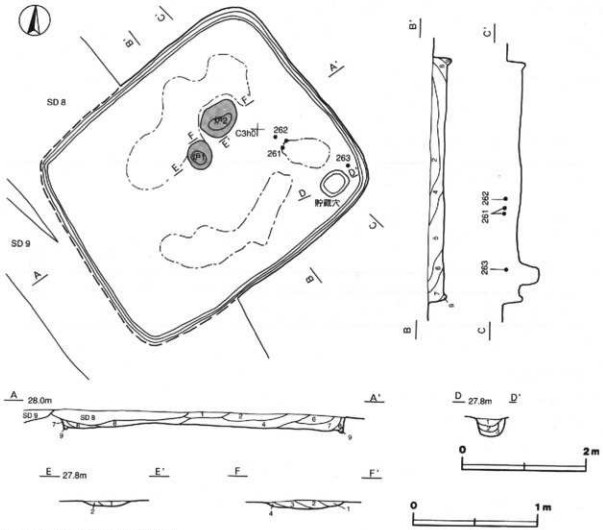
ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長軸46cm，短軸38cmほどの隅丸長方形で，深さは32cmである。底面は平坦であり，壁は直立ぎみに立ち上がっている。

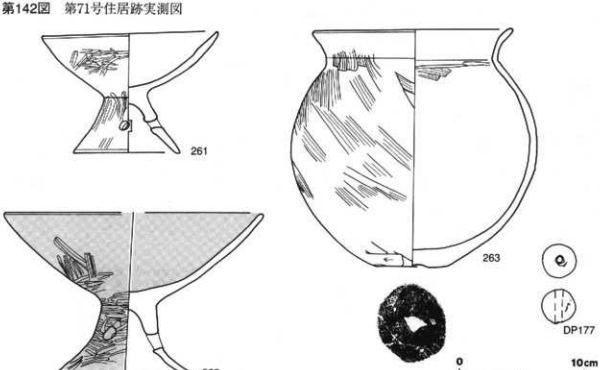
貯蔵穴土層解説
1　黒　　色　　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子微量
3　褐　　色　　ローム ブロック中量

覆土　9層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　　ローム粒子中量
2　暗 褐 色　　ローム粒子少量
3　黒 褐 色　　ローム ブロック少量
4　暗 褐 色　　ローム粒子少量
5　暗 褐 色　　ローム粒子微量
6　黒 褐 色　　ローム粒子微量
7　黒 褐 色　　ローム ブロック微量
8　暗　褐　色　　ローム粒子多量
9　褐　　色　　ローム粒子微量



第142図　第71号住居跡実測図



第143図　第71号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片80点（高坏9，甕類71），土製品1点（土玉）が東壁付近から出土している。263は，東コーナー付近の覆土中層から土圧でつぶれた状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器30点が出土している。

所見　東部の半分ほどを第8号溝に掘り込まれているが，掘り込みは床まで達しておらず，遺存状況は良好であった。時期は，出土土器から4世紀前半から中頃と考えられる。

第71号住居跡出土遺物観察表（第143図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
261	土師器	高坏	14.2	9.7	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ナデ，窓3か所	中層	90% PL18
262	土師器	高坏	[20.8]	13.1	[10.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ナデ，窓3か所	中層	60% 未図PL18
263	土師器	甕	15.9	19.1	5.6	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部から体部中段ハケ目整形，下段ヘラ削り，頸部内面ハケ目整形	東コーナー付近中層	90% PL25

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP177	土玉	2.8	2.8	0.7	18.7	土	外面ナデ，ヘラ当痕	覆土	

第72号住居跡（第144・145図）

位置　調査区西部のＣ３d区に位置し，標高27.7mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.5m，短軸5.0mほどの長方形で，主軸方向はＮ－47°－Ｅである。壁高は54～71cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，主柱穴付近を除き踏み固められており，壁溝が全周している。南東壁の中央部付近から北西壁に向かって，長さ1.2m，幅12cmほどの溝状の掘り込みが見られ，さらに，Ｐ１とＰ２を結ぶように長さ2.2m，幅12cmほどの溝状の掘り込みが確認されている。

炉　中央部より西コーナー寄りに位置しており，長径1.0m，短径64cmほどの不整楕円形で，床を12cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため赤変硬化している。

ピット　４か所。いずれも主柱穴と考えられ，深さは33～50cmである。

貯蔵穴　南コーナー部に位置しており，長径60cm，短径48cmほどの楕円形で，深さは50cmである。底面は平坦であるが，南側にやや傾斜しており，壁は直立ぎみに立ち上がっている。

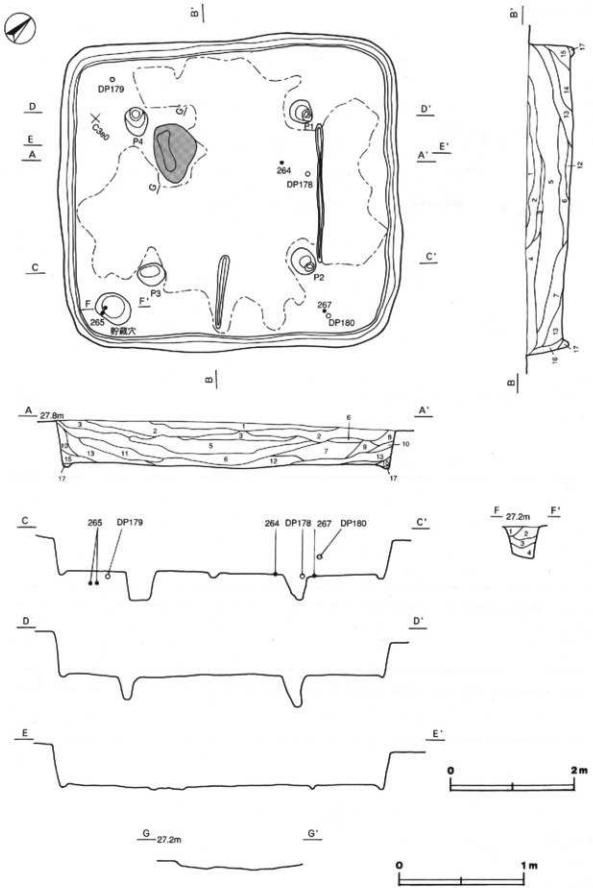
貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　褐　色　ローム粒子微量

覆土　17層からなる。覆土中層から下層の第５～13層は大型の炭化材・炭化物やロームブロックが比較的多く含まれていることから，人為堆積と考えられる。しかし，上層の第１～３層と壁際の第14～17層は，レンズ状に堆積する自然堆積の状況を示している。

土層解説

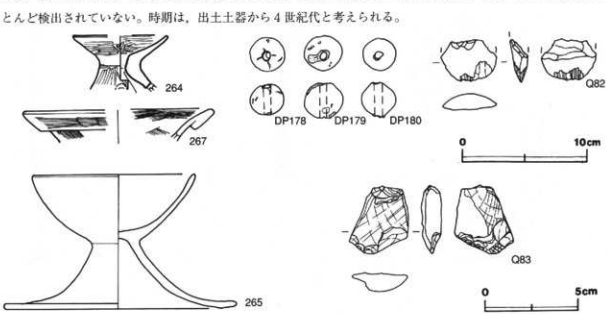
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒　色　ローム粒子少量
4　暗褐褐色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　暗褐褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　黒　色　ローム粒子・炭化粒子微量
9　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化材少量
13　黒　色　ロームブロック・炭化材少量
14　黒　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
15　黒　色　ロームブロック・炭化粒子微量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量
17　暗　褐　色　ローム粒子中量



第144図　第72号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片248点（器台３，高坏７，甕類238），土製品３点（土玉），石製品２点（石斧，剥片）が出土しており，図示できたものは８点である。264は床面，265は貯蔵穴内からいずれも正位の状態で出土しており，本跡に伴うものと考えられる。そのほか，混入した縄文土器125点が出土している。

所見　覆土の含有物から，焼失住居と考えられるが，炭化材や炭化物の検出層が第12，13層であり，焼土はほとんど検出されていない。時期は，出土土器から４世紀代と考えられる。



第145図　第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
264	土師器	器台	[7.5]	(4.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	器受部内・外面・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラ当て痕，窓４か所	床面	70%
265	土師器	高坏	13.1	10.8	18.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内・外面摩滅	貯蔵穴内	80% PL18
267	土師器	甕	[15.2]	(2.5)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	複合口縁部内・外面ハケ目整形	床面	

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP178	土玉	2.5	2.8	0.6	28.3	土	外面ナデ	覆土[illegible]	
DP179	土玉	2.8	3.1	0.5	24.6	土	外面ナデ	第[illegible]層	
DP180	土玉	2.8	2.6	0.7	28.4	土	外面ナデ	中層	

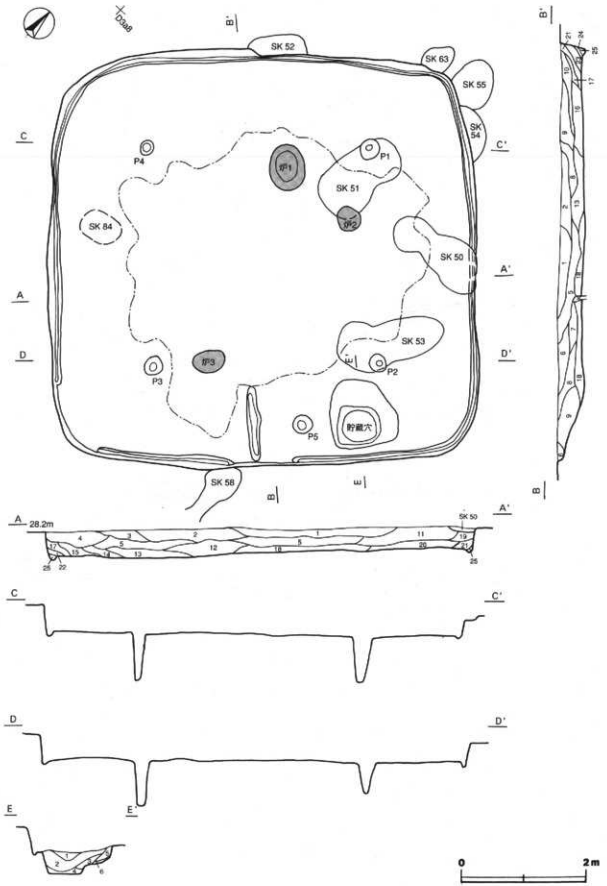
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q82	石斧	(3.4)	4.4	1.4	(19.1)	緑泥岩	刃部丁寧な研磨	覆土	PL45
Q83	剥片	3.7	3.1	1.1	12.3	瑪瑙	縦長剥片	覆土	

第73号住居跡（第146～151図）

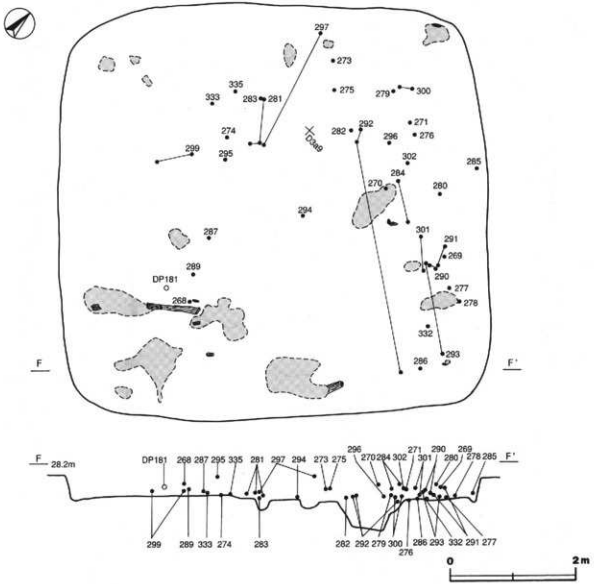
位置　調査区中央部のＤ３a9区に位置し，標高28.0mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　北側を中心に，第50～55，58，63，84号土坑に掘り込まれている。しかし，掘り込みは浅いため床面までは達しておらず，壁も立ち上がりが確認でき遺存状況は良好である。

規模と形状　長軸6.9m，短軸6.7mほどの方形で，主軸方向はＮ－44°－Ｗである。



第146図　第73号住居跡実測図（1）

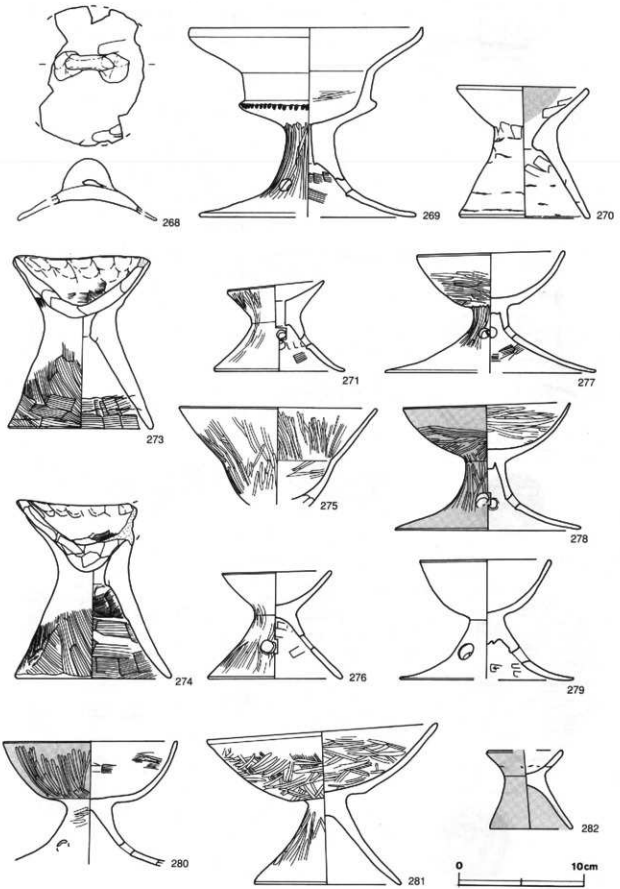


第147図　第73号住居跡実測図（2）

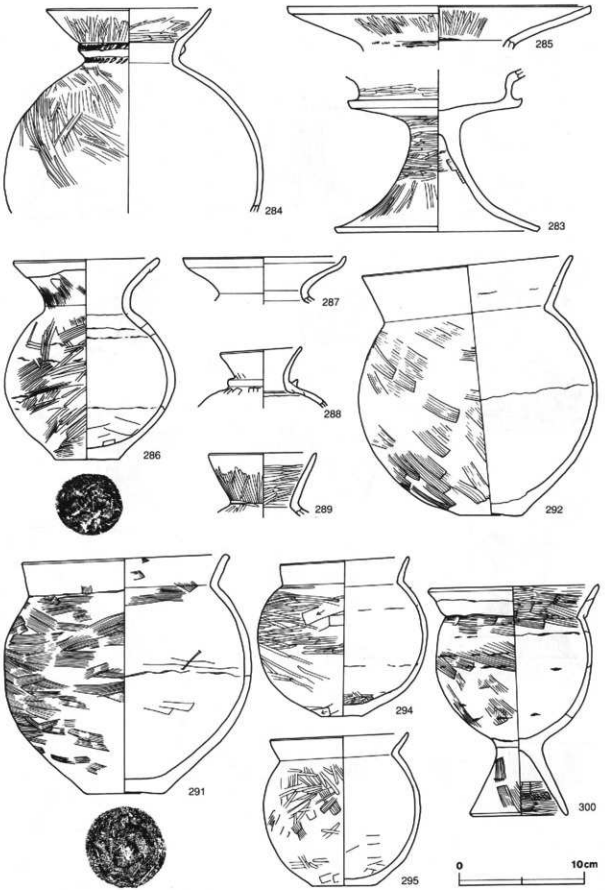
床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。南コーナー部と南東壁の一部を除いて壁溝が巡っており，南東壁の中央付近から北西壁に向かって長さ1.2m，幅20cmほどの溝状の掘り込みが確認された。また，中央部付近を除くほぼ全面で焼土塊が検出された。

炉　3か所。中央部より北寄りに炉1，北東寄りに炉2，南寄りに炉3が検出された。炉1は長径75cm，短径58cmほどの楕円形で，炉2は径40cmほどの円形，炉3は長径55cm，短径36cmほどの楕円形である。3つともそれほど掘り込みは見られず，床面に焼土が堆積された状態であったが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

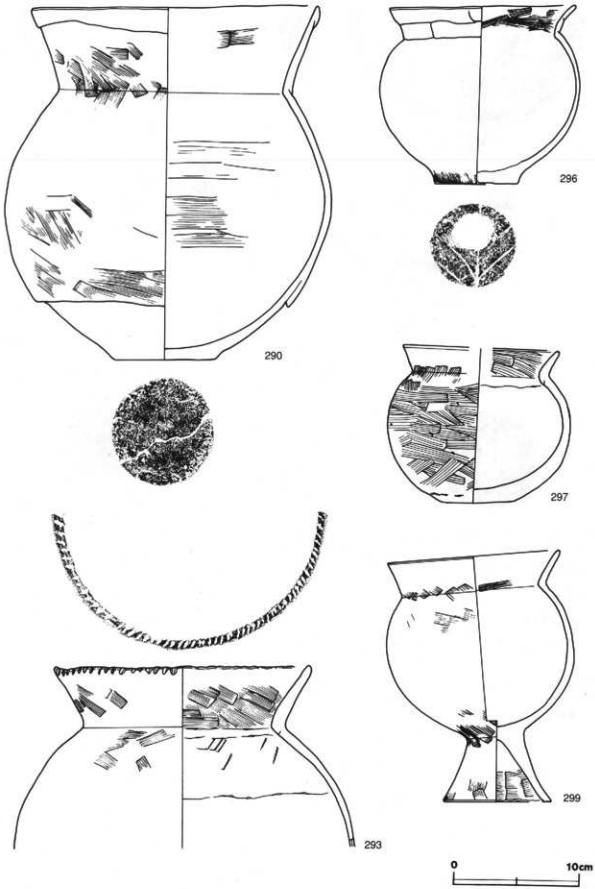
ピット　5か所。主柱穴はP1～P4が相当し，深さは85～120cmほどである。P5は深さ14cmで，炉1と向かい合う位置にあり，出入り口施設に関係するものと考えられる。



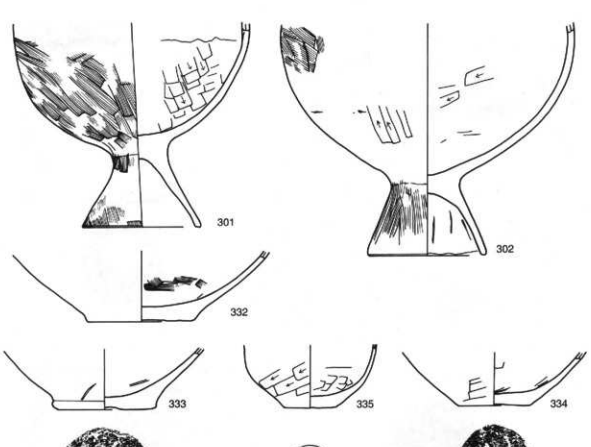
第148図　第73号住居跡出土遺物実測図（1）



第149図　第73号住居跡出土遺物実測図（2）



第150図　第73号住居跡出土遺物実測図（3）



第151図　第73号住居跡出土遺物実測図（4）

貯蔵穴　東コーナー付近に位置し一辺径1.1mほどの方形で，深さは54cmである。底面は平坦で，北西側は2段に掘り込まれている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量	4	暗褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ロームブロック中量	6	暗褐色	ローム粒子多量

覆土　25層からなる。ほとんどの層にロームブロックを含み，不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	14	極暗褐色	ロームブロック少量
2	黒色	ロームブロック微量	15	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	16	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック少量	17	黒色	ローム粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土ブロック微量	18	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
6	黒色	炭化材少量，ロームブロック微量	19	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・炭化物少量	20	暗褐色	ローム粒子中量
8	黒褐色	ローム粒子中量，炭化物微量	21	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック中量	22	極暗褐色	ロームブロック中量
10	暗褐色	ロームブロック微量	23	暗赤褐色	焼土ブロック多量
11	黒色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	24	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量
12	黒褐色	炭化物少量，ロームブロック微量	25	暗褐色	ロームブロック少量
13	極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片666点（蓋1，椀2，器台15，坩3，高坏34，鉢1，甕15，甕類595），土製品1点（土玉）が全面の覆土中から大量に出土しており，図示できたものは38点あった。床面からの出土は比較的少

なく，274は横位で，294は斜位で出土している。290・291・296・300は土圧でつぶれたように覆土中から出土している。ほかも，覆土上層から下層にかけて廃棄されたように出土している。そのほか，混入した縄文土器142点が出土している。

所見　覆土の観察からは住居廃絶時に焼失し，その後も人為的に埋め戻された様子がうかがえ，多数の遺物が出土している。出土した遺物の多くは本跡が埋め戻される段階で投棄されたと考えられ，廃棄時期は出土土器から4世紀代と考えられる。

第73号住居跡出土遺物観察表（第148～151図）

番号	器別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
268	土師器	壺	11.3	5.0	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	全面ナデ	中層	70% PL33
269	土師器	器台	18.7	15.2	[17.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，棒状工具による刺突痕，窓3か所	上層	90% PL19
270	土師器	器台	10.4	10.6	10.4	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面指頭痕，器受部・脚部内面ヘラナデ，輪積み痕	上層	80% 器受部内面漆膜 PL20
271	土師器	器台	7.8	7.2	10.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	器受部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面弱いハケ目整形，ヘラ当痕	中層	100% PL16
273	土師器	如器台	11.1	14.0	11.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	器受部・脚部外面ハケ目整形，脚部内面ハケ目整形，ヘラ当痕，輪積み痕	中層	95% PL17
274	土師器	如器台	(9.7)	14.3	12.7	長石・石英	にぶい橙	普通	器受部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，器受部ヘラ切り，輪積み痕	床面	95% PL17
275	土師器	坩	15.8	(7.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面丁寧なヘラ磨き	中層	90% PL22
276	土師器	高坏	8.7	8.6	10.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラナデ，窓3か所	床面	100% PL18
277	土師器	高坏	11.8	9.8	[17.0]	長石・石英	明黄褐	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形	床面	85% PL19
278	土師器	高坏	13.4	10.2	15.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，坏部内面ヘラ磨き，窓4か所	床面	95% 外面漆膜 PL19
279	土師器	高坏	10.4	9.6	[13.9]	長石・石英・雲母・赤色粒子・雲	淡黄	普通	脚部内面ヘラナデ	下層	80%
280	土師器	高坏	13.9	(10.0)	－	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，坏部内面弱いハケ目整形，窓3か所	上層	80% 坏部外面漆膜 PL20
281	土師器	高坏	18.4	13.0	11.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，脚部外面ヘラ磨き，坏部内面ヘラ磨き	下層	80% PL19
282	土師器	ミニュチュア上器	[5.9]	6.4	6.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内外面ナデ	床面	80% 外面・脚部漆膜
283	土師器	高坏	－	(13.0)	16.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ヘラナデ	床面	70% PL19
284	土師器	壺	13.2	(16.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部，体部外面上段～下段ヘラ磨き，口縁部内面ヘラ磨き，頸部縁帯に刺突痕	上層～中層	60% PL21
285	土師器	壺	24.4	(3.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ヘラ磨き	北東部上層	10%
286	土師器	壺	11.6	16.1	5.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ハケ目整形，体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，体部下段内面ヘラナデ	床面	80% PL21
287	土師器	壺	13.0	(3.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内・外面ナデ	下層	20%
288	土師器	壺	6.4	(4.8)	－	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面上段ヘラナデ	覆土	30% PL20
289	土師器	壺	8.6	(5.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面丁寧なヘラ磨き	下層	30%
290	土師器	甕	23.1	28.4	8.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	複合口縁部・体部外面中段ハケ目整形，体部外面下段に接合部有り	中層	95% PL29
291	土師器	甕	16.2	19.1	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形	中層	90% PL30
292	土師器	甕	16.9	20.9	5.1	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ハケ目整形，内面ナデ，輪積み痕	下層，貯蔵穴内	90% PL25
293	土師器	甕	20.5	(14.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・雲	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面上段・口縁部内面ハケ目整形，口縁部に工具によるキザミ痕	下層	40% PL23

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
294	土師器	小形甕	10.4	12.7	3.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面上段ヘラ割り後ヘラ磨き，下段ヘラ削り，体部内面下段ヘラ磨き	床面	100% PL24
295	土師器	小形甕	11.2	12.1	5.0	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	体部外面上段～中段ハケ目整形後ヘラ磨き，体部内面下段ヘラナデ	上層	95% PL24
296	土師器	小形甕	15.0	14.4	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下段ハケ目整形，口縁部内面横ハケ目整形，口縁部に明瞭な輪積み痕	床面	70% PL24
297	土師器	小形壺	[12.5]	12.2	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	淡黄橙	普通	胴部～体部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形	上層～中層	70% PL24
299	土師器	台付壺	13.9	20.2	8.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部・体部下段・脚部外面ハケ目整形，脚部内面ハケ目整形	下層	95% 外面黒斑 PL26
300	土師器	台付壺	13.5	18.4	7.6	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面・脚部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形，口縁部に明瞭な輪積み痕	下層～床面	90% PL26
301	土師器	台付壺	－	(16.4)	9.6	長石・石英・赤色粒子・礫	橙	普通	体部中段～下段・脚部外面ハケ目整形，体部内面中段～下段ヘラナデ，輪積み痕	中層～下層	50%
302	土師器	台付壺	－	(18.7)	9.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面中段ハケ目整形，下段外面ヘラ割り，脚部外面ハケ目整形，体部内面中段ヘラ割り	中層	40%
332	土師器	甕	－	(5.6)	8.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面下段横ハケ目整形，底部未整痕	床面	10%
333	土師器	壺		(4.8)	8.0	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内・外面ナデ，底部糸切痕	下層	10%
334	土師器	甕	－	(4.3)	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内外面下段ヘラナデ，底部糸切痕	覆土	10%
335	土師器	小形甕	－	(5.0)	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下段ヘラ削り，内面ヘラナデ	床面	30%

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP181	土玉	3.2	3.6	0.6	39.7	土	外面ナデ，工具による刺突痕	中層	

第74号住居跡（第152図）

位置　調査区中央部のＣ３d5区に位置し，標高28.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.4m，短軸4.6mほどの長方形で，主軸方向はＮ－54°－Ｅである。壁高は25～35cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，広い範囲にかけて踏み固められており壁溝が全周している。また，全面から多量の焼土塊が検出されている。

炉　中央部よりやや西側に確認され，長径70cm，短径56cmほどの楕円形である。掘り込みや火床面は確認できなかったが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

ピット　４か所。すべて主柱穴と考えられ，深さは75～95cmである。

貯蔵穴　南コーナー寄りに位置し，長径80cm，短径54cmほどの楕円形で，深さは46cmである。底面は，Ｕ字状を呈しており，北東側の壁は，中段からなだらかに傾斜して立ち上がっている。

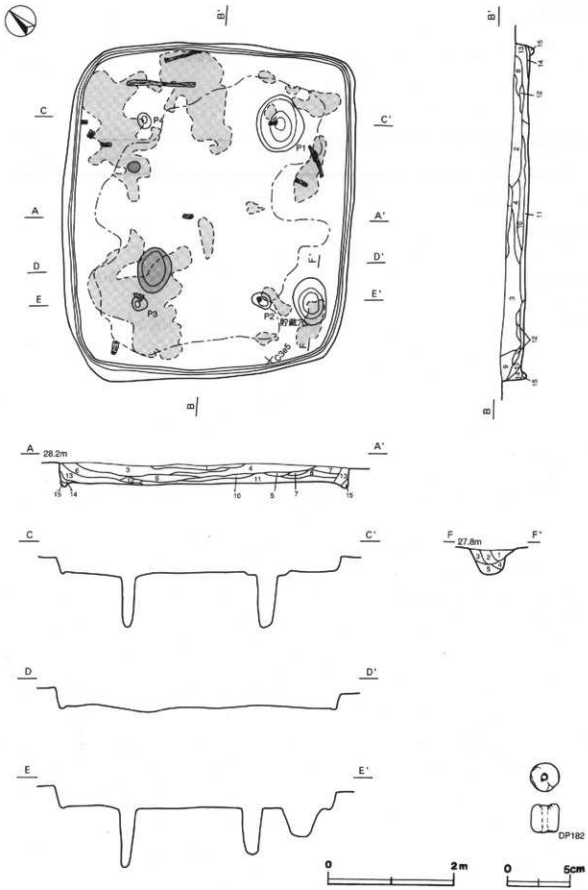
貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　　ローム ブロック微量
2　黒　　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　　ローム ブロック少量
4　黒　褐　色　　ローム粒子少量
5　黒　　色　　ローム ブロック少量

覆土　15層からなる。壁際の第13～15層はレンズ状に堆積する自然堆積であるが，そのほかの層は焼土及び炭化材を含み，火災に伴って形成された層である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　極暗褐色　　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量
5　暗赤褐色　　焼土ブロック中量
6　極暗褐色　　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
7　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　　ローム ブロック少量
9　黒　褐　色　　ローム ブロック中量
10　にぶい赤褐色　　焼土ブロック中量，ローム ブロック少量，炭化物微量
11　黒　褐　色　　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　にぶい赤褐色　　焼土ブロック中量
13　黒　　色　　焼土ブロック微量
14　極暗褐色　　ローム ブロック微量
15　灰　褐　色　　ローム粒子微量



第152図　第74号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片64点（壺５，甕類59），土製品１点（管状土錘）が炭化材とともに散在して出土している。図示できたものは１点であり，そのほか混入した縄文土器59点が出土している。

所見　出土土器が少なく，壁際付近は自然堆積であることから，住居廃絶後しばらくして焼失したものと考えられる。出土遺物は細片であるが，時期は４世紀代と考えられる。

第74号住居跡出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP182	管状土錘	2.3	2.3	0.6	13.1	土	外面ナデ	覆土	PL41

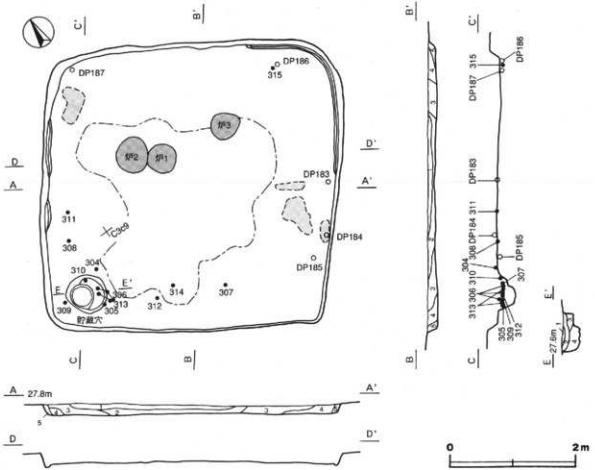
第75号住居跡（第153～155図）

位置　調査区中央部のＣ３c9区に位置し，標高27.6mの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.8m，短軸4.6mほどの方形で，主軸方向はＮ－55°－Ｗである。壁高は12～20cmで外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，中央部付近が踏み固められている。壁溝は東コーナー付近と北西壁の一部に確認され，焼土塊が壁沿いにまばらに検出されている。

炉　３か所。炉１は，ほぼ中央部に位置し，径50cmほどの円形である。炉２は径55cmほどの円形で，炉１の北西側に接するように位置している。炉３は中央部より東側に位置し，径40cmほどの円形である。３か所とも，ほとんど掘り込みをもたないが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。



第153図　第75号住居跡実測図

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　西コーナー部に位置し，径60cmほどの円形で，深さは30cmである。底面は緩やかな傾斜を呈する皿状で，東壁は２段に掘り込まれている。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　黒褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック中量

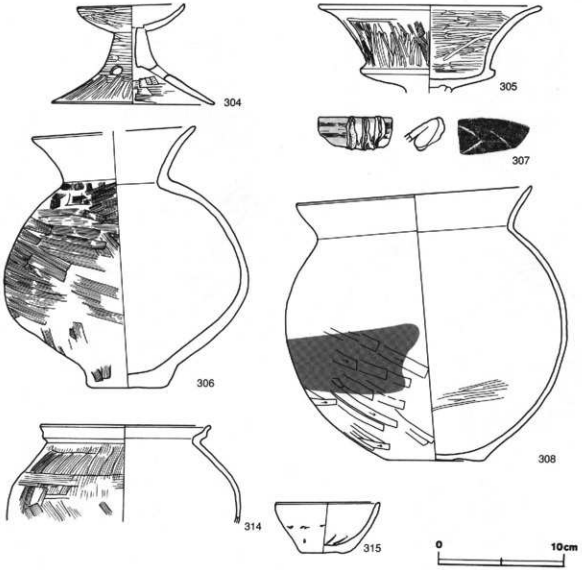
覆土　５層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

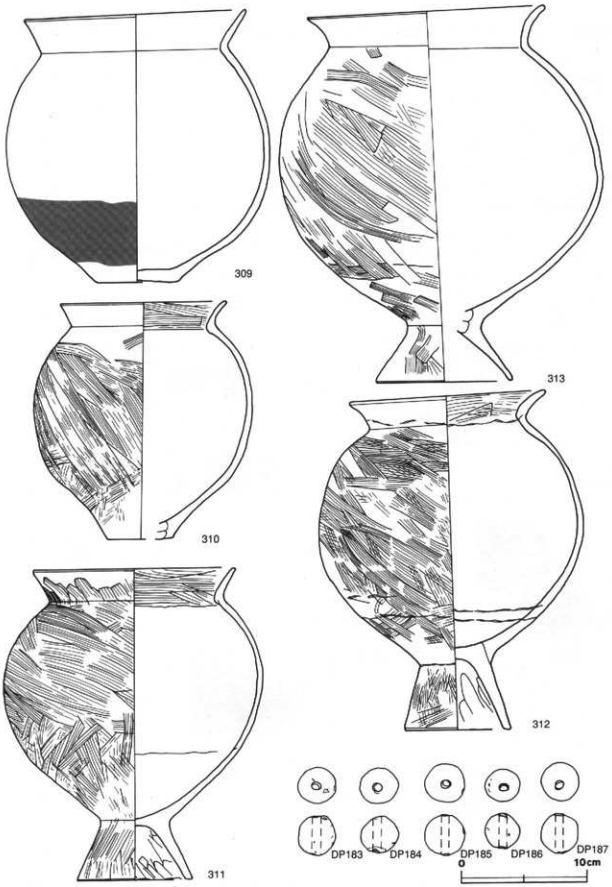
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片145点（器台５，高坏４，壺７，甕類129），土製品５点（土玉）が東コーナーの貯蔵穴付近を中心に出土しており，図示できたものは17点である。306・310・313は貯蔵穴内の覆土上層，311は斜位の状態で床面，309は西壁付近の床面から斜位の状態で出土している。また，DP183は南東壁付近の床面，DP187は北コーナー付近の床面からそれぞれ出土している。

所見　土器類が床面に残された状態で出土していることから，住居廃絶前に火災にあったと考えられる。時期は出土土器から，４世紀初頭～前半と考えられる。



第154図　第75号住居跡出土遺物実測図（1）



第155図　第75号住居跡出土遺物実測図（2）

第75号住居跡出土遺物観察表（第154・155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
304	土師器	器台	8.6	8.0	13.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	脚受部・脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，脚3か所	床面	95% PL16
305	土師器	高杯	17.8	(7.1)	—	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	床面	50% PL17
306	土師器	甕	13.0	21.2	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目整形	貯蔵穴内	80% PL21
307	土師器	壺	—	(2.7)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面櫛歯状工具による横走文に，3本1対の棒状浮文	床面	外面赤彩
308	土師器	甕	18.8	22.1	7.8	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部中段から下段へヘラ削り	床面	95% PL22
309	土師器	甕	17.8	21.8	6.4	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	煤状のため詳細不明	南東隅床面	外面赤彩
310	土師器	甕	13.3	19.1	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目整形，内面ナデ	貯蔵穴内	95% PL25
311	土師器	台付甕	16.1	25.3	9.2	長石・石英	橙	普通	体部・脚部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形，脚部内面ヘラナデ	床面	100% PL30
312	土師器	台付甕	15.3	27.3	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	体部・脚部外面ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形，脚部内面ヘラナデ	床面	90% PL30
313	土師器	台付甕	18.9	30.4	11.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部・脚部外面ハケ目整形，内面ナデ	貯蔵穴内	80% PL30
314	土師器	台付甕（ミニチュア）	13.5	(7.8)	—	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部は8字状を呈する，体部外面刷ハケ目整形（体部横ハケは部分的に残る）	床面	30%ミニチュア PL25
315	土師器	ミニチュア土器	8.3	4.1	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	体部外面ナデ，内面ヘラ当痕	床面	80% PL32

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	等級	出土位置	備考
DP183	土玉	3.1	3.0	0.7	24.3	土	外面ナデ，調整痕	南東隅貯蔵穴内	
DP184	土玉	2.9	3.1	0.7	21.2	土	外面ナデ	床面	
DP185	土玉	3.2	3.2	0.6	31.2	土	外面ナデ	床面	
DP186	土玉	2.7	2.8	0.7	17.4	土	外面ナデ	床面	
DP187	土玉	3.2	3.1	0.6	27.5	土	外面ナデ	[illegible]	

第76号住居跡（第156・157図）

位置　調査区西のC 1 g0区に位置し，標高28.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸6.3m，短軸6.0mほどの方形で，主軸方向はN－54°－Eである。壁高は30～44cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近を除いて踏み固められている。壁溝は東コーナーと南東壁の一部を除いて巡っている。また，南東壁の中央部付近から北西壁に向かって，長さ1.3mほどの溝が確認されている。

炉　2か所が重複して確認されている。中央部より北側に炉1，炉1に掘り込まれて，東側に炉2が位置している。炉1は長径70cm，短径50cmほどの楕円形で，床を15cmほど掘りくぼめている。炉2は長径60cm，短径50cmほどの楕円形と推測され，床を7cmほど掘りくぼめている。ともに炉床面は被熱のため赤変硬化している。なお，炉の土層は第1～4層が炉1，第5層が炉2を示す。

炉土層解説

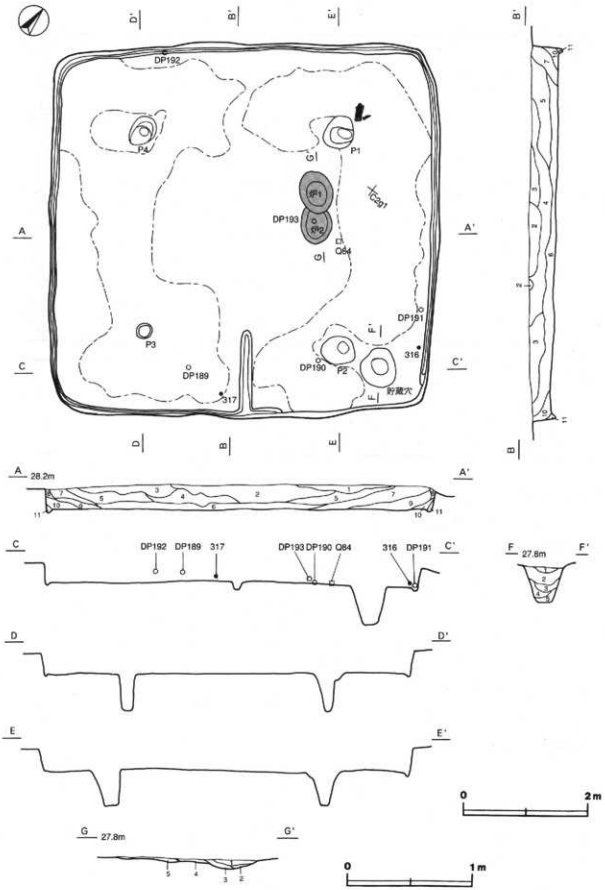
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量（炉1）
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子微量（炉1）
3　明赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量（炉1）
4　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量（炉1）
5　にぶい黄褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量（炉2）

ピット　4か所。すべて主柱穴と考えられ，深さは58～62cmである。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径65cm，短径54cmほどの楕円形で，深さは64cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
3　褐色　ロームブロック微量
4　褐色　ローム粒子微量
5　黒色　ロームブロック・炭化粒子微量



第156図　第76号住居跡実測図

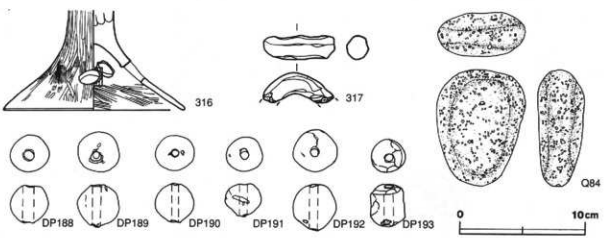
覆土　11層からなる。下層の第6～11層は，レンズ状に堆積する自然堆積であるが，第1～5層は人為堆積の様相を呈している。

土層解説

1　黒　　色　ローム ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム ブロック中量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
4　灰　褐　色　ローム ブロック中量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム ブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子中量
10　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片756点（蓋1，高坏12，鉢2，壺14，甕類727），土製品7点（土玉6，管状土錘1）石製品1点（敲石），礫8点が覆土上層から中層にかけて出土しており，図示できたものは9点である。316は覆土中層，DP191は北東壁付近，DP192は北西壁際覆土中層から，DP190・Q84は床面からそれぞれ出土している。そのほか，混入した縄文土器99点が出土している。

所見　一辺6m以上で，当遺跡では大形の住居である。出土した土器類の大部分が細片で，覆土上層から中層にかけて多く出土しており，ほとんどが投棄されたものと考えられる。時期は出土土器から4世紀代と考えられる。



第157図　第76号住居跡出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
316	土師器	高坏	—	(8.0)	14.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面ハケ目整形後ヘラ磨き，内面ハケ目整形，窓4か所	北東壁付近中層	50% PL17
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
317	土師器	蓋	(5.7)	1.9	2.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ナデ	下層	把手

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP188	土玉	3.2	3.1	0.8	26.6	土	外面ナデ	覆土	
DP189	土玉	3.5	3.3	0.7	35.7	土	外面ナデ	中層	
DP190	土玉	3.1	3.1	0.5	27.8	土	外面ナデ	床面	
DP191	土玉	2.7	2.9	0.8	19.2	土	外面ナデ	北東壁付近中層	
DP192	土玉	3.7	3.5	0.8	39.9	土	外面ナデ，ヘラ当痕	北西壁際中層	
DP193	管状土錘	3.4	2.8	0.8	26.2	土	外面ナデ	中層	PL41

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q84	敲石	9.3	7.1	3.8	303.3	流紋岩	端部敲打痕	床面	

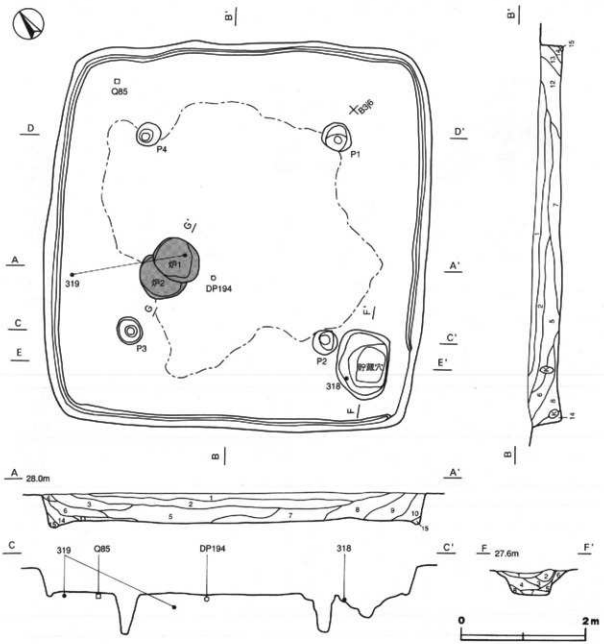
第77号住居跡（第158～160図）

位置　調査区西部のＢ３j5区に位置し，標高27.8mほどの台地平坦部に立地している。

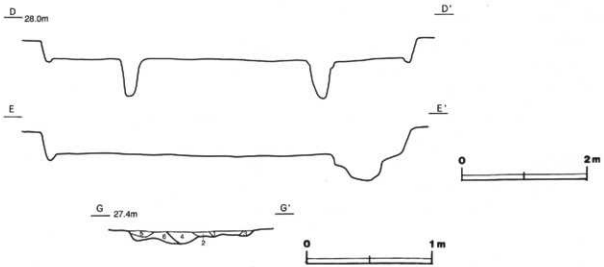
規模と形状　一辺6.0mほどの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｅである。壁高は30～42cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められており，壁溝は南コーナー部を除いて巡っている。

炉　中央部よりやや西側に重複して２か所確認されている。炉１は炉２の東部を若干掘り込み，長径80cm，短径65cmほどの楕円形で，床面を18cmほど掘りくぼめている。また，炉床面には壺体部が埋設されていた。炉２は東部を炉１に掘り込まれているが，長径80cm，短径70cmほどの楕円形と推測され，床面から14cmほど掘りくぼめている。ともに炉床面は被熱のため赤変硬化している。なお，炉の土層は，第１～４層が炉１を，第５・６層が炉２を示す。



第158図　第77号住居跡実測図（1）



第159図　第77号住居跡実測図（2）

炉土層解説

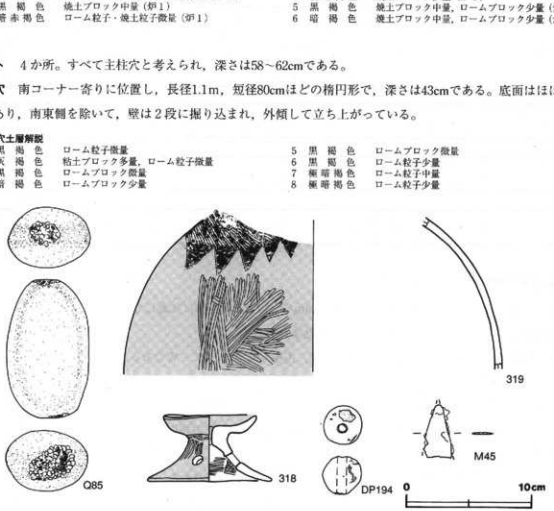
1	黒　褐　色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量（炉1）	4	極暗褐色	焼土ブロック少量（炉1）
2	黒　褐　色	焼土ブロック中量（炉1）	5	黒　褐　色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量（炉2）
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子微量（炉1）	6	暗　褐　色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量（炉2）

ピット　4か所。すべて主柱穴と考えられ，深さは58～62cmである。

貯蔵穴　南コーナー寄りに位置し，長径1.1m，短径80cmほどの楕円形で，深さは43cmである。底面はほぼ平坦であり，南東側を除いて，壁は2段に掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子微量	5	黒　褐　色	ロームブロック微量
2	灰　褐　色	粘土ブロック多量，ローム粒子微量	6	黒　褐　色	ローム粒子少量
3	黒　褐　色	ロームブロック微量	7	極暗褐色	ローム粒子中量
4	暗　褐　色	ロームブロック少量	8	極暗褐色	ローム粒子少量



第160図　第77号住居跡出土遺物実測図

覆土　15層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　黒色ブロック多量，ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量
5　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　黒　　色　ロームブロック微量
7　黒 褐 色　ローム粒子中量
8　暗 褐 色　ロームブロック中量
9　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物微量
10　暗 褐 色　ローム粒子多量
11　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　暗 褐 色　ローム粒子微量
13　黒 褐 褐 色　ロームブロック少量
14　灰 褐 色　ローム粒子多量
15　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片380点（器台８，高坏８，壺４，甕360），土製品２点（土玉），石製品１点（敲石）が西側を中心に出土しており，図示できたものは５点である。318は貯蔵穴内覆土上層，319は炉１に埋設されていたものであり，北西壁付近床面からも同一個体の破片が出土している。Q85は北コーナー付近の床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。そのほか混入した，縄文土器22点が出土している。

所見　一辺が6.0mほどあり，当遺跡では大形の住居である。また，炉から検出された壺形土器は二次焼成を受けており，土器埋設炉として使用されていたものと考えられる。時期は出土土器から４世紀代と考えられる。

第77号住居跡出土遺物観察表（第160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
318	土師器	器台	7.3	5.4	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，脚部内面ハケ目整形，悪３か所	貯蔵穴内	90% 赤彩 PL46
319	土師器	壺		(12.3)	－	長石・石英	淡黄	普通	体部は区画され，区画上段には無節縄文が施されている。区画下段ヘラ磨き	炉埋設土器	10% 赤彩 外縁

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP194	土玉	3.0	3.1	0.8	27.6	土	外面ナデ，ヘラ当痕	床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
Q85	敲石	11.2	6.6	5.0	510.6	砂岩	両端部に敲打痕	北コーナー	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
M45	鉄鏃	(4.1)	(2.5)	0.2	(5.0)	鉄	三角形鏃群，鏃身部三角形	覆土	PL46

第78号住居跡（第161・162図）

位置　調査区中央部のＣ３g6に位置し，標高27.9mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　東コーナー付近を第56号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.2m，短軸6.1mほどの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁高は４～８cmと低く，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁溝が全周している。また，中央部よりやや南西寄りに炭化物が検出されている。

炉　１か所。中央部より北側に位置し，長径55cm，短径45cmほどの楕円形で，掘り込みはなく床面に焼土が薄く堆積した状態で検出されている。

ピット　４か所。主柱穴はＰ１～Ｐ３が相当し，深さは64～70cmである。Ｐ４は深さ30cmで，壁際中央付近に位置していることから，出入り口施設に関係する柱穴と考えられる。

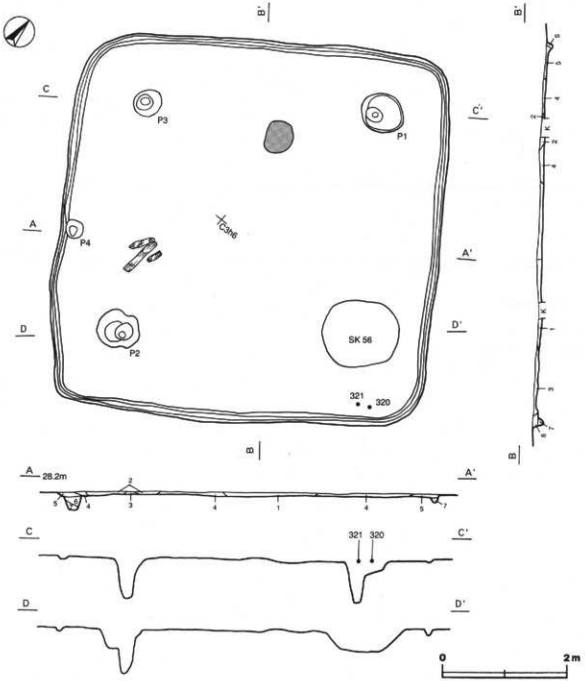
覆土　7層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

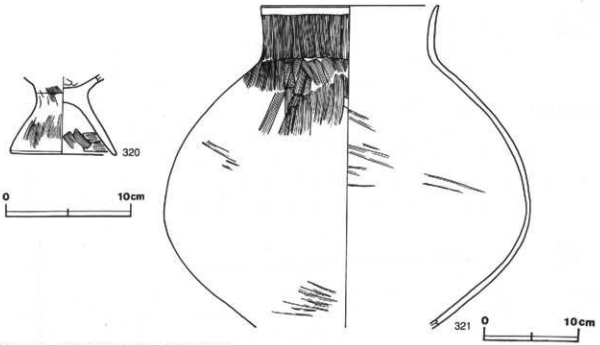
1	黒　褐　色	ローム粒子中量	5	極暗褐色	ロームブロック少量
2	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗　褐　色	ローム粒子中量
3	黒　　色	ローム粒子・炭化粒子少量	7	暗　褐　色	ロームブロック少量
4	極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片170点（高坏6，壺3，甕類161）が出土しているが，ほとんどが細片であり，図示できたものは2点である。320，321とも東コーナー付近の覆土下層から，投棄されたような状態で出土している。そのほか，混入した縄文土器16点，埴輪片13点が出土している。

所見　床面から検出された炭化物は，住居の埋没過程において投棄されたもので，本住居の焼失を示すものではないと考える。時期は，住居の形状や出土土器から4世紀代と考えられる。



第161図　第78号住居跡実測図



第162図　第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表（第162図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
320	土師器	台付甕	—	(6.3)	8.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面弱いハケ目整形，内面ハケ目整形	東コーナー付近下層	10%
321	土師器	壺	18.8	(34.9)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部から体部外面上段弱いハケ目整形，内面ヘラナデ	東コーナー付近下層	40% PL27

第79号住居跡（第163～165図）

位置　調査区中央部のＣ３h3区に位置し，標高28.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.4m，短軸4.9mほどの長方形で，主軸方向はＮ－46°－Ｅである。壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。壁溝は北西・南西壁と南東壁の半分を巡っている。また，西側には，広範囲にわたって焼土塊が検出されている。

炉　中央部より北コーナー寄りに重複して２か所確認されている。炉１は炉２の東部を若干掘り込んでおり，長径55cm，短径40cmほどの楕円形で，床面から５cmほど掘りくぼめている。また，炉床面には甕体部が埋設されていた。炉２は炉１に東部を掘り込まれているが，径60cmほどの円形と推測され，床面を６cmほど掘りくぼめられている。炉１と同様に，炉床面には甕体部が埋設されており，炉石形土製品が置かれた状態で検出されている。ともに炉床面は被熱のため，赤変硬化している。

炉１掘方土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック少量

炉２掘方土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子少量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは50～73cmほどである。Ｐ５は深さ10cmで，炉と向かい合う位置にあり，出入り口施設に関係するものと考えられる。

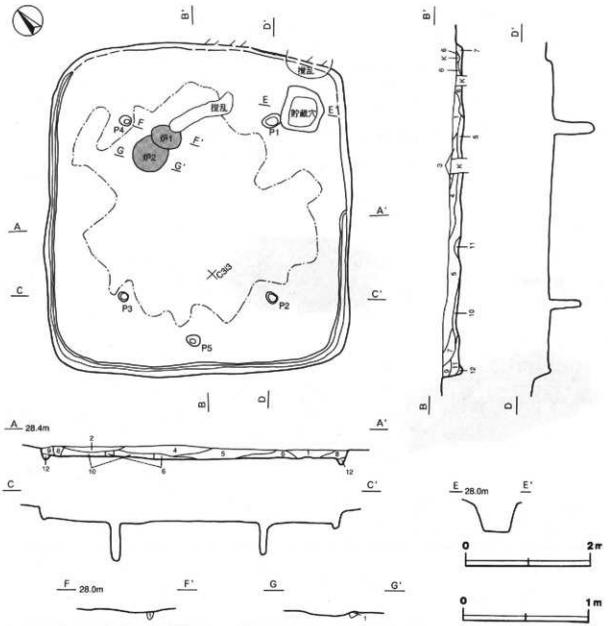
覆土　12層からなり，不自然な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

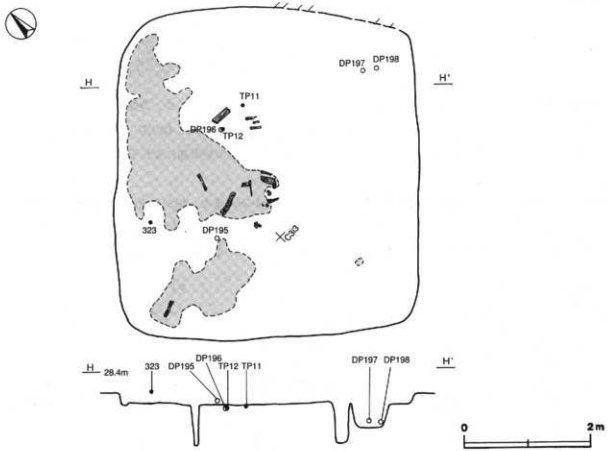
1	暗 褐 色	ローム粒子少量	7	黒 色	ロームブロック微量
2	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	8	黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
3	暗 褐 色	ロームブロック少量	9	黒 褐 色	ローム粒子微量
4	黒 色	ローム粒子微量	10	暗 褐 色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
5	極暗褐色	ローム粒子微量	11	褐 色	ローム粒子多量
6	極暗褐色	ロームブロック少量	12	褐 色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片167点（器台２，壺３，甕類161，ミニチュア土器１）が，西側を中心に炭化材とともに出土しており，図示できたものは７点である。DP196は炉２の炉床面から，DP197・DP198は貯蔵穴内の覆土下層からそれぞれ出土している。また，TP11は炉１，TP12は炉２の炉床部にそれぞれ埋設されて出土したものである。そのほか，混入した縄文土器16点が出土している。

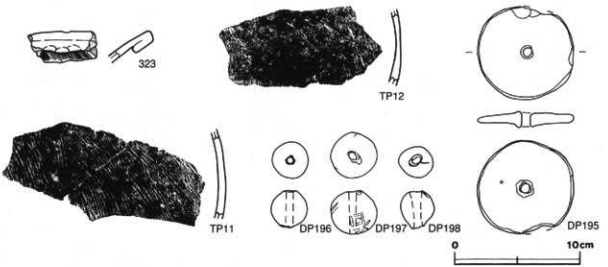
所見　出土遺物は少なく，住居廃絶後に火災にあったと考えられる。また，炉から検出された甕は二次焼成を受けており，炉石のように使用されたものと考えられる。遺物が少なく，時期を決定することは困難であるが，住居の形状や周辺部に同様の住居跡が確認されていることなどから，４世紀代と考えられる。



第163図　第79号住居跡実測図（1）



第164図　第79号住居跡実測図（2）



第165図　第79号住居跡出土遺物実測図

第79号住居跡出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
323	土師器	壺	－	(2.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	複合口縁部外面ハケ目整形，指頭痕	上層	
TP11	土師器	甕	－	(7.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ハケ目整形,内面ナデ	炉1	PL48
TP12	土師器	甕	－	(6.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ハケ目整形,内面ナデ	炉2	

番号	種別	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP195	紡錘車	7.8	1.3	1.1	53.8	土	外面ナデ	下層	PL41
番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP196	土玉	3.0	2.9	0.5	22.4	土	外面ナデ	第2炉床面	
DP197	土玉	3.5	3.7	0.6	48.1	土	外面ナデ，圧痕	貯蔵穴内	
DP198	土玉	3.0	2.7	0.5~1.0	18.3	土	外面ナデ	貯蔵穴内	

第80号住居跡（第166図）

位置　調査区中央部のＤ２a9区に位置し，標高27.9mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　耕作による削平のため，壁の立ち上がりは明確ではないが，床面の広がりからＮ－18°－Ｅを主軸方向とする長軸5.3m，短軸4.6mほどの長方形と推定される。

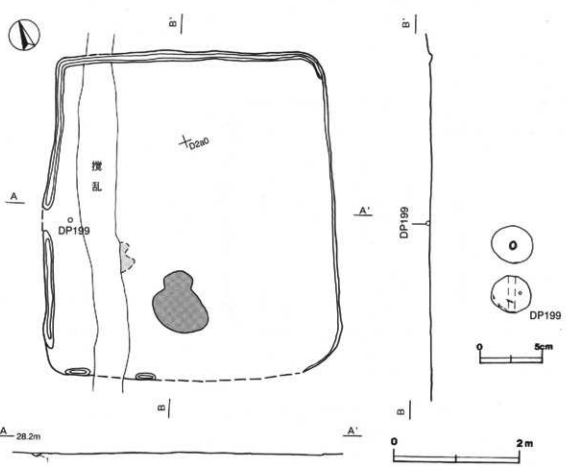
床　西壁と平行して幅60cmほどの帯状に撹乱を受けているが，確認された床面はほ平坦で，北・西壁と，南壁の一部に壁溝が巡っている。また，中央部よりやや南西側に，焼土が薄く広がって検出されている。

炉　中央部より南側に確認され，長径1.0m，短径45cmほどの不整楕円形で，掘り込みはなく，炉床面は被熱のため赤変硬化してる。

ピット　確認できなかった。

覆土　床面が露出した状態で検出されたため，堆積状況は不明であるが，壁溝の覆土だけが確認されている。

土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック少量



第166図　第80号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片12点（高坏1，甕類11），土製品1点（土玉）が出土しており，1点が図示できた。DP199は西壁付近の床面から出土している。

所見　出土遺物が少なく，時期を決定することは困難であるが，住居の形状や周辺部の住居跡などから，4世紀代と考えられる。

第80号住居跡出土遺物観察表（第166図）

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP199	土玉	3.0	3.2	0.5	29.5	土	外面ナデ，指頭痕	床面	

第81号住居跡（第167図）

位置　調査区西部のD3b0区に位置し，標高約28.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　一辺3.8mほどの方形で，主軸方向はN－42°－Eである。壁高は6～7cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

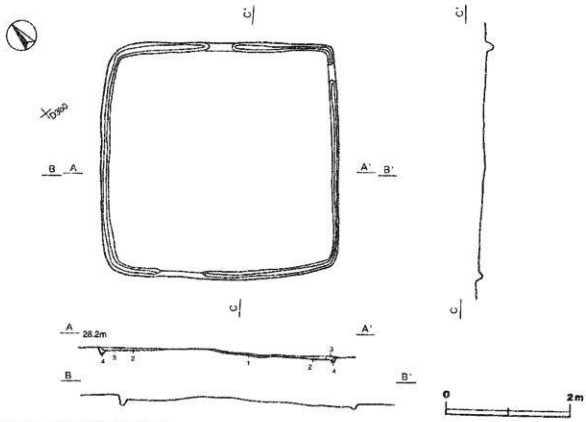
床　中央部付近に若干の高まりがあり，北西壁を除く各壁の一部を除いて壁溝が巡っている。

炉　確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

覆土　4層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説
1 暗褐色　ローム粒子少量
2 極暗褐色　ロームブロック中量
3 黒褐色　ローム粒子微量
4 暗褐色　ローム粒子多量



第167図　第81号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片２点（甕類）が出土している。出土数が極めて少なく，図示できなかった。そのほか，混入した縄文土器１点，陶器１点が出土している。

所見　出土遺物が少なく，時期を決定することは困難であるが，住居の形状や周辺部に同様の住居跡が確認されていることなどから，４世紀代と考えられる。

第82号住居跡（第168図）

位置　調査区西部のＤ３c8区に位置し，標高27.9mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　西コーナー付近を第105・106・115号土坑・第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状　耕作による削平のため壁は存在していないが，床面の広がりから長軸4.9m，短軸4.0mほどの長方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗと推測される。

床　第105・106・115号土坑に掘り込まれ，また一部は削平されているが，確認できた床面はほぼ平坦である。

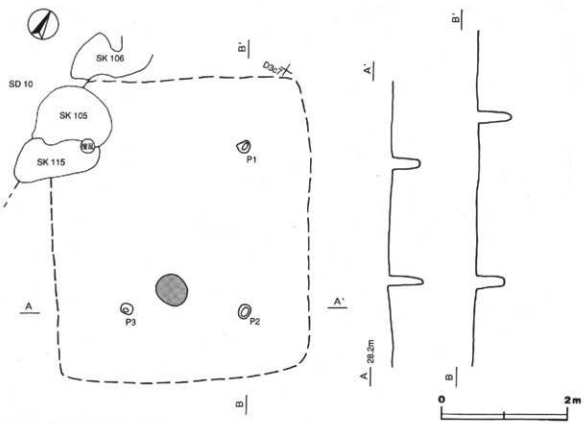
炉　中央部よりやや南側に位置しており，長径54cm，短径42cmほどの楕円形で，掘り込みはほとんどなく，焼土が薄く堆積した状態で検出された。

ピット　３か所。すべて主柱穴と考えられる。

覆土　耕作により削平され，確認できなかった。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　削平のため，本来の形状を明確にすることができず，また，出土遺物がなく時期を決定することは困難であるが，住居の形状や周辺部に同様の住居跡が確認されていることなどから，４世紀代と考えられる。



第168図　第82号住居跡実測図

第83号住居跡（第169図）

位置　調査区中央部のＣ３f2区に位置し，標高28.2mほどの台地平坦部に立地している。

重複関係　中央部付近を第59号土坑，西コーナー部を第60号土坑にそれぞれ掘り込まれている。また，東コーナー付近に攪乱を受けている。

規模と形状　長軸3.7m，短軸3.5mほどの方形で，主軸方向はＮ－34°－Ｅである。壁高は７～10cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　若干の凹凸が見られ，中央部から南コーナー付近にかけて踏み固められている。壁溝は北西・南西壁の一部に確認され，また，西コーナー付近を中心には焼土が点在して検出されている。

炉　確認された床面には認められなかったが，第59号土坑に削平されてしまった可能性が考えられる。

ピット　確認できなかった。

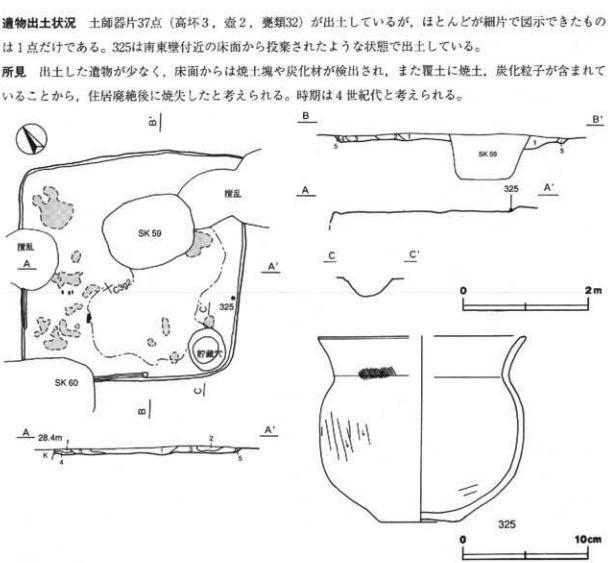
覆土　５層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	焼土ロック中量，ローム粒子少量	4	褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	5	灰褐色	ローム粒子微量
3	極暗褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片37点（高坏３，壺２，甕類32）が出土しているが，ほとんどが細片で図示できたものは１点だけである。325は南東壁付近の床面から投棄されたような状態で出土している。

所見　出土した遺物が少なく，床面からは焼土塊や炭化材が検出され，また覆土に焼土，炭化粒子が含まれていることから，住居廃絶後に焼失したと考えられる。時期は４世紀代と考えられる。



第169図　第83号住居跡・出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
325	土師器	小形甕	[16.4]	15.0	6.4	長石・石英	橙	普通	頸部外面弱いハケ目整形，体部外面ヘラ削り	南東壁付近床面	60%

第85号住居跡（第170図）

位置　調査区中央部のＣ２d8区に位置し，標高28.2mほどの台地平坦部に立地している。

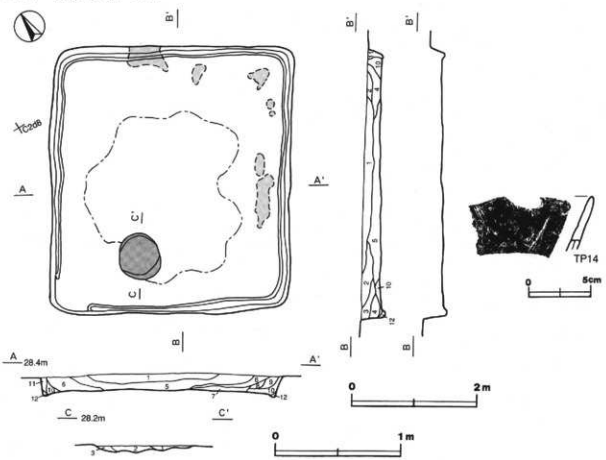
規模と形状　長軸4.3m，短軸3.8mほどの長方形で，主軸方向はＮ－31°－Ｅである。壁高は24～32cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，壁溝が西コーナー付近を除いて巡っている。また，東側の壁付近に焼土塊が数か所検出されている。

炉　１か所。中央部よりかなり南西側に位置し，長径75cm，短径60cmほどの楕円形で，床を12cmほど掘りくぼめている。炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子微量

ピット　確認できなかった。



第170図　第85号住居跡・出土遺物実測図

覆土　12層からなる。覆土の含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒　　色　ローム ブロック微量
2 極暗褐色　ローム粒子少量
3 黒　褐　色　ローム粒子少量
4 黒　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子微量
5 暗　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子微量
6 黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
7 黒　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
8 暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化材少量
9 黒　褐　色　ローム ブロック少量
10 暗　褐　色　ローム ブロック少量
11 暗　褐　色　ローム粒子中量
12 灰　褐　色　ローム ブロック中量

遺物出土状況　土師器片21点（甕類）が出土しているが，ほとんどが細片で図示できたものは１点のみである。そのほか，混入した縄文土器12点が出土している。

所見　遺物が少なく，床面から焼土塊が検出されていることから，住居廃絶直後に焼失したものと考えられる。時期は，住居の形態などから４世紀代と考えられる。

第85号住居跡出土遺物観察表（第170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP14	土師器	甕	－	(4.4)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面ハケ目整形	覆土	PL48

第86号住居跡（第171・172図）

位置　調査区中央部のＣ２d6区に位置し，標高28.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸3.5m，短軸3.4mほどの方形で，主軸方向はＮ－34°－Ｅである。壁高は５～９cmで緩やかに外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部よりやや北寄りに小規模な焼土塊が検出された。

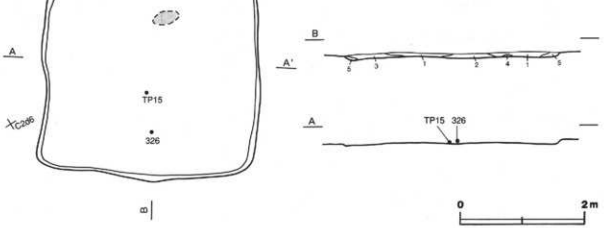
炉　確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

覆土　５層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積である。

土層解説

1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・黒色ブロック微量
2 黒　褐　色　ローム ブロック少量，炭化粒子・黒色ブロック微量
3 暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4 暗赤褐色　焼土ブロック中量
5 極暗褐色　ローム粒子中量



第171図　第86号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片92点（鉢１，高坏３，壺２，甕類86）が南側を中心に散在して出土しており，図示できたものは２点である。226・TP15とも床面から出土しており，本跡に伴うものと考えられる。

所見　焼土塊・炭化物などは多量に検出されていないが，土層観察から焼失住居と考えられる。時期は出土土器から，４世紀代と考えられる。

第172図　第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
326	土師器	甕	[15.4]	(9.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部から体部外面上段弱いハケ目整形，外面中段ヘラ削り，内面ヘラナデ	床面	30%
TP15	土師器	甕	－	(2.8)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外面ハケ目整形	床面	

第87号住居跡（第173図）

位置　調査区西部のＣ２b4区に位置し，標高28.1mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸5.3m，短軸4.7mほどの長方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｅである。壁高は20～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部付近が踏み固められている。壁溝は，各壁に一部が欠けるものの，ほぼ全周している。また，南東壁中央部付近から北西壁に向かって長さ1.2m，幅25cmほどの溝状の掘り込みが見られ，北東壁の東コーナー寄りから南西壁方向に向かって長さ2.2m，幅25cmほどの土手状の高まりも確認された。

炉　中央部より北側に重複して２か所確認された。炉１は炉２の北部を掘り込んでおり，長径90cm，短径80cmほどの楕円形である。炉２は北部を炉１に掘り込まれているが，長径75cm，短径60cmほどの楕円形と推測される。ともに掘り込みは見られなかったが，炉床面は被熱のため赤変硬化している。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　東コーナー寄りに位置し，径70cmほどの円形で深さは82cmである。底面は平坦で，壁の北側は直立ぎみに立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子微量
2　極暗褐色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土ブロック微量
5　褐　　色　　ローム粒子微量

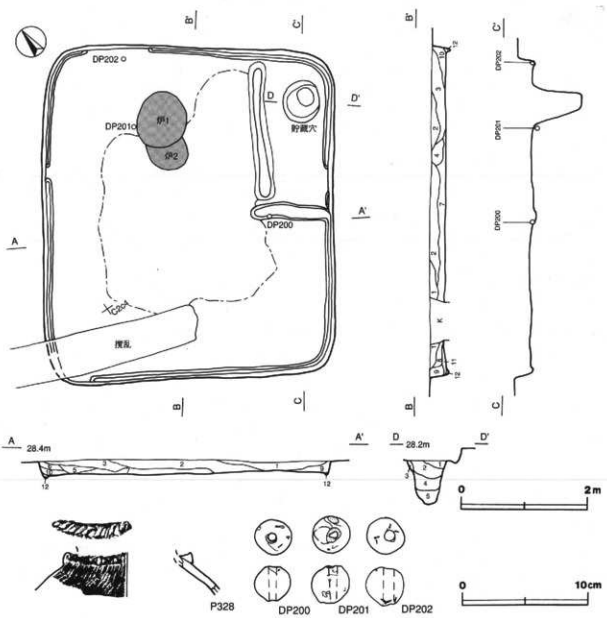
覆土　12層からなり，不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ロームブロック少量，黒色ブロック微量
2　黒　褐　色　　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　　ロームブロック中量
5　黒　　色　　ローム粒子微量
6　極暗褐色　　ローム粒子少量
7　黒　褐　色　　ロームブロック・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　　ローム粒子中量
9　黒　褐　色　　ローム粒子微量
10　暗　褐　色　　ロームブロック少量
11　極暗褐色　　ロームブロック微量
12　暗　褐　色　　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片283点（坩３，高坏12，壺４，甕類264），土製品３点（土玉）が出土しており，図示できたものは４点である。DP200は間仕切溝内，DP202は北東壁際の床面からそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器99点が出土している。

所見　貯蔵穴はかなり深く掘りこまれており，ほかの住居にはあまり見られないものであった。また，その貯蔵穴を囲むように土手状の高まりと，間仕切と考えられる溝が検出され，生活空間を使い分けていたことも考えられる。時期は出土遺物から４世紀代と考えられる。



第173図　第87号住居跡・出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
328	土師器	壺	—	(3.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部隆帯は刺突痕と櫛目状工具により押圧	覆土	

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP200	土玉	2.7	2.9	0.6	22.2	土	外面丁寧なナデ，ヘラ当痕	間仕切り溝内	
DP201	土玉	3.0	3.0	0.7	26.6	土	外面ナデ	床面	
DP202	土玉	3.1	2.9	0.9	24.3	土	外面ナデ	北東壁際	

第91号住居跡（第174・175図）

位置　調査区西部のＢ２h6区に位置し，標高約28.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸3.6m，短軸3.3mほどの方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｅである。壁高は10～14cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　中央部付近がやや高く，各壁に向かって徐々に下がっている。また，中央部付近から南東壁方向に細長い形で硬化面が見られた。

炉　中央部付近に重複して２か所確認されている。炉１は炉２を掘り込み，長径70cm，短径40cmの不整楕円形で，床を８cmほど掘りくぼめている。炉２は長径38cm，短径24cmほどの楕円形と推測され，床面を５cmほど掘りくぼめている。ともに炉床面は被熱のためやや赤変硬化している。なお，土層は第１～５層が炉１，６・７層が炉２である。

炉土層解説

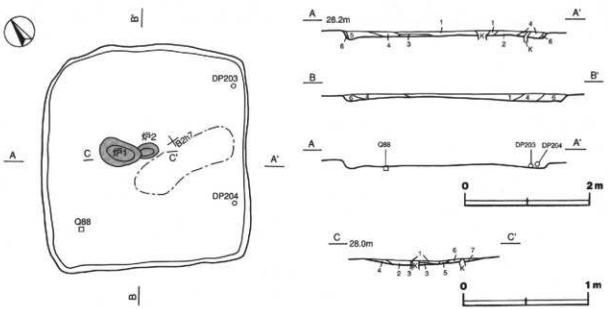
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量（炉１）
2　暗赤褐色　焼土粒子少量（炉１）
3　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量（炉１）
4　赤　褐　色　焼土粒子多量（炉１）
5　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量（炉１）
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量（炉２）
7　暗赤褐色　焼土ブロック中量（炉２）

ピット　確認できなかった。

覆土　６層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

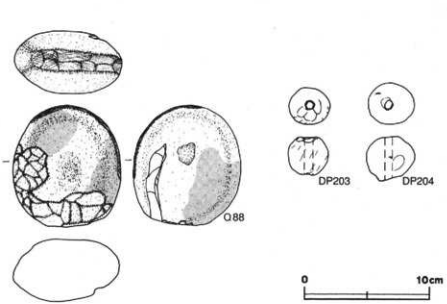
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量



第174図　第91号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片31点（甕類），土製品２点（土玉），石製品１（磨石）が出土しており，図示できたのは３点である。DP203・DP204は南東壁付近の覆土中層と床面，Q88は床面からそれぞれ出土している。そのほか，混入した縄文土器13点，陶器１点が出土している。

所見　時期判定の資料となる遺物が少ないが，住居の形状や主軸方向から４世紀代と考えられる。



第175図　第91号住居跡出土遺物実測図

第91号住居跡出土遺物観察表（第175図）

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP203	土玉	3.0	3.3	0.7	28.7	土	外面ナデ，一部ヘラナデ	南東壁付近床面	
DP204	土玉	3.5	3.7	0.5	38.4	土	外面ナデ，指頭痕	中層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q88	磨石	9.7	8.5	5.1	600.6	花崗岩	備面研磨痕，両面中央部くぼみ，被熱により赤変	床面	

第92号住居跡（第176・177図）

位置　調査区西部のＣ１a0区に位置し，標高28.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.9m，短軸4.7mほどの方形で，主軸方向はＮ－41°－Ｅである。壁高は35～40cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から東部にかけて踏み固められている。壁溝は北コーナーと南西壁の一部を除いて巡っている。また，南東壁の中央部付近から，北西壁に向かって長さ1.0m，幅24cmほどの溝状の掘り込みが見られる。

炉　中央部やや北側に位置しており，長径76cm，短径48cmほどの楕円形で，床を12cmほど掘りくぼめられ，炉床面は被熱のため赤変硬化している。また，炉床部から炉石転用と思われる土製品が出土している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物微量
3　黒　褐　色　炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子微量

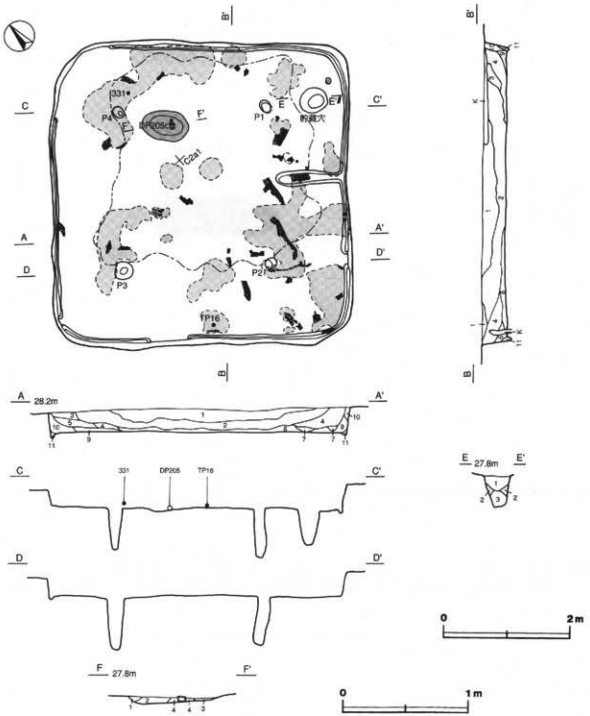
ピット　4か所。すべて主柱穴と考えられ，深さは70～83cmである。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，径40cmほどの円形で，深さは54cmである。底面は平坦で，壁は直立ぎみに立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量　　3　黒　褐　色　　ロームブロック微量

2　暗　褐　色　　ローム粒子少量



第176図　第92号住居跡実測図

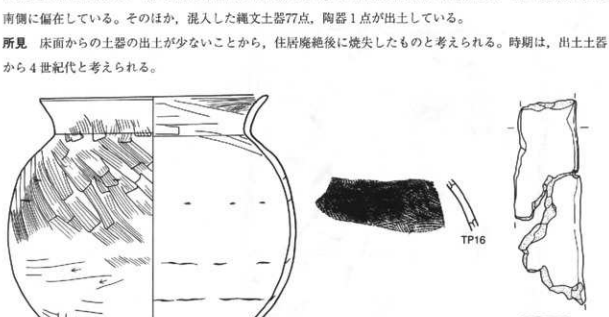
覆土　壁際の第4層と覆土下層の第7・8・9層は焼土や炭化物を多く含んでいることから，焼失に伴って形成された層と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化物微量
2 黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化材微量
3 黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化材微量
4 黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 極暗褐色　ロームブロック少量・炭化材少量
6 暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化材少量
7 暗赤褐色　焼土ブロック多量，炭化物少量
8 黒 褐 色　炭化物中量，焼土粒子少量
9 黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子中量
10 暗 褐 色　ローム粒子中量
11 暗 褐 色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片133点（高坏5，壺7，甕類121），土製品1点（炉石型土製品）が多量の炭化材と焼土塊とともに出土している。図示できたものは3点であり，DP205は炉床面から出土している。なお炭化材は南側に偏在している。そのほか，混入した縄文土器77点，陶器1点が出土している。

所見　床面からの土器の出土が少ないことから，住居廃絶後に焼失したものと考えられる。時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第177図　第92号住居跡実測図

第92号住居跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
331	土師器	甕	18.2	21.7	5.4	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部から体部外面中段ハケ目整形，外面下段ヘラ削り，口縁部内面ハケ目整形	下層	95% PL25
TP16	土師器	甕	－	(5.4)	－	長石・赤色粒子	浅黄	普通	頸部から体部ハケ目整形	南西壁付近床面	PL48

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP205	炉石形土製品	(16.6)	5.8	2.6	(193.1)	土	外面ナデ	炉床面	

第93号住居跡（第178・179図）

位置　調査区西部のＢ２e4区に位置し，標高27.9mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.4m，短軸4.0mほどの長方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｅである。壁高は８～25cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　南側部に凸凹があり，中央部付近が踏み固められている。

炉　中央部より西側に位置しており，長径70cm，短径48cmほどの楕円形で，床を10cmほど掘りくぼめている。

炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，径55cmほどの円形で，深さは40cmである。底面は皿状で，北側は二段に掘り込まれている。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　　色　ローム粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量

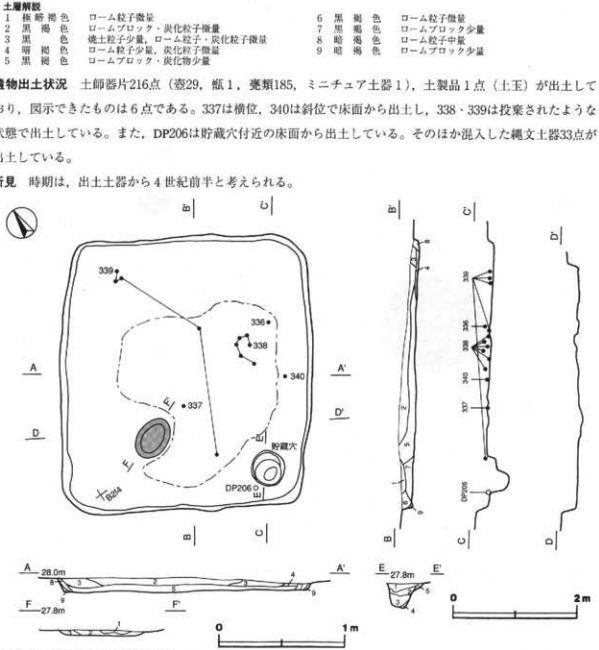
覆土　9層からなり，レンズ状に堆積する自然堆積であると考えられるが，壁際については不自然な堆積状況も見られる。

土層解説

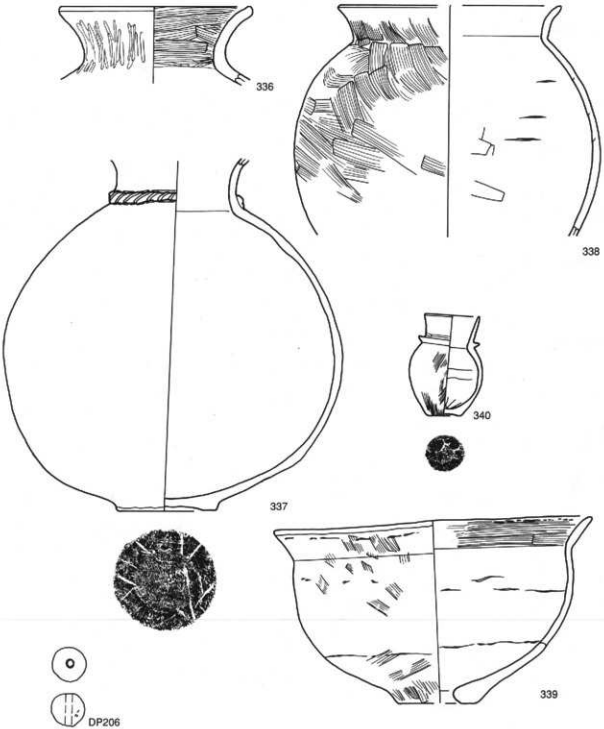
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物少量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片216点（壺29，甑1，甕類185，ミニチュア土器1），土製品1点（土玉）が出土しており，図示できたものは6点である。337は横位，340は斜位で床面から出土し，338・339は投棄されたような状態で出土している。また，DP206は貯蔵穴付近の床面から出土している。そのほか混入した縄文土器33点が出土している。

所見　時期は，出土土器から4世紀前半と考えられる。



第178図　第93号住居跡実測図



第179図　第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
336	土師器	壺	15.4	(6.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部外面ヘラ磨き，口辺部内面ハケ目整形	中層	10%
337	土師器	壺	—	(28.4)	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	明赤褐	普通	頸部に隆帯貼り付け後キザミ目施文，体部内・外面ナデ，底部ヘラ当痕	床面	80% PL27

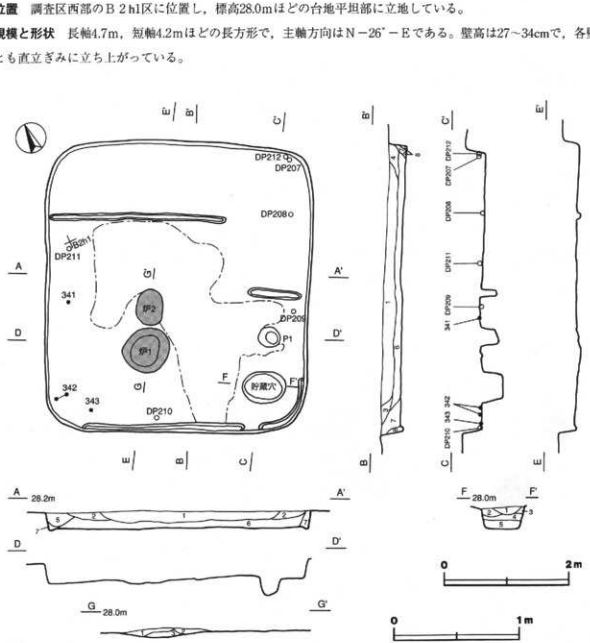
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
338	土師器	甕	[17.6]	(18.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部から体部中段ハケ目整形，体部内面ヘラナデ，輪積み痕	上層～中層	40%
339	土師器	甑	25.6	15.0	[6.3]	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	口辺部から体部外面下段ハケ目整形，口縁部内面ハケ目整形，単孔	下層～床面	80% PL31
340	土師器	ミニチュア土器	4.3	8.2	2.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面弱いハケ目整形，頸部に突帯貼り付け，下段内面ヘラ当て痕	床面	95% PL32

番号	種別	長さ	幅	孔径	重量	材質	特　徴	出土位置	備考
DP206	土玉	2.7	2.7	0.8	17.7	土	外面ナデ	貯蔵穴付近床面	

第94号住居跡（第180・181図）

位置　調査区西部のＢ２h1区に位置し，標高28.0mほどの台地平坦部に立地している。

規模と形状　長軸4.7m，短軸4.2mほどの長方形で，主軸方向はＮ－26°－Ｅである。壁高は27～34cmで，各壁とも直立ぎみに立ち上がっている。



第180図　第94号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部付近から南側にかけて踏み固められており，南コーナー部と南西壁に壁溝が確認されている。また，南東壁の中央部付近から北西壁に向かって，長さ90cm，幅10cmほどの溝状の掘り込みが見られ，さらにこれと平行して北西壁の北寄りの部分から南東壁に向かって，長さ2.8m，幅10cmほどの溝状の掘り込みが見られる。

炉　2か所。炉1は中央部よりやや南西寄りに位置し，径75cmほどの円形で床を9cmほど掘りくぼめられている。炉2は炉1の北側に位置し，長径60cm，短径42cmほどの楕円形で掘り込みは確認できず，焼土が堆積した状態であった。ともに炉床面は被熱のため赤変硬化している。

炉1土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量

ピット　1か所。深さは28cmで，炉1と向かい合う位置にあり，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長径72cm，短径50cmほどの楕円形で，深さは36cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　黒褐色　ロームブロック少量
5　灰褐色　ローム粒子微量

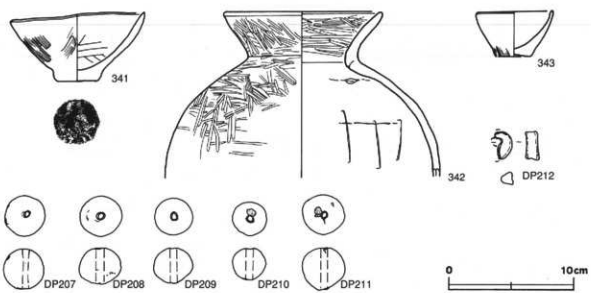
覆土　8層からなり，レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　ロームブロック中量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　極暗褐色　ロームブロック中量
7　極暗褐色　ロームブロック少量
8　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片120点（高坏3，壺6，鉢2，甕類109），土製品5点（土玉4，不明土製品1）が散在して出土しており，図示できたものは9点である。341は北西壁付近，342・343は西コーナー付近の床面，土製品は北西壁や南東壁付近の床面を中心にそれぞれ出土している。そのほか混入した縄文土器120点が出土している。

所見　時期は，出土土器から4世紀代と考えられる。



第181図　第94号住居跡出土遺物実測図